

Nihongi Site(Kasuga Area)5
No.6 No.14

二本木遺跡群（春日地区）5 第6次・第14次調査

－ 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（本文編）－

2012

熊本県教育委員会

二本木遺跡群（春日地区）5
第6次・第14次調査

- 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 -

本文編

2012
熊本県教育委員会

序 文

本書は、九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書です。この発掘調査は平成18年度より開始し、通算2年をかけて調査を実施しました。

平成23年3月の新幹線開業を経て、熊本駅周辺ではますます再開発が進み、景観は日々変貌を遂げています。風景が変化していくなかで、私たちが現在の礎となっている先人たちの築いた歴史に目を向け、未来に継承していくことは、魅力あるまちづくりにおいて他に替えがたい柱の一つとなることでしょう。

本書が学術のみならず、学校教育や生涯学習など、幅広く活用され、さらにそれが県土の発展、魅力ある街づくりへと繋がることを切に希望します。

最後になりましたが、本事業において埋蔵文化財発掘調査に御理解を頂きました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本市教育委員会を始め、関係各位に深く感謝を申し上げます。

平成24年3月23日

熊本県教育長 山本隆生

二本木遺跡群（春日地区）5

第6次・第14次発掘調査報告

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

目 次

第1章 序 言

1 調査に至る経緯	1
2 事前照会と予備調査の経緯	1
3 調査組織	3
4 整理組織	3
5 調査区内における鉛汚染土壤に関する協議	6

第2章 調 査

1 調査地域	9
(1) 遺跡の位置	9
(2) 歴史的背景	9
(3) 既往の調査	9
(4) 測量	9
(5) 地区割り	11
(6) その他	12
コラム1 周辺の遺跡 万日山古墳群	13
2 発掘作業の経過 調査日誌	16
3 第14次発掘調査日誌	26
コラム2 旧熊本駅出土の遺物	26

第3章 遺 構

1 遺跡の調査	27
2 遺構各説	27
(1) 中世（方形区画内及び周辺）の遺構群	27
(2) 構SD群と道路SF	47
(3) 古代の遺構群	54
3 第14次調査	136
コラム3 旧熊本駅出土の遺物	138

第4章 自然科学分析調査報告

第5章 調査の結果

報告書抄録	223
奥付	

図版編目次

遺物

写真

挿図目次 (Fig)

- Fig.1 熊本県域における地形表記と
九州新幹線により発掘調査を実施した遺跡
- Fig.2 二木木遺跡群第6次調査区内土壤汚染地帯範囲図
- Fig.3 二木木遺跡群ブロック設定図
- Fig.4 調査区 Grid 設定図
- Fig.5 調査区位置図
- Fig.6 周辺の既往の調査区
- Fig.7 万古山古墳石室実測図
(乙益 1969 実測図を再トレース)
- Fig.8 二木木遺跡群周辺遺跡地図
- Fig.9 方形区画内溝配置図、実測図
- Fig.10 方形区画内 門跡 SX001 実測図
- Fig.11 方形区画内遺構配置図
- Fig.12 方形区画内 SA001 実測図
- Fig.13 方形区画内 SA002・SA003 実測図
- Fig.14 方形区画内 SA006 実測図
- Fig.15 方形区画内 SA007・SA008 実測図
- Fig.16 方形区画内 SB001 実測図
- Fig.17 方形区画内 SB002 実測図
- Fig.18 方形区画内 SB003 実測図
- Fig.19 方形区画内 SB004 実測図
- Fig.20 方形区画内 SB005（上）・SB012（下）実測図
- Fig.21 方形区画内 SB006 実測図
- Fig.22 方形区画内 SB007（上）・SB008（下）実測図
- Fig.23 方形区画内 SB009・SB013（下）実測図
- Fig.24 方形区画内 SB011 実測図
- Fig.25 方形区画内井戸遺構配置図
- Fig.26 方形区画内 SE001 実測図
- Fig.27 方形区画内 SE002 実測図
- Fig.28 方形区画内 SE003（上）・SE004（下）実測図
- Fig.29 調査区溝遺構配置図
- Fig.30 SF001・SD 遺構配置図
- Fig.31 SD100・SD096・SD097 方形区画溝（推定）
遺構配置図
- Fig.32 SD020～SD023・SD033～SD036
・SD099・SD101 遺構配置図
- Fig.33 村落内寺院（熊本）周辺遺構配置図
- Fig.34 SD025 遺物出土状況実測図
- Fig.35 古代 SA011・SA012・SB014～SB018
遺構配置図
- Fig.36 SB014 実測図
- Fig.37 SB015 実測図
- Fig.38 SB016 実測図
- Fig.39 SB017 実測図
- Fig.40 SB018 実測図
- Fig.41 SE007～SE016 遺構配置図
- Fig.42 SE007（上）・SE009（下）実測図
- Fig.43 SE011 実測図
- Fig.44 SI003～SI023 遺構配置図
- Fig.45 SI003・SI004・SI005 実測図
- Fig.46 SI007 実測図
- Fig.47 SI012・SI013（上）、SI015（下）実測図
- Fig.48 SI017・SI019 実測図
- Fig.49 SI022 実測図
- Fig.50 SI023 実測図
- Fig.51 SB019・SB020 遺構配置図
- Fig.52 SB019 実測図
- Fig.53 SB020 実測図
- Fig.54 SE017～SE023 遺構配置図
- Fig.55 SE017（上）・SE018（左下）・SE019（右下）
実測図
- Fig.56 SE020（左）・SE022（右）実測図
- Fig.57 SI024～SI034 遺構配置図
- Fig.58 SI026・SI027・SI028 実測図
- Fig.59 SI032 実測図
- Fig.60 SA013～SA016、SB021～SB025 遺構配置図
- Fig.61 SB021 実測図
- Fig.62 SB022 実測図
- Fig.63 SB023 実測図
- Fig.64 SB024（上）・SB025（下）実測図
- Fig.65 SE024～SE034 遺構配置図
- Fig.66 SE024（左）・SE026（右）実測図
- Fig.67 SE027（左）・SE031（右）実測図
- Fig.68 SE028・SE029 実測図
- Fig.69 SE032 実測図
- Fig.70 SE033 実測図
- Fig.71 SI035～SI060 遺構配置図
- Fig.72 SI036・SI037 実測図
- Fig.73 SI040～SI043 実測図
- Fig.74 SI045 実測図
- Fig.75 SI046・SI047 実測図
- Fig.76 SI048～SI050 実測図
- Fig.77 SA017・SA018、SB026～SB029 遺構配置図
- Fig.78 SB026 実測図
- Fig.79 SB027 実測図
- Fig.80 SB028（上）・SB029（下）実測図
- Fig.81 SE035～SE041 遺構配置図
- Fig.82 SE035 実測図
- Fig.83 SE036 実測図
- Fig.84 SE037（上）・SE038（下）実測図
- Fig.85 SE039（左上）・SE040（右上）・SE041（下）
実測図
- Fig.86 SI061～SI074 遺構配置図
- Fig.87 SI061（上）・SI062（下）実測図
- Fig.88 SI063 実測図
- Fig.89 SI064 実測図
- Fig.90 SI065（上）・SI066（下）実測図
- Fig.91 SA006・SA007、SB030～SB033
SE042～SE053 遺構配置図
- Fig.92 SB030 実測図
- Fig.93 SB031（上）・SB033（下）実測図
- Fig.94 SB032 実測図
- Fig.95 SE042 実測図
- Fig.96 SE043・SE044・SE045 実測図
- Fig.96 SE043・SE044・SE045 実測図
- Fig.97 SE046 実測図

挿図目次 (Fig)

- Fig.98 SE047（上）・SE049（下）実測図
Fig.99 SE050（左）・SE051（右）実測図
Fig.100 SE052（左）・SE053（右）実測図
Fig.101 SI075～SI118 遺構配置図
Fig.102 SI086 実測図
Fig.103 SI087・SI088・SI089 実測図
Fig.104 SI092～SI095 実測図
Fig.105 SI101・SI102 実測図
Fig.106 SI104 実測図
- Fig.107 SI111～SI114 実測図
Fig.108 ST001～ST006、SK020 遺構配置図
Fig.109 ST003 実測図
Fig.110 ST005・ST006（下）実測図
Fig.111 SK020 実測図
Fig.112 防空壕 SX002 実測図
Fig.113 二本木遺跡群第14次調査区遺構、土層実測図
Fig.114 瓦出土分布図
Fig.115 座標測点（No.1～No.3）図

表目次 (Tab)

- Tab.1 確認調査結果報告
Tab.2 九州新幹線新八代～博多間建設工事に伴う
熊本市内埋蔵文化財発掘調査一覧
Tab.3 調査区内基準点測量成果
Tab.4 遺跡地名表
Tab.5 出土遺物観察表-①
Tab.6 出土遺物観察表-②
Tab.7 出土遺物観察表-③
Tab.8 出土遺物観察表-④
Tab.9 出土遺物観察表-⑤
Tab.10 出土遺物観察表-⑥
Tab.11 出土遺物観察表-⑦
Tab.12 出土遺物観察表-⑧
Tab.13 出土遺物観察表-⑨
Tab.14 出土遺物観察表-⑩
Tab.15 出土遺物観察表-⑪
Tab.16 出土遺物観察表-⑫
Tab.17 出土遺物観察表-⑬
Tab.18 出土遺物観察表-⑭
- Tab.19 出土遺物観察表-⑯
Tab.20 出土遺物（縄文）観察表
Tab.21 出土遺物（陶磁器）観察表-①
Tab.22 出土遺物（陶磁器）観察表-②
Tab.23 出土遺物（製塙土器）観察表
Tab.24 出土遺物（鉄製品）観察表
Tab.25 出土遺物（銅製品）観察表
Tab.26 出土遺物（罐の羽口）観察表
Tab.27 出土遺物（土製品）観察表
Tab.28 出土遺物（縄文土器）観察表
Tab.29 出土遺物（石製品）観察表
Tab.30 出土遺物（瓦）観察表
Tab.31 出土遺物観察表（写真のみ）-①
Tab.32 出土遺物観察表（写真のみ）-②
Tab.33 出土遺物観察表（写真のみ）-③
Tab.34 出土遺物観察表（写真のみ）-④
Tab.35 出土遺物観察表（写真のみ）-⑤
Tab.36 出土遺物観察表（写真のみ）-⑥
Tab.37 第14次出土遺物観察表

二本木遺跡群（春日地区）5

第6次・第14次発掘調査報告

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

第1章 序 言

本書は、九州新幹線建設工事に伴い平成17年11月7日から平成18年12月26日まで熊本県熊本市春日三丁目で実施した『二本木遺跡群（春日地区）5 第6次・第14次』での発掘調査成果をとりまとめたものである。

1 調査に至る経緯

（事業計画の概要）

九州新幹線鹿児島ルートは、国民経済の発展及び国民生活領域の拡大ならびに地域の振興を図る目的で「全国新幹線鉄道整備法（昭和45年5月18日法律第71号 最終改正平成14年12月18日）に基づき計画が策定され、1972年に告示された改正基本計画に盛り込まれた5線（整備新幹線と呼ばれるもの）のうちの一つである。同ルートでは、1991年に八代 - 鹿児島（現在の鹿児島中央駅）間が初めて本格着工し、2004年3月13日に新八代駅 - 鹿児島中央駅間がフル規格で部分開業（博多駅 - 新八代駅間は在来線特急「リレーつばめ」で接続）、2011年3月12日に博多駅 - 新八代駅間が開業し、整備計画の決定から38年を経て全線で営業運転を開始した。博多駅 - 鹿児島中央駅間を最高速度260km/h、所要時間最速1時間19分で結んでいる。

当遺跡はこの新幹線整備計画に基づき、事業の性格上路線変更等の措置が不可能であると判断されたことから、熊本県教育委員会がJR熊本駅（在来線）西側に新設される新幹線専用駅予定地の埋蔵文化財について記録保存を目的とし発掘調査を実施したものである。

2 事前照会と予備調査の経緯

熊本県内における九州新幹線建設事業への取り組みは、平成4年（1992年）に日本鉄道建設公団 九州新幹線建設局により八代水俣間の事業計画が示された事により始まった。平成8年（1996年）には水俣市において「長野遺跡」を確認し、平成9年（1997年）12月より発掘調査に着手した。その後、同年、葦北郡津奈木町地内における試掘調査を皮切りに、八代市域を含む地域での新幹線事業への取り組みも本格化した。平成12年（2000年）8月には起点となる八代市において「西片百田遺跡」の調査が始まり、平成15年8月の宮地小畠遺跡（側道）の調査をもって新八代-鹿児島中央間の調査は終了した。

その後、工事計画の中心は博多-新八代間へと移り、用地買収の進捗と共に熊本駅周辺、玉名市域へと広がった。八代の調査が最盛期を迎えていた時期に、熊本駅では第一回目の確認調査が実施されており、県内で重要な遺跡として知られていた二本木遺跡群が存在することを踏まえ、協議を担当していた職員の当駅周辺での取り組みの早さがその後のスムーズな協議、調査に繋がったと見られる。

新熊本駅調査の協議は、平成16年5月17日付け鉄運九建用一第72号で独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構九州鉄道建設局長（以下、「鉄道・運輸機構」という。）より依頼があり、確認調査に入る準備が整い次第実施した平成17年8月10日付け教文第1251号で熊本県教育長名で回答した確認調査結果をきっかけに急速に進展した。同年9月15日には県新幹線都市整備室の主催で、県駅周辺整備事務所、JR九州、鉄道・運輸機構とで「新熊本駅舎建設工事における埋蔵文化財協議」が持たれた。その結果、埋蔵文化財調査後から開業までのスケジュールをもとに逆算すると早急な着手が必要と判断された。本事業が、熊本県にとっても当時最優先施策であったことから11月には調査に着手することとなった。調査にかかる費用につ

1 熊本県教育委員会「長野遺跡」熊本県文化財調査報告書第189集 2000年

2 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構は政府の特種法人改革の一環として、1996年12月に発足した新幹線整備公団と1991年10月に発足した鉄道整備基金が1997年10月に統合されて運輸施設整備事業団となり、これに1994年3月に発足した日本鉄道建設公団が2003年10月1日に統合され、鉄道建設・運輸施設整備支援機構となった。鉄道交通と海上交通に関する事業を行ってきた3つの特殊法人を統合した機関である。

いては、当時の協議担当者が前年度段階で鉄道・運輸機構と協議のうえ概算で計上しており、調査を実施した際の費用の増減についても協議が整っていたことから調査に着手する運びとなった。その後、各機関とも埋蔵文化財発掘調査を始めるにあたっての条件整備に奔走し、事務所用地の選定、設置、調査に伴う排土場の確保、JR 営業線隣接地での近接工事関連の協議、調査員・作業員の駐車場用地選定等を経て調査に着手する条件は整い、最後に鉄道・運輸機構から新熊本駅建設に伴う埋蔵文化財調査依頼が、平成 17 年 10 月 7 日付け鉄運九建用一 239 号で鉄道・運輸機構九州新幹線建設局長名で提出された。

(確認調査の結果報告)

当該工事予定地は、平成 13 年に確認調査に着手し、最終的に 5 回の予備調査を実施している。期日及び担当者は以下のとおり。

	実施日	依頼文書番号・日付	回答文書番号・日付	担当者
①	H13.7.30・31	—	H13.10.31 教文第 1609 号	森谷和生
②	H16.8.23	—	—	坂口主太郎・今村和徳
③	H17.10.13	H16.5.17 鉄運九建用一第 72 号	H17.11.11 教文第 2062 号	坂口主太郎・今村和徳
④	H17.10.13	H17.4.12 鉄運九建用一第 34 号	H17.11.11 教文第 2063 号	坂口主太郎・今村和徳
⑤	H17.6.6・7	H16.5.17 鉄運九建用一第 72 号	H17.8.10 教文第 1251 号	長谷部善一・吉田徹也

Tab.1 確認調査結果報告

当該工事予定地における確認調査は、平成 13 年 10 月 31 日付け教文第 1609 号で、北岡陸橋から春日地下道の北側において実施された。3 層で近世後期陶磁器に古代の土師器片が混入するとして、近世期に大規模な土地の改変が行われたとする結果を出している。また、今回調査を実施した調査区内で土師器 30 数点を確認するなどしたことから、引き続き確認調査が必要な旨を鉄道・運輸機構宛てに通知している。平成 16 年・平成 17 年に第 2 回・第 3 回の確認調査が実施され、新幹線距離程を示す BCC=0km253m から旧機関車転車台、JR 熊本運転所熊本車掌区ビル前を経て田崎陸橋手前まで実施し、田崎陸橋近くで弥生時代の集落の一角と見られる「二本木遺跡群（田崎地区）」を確認している。この時点では予備調査依頼のあった範囲の一部が JR 営業線内であったことや取り壊し前の建物が多数あったことから十分な確認調査を実施できず関係機関から結果を求められたことで、不十分な確認調査となつた。熊本機関車庫の取り壊しが始まった平成 17 年には今回の調査の契機となる 5 回目の確認調査を実施し、これまでの確認調査結果と合わせ、北は春日陸橋から南は新幹線距離程を示す BCC=0km253m までの 12,700 m²を確定した。



3 調査組織

【発掘調査】

調査期間 平成 17 年（2005 年）11 月 7 日～平成 18 年（2006 年）12 月 26 日		
平成 17 年度	調査責任者 文化課長	梶尾英二
	調査総括 課長補佐	倉岡 博
	調査指導 課長補佐（文化財調査第一係担当）	高木正文
	調査担当者 文化財調査第一係 主任学芸員	長谷部善一
	" 主任主事	吉田徹也
	" 非常勤職員	早田利宏・水上 悅
平成 18 年度	調査責任者 文化課長	梶尾英二
	調査総括 課長補佐	倉岡 博
	調査指導 課長補佐（文化財調査第一係担当）	高木正文
	調査担当者 文化財調査第一係 主任学芸員	長谷部善一
	" 主任主事	吉田徹也
	" 非常勤職員	早田利宏・吉井英志

4 整理組織

【整理報告作業】

整理期間 平成 22 年（2010 年）11 月 1 日～平成 23 年（2011 年）3 月 31 日		
平成 23 年（2011 年）4 月 1 日～平成 24 年（2012 年）3 月 31 日		
整理責任者 文化課長	小田信也	
整理総括 文化財調査第一係長	村崎孝宏	
整理指導 文化財資料室長	坂田和弘	
整理担当者 文化財調査第一係 参事	長谷部善一	
	非常勤職員 稲葉貴子・唐木ひとみ	
整理作業員 石田敦子（班長） 福島典子（副班長） 小早川隆春 塩田喜美子 今崎光成 田中裕子 藤井美智子 深瀬俊子 田熊敏子（以上、一次整理） 土田みどり 岩下恵美子 築出直美（以上、二次整理）		

調査指導機関及び調査助言・協力者

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局
九州旅客鉄道株式会社 熊本鉄道事業部
下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 八代市立博物館未来の森ミュージアム
熊本県立装飾古墳館
大牟田市教育委員会 みやま市教育委員会 熊本大学
熊本市教育委員会 植木町教育委員会（現 熊本市教委）
玉名市教育委員会 宇土市教育委員会 阿蘇市教育委員会 甲佐町教育委員会

巽 淳一郎 松下孝幸 松下真実 牛嶋 茂 丸山真史 坂井義哉 猪渡真弓
中原幹彦 綱田龍生 美濃口雅朗 竹田宏司 金田一精 林田和人 原田範昭
増田直人 藤本貴仁 荒木隆宏 烏津亮二 西口貴志 西山由美子
宮本利邦 上高原 啓 本田明子 作田清恵
坂口圭太郎 吉田徹也 尾形圭子 松森由美 青木勝士 北原美和子

調査（整理）業務に伴う委託業務受託業者一覧

測量業務	十八測量設計株式会社
遺構実測測量業務	株式会社 九州文化財研究所 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム アジア航測（㈱東海アナース）
調査委託業務	大成エンジニアリング株式会社
空中写真撮影業務	写測エンジニアリング株式会社
遺物一次整理業務	株式会社 埋蔵文化財サポートシステム
遺物実測・デジタルトレース業務	株式会社 埋蔵文化財サポートシステム
自然科学分析	古人骨 下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
獸骨等	株式会社 古環境研究所
遺物撮影及び版下作成業務	写測エンジニアリング株式会社



墓 ST001 人骨調査風景（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 松下孝幸氏）

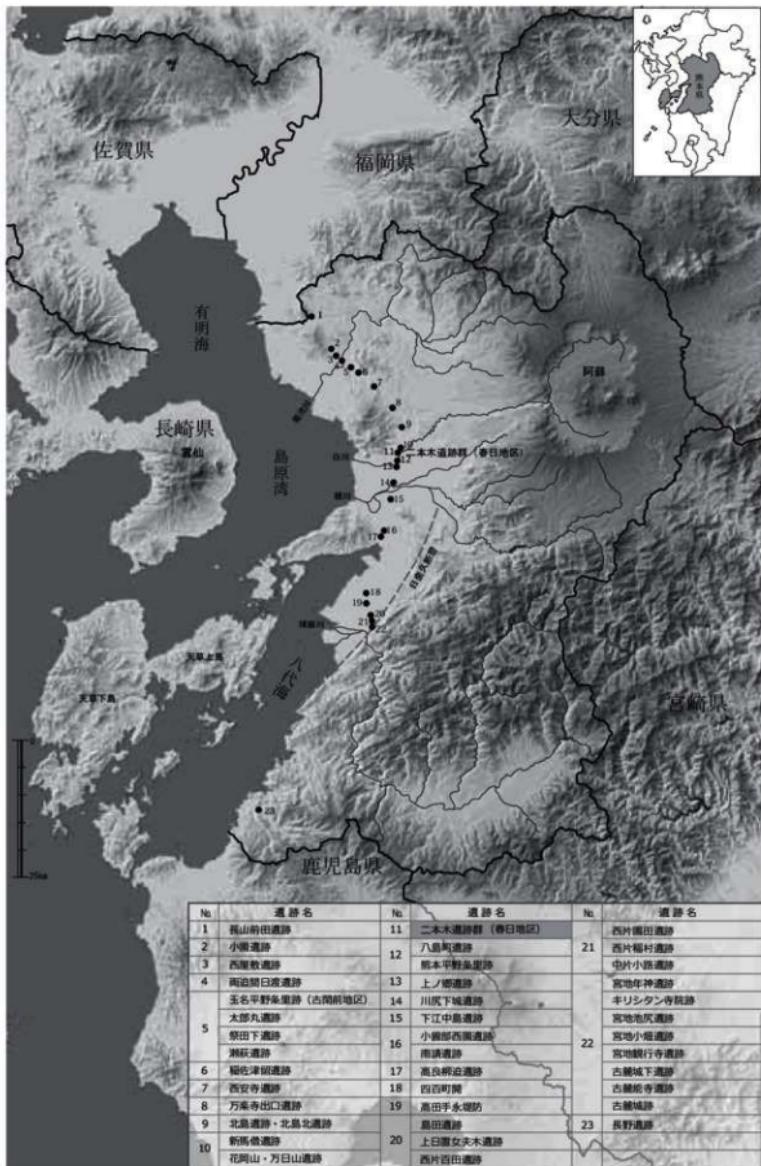


Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線により発掘調査を実施した遺跡

5 調査区内における鉛汚染土壌に関する協議

平成 18 年（2006 年）1 月 10 日（火）

土壌汚染についての説明（JR 九州施設部工事課）

土壌汚染について、調査員及び作業員に対し JR 九州より説明がある。

来年度調査予定地内において、JR が任意に調査を実施した結果、土壌汚染法に定める基準値を超える鉛が一部で検出された。（平成 17 年 12 月 27 日公表）

当課の発掘調査の前に当該土壌を除去し、同法で基準値を超えないレベルまで対策を講じるため、発掘には支障がないと説明を受け、了解する。なお、汚染土壌については駅敷地内で一旦仮置きし、調査終了後埋め戻す方向で検討していること。

3 月 27 日（月）

汚染土壌に関する協議について

（JR 九州施設部工事課）

汚染土壌の除去については、熊本市水保全課の指導により、地点ごとに汚染の深度を調査のうえ、当該部分まで除去することとなった。（除去しながら調査を行うと、除去し終えるまでに何度も調査（検査）しないとならないため。）よって、調査を本日より開始。4/10～20 までに報告書として市に提出、承認後除去に入るため除去は 4 月末頃からとなる。

→汚染土壌の分布（位置図）1 葉（1/1000）を提出依頼。
当方で 4 月の調査範囲に支障がないか確認することとする。また、汚染土層内で文化財が検出された場合の取り扱いを事前に課内で詰めておくこととする。

5 月 22 日（月）

「二本木遺跡群（春日地区）周辺部についての関係機関の業務調整会議」

上記協議の協議の場で、JR 九州施設部より「鉛汚染土除去」について説明。以前、鉄道車輌整備ピット等が存在していたことに伴う鉛汚染土壌の撤去について、現在、新幹線起業地内（当課発掘調査区内）について実施しているが、当該地より西側（熊本市土地区画整理事業地内）については実施していない。

5 月 23 日（火）

C 区鉛汚染土壌箇所の除去作業後の状況について

JR 九州による鉛汚染土壌の除去作業がおこなわれたところ、GL から 1 m 下までの汚染土壌の除去後の面で、堅穴建物が 3 軒、土坑もしくは柱穴跡と推測されるものが数基検出される。当該地が鉛汚染土壌

直下であり発掘調査はおこなわない事とした上で立ち合いを実施していたため、遺構の検出状況の写真撮影及び光波による遺構の上端のみの平面取り込みを行う。明日、文化課高木課長補佐の立ち合いを経たのち、JR により埋戻し作業を行う予定。

5 月 30 日（火）

鉛汚染土壌除去後の遺構検出、写真撮影及び遺構上端取り込み作業。

6 月 5 日（月）

JR 九州における鉛汚染土壌除去完了

D 区鉛汚染土壌除去（範囲 10 m × 10 m D 区北端）
立ち合いについては、掘削深が当遺跡の平均的な遺構検出面から約 30 cm 下位まで行われる。検出面でも含めレンガや礫が大量に含まれており完全に搅乱されている状態。遺構は確認されなかった。本日で、同除去作業（新幹線起業地内）はすべて終了した。

上記のような正式な協議の場以外に、現場では隨時汚染土除去の手順等について断続的におこない調査の進捗に影響がないように協議を重ねた。

（吉田・長谷部）

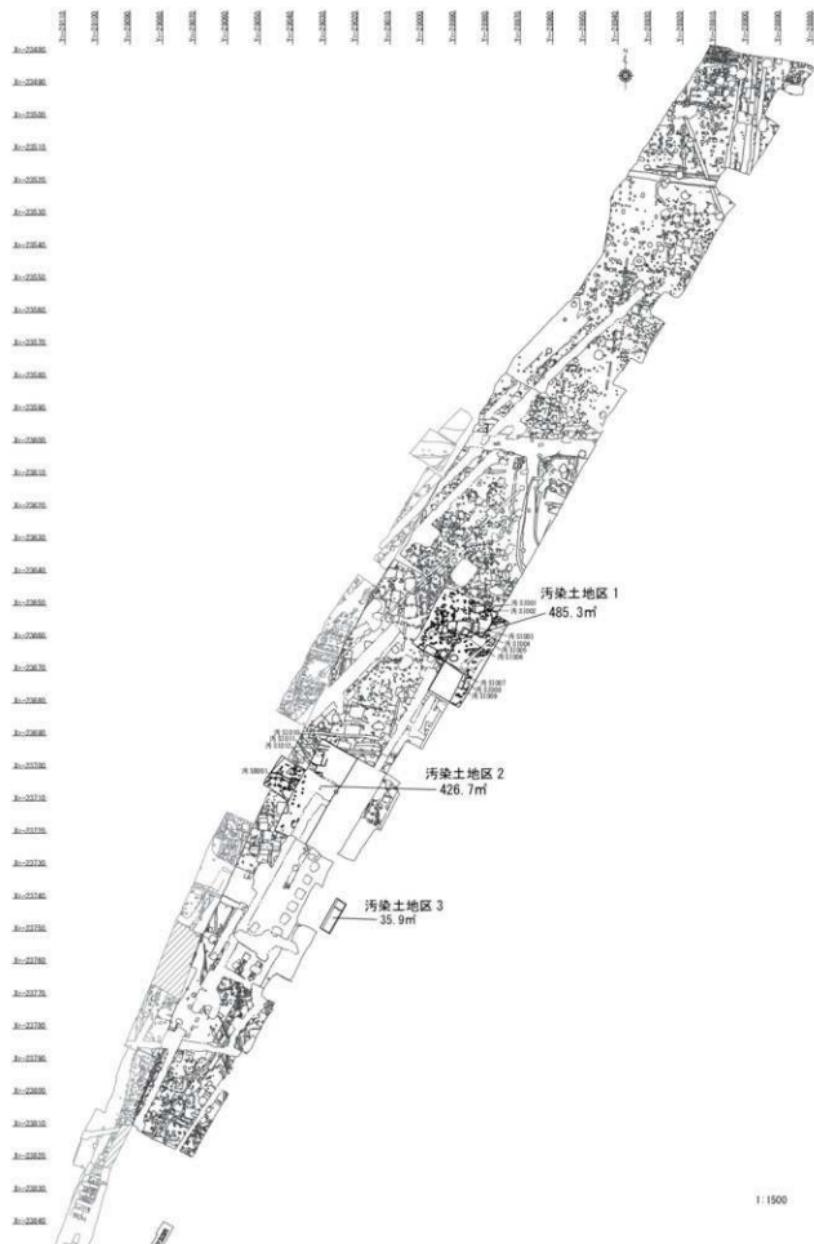


Fig.2 二本木遺跡群第6次調査区内土壤汚染地域範囲図

No.	遺跡名	所在地	博多駅から新幹線距離	調査面積	調査期間	調査員名	遺跡の年代	主な遺構等	報告書
1	下江中島遺跡	熊本市喜合町吉岡 1287-1ほか5筆	107km20m ～ 107km240m	7,107.49 m ²	H18.12.4 ～ H19.5.31	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 手塚智晴 坂本恵矢子	古墳 古代	自然流路、堰、土坑 掘立柱建物、自然流路、堰	未
2	川尻外城遺跡	熊本市川尻3丁目 831他6筆	103km900m ～ 104km60m	1,756.91 m ²	H18.9.20 ～ H19.3.30	坂口圭太郎 多賀清司 松森由美 吉留 広	中世 近世	土坑等	未
3	上ノ郷遺跡 (H11.熊本平安里)	熊本市島崎1丁目 304-1他5筆	100km760m ～ 100km880m	2,660 m ²	H15.5.21 ～ H16.1.31	今村和徳 和田敏郎 宇田勝昌 横田光智	弥生中期 弥生中期 古代	壁棺12基 土坑墓6基 窓穴建物15軒 窓穴建物2軒 土坑3基	①
4	八島町遺跡	熊本市蓮台寺4丁目 132-3他11筆	99km400m ～ 99km840m	3,800 m ²	H15.6.5 ～ H15.10.31	坂口圭太郎 阿南 舞 来村俊治 松野忍子 横田光智	弥生後期 古代	窓穴建物 (内向花文鏡2面) 土師器、須恵器	未
5	二木本遺跡群 (田崎地区)	熊本市田崎1丁目 117番の1	連立区間	700 m ²	H8.1.29 ～ H8.3.25	帆足俊文	绳文 弥生	溝 柱穴	②
6	二木本遺跡群 (田崎地区)	熊本市田崎1丁目	連立区間	3,138.42 m ²	H15.11.27 ～ H16.3.31	宮崎敬士 福永雅美	古代	窓穴建物、井戸、木田遺構、土坑、溝	未
7	二木本遺跡群 (田崎地区)	熊本市田崎1丁目	98km980m ～ 99km240m	2,300 m ²	H17.11.11 ～ H18.8.31	坂口圭太郎 尾吉圭子 多賀清司	弥生 古墳 古代	窓穴建物、掘立柱建物 溝状遺構 ほか — 掘立柱建物 ほか	未
8	二木本遺跡群 (田崎地区)	熊本市田崎1丁目	—	48 m ²	H19.5.7 ～ H19.6.6	松森由美 水上正季	弥生後期 古代	— —	未
9	二木本遺跡群 (春日地区) 第6次調査	熊本市春日3丁目 1015番地	98km40m ～ 97km280m	12,700 m ²	H17.11.1 ～ H18.12.26	長谷部善一 吉川徹也 早田利宏 水上 伸 吉井英志	古代 中世 近世	窓穴建物、掘立柱建物 土坑墓、井戸 居館跡 旧、熊本駅遺構	本番
10	二木本遺跡群 (春日地区) 第14次調査	熊本市春日3丁目	—	20 m ²	H22.7.20 ～ H22.8.2	長谷部善一	古代	整地層、柱穴	
11	花岡山・万日山 遺跡群	熊本市横手2丁目 1183-21ほか8筆	97km220m ～ 97km280m	3,263.54 m ²	H17.1.21 ～ H18.12.18	坂口圭太郎 遠山 宏	古代	土坑	
12	新馬借遺跡	熊本市横手1丁目 1142番地ほか6筆	96km940m ～ 96km970m	598.83 m ²	H18.5.30 ～ H18.6.30 E20.1.4 ～E20.1.31	坂口圭太郎 遠山 宏 横 佳克	中世	道路状遺構、土坑	③
13	北島遺跡群	熊本市池田4丁目 519ほか11筆	93km230m ～ 93km480m	3,450 m ²	H18.6.15 ～ H19.2.28	今村和徳 横田光智 遠山 宏	弥生 古代	窓穴建物、壁棺ほか 柱穴、土坑ほか	
14	万葉寺出口遺跡	熊本市太郎迫町 474-2ほか2筆	89km440m	964.52 m ²	H19.5.1 ～ H19.10.30	坂口圭太郎 横 佳克	绳文晚期 古代	窓穴建物、土坑 掘立柱建物、溝、道路状遺構	

(上記表遺跡Noは右頁、熊本県内一覧回Noと対応しているものではありません。)

(新幹線開通調査報告書は熊本県調査分のみ掲載しています。)

熊本市内新幹線関連既刊報告書

①熊本県教育委員会『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査第239集 2007

②熊本県教育委員会『二木本遺跡群』熊本県文化財調査第174集 1999

③熊本県教育委員会『花岡山・万日山遺跡群 新馬借遺跡 北島遺跡群 万葉寺出口遺跡』第266集 2010

Tab.2 九州新幹線新八代一博多間建設工事に伴う熊本市内埋蔵文化財発掘調査一覧

第2章 調査

1 調査地域

(1) 遺跡の位置

二本木遺跡群（春日地区）は、現在のJR熊本駅を中心とする花岡山、万日山と坪井川に挟まれた扇状地上に位置し標高約8～10mを図る。また、花岡山、万日山の背後には熊本市民のメルクマールとなる腹式火山帶を形成する金峰山が控える。

古代の熊本平野には、大宰府を起点とした官道が整備され、筑後から肥後に至る南北道を中心に、熊本市内においては、国府を起点に城南町（現 熊本市城南町）を抜け八代、芦北に至るルートと宇土半島を西へ向かい三角（宇城市三角町）に至る道、また阿蘇方面へと延び豊後へと通るルートもあったことが予想されている。10世紀初頭の『延喜式』には肥後国の駅名の記載があり、その旧跡名称から「葦養駅」→子飼（現 熊本市子飼）が推定されている。葦養駅は近年の調査結果から、熊本大学構内にあたると想定されている。この熊本市子飼を通るルート上には所在する託麻台地の一帯に広がる大江遺跡群内で道路状遺構が調査されており、官道の一部と推定されている。この官道から二本木遺跡群は西に約3kmに位置する。「飽田国府」に推定されている二本木遺跡群へは、大江遺跡群から枝分かれした幹線道があったことも予想される。

(2) 歴史的背景

周辺には数多くの周知の埋蔵文化財を含む文化財が多数存在し、熊本市域のなかでも重要な遺跡が集まる地域である。歴史的背景については、近年熊本駅西地区画整理事業等により熊本市教育委員会が鋭意調査を実施し、数冊に及ぶ調査報告書がまとめられている。近隣の調査を含めて実施されていることから詳細な記述がなされているため、ここでは述べることがない。詳細な歴史的背景については熊本市教育委員会の調査報告書を参考にされたい。

(3) 既往の調査 (Fig.6)

二本木遺跡群は、過去に乙益重隆により調査が実施された「熊本県熊本駅前の遺跡」¹がある。その後、熊本市教育委員会による数次にわたる民間調査を経て、新幹線開業に伴う熊本駅西地区画整理事業が実施されてきた。また、近年では九州新幹線開業に伴い熊本県による熊本駅周辺整備事業が実施され、数次にわたる調査も実施されている。

(4) 測量

二本木遺跡群（春日地区）発掘調査（第6次・14次）を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設事業に伴い鉄道・運輸機構が設置した日本測地系に基づく国土座標II系により設置している。

2002年（平成14年）4月1日から施行された改正測量法に伴い、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、熊本県内における埋蔵文化財発掘調査で設置する基準点はすべて日本測地系に基づいている。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準としている杭の数値を日本測地系、世界測地系でそれぞれ示す。

点名	日本測地		世界測地	
	X 座標	Y 座標	X 座標	Y 座標
座標点 No. 1	-23550	-28920	-23177.7726	-29141.0229
座標点 No. 2	-23700	-29020	-23327.7745	-29241.0227
座標点 No. 3	-23850	-29080	-23477.7773	-29301.0229

Tab.3 調査区内基準点測量成果

1 熊本市教育委員会「二本木遺跡群」・二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書 - 2007年3月 123-

2 熊本市教育委員会「春日遺跡：熊本中央南地区文化財調査報告書」1978

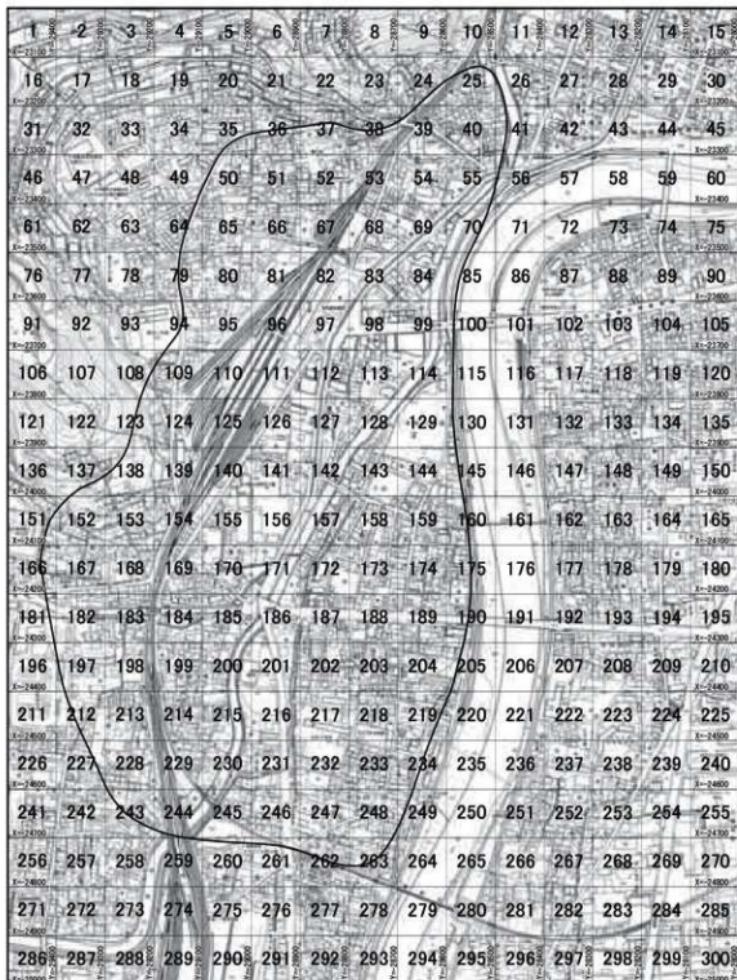


Fig.3 二本木遺跡群ブロック設定図

1/10000

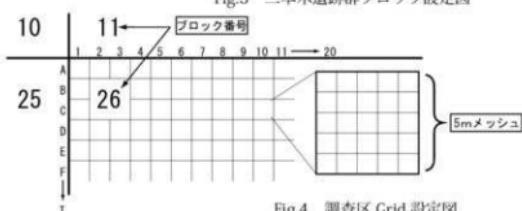


Fig.4 調査区 Grid 設定図

(5) 地区割り

二本木遺跡群調査については、本調査区と隣接する熊本駅西土地区画整理事業が本格化する際に今後増大することが予想される二本木遺跡群の調査の整合性を図ることを目的とし、X=-23000、Y=-29500を基点とし、遺跡全域を包括する東西1.5km、南北2.0kmの範囲を1辺100mの方形区画を区切り、これを1単位とするブロックとした。各ブロックに対しては算用数字による番号を付し、北西隅を基点とし西から東へ1～15、さらに南の一列は西から16～30とし、この繰り返しにより二本木遺跡群全城に対して1～300ブロックを配した。各ブロック内は、5m×5mのグリッド(Grid)で位置を管理する。したがって、各ブロック内は、南北20×東西20の400グリッドに細分される。グリッドについては各ブロックにおける北西隅を基点とし、北から南へA→T、西から東へ1→20とした。これによりグリッドは1A-1～300T-20で表記される。

二本木遺跡群(春日地区) 第6次調査区は、66・67・81・95・96・110・111・125ブロックにかけて所在し、第14次調査区は125ブロックに所在する。

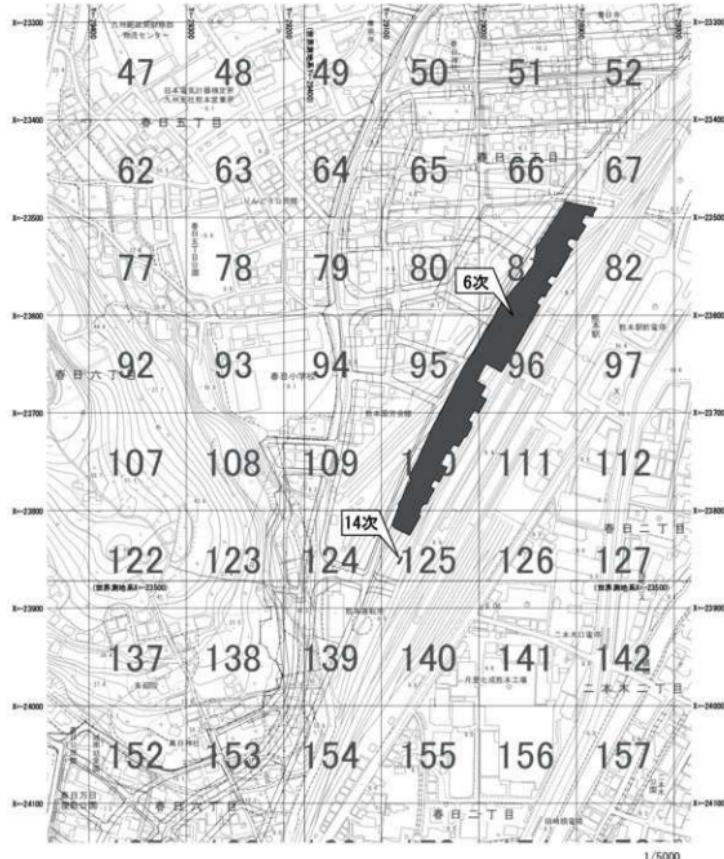


Fig.5 調査区の位置図



Fig.6 周辺の既往の調査区

(6) その他

発掘調査は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の三桁の数字の組み合わせにより表記した。

SA(辦・柵列) SB(掘立柱建物) SC(廊) SD(溝) SE(井戸) SF(道路) SG(池) SH(広場) SI(堅穴建物)
 SJ(土器埋納遺構) SK(土坑) SL(炉・竈) SN(水田・畠) SP(柱穴) SS(礎石・葺石・配石) ST(墓)
 SU(遺物集積) SW(石垣・防護壁) SX(その他・当遺跡では自然流路もこれに含む)

*当遺跡で使用しない記号も含む。

*下線で示している記号は当報告書で使用している。

遺物観察表に記している色調については「新版基準土色帳」(1999)、DICカラーガイド「中国の伝統色」(第2版)、「標準色 230 ©日本色研 1988」を使用した。

コラム1 周辺の遺跡

万日山古墳群

所在地 熊本市春日6丁目

古墳の立地 坪井川右岸、万日山山頂から東側尾根にかけて分布

古墳の年代 古墳時代後期から終末期

万日古墳…1886年（明治19年）に破壊されたと新聞記事に記載あり。その記事によると主体部は横穴式石室であったこと、勾玉、須恵器が出土していることが窺える。

万日山東古墳…1917・18年（大正6・7年）墓地建設の丘陵上開削の際に石棺が破壊されたとの記録あり。石棺の詳細な記録はないが、不知火町で出土した鶴籠古墳石棺に類似した資料であった可能性が高い。

万日山古墳…1961年（昭和36年）4月に発掘調査が実施され、凝灰岩切石で作られた四室からなる横穴式石室がある。石室全長は12.32mを測り、最も奥の玄室には石屋形が置かれていた。石屋形は蓋・身ともくり抜き式で機内系の家形石棺と見られる。出土遺物は金環1点、鉄刀片2点、環状の鉄器2点、須恵器が数点出土しているという。出土遺物、石室の形態から7世紀前半の古墳と考えられている。

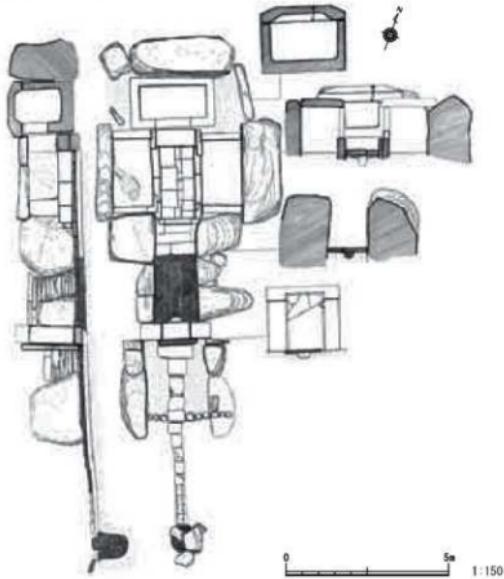


Fig.7 万日山古墳石室実測図（乙益 1969 実測図を再トレース）

参考文献

熊本市『新熊本市史』史料編第1巻 考古資料 平成8年3月30日発行

熊本県教育委員会『熊本県西山地区文化財調査報告書』乙益重隆「万日古墳・万日山東古墳・山頂古墳・万日古墳」1969

熊本日日新聞社・熊本県大百科事典編集委員会『熊本県大百科事典』昭和57年4月25日発行

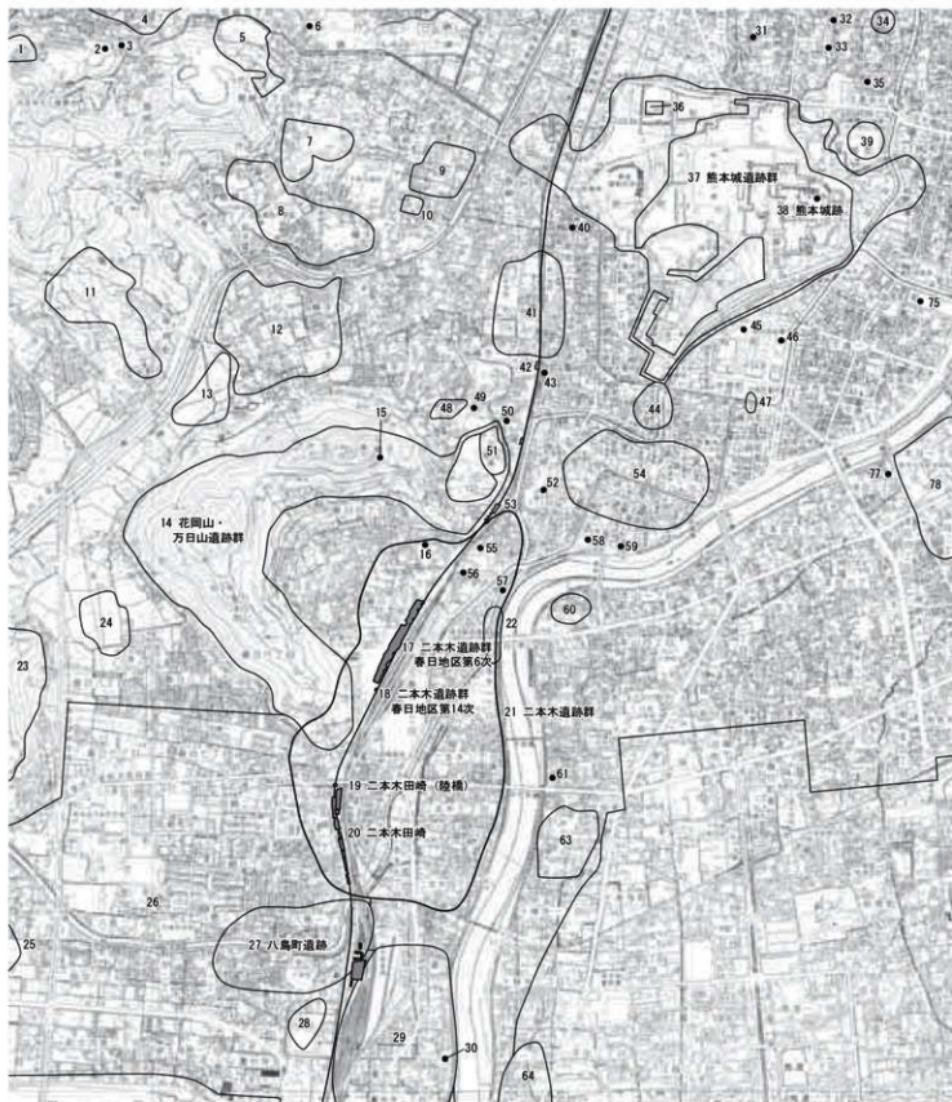




Fig.8 二木本遺跡群周辺遺跡地図

番号	遺跡名	遺跡の時代
1	荒尾南	縄文～中世
2	城郭型の墓	中世
3	古墳寺跡	中世
4	島崎	縄文
5	釣堀岡	江戸
6	糞杜園	江戸
7	百廢園跡	江戸
8	鬼塚さん古墳	古墳
9	石神原	弥生～平安
10	千形古道跡群	縄文～平安
11	源田	縄文～平安
12	遠矢塚	中世
13	野添平	弥生～平安
14	戸坂御田屋	縄文～中世
15	花園山・ 万日山遺跡群	古墳
16	花園山・ 勝利原理跡地	明治
17	春日地区第6次	古代～近世
18	春日地区第14次	古代～近世
19	二木本遺跡	古代
20	二木本田舎	弥生～中世
21	二木本遺跡群	弥生～中世
22	石塚(白川橋)	弥生～中世
23	後高石遺跡群	古墳～中世
24	清水原	縄文～中世
25	上野町遺跡群	縄文～平安
26	黒本平野条里跡	古代～中世
27	八島町	弥生
28	道城方	弥生～古代
29	南新宮	弥生～中世
30	蓬莱寺松坂塚	中世
31	兎ヶ寺跡	近世
32	金剛寺南岳山跡	中世
33	仙巖院跡	中世
34	内坪井	弥生
35	夏目漱石 内坪井旧居	明治
36	旧福井刑務所跡	近世
37	黒本城跡	古墳～近世
38	黒本城跡	近世
39	藤岡中学校校庭	弥生～平安
40	新町古寺跡・ 高麗門跡	近世
41	新馬場	古墳～平安
42	新馬場遺跡	近世
43	古往生院跡	近世
44	船場町	弥生
45	山崎古墳	古墳
46	花園跡跡	近世
47	半島町	弥生～古墳
48	古井寺・ 穴谷村	古墳
49	萬年寺院跡	近世
50	綱行寺跡	近世
51	綱川家菩提寺 妙妙寺跡	江戸
52	坂屋町・ 綱工町寺院跡	近世
53	花園山・ 万日山遺跡	古墳(近唐入明)
54	古町(近唐入明)	弥生～明治
55	北岡神社境内古墳	古墳
56	北岡楕六群	古墳
57	熊本駅前の古墳	近世
58	光明寺跡	近世
59	淨音寺跡	中世
60	木山城跡(木庄城跡)	弥生～中世
61	無漏寺跡	中世
62	熊本平野条里跡	古代・中世
63	世安畠田	弥生～中世
64	平田町	弥生～平安
65	聖元年荒棚櫛 跡跡	古代
66	觀音寺跡境内 石造物	中世
67	子劍	縄文～中世
68	黒髪町遺跡群	縄文～中世
69	上河原	縄文～古代
70	酒鹿遺跡群	縄文・弥生
71	大江白川	縄文～平安
72	新星敷	弥生～中世
73	西鹿板碑	中世
74	大江遺跡群	縄文～明治
75	小早八幡本山別院	明治
76	大江義塾跡 (即)桂宮跡	明治
77	代誠神社の想跡	中世
78	本庄(廣大病院敷地)	古墳～平安
79	不動院跡の 六堆墓塔	中世
80	北水前寺	奈良・平安
81	西水前寺跡	縄文～中世
82	水前寺跡	奈良・平安
83	水前寺城跡園 (即)井戸	江戸
84	水前寺殘寺 塔心礎跡	奈良
85	古寺伝授の間	江戸
86	水田園跡	弥生～中世
87	国分寺跡	縄文～中世
88	肥後國分寺	奈良
89	神水	縄文～平安
90	江津湖遺跡群	縄文～中世

Tab.4 遺跡地名表

2 発掘作業の経過 調査日誌

2005年(平成17年)

11.4 旧熊本駅構内取り廻し前、鉄道関連施設撮影

撮影者 大牟田市教育委員会 坂井義哉

熊本県教育厅文化課 長谷部壽一

熊本駅構内機関車台、給水塔、調査予定方向

11.7 調査予定地北側より表土剥ぎ開始。暫定的にA区と設定。線路路盤下は搅乱が多く遺物包含層となる暗褐色土が残っていない。

11.8 表土剥ぎ2日目。表土を剥ぐ範囲も、3層に相当する包含層は残っていない。4層中位まで削平されている可能性が高い。須恵器大甕胴部片を利用した転用窓が1点出土。

11.9 表土剥ぎ3日目。相変わらず、3層は確認できず。4層まで削平を受け柱穴を含む遺構検出面まで表土を剥いでいる状況。古代土師器片が多く出土する。

11.10 表土剥ぎ4日目。現在の熊本駅南側へ向い表土を剥ぐが、搅乱が多くなる。やや地形が落ち始めたせいか3層相当層と見られる土が一部出土。9世紀頃の土師器が出土する。

11.11 降雨の為、表土剥ぎ休止。事務所内で10月まで調査を実施していた玉名市津留所在の「太郎丸遺跡、漸萩遺跡」箇面整理を行う。

11.14 午前中、文化課で民間調査委託関係協議。午後からは調査事務所で富合車輛基地試掘調査結果報告書作成、二本木遺跡群(春日台)作業員採用通知発送業務、漸萩遺跡実測図整理をそれぞれ行う。

11.15 長谷部は資料室(渡済)にて報告書作成業務、吉田は漸萩遺跡確認調査現地協議。本調査に供する為設置した仮設プレハブ建物について、土地区画法に基づく「建物設置許可申請」が必要である旨、鉄道建設・運輸機構工事第5課より指摘あり。当該建設地は熊本市の土地区画整理事業地内に含まれる為、土地区画整理法第76条に基づく建築許可申請が必要のこと。熊本市都市整備局熊本駅西土地区画整理事務所へ申請。(後日、受理された旨確認あり)

11.21 本日より、調査作業員33名現場入り。A区北側より清掃を開始する。調査区壁面から調査面へと、出土遺物は古代から近世まで多彩で、多数の搅乱範囲を確認。午後から民間調査委託協議。(文化課にて)

11.22 昨日に引き続き、清掃を目的とした作業を進める。調査面には電柱を引き支えていたと見られる基礎空のビル電線や鉄くずを含む搅乱が多数あり。これら搅乱に切られるように、古代から中世期の遺構が見える。午後から富合車輛基地試掘調査結果判定会議を県庁にて開催。

11.24 表土剥ぎを実施している調査区対応に範囲を広げ搅乱掘りを実施。国鉄時代の軌道敷が設設される際、土地の改変が行われた痕跡か。なお、搅乱の中から古い時代の熊本駅を浮線で表した牛乳瓶や德利が出土する。

11.25 太郎丸遺跡後片付けのため、当現場の調査は休止。玉名市津留梅林天満「流瀉園」開催日。

11.28 遺構実測委託業務でアジア航測が受注したため、本日は第一回打ち合わせ。当初より下請として業者を提示してきた為、協議がまとまらず。調査区南側で遺構検出が出来る状況が出てくる。調査区北側ではいまに複数除去作業を継続。

12.1 北側搅乱除去及び以降の検出が出来るようにならぬ範囲での遺構検出。遺構実測委託に関するアジア航測との協議

を継続。下請が作業を実施し、最終責任をアジア航測が担うことを確認。アジア航測での責任者を明確にする為に関係者類の提出を求める。大グリッド66・67付近で搅乱が激しく除去に手間取る。

12.2 始業の時間から降雨の為、午前中事務所で待機。午後は作業を中止。事務所で祭田下遺跡報告書の打ち合わせを実施。

12.3 81K～Q～9～15Grid付近の遺構検出作業。堅穴建物及び掘立柱建物等が検出される。

12.6 81K～N～11～14Grid付近で昨日に引き続き遺構検出を継続。複数の堅穴建物跡検出。切り合いが激しい為、検出作業が難航。アジア航測監督のもと、下請として㈱測技が実測に入れる。調査区全体の範囲取り込み等、事前準備作業を開始。

12.7 文化課文化財資料室 野田拓治室長が現地指導の為、来跡。掘立柱建物周辺から出土する須恵器蓋について転用硯の可能性あるため出土状態に注意するよう指導あり。

12.8 朝から降雨だったが、作業を実施する。調査区全域の搅乱掘り作業。81M～0～13～15Grid堅穴建物検出作業。810-10Gridで大型の掘立柱建物を検出。調査と平行して富合車輛基地の試掘調査協議も鉄道建設・運輸機構担当者と協議を実施。

12.9 81W～0～13～15Grid堅穴建物の検出状況写真撮影を実施。午後から文化課で調査会議。

12.12 朝から降雨の為作業中止。

12.13 81J～0～9～18Gridの遺構検出を実施。各Gridで掘立柱建物が検出され始める。調査事務所前66Q～T-17～20Grid付近の表土剥ぎ協議。鉄道建設・運輸機構がアスファルト舗装を撤去後、表土剥ぎ作業を実施する予定。遺構実測(搅乱上端)取り込みを開始。

12.14 大グリッド81の北隅とI・J-17・18Grid付近をつ中心に遺構検出を実施。多くの掘立柱建物、堅穴建物、土坑を検出。検出写真撮影後、一部、掘方を始める。調査区の一部に黒色土が黄褐色土の上層に乗った状態で見られていたが、本日の調査により黄褐色土に觸り込まれている遺構の埋土を形成する土が上層にある黒色土であることを確認する。調査区北側に存在するJR九州熊本支社の建物付近の調査について、協議を実施。

12.15 昨日に引き続き、同じ範囲をさらに精査する。多数の柱穴を確認し、並びを検証しながら調査を進める。午後は降雨のため、15時をもって調査を休止する。玉名地域振興局用地課 青木主任主事來館。

12.16 66R～T-16～20Grid付近の表土剥ぎを開始。搅乱が多く、建築材と見られるコンクリート塊が埋められている。二本木遺跡群で見られる黒色土上面での遺構確認面は、ほとんど搅乱により残されていない。

8IN～P-13～15Grid付近での遺構検出は遺構の切り合いを確認するため、遺構内を一段落としながら作業を進める。表土剥ぎ2日目。

12.19 遺構実測を委託しているアジア航測の作業が進まないので、調査の進展に支障が生じ始める。アジア航測を通じて下請けで作業を実施している割に実測要員の増員を申し入れる。表土剥ぎ3日目。

- 12.20** 表土剥ぎ（4日目）により古代の遺構に混じり、鉄道遺構が検出される。また、駅舎に供されていたと見られる土瓶やガラス瓶等が建物廃材とともに土坑状に掘り込まれた中から出土する。
- 12.21** 降雨のため現場作業は休止する。しかし、表土剥ぎは継続する。（5日目）表土剥ぎは、予定面積（1,650 m²）のうち2/3を終了。遺構実測は本日も継続。
- 12.22** 降雪のため作業は中止。表土剥ぎ作業のみ継続する。本日をもって平成17年（2005年）の作業員を入れての作業は終了する。
- 1.10** 本日より新年の調査を開始する。駅ホーム側67S・T 1～4 Grid付近、82A～E-1, 2Grid付近の査定及び遺構実測を実施する。また、JR 九州より調査区内の土壤汚染について説明を受ける。（詳細は別途報告）
- 1.11** 昨年末に表土剥ぎを実施した範囲のメッシュ杭打設開始。（鈴長田測量設計）その後、複数掘削を集中的に実施する。82A～E-1, 2Gridでは検出した柱穴の半裁作業を開始。
- 1.12** メッシュ杭打設2日目。810・P-13・14Gridでも遺構検出、半裁作業を実施。
- 1.13** 発前からの降雨のため、午前中で調査を終了する。メッシュ杭打設は午前中で終了。調査区内大Grid66と81A～F-15～20Grid付近で大規模に遺構検出を実施。数条の溝状遺構、多数の柱穴等が確認される。
- 1.14** 81A～F-15～20Grid付近で遺構検出を継続し一部、遺構が確定した部分から掘り下げを開始する。午後に入り降雨のため作業を中止する。
- 1.15** 81I・J-15～18Gridで堅穴建物S0001～S1005の遺構全掘出状況の写真撮影を実施。その他は遺構検出作業及び、810・P-13・14Gridで遺構検査を実施。
- 1.16** 明け方から降雨だったが、降り止みそうであったため作業は出動せず。10時30分に雨が上がったのを受け調査を開始する。主に81G～R-16～18Gridで調査を継続した。
- 1.17** 81G～R-16～18Gridで堅穴建物、井戸、掘立柱建物等の調査を継続し、実測、写真撮影を行う。81A～D-15～18Gridの範囲で遺構検査を行う。未だに埋乱が多数存在することから遺構検出をかけながら規査除去に努める。実測委託は光波測距儀による測量ではなく、手実測による委託契約をしているにも関わらず、光波を使用した実測図を作成していたため、注意し手実測による作業に切り替えるよう指示。
- 1.20** 終り降雨のため、作業は中止する。調査区に隣接するJR 九州建物に関する撤去協議を事務所にて実施する。撤去用の工具道路が必要であるため、一部調査区内に見調査区が存在することから協議を実施した。
- 1.23** 81G～R-16～18Gridで遺構調査及び実測作業、81A～-15～18Gridで複数掘りと昨日からの作業を継続する。昨日に引き続き、JR 建物撤去に関する協議を実施。
- 1.25** 井戸 SE007・008・011 土層断面実測、写真撮影。81AD-15～18Gridで複数掘り及び遺構検出作業。
- アジア航測下請けで実測業務を実施している測技の調査員は、遺構を考古学見地から観察する能力がないため実測図の線の意味を理解できず、図が成立していない。実測図のチェックに大いに手が取られる。
- 1.26** 81G～R-16～18Grid 隣接 K-12～13Grid, R-9～14Gridまで遺構検出に着手。遺構密度はやや低くなるが、散
- 終する。
- 12.26** 調査員のみ現場で遺構検出を実施しながら、表土剥ぎを継続する。
- 12.27** 表土剥ぎ継続。排水の処理まで含め明日までに終了する予定。
- 12.28** 表土剥ぎ終了。調査区周囲の細かな排水まで処理を終える。本業務をもって本年の調査を終了する。非常勤職員は現場で仕事納めをし、職員は16:00から県庁で文化課仕事納めに出席。
- (2006年)**
- 在する柱穴が掘立柱建物となる可能性が非常に高い。遺構実測について遼吉、遺構実測の適正化を申し入れていたところであるが、改善されないとからアジア航測福岡支店長を交えての協議を申し入れていたところ、問題点の整理のための協議が相手方から申し入れられたため協議の場を持つ。当該仕様書をもとに手実測による実測の必要性、専門的見地からの実測図の作成、残っている実測図の早期終了などを説明する。
- 1.27** 昨日に引き続き、K-12～13Grid, R-9～14Gridの遺構出並びに調査を実施。井戸 SE007 が発掘したことから実掘状況の撮影を行う。81G～R-16～18Grid では遺構がほぼ掘り終っているのでアジア航測(測技)による実測を実施。しかし、相変わらずの出来栄えの実測図が提出されてくる。改善の様子なし。
- 1.30** 土坑墓 ST001, ST002 について調査の過程で人骨が出土していたため、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム松下孝幸館長に専門調査員としてお越しいただき、人骨の取り上げを依頼し、本日作業の運びとなった。
- 81G～R-16～18Gridで堅穴建物の掘方を実施するため人数を割き、調査を継続する。実測図の上りが遅いことから調査員と作業員による実測を開始。
- 1.31** 朝から降雨のため作業を始められなかったが、昼前に上がったことから作業を開始する。81G～N-15～20Gridで新たに遺構検出、遺構掘り下げを開始する。
- 2.1** 県庁にアジア航測を呼び遺構実測委託について協議。（福岡支店長、技術部長、営業課長代理、担当）
- 問題が、考古学を理解し経験のある責任者が入っていないこと、手実測によることを理解していないことの2点を説明。2月3日までに改善策を文書化し再協議を持つことで双方了承する。
- 2.2** 66Q～T-16～20Gridについて主に遺構検出を実施。81G～L-16～19Gridの遺構調査を継続。88F列から北に位置する構内に囲まれた遺構を方形区画を、内部に掘立柱建物を多数有すること、88F列より南で検出する掘立柱建物と柱穴の形状が異なることから、中世の土器類を包含する遺構が多数見受けられること等から、中世居館跡ではないかと認識する。
- 2.3** 81G～N-15～20Grid, 66Q～T-16～20Gridで遺構検出、調査を継続する。
- 2月1日にアジア航測と県庁で協議を実施した件について、「二本木遺跡群（春日地区）遺構実測等業務」の管理体制の改善について」として改善に関する文書が、2月3日付けで福岡支店長川谷俊和から黒教育長桝原純男にて提出された。
- 2.6** 66Q～T-16～20Grid, 81G～N-15～20Gridで遺構調査を継続。アジア航測(測技)で堅穴建物の遺構実測に着手するも、相変わらずの実測図が上がってくる。午後からは降雨

のため、調査を中止する。

2.7 朝から雨が降ったり止んだりで、中断をしながらも調査を継続する。660～T-16～20Gridで近世の畠構造、中世の井戸等を確認し、その下層に古代の多数の遺構が存在することをも確認する。本Grid付近は、近世、中世、古代の遺構が重複していることから、816～N-15～20Gridよりも遺構密度が高いことが確認される。

2.8 660～T-16～20Grid、816～N-15～20Gridでの調査を継続する。在来熊本駅構内において仮設建物を建築する際の基礎を掘削するため、県事業を所管する調査第二係の木村事務と共に工事立ち合いを実施する。今後、数回にわたり同様の工事立ち合いが実施される模様。

2.9 660～T-16～20Grid、816～T-15～20Gridまで調査対象地を広げ、遺構検出及び調査を実施する。遺構実測及び写真撮影は長谷部、吉田、早田が手分けして作業員の補助を受け実施する。

2.10 660～T-16～20Grid、816～T-15～20Gridまで調査対象地を広げ、遺構検出及び調査を実施する。遺構が見えにくいうことから数回の遺構検出を実施し、平面プランの確認に努める。

2.13 660～T-16～20Grid、816～T-15～20Gridの調査を継続する。遺構実測はアジア航測(測技)が実測することとなっているが、手実測に慣れていないことから上りが遅いため調査員・作業員による実測を継続する。

また、2月3日付けで提出された文書について、アジア航測から一部内容の変更協議がある。(2回目) 2月3日同様の文書が提出され、その中で現場代理人をアジア航測社内からではなく社外の民間調査機関から招請しあることとすることが申し出された。(㈱東海アーナス藤田氏) 本件について、抜本的に遺構実測環境が改善されることは当調査にとっても有用であるためこの申し出を受け入れることとした。

2.14 81L～R-13～15Grid(駅ホーム側)、66R～T-18～20の調査を継続。併せて遺構実測も同時並行する。井戸SE008(中世)の遺物出土状況観察。

2.15 終日、降雨のため調査は中止。アジア航測との最終協議を県庁にて実施。「『二本木遺跡群(春日地区) 遺構実測等業務』の管理体制の改善について」としてアジア航測福岡支店支店長川谷俊和で、業務管理体制の改善が示され、①業務遂行の統括・業務管理・成果品品質の確保を調査員(㈱東海アーナス)が責任者として現地常駐の上を行うこと。②契約工期の平成18年3月31日に仕様書に定められた成果品質を保った成果品の納入を行うこと。③現地管理体制の変更に合わせ、作業管理を強化することが申し込みられる。当課の回答として、上記①～③がおこなわれない場合は、契約を破棄する旨を伝え、アジア航測もこれを了承した。

2.16 終日降雨のため調査は中止する。事務所にて図面整理を行う。

2.17 81L～R-13～15Grid(駅ホーム側)、66R～T-18～20の調査を継続。また、81F～I-12～19Gridの遺構検出及び調査を開始する。各遺構は段階に応じて土層断面、平面の実測、写真撮影を実施する。

2.20 午前、アジア航測(㈱東海アーナス) 藤田氏と現状を協議し、図面の不備について把握し次第、修正及び実測作業に入ることを確認。

2.21 66R～T-18～20Grid、81T-21Gridラインまで全面的に調査を広げる。遺構の密度にバラつきはあるがほぼ全面で遺

構の存在を把握する。JR九州車掌センターの移転設置に伴い営業線への車掌通路の設置について持ち込まれる。調査区を横断する案が提示されたが、調査が終了するまでは不可であることを伝える。アジア航測との協議は藤田氏(㈱東海アーナス)による実測図修正及び実測が始まること。

2.22 81E-14Gridで新たに井戸SE009を検出。調査区北端から再度遺構検出を開始し、改めて遺構検出の漏れを確認する。それに伴い藤田氏(㈱東海アーナス)に遺構ラインの指示を出し実測図の修正及び追加を行う。以下、遺構実測と表記した場合は、㈱東海アーナスが実施したものである。平成18年度中のみ。

2.23 午前中は県庁で文化庁坂井主任調査官による埋蔵文化財講演会へ参加のため、調査は午後からの実施する。調査は66R～T-18～20Grid、81T-21Gridの遺構調査を実施する。JR九州車掌センターの通路について改めて協議を実施。営業線側からの進入は不可能であるため、改めて調査区内の横断を希望される。協議の結果、調査区北端の調査を早急に終え通路を設置することを当課から提案し、JR側で待ち帰り協議することとなった。遺構実測作業はアジア航測(測技)職員で対応が不可能であるため、㈱東海アーナスから職員を入れ対応することとなる。

2.24 81E列から81R列にかけて全面的に調査を実施。井戸遺構が多発検出される。

2.27 排土置場が遠くなり、調査進捗が遅ってきたことから81H～H-18～19Grid付近を排土置場とするため調査を急ぐこととなる。66R～T-18～20Grid付近の遺構実測を実施。

2.28 81E列から81R列の調査を継続する。井戸SE011、SE005出土の歯骨について、太分市立歴史博物館館長木村幾多郎氏を専門調査員として招聘。高木・長谷部で対応する。

3.1 81K-11Grid付近を西側(JR九州車掌センター側)に向かい細長く調査区を拡大のため、表土剥ぎを実施。JR九州担当者立ち合い。午後から降雨のため調査は中止。

3.2 表土剥ぎ2日目。81G～H-18～19Grid付近の遺構調査及び実測がほぼ終了し、排土置場として使用できる目途がたった。来週くらいから排土置場として使用する予定。

3.3 81E列から81R列の調査を継続する。本日までで契約していた表土剥ぎが終了できなかつたため、協議のうえ契約を延長し実施することとなる。

3.6 降雨のため調査は中止。

3.7 表土剥ぎを実施した範囲にメッシュ杭を設置。(委託先㈱十八測量設計)

6Gridで81Gridの調査区内について、残りの調査面数・遺構数を勘案して、今月中の終了は難しい状況となる。遺構実測の選択が特に目立つことから、年度末に向かい実測要員の追加投入を藤田氏(㈱東海アーナス)を通じアジア航測へ指示する。

3.8 81G～H-18～19Gridの調査が終了したため、排土置場に供することとする。年度末に向かい、調査員で今後の調査工程について、協議を行う。柱穴については、平面観察後柱窓が検出できない場合は、半裁し断面観察へ移り、検出されない場合は土色を確認し充填を行うこと。遺物が出土するものののみ遺構番号を付する。土層断面図については、外部からの支援、または委託等是不可能であると判断し内部で配置を考え直すすることとする。作業員の残勤務可能日数を考慮し、3/24で、満勤の者が始めるため、当該日を一つの目途とし

て作業を進めることとする。

3.9 8IT~21Gridまでの調査に断続的にに入る。また、66R~T-18~20Gridの遺構を調査を実施。昨日、申し合わせて遺構を付ける遺構を中心に調査を実施。

3.10 8IM-N~14.15Grid の井戸 SE009、SE015 を完掘。8IG、H-17Grid の堅穴建物 SI004、SI005 を調査。また、その周辺の遺構検出、調査も併せて実施。遺構実測は遺構実測は断続的に実施する。

3.13 調査区全域ですべての遺構について着手する。堅穴建物 SI001、井戸 SE002、SE005、掘立柱建物 SB014、SB017について調査、半段状況写真撮影、遺物の取り上げ等を行う。アジア航測と藤田氏（㈱東海アーナース）を交え、今後の遺構実測等業務協議を実施。実測作業追加人員についてはgン罪調整中、来週には東海アーナースより入る予定。レベル入れについては耕測技が実施することとする。また、デジタルトレースは藤田氏（㈱東海アーナース）が入り協議、調整、修正等を行ふことで合意。

3.14 8IL-M-14.15Grid で検出してきた掘立柱建物 SB015、SB016 周辺には径が 50 ~ 60 cm の柱穴が複数等に混じり検出されることはから並びそうである。㈱東海アーナースでの実測もやや遅れ気味である。

3.15 昨日に引き続き、調査区全域について、調査を実施。遺構剥離、実測が交錯することとなる。

「埋蔵文化財に関する重複使用、鉄道近接工事覚書」期限延長協議を実施。鉄道・運輸機構とJR九州とで交わしてある覚書について、現在の期限（平成 18.3 末まで）延長手続きについて、協議のみで可（新たに締結し直す必要はない）機構からJRへの請書（JRから機構への工期延長を認めた回答書に機構が押印したものの）の提出をもって、同じ期限（H18.9 末まで）延長手続きを行う。（その提出で覚書に必要事項を書き入れ終了）平成 18.9 末からさらに延長する場合は、しゅうせいいかしょ鉄道・運輸機構からJRへの再度の工事延長の協議を行い、その協議が整った後に、再度同じ手続きを踏む必要がある。併せて、高所作業車による写真撮影の実施についてJRに確認。24m の高所作業車を使用するにあたり、新幹線起業地内に回転手斧が入らない範囲で、電線とうに支障にならなければ特に営業線近接協議は必要ないこと。今回は、当面で使用している職員駐車場の春日クリニック駐車場を使用許諾のうえ使用する予定のため、特に問題はないとの判断となる。

3.22 終日、降雨のため調査は中止する。遺構実測委託成果品に關し、アジア航測、藤田氏（㈱東海アーナース）とで協議を実施する。デジタルトレースの成果品について、できたものから提出し、当課でチェックのうえ修正個所があれば差戻すこととする。

3.23 8IL-N~14~15Grid 坚穴建物 SI016、SI019、SI020 調査。8IL-M-12.13Grid 掘立柱建物 SB016 は一度実測をしていたが、精査の結果平面形を修正する必要があることから再実測を実施。現時点で、㈱東海アーナースから実測要員 6 名、㈱測技からレベル入れ要員 2 名が常駐。

3.27 明日、全体写真撮影のため 8IQ 列まで周辺も含め清掃を実施。

土壤汚染除去及びJR 車掌通路付替え協議について（JR 九州施設部工事課 野中氏）詳細は別記。

JR 車掌津路付替について

4月下旬までに現調査区を鉄道・運輸機構に引き渡し後、機

構側とJR とで協議することとする。なお、通路は車掌センターからホームへなるべく直線で結ぶ必要があるが、当方の調査の支障にならないように曲げることは全く問題ないとのこと。

3.28 高所作業車による光掘状況撮影。8IQ-5Grid から 96A-11Grid を結ぶ範囲まで調査終了。全体写真撮影後、遺構実測業務は実施。

3.29 8IQ-5Grid から 96A-11Grid 以降の表土剥ぎ。併せて遺構検出も実施。67R-T-2Grid で門磯らしき遺構を確認。精査を実施。本日をもって、平成 17 年度の調査を終了。

4.3 平成 18 年度の調査開始。熊本市教委原田文化財保護主事ほか 5 名、近接地で調査を開始する旨のあいさつあり。調査事務所も併せて近接地域に建設予定。

4.10 ~ 14 事務所にて昨年度の図面・写真整理を実施。

4.17 表土剥ぎ 2 日目。遺構多数を確認。本年度採用の非常勤職員 吉井氏、研修終了で本日より調査に参加。

4.18 昨年度調査分の調査区を竹田宏司王名市教委文化財課文化財係長専門調査員として指名。遺構のあり方について指導を仰ぐ。文化課高木課長補佐、江本課長補佐、坂口參事現地確認のため来路。熊本市原田文化財保護主事調査協議のため来跡。

4.19 表土剥ぎ 3 日目。8IA 列の表土剥ぎ作業。

4.20 表土剥ぎ 4 日目。昨年度調査分の遺構実測（補足）も併せて実施。

4.21 今回契約した表土剥ぎ終了。

4.24 鉄道・運輸機構（大林 JV）による表土排土作業開始。表土剥ぎを実施した範囲で土層の確認作業を開始。

4.25 調査区内の清掃。遺構の検出。これまでに比べ比較的規模の大きな構造遺構を検出。

4.26 午後から降雨のため作業は午前中のみで終了。

4.27 調査範囲のなかで土層を確認しつつ、切り合う遺構の埋土の由來層を確認。

4.28 96G-5Grid 周辺で検出した並行する溝状遺構について精査し、近世の耕作痕であることを確認。下層より古代の掘立柱建物を検出。

5.1 ~ 3 調査は中止。平成 17 年度分の図面整理を実施。

5.8 今回調査対象である 80.8I-R 列より 96C-2 ~ 96G-8 Grid 間の遺構検出を実施。調査区壁の土層確認も併せて実施。溝 SD042・094・095 までの調査を実施。その周辺も併せて遺構検出作業。

5.10 降雨のため作業中止。

5.11 溝 SD042・094・095 の調査を継続。併せて遺構検出作業。80.8I-R 列より 96C-2 ~ 96G-8 Grid より 80H-96L-5Grid 間の表土剥ぎを開始。㈱九鉄工業

5.15 不明遺構 SX005（近世畝状遺構）実測。本年度から遺構実測委託は㈱九州文化財研究所が受託。昨年度の調査区と本年度調査区間で掘立柱建物の柱穴の延長を確認。表土剥ぎ 2 日目

5.16 表土剥ぎ 3 日目。溝 SD095、SD098 の調査を継続。ほかは遺構検出作業。

5.17 降雨のため作業中止。平成 17 年度分の図面整理。

5.18 当面の調査範囲の表土剥ぎが昨日までで終了したため、本日から前面にわたり遺構検出作業を開始。溝 SD020 等の遺構の検出が検出し始める。溝 SD042、SD095 の上端実測。

5.19 台風接近のため調査中止。

5.22 調査区内にベルトコンベアを設置。規模の大きな溝状

遺構の調査に供する。96L-3 ~ 5Grid 付近は、JR 九州が実施した鉄道汚染地域のため、表土剥ぎ後に遺構を検出するも調査は実施せず。汚染地域はこれからも広がる模様。

5.23 午前中降雨のため午後から作業を実施する。調査は大 Grid の 96 に大半が移り遺構検出作業を実施。近現代の遺構から古代までの多くの遺構が重複し検出し始める。

96M-3Grid 付近を中心とするJR鉄道汚染土除去作業にて、除去後の面（現 GL より - 1m）で遺構を確認する。汚染地域は調査を実施しないことで申し合わせがついていることで表土剥ぎ後遺構検出を行い、遺構上端のみ光波を取り込み、写真撮影。高木補佐による遺構確認後、JR 九州による埋戻し作業を実施する予定。

5.24 昨日に引き続き、96M-3Grid を中心とする汚染土の除去作業を実施。調査は全体清掃及び溝 SD020 の調査に着手。遺構実測も併せて実施。

5.25 溝 SD095 の調査を中心に周辺の遺構検出も実施。あわせて、96M-3Grid の汚染土除去作業後の遺構検出作業を実施。本汚染地域は以前、赤レンガ建物（機関車庫）があった場所であり、地中から多数のコンクリート基礎が確認される。

5.29 今回着手した調査区は大 Grid 06 にほぼあたる。国鉄から JR 期の埋戻が多数あり除去に手間取る。

5.31 本調査区の東西に延びる道路 SF001 を検出・調査することを目的とし、多数の埋戻の除去を行なう。中には近現代の廐棄土坑と見受けられるものもある。

6.1 81T-8Grid を中心とする Grid の遺構検出作業を実施。埋乱層が主体となる。

現在調査を実施している、95I-19Grid ~ 96L-5Grid を結ぶ線から南側の 1,500 m²について、調査工程から調査を終えることができないと判断されたことから、民間調査委託を実施することとなった。（民間調査委託範囲を今後、「C 区」と呼称する。）本日はその入札前の現地説明会。現調査区を公開し入札参加資格を有し入札を希望している 5 社が参加し、質疑応答を含む説明会を実施。汚染土

6.2 降雨のため作業中止。室内にて面図整理。

6.5 溝 SD095、道路が確認された地域を中心に遺構検出作業並びに埋戻除去作業を継続実施。切り合いが激しことから慎重に調査を進める。

JR による新幹線起業地内における汚染土除去作業は本日をもって終了。遺構検出、実測、写真撮影を実施。汚染土範囲内にはレンガや縫合が多数含まれており遺構はその大半が埋乱されている。排水運搬等協議を実施。

6.6 溝 SD095、道路 SF001 を中心とする範囲の調査を継続。96H-4Grid で検出した不明遺構について調査を実施。

民間調査機関が現場事務所を設置する場所は、熊本市駅西地区画整理事業用地内に確保することとし、鉄道・運輸機構で借地していただく。

6.7 96F-16Grid 井戸 SE034 及び溝 SD095、道路 SF001 の調査を継続。SE034、溝 SD042、SD094 平面実測、柱穴 SP501 平面実測。午後から光化学スマッグ注意報が発令となつたため一時作業を中断。解除後、調査を再開。

6.13 道路 SF001 付近を中心に遺構調査を継続。遺構が判別しづらう遺構については、トレチを入れ断面確認を基本とし調査の中断がないようにする。追加で出された 110F-17Grid を中心とする範囲のJRによる汚染土除去作業立ち合ひを実施。携 1 条、掘立柱建物 1 棟を検出。明日まで遺構検出を実施す

る予定。

6.14 溝 SD095、SD085、道路 SF001 の調査を継続。併せて周辺の遺構調査も実施。SD095 の硬化面範囲の実測。汚染土範囲除去作業を継続。遺構検出、写真撮影を実施。

6.15 降雨のため作業中止。

6.16 溝 SD095、道路 SF001、SD084、掘立柱建物 SB051 調査。排水作業に供するためベルトコンベア設置。

6.19 溝 SD095、道路 SF001 について、ほぼ完掘。溝 SD084 断面、SK084 見通断面図作成。81R-6Grid から 96F-16Grid の範囲の調査を実施。

6.20 溝 SD095、道路 SF001 の下端付近の精査。写真撮影の準備。

6.21 道路 SF001 完掘写真撮影。調査区各所遺構実測。

6.22 降雨のため調査中止。道路 SF001 東側に検出・調査を実施しているが延長で熊本市文化財課調査区分ごとの同様の遺構を調査。時期、規模を同じくする同遺構の可能性あり。

6.23 降雨のため調査中止。㈱九州文化財研究所と面図打ち合わせ。

6.26 昨日に引き続き降雨（荒天）のため調査は中止。

6.27 昨日まで降雨により調査地が水没。水中ポンプを設置し排水作業。

6.28 昨日に引き続き、排水作業。民間調査委託のため㈱大成エンジニアリング吉田氏と協議。

6.29 連日の排水作業を継続。作業員を入れての清掃作業を開始。作業員駐車場の除草作業実施。道路 SF001 東端部堅面崩落の可能性が出てきた。実測を急ぐ。

6.30 降雨のため調査は中止。排水作業は継続して実施。鉄道・運輸構造と工事用道路についての協議を実施。調査区東側（JR 在来線 5番ホーム部）に仮設の工事用道路建設を予定。土壤改良、舗装工事を実施しないこと、埋蔵文化財調査が終了するまでの一時供用であることから、調査は伴なわざ慎重工事で対応することとなった。同時に文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく通知の提出を促す。民間調査に際し㈱大成エンジニアリングと協議を実施。

7.3 降雨のため調査は中止。夏休み現場公開会について JR 九州担当者と協議。民間調査について課内協議。

7.4 96H-2Grid 検出の堅穴建物 SI054、SI1055 調査。土壤 SK067 からは須恵器が大量に出土。溝 SD025 平面実測。

7.5 降雨のため調査中止。排水作業を実施。午後、㈱大成エンジニアリング早川泉氏あいさつのため来跡。

7.6 午前中、降雨のため作業中止。作業員待機。午後から排水作業及び遺構調査。玉名市教育委員会竹田氏来跡。調査指揮を仰ぐ。

7.10 民間調査委託範囲の表土剥ぎを開始。表土剥ぎまでは当課で実施。午前中は、係会議のため作業員は午後から稼働。溝 SD095、SD040、SD039、堅穴建物 SI059、SI1028、井戸 SE028 の調査を継続。中でも特に溝 SD020 の振り下げを急ぐ。

7.11 堅穴建物 SI053、SI1054、SI1067、溝 SD039、SD040 の調査を継続。遺構実測（㈱九州文化財研究所）民間調査機関発注の調査区（C 区）表土剥ぎ継続。

7.12 溝 SD082、SD083、SD041 の完掘写真撮影。96H-2Grid SI054、土坑 SK092、の遺構実測等を継続実施。天気は晴れで作業員の健康管理に注意が必要。C 区表土剥ぎ継続。

7.13 堅穴建物 SI057、SI1058 調査。96F-3、4 Grid 遺構検出作業。SI057、SI1058 遺構については遺構写真撮影まで終了。C

区表土剥ぎ継続。複数多数のため民間委託する面積の確定が遅れる。

7.14 96-E-3.4Grid 遺構検出及び掘削。溝 SD082、SD083 完掘。堅穴建物 S1026 ～ S1028 振り下げ。C 区表土剥ぎ継続。

7.18 溝 SD095 実測。堅穴建物 S1054、S1055 検査。遺構実測は継続。C 区表土剥ぎ。

7.20 終日降雨のため、調査は中止。110E-7Grid から 110I-11、110F-13、110H-16 を結ぶ線上から南側の調査区に間に掛ける場所に関する協議を実施する。

7.21 降雨のため作業中止。調査区内冠水でベルトコンベア未設。表土下 30 cm まで浸る。

7.24 週末の雨により調査区冠水。作業員 5 名出勤し終日、排水作業。

7.25 昨日に引き続き終日、排水作業。JR 線路側から多量の雨水が流れ込んでいるため水かさが減らない。

7.26 昨日に引き続き終日、排水作業。午後からは一部で遺構検出のための清掃作業を開始。大成エンジニアリング㈱本日より調査着手予定であったが、天候不順のため調査着手が遅れる。

7.27 溝 SD030、SD089、土杭 SK143、堅穴建物 S1026、S1032 振り下げ。夏休み現場公開会について鉄道・運輸機構と協議。

7.28 井戸 SE030、溝 SD089 振り下げ。SE028、SE029 半裁作業。堅穴建物 S1026 ～ S1028、S1032 振り下げ。

7.31 溝 SD095 を集中的に調査。午後、玉名平野条里跡（古開闢地図）調査について鉄道・運輸機構と協議。

8.1 井戸 SE030、溝 SD095 継続精査。遺構実測、写真撮影は断続的に実施。

8.2 堅穴建物 S1031 ～ S1033、S1026 ～ S1028 の調査。溝 SD094、SD095 の調査。大成エンジニアリング㈱（以下「大成 EN」と言う。）と調査範囲協議。富合車両基地基地（下江中島遺跡）調査行程協議。

8.3 溝 SD100 出土骨骸の精査。大成 EN と昨日に引き続き調査面積等について協議。

8.4 夏休み合同遺跡見学会実施。二本木遺跡群（田崎地区）[国合同空手会]、熊本市文化財課調査区とで合同の見学会とした。見学会中も調査は継続。溝 SD095 西側の遺構検出。遺構実測継続。

8.7 96H-19、96L-5Grid を結ぶ線上での遺構検出を実施。溝 SD100 の調査。遺構実測は断続的に実施。

8.8 96H-19、96L-5Grid 付近での遺構振り下げ並びに実測作業を継続。現調査区の 95H-19Grid 付近で熊本市文化財課による調査の表土剥ぎ作業が始まる。

8.9 堅穴建物 S1066、S1032、S1026、S1027 調査並びに遺構実測。遺構実測業務は随時実施。植木町教委中原氏調査指導のため実斎。

8.10 堅穴建物 S1026 ～ S1028、柱穴 SP661 ～ SP682、井戸 SE023 の調査。鉄道・運輸機構と本遺跡調査行程について協議を実施。安全祈願祭を実施することから調査期間の順守を鉄道・運輸機構から、当課から調査に伴う排水設置、現調査区上に置かれている材料等の移動について協議を行う。

8.11 本遺跡で最後の調査区となる 110E-7Grid から 110I-11、110F-13、110H-16 以降の調査に着手する。しかし、調査主体は大成 EN 委託部の北側の仕上げをしていることから清掃が終わった範囲からシートを張り養生を行う。午後、富合車両基地（下江中島遺跡）の協議を実施。

8.14 ～ 15 お盆のため現場作業休止。

8.16 「熱中症」について作業員を対象とした研修を実施。道具の使い方、取り扱いの注意等も併せて実施。午後は駐車場及び調査事務所周辺の除草作業を実施。

8.17 井戸 SE023 平・断面遺構実測、堅穴建物 S1038 完掘写真撮影。午後から台風対策。

8.18 台風 13 号接近による風雨のため調査中止。排水作業は継続して行う。

8.21 96L-5Grid 堅穴建物 S1059、S1060 検出、写真撮影、調査着手。井戸 SE023 半裁作業。遺構実測随時実施。

8.22 井戸 SE083、堅穴建物 S1035、土杭 SK111、SK112、井戸 SE032（不明遺構 SX014）を検出。土師杯が大量に検出。墓 ST003 一方を削平し全体下半部のみ検出。JR との協議、鉄道・運輸機構との協議をそれぞれ実施。

16 : 30 分から雷雲が接近したため、作業を急遽中止する。

8.23 井戸 SE032 の土坑部遺物検出作業。大成 EN 下請けについて協議。

8.24 96A-4 ～ 6Grid 遺構最終確認後、写真撮影。玉名平野条里跡（古閑前地区）協議。

8.25 井戸 SE032 調査。㈱九州文化財研究所委託分の実測調査。検査の途中で遺構の掘り残しが多いことに気づき、調査を実施する。民間調査委託している大成 EN 調査区（C 区）について、調査がやや遅延気味であるため工程表の修正、提出を求める。また、写真撮影について調査に着手する段階で指示していたにも関わらず徹底されていないことから撮影準備、機材、構図等について徹底するよう指示。

8.28 溝 SD095、SD098 下端付近の礫群実測終了のため撤去。

8.29 道路 SF001 以北の遺構完掘。SD095 の完掘清掃。井戸 SE025 完掘。

8.30 道路 SF001 北側清掃。午後、降雨のため作業中止。

8.31 井戸 SE017、SE019 調査。調査区内完掘した遺構の下端入れ。

9.1 96H-19 から 96L-5Grid を結ぶラインより北側の調査を完掘撮影をもって終了する。これまでの調査成果を JR 線利用者に向て路線側フェンスに掲示。大成 EN 定期協議を実施。

9.5 96C-2 から 96F-9Grid を結ぶラインまで新幹線工事のため大林 JV により埋戻し作業開始。堅穴建物 S1057、S1058 の調査を実施。床面で柱穴を確認できなかったことから掘方まで下げ、確認作業を進める。熊本市文化財課網田氏来跡、井戸 SE032（不明遺構 SX014）について、集中して出土している土師器は 9 世紀中頃（第二四半期）と思われる。杯のなかでやや小さいものが含まれており、い等に注意し調査を進めるようにとの指導を受ける。大成 EN と協議。実測記載方法について当駅での使い一般的に堅穴建物等から出土する遺物とは異質な感じを見る。周辺の遺構は 8 世紀後半が多いので、切り合用状況と合わせるように指示。

9.7 堅穴建物 S1035、井戸 SE032（不明遺構 SX014）、溝 SD097 の調査。その他、周辺の残りの遺構調査を継続。遺構実測は断続的に実施。

9.8 昨日に引き続き、遺構調査を継続。堅穴建物 S1078、S1025、土杭 SK105 完掘。井戸 SE027 撮影時に独立行政法人文化財研究所・奈良文化財研究所牛脇茂氏、杉本和樹氏来駆。深度のある遺構の撮影方法について実地にて指導を受ける。井戸撮影の際にストロボ 2400W 1 灯を使用し、撮影のアングル、ピントの置き方、構図等について細かく注意点を教示いただいた

く。大事なことは「すべてを撮らない。欲張らないこと。」

9.11 穴尖建物 SI035 写真撮影。遺構実測は継続し実施。

9.12 井戸 SE032(不明遺構 SX014)の調査も半段作業まで進む。遺物が多くやや混れ気味。遺構実測を継続し実施。本日より、富合車両基地（下江川島遺跡）確認調査を開始。

9.13 午前・午後で降雨のため一時調査中断。大成BNに調査委託している調査区をはさみ、南側の調査区の調査に着手する。本調査区が当該工事予定地最後の調査区となる。(暫定的にD区と呼称。)

9.14 井戸 SE032(不明遺構 SX014)周辺の調査を継続し実施。井戸出土の遺物量が多く調査が遅れ気味となる。

D区の北側より清掃、遺構検出作業を開始。機関車庫（レンガ建物）があった範囲内に当たることから多数の大型の壊壁が入る。遺構は断片的に検出。

9.15 井戸の調査を実施している調査区は本日が現場引き渡し日であったが、遺物の取り上げが終わらずに協議の結果、引き渡しは延期。

9.16 井戸 SE032(不明遺構 SX014)の土器取り上げがほぼ終了し、土器集中区の下から井戸が検出されたことから、不明遺構(SX)から井戸 SEへ変更し取り扱うこととした。(以後、「井戸 SE032」とのみ表記。)土器集中部と井戸構造切り合いは見られなかつたことから同一遺構であると判断し、土器集中は井戸廢棄の際の祭祀的意味合いをもつものと考えられる。また、土坑 SK113(井戸 SE033)として調査していた遺構の埋土中から人骨が頭部のみ個体別レベルで出土。

9.20 昨日、調査に着手した土坑 SK113が頸骨取り上げ後の調査で、井戸であると判断されたことから井戸 SE033へ変更。(以下、「井戸 SE033」へ変更。)

9.21 民間調査委託しているC区で、一部委託面積からはみ出した部分の調査に着手する。これから着手するD区も含め広い範囲で壊壁が多数入り、また一部に油が染み出している部分もあり汚染土かどうかの状況も確認しながら調査を実施する。

9.22 D区の表土剥ぎのため調査は休止。職員全員で表土剥ぎの対応。

9.25 墓 ST001 の調査を実施。D区表土剥ぎを継続。

9.26 D区の表土剥ぎ終了。墓 ST004、井戸 SE039・SE040・SE044、堅穴建物 SI072 の調査を中心に調査を実施。

9.27 井戸 SE039 の調査、堅穴建物 SI071・SI073 遺構実測。井戸 SE044 完掘。

9.28 110B-28Grid から G-16Grid にかけての残存調査区完掘。写真撮影まで実施。D区遺構検出作業。

10.2 D区環境整備。堅穴建物 SI066 など部調査。福岡県瀬高郡田町教委 猪俣真弓氏、県玉名地域振興局 青木勝士氏来跡。

10.3 D区復乱除去、清掃作業。

10.4 下関市立土井ヶ派遺跡・人類学ミュージアム松下孝幸氏ほか3名来跡。墓 ST003、SE007、SE033 実測及び取り上げ作業。熊本市文化財課 原田範昭協議のため来跡。

10.5 溝 SD104～SD106 検出状況撮影及び調査、D区遺構検出作業。

10.6 D区遺構検出作業。出土していた「二彩托」を熊本市文化財課 美濃口雅朗氏来跡。

10.10～11 溝 SD102 調査。周辺の遺構検出も併せて実施する。

10.12 D区4級基準点測量及びメッシュ杭設置(㈱十八測量

設計)溝 SD102 完掘、SD047、SD026 調査。柱穴群検出。

10.16 110L-K-7Grid 土坑 SK126 調査。1100・P-9・10Grid 挖り下げ。D区の遺構実測業務は㈱埋蔵文化財サポートシステムが受託。

10.17 井戸 SE051、土坑 SK053、溝 SD102 完掘。土坑 SK054、井戸 SE045 半歳。㈱十八測量設計とメッシュ杭設置範囲再度確認作業を実施。

10.18 土坑 SK054、井戸 SE045 土層注記及び掘削。1100・P-9・10Grid 柱穴半歳作業。同時に土層半歳が済んだものから断面実測作業に着手。

10.19 1100-6～8Grid、R-6～8、S-7・8、0・P-9～10Grid 柱穴群検出及び確認作業。

10.23 110P-9～10、S-9Grid 坚穴建物 SI088、SI089 調査

10.24 坚穴建物 SI087～SI089、1100・Q-8～10Grid 柱穴群調査。堅穴建物 SI087～SI089 遺物出土状況撮影及び遺構実測調査作成。

10.25 110T-5～8Grid、III層掘り下げ。

10.26 1100-8・9、P-8～10、Q-9、R-8・9 遺構検出及び調査。富合車両基地協議(鉄道・運輸機構、文化課、大成JV)

10.27 D区堅穴建物 SI091、SI098、井戸 SE047、1100・P-9・10Grid 坚穴建物 SI087、SI088 調査。併せて柱穴群の平面実測図作成。

10.30 坚穴建物 SI092～SI094、SI089・SI090 の調査。110P-11、Q-10・11、R-11Grid 柱穴群検出、調査。

10.31 D区堅穴建物 SI092～SI094、SI089～SI090、SI098・SI102 の調査。110P～R-11Grid 柱穴群調査。1100～R8～11Grid 遺構実測。(㈱埋蔵文化財サポートシステム)

11.1 坚穴建物 SI089 完掘、SI092～SI094、SI091 の調査。土坑 SK132 調査。D区大 Grid125 地区の遺構検出。遺構実測は昨日に引き続き実施。

11.2 大 Grid125 地区の近世以降の遺物を含む包含層の掘削。昨日から実施している堅穴建物 SI092～SI094、SI091 の調査を継続。SI092～SI095・SI098 の平面実測。

11.6 大 Grid125 地区全体の遺構検出作業。堅穴建物 SI102、SI095 完掘。

11.7 昨日に引き続き、大 Grid125 地区全体の遺構検出作業。

11.8 110S 列以南の遺構検出作業を実施。

11.9 昨日に引き続き、110S 列以南の遺構検出作業を実施。Grid 每に検出が終了したところから必要に応じて検出写真の撮影を実施する。

11.10 坚穴建物 SI092～SI096 の調査をほぼ終了する。12SP～R-8～10Grid の遺構検出を実施。

11.13 12SP～R-8～10Grid の遺構検出を継続。堅穴建物を含む柱穴群を検出。

11.14 降雨のため作業は中止。事務所にて実測を受託している㈱埋蔵文化財サポートシステムと実測図チェックを実施。

11.16 12SP～R-9～10Grid の遺構検出作業。110S 列以南の遺構検出を再度実施。最終的に堅穴建物方形プランが 10 数基以上検出される。教育長、調査観察。

11.17 110S 列以南の遺構検出写真撮影を実施。堅穴建物、獨立柱建物等が重複し検出される。110P・Q-10・11Grid 調査区東壁土層断面実測図作成。(㈱九州文化財研究所)

11.20 110S 列以南、遺構検出を継続。

11.21 12SP-5・6、12SP～D-E 遺構調査開始。同時に壁面の土層分層を実施。随時、遺構実測を㈱埋蔵文化財サポート

システムにより実施。

11.22 110、125 地区全般にわたり遺構検出（切り合い確認）及び調査を実施。遺構実測も随時実施。本遺跡終了後に調査に着手する下江中島遺跡（熊本市富合町）の準備を始める。

11.24 休日の谷間のため終日、調査は休みとする。下江中島遺跡の事務間連で県庁にて事務作業。

11.27 降雨のため作業は中止。

11.28 1105 列以南、切り合いを確認しながらの遺構調査を実施。堅穴建物 SI110・SI114、土坑 SK138 の調査。

11.29 堅穴建物 SI110～SI112 の調査。随時、実測作業を継続。

11.30 1105・T-4grid、125A・B-3・4grid の遺構調査。125C～E-6・7 遺構検出作業。

12.1 堅穴建物 SI100 調査。溝 SD029・SD079・SD081 調査。遺構の土層断面図も含め遺構実測を継続。

12.4 堅穴建物 SI100 調査、SI114 検出。井戸 SE053、溝 S0074 調査。SK020 理土中より遺物多数出土しているため、遺物検出状況の写真撮影を実施。吉田は下江中島遺跡の表土剥ぎ作業を開始。

12.5 堅穴建物 SI110・SI117 の調査。SI114 の検出を実施。下江中島遺跡表土剥ぎ実施。

12.6 土坑 SK020 より炭化米出土。埋土を土嚢袋に入れて採取。堅穴建物 SI111・SI113・SI114・SI117・SI118 の調査。井戸 SE052 完掘。墓 ST005 調査。人骨が出土したため検出状況の写真撮影を実施。井戸 SE049・SI050・SI053・SI054 完掘状況撮影。下江中島遺跡表土剥ぎ継続。（後日、SK020 の埋土は蔵にかけ確認作業を実施したがその後の出土はなかった。）

12.8 現在、着手している調査区すべてで継続調査。遺物を伴う遺構が多いため検出状況撮影後、断続的に実測業務を実施。土坑 SK056 堅穴建物 SI117、溝 SD025 撮影。

下江中島遺跡の調査協議を実施。表土剥ぎ継続。

12.11 溝 SD029・SD080 完掘。堅穴建物 SI110・SI106・SI108 切り合い確認作業。SI100・SI104 完掘。井戸 SE054 完掘撮影、SI120 北西隅を切る柱穴遺物出土状況撮影。

12.12 墓 ST005・ST006・ST007 人骨調査のため、下関市立人類学ミュージアム松下孝泰館長ほか2名来駆。人骨出土状況実測及び取り上げ。

堅穴建物 SI100、SI104～SI106・SI109・SI118 の検出及び調査。墓 ST006、ST007 の人骨、遺物出土状況の撮影。熊本大学人骨教授来駆。昨日出土した炭化米について指導を受ける。

12.13 降雨のため調査は中止。遺構実測業務を受託している㈱埋蔵文化財サポートシステム担当者と図面のチェック作業。

12.14 本日も降雨のため調査は中止。図面チェック作業。

12.15 墓 ST006・ST008 の精査、半裁作業。ST008 より昨日の取り上げ時に削削できていなかった位置から人骨大腿骨が出土。実測後に取り上げ人類学ミュージアムへ送付。

12.18 墓 ST006 完掘。堅穴建物 SI104 カマド検出及び遺物出土状況撮影。井戸出土動物骨実見のため大分市歴史資料館木村幾多郎館長専門調査員として来駆。

12.19 挖立柱建物 SB030 柱穴半裁作業。堅穴建物 SI125 完掘。SI112 遺構南側で切り合い確認作業。下江中島遺跡表土剥ぎ。

12.20 挖立柱建物 SB030 柱穴半裁作業継続。堅穴建物 SI111、樋列 SA020 完掘。堅穴建物 SI103 の樋列調査。下江中島遺跡表土剥ぎ継続中。

12.21 堅穴建物 SI103、樋列 SA019 完掘。樋立柱建物 SB061 柱穴調査継続。下江中島遺跡表土剥ぎ継続中。

12.22 D 区古代（9世紀初頭）面、高所作業車より完掘写真撮影実施。

12.23 堅穴建物 SI099・SI100・SI104・SI118 完掘。調査に供していたベルトコンベア取り外し作業。調査区土層断面（東壁、西壁）作成。

12.26 朝から雨のなかではあったが、本遺跡の調査を終了する。工事が差し迫っていること、次の調査開始期日が迫っていることから事務所撤収、下江中島遺跡（熊本市富合町）への引っ越しを実施。

（吉田徹也、長谷部）

大成エンジニアリング株式会社
履行期間 平成 18 年 6 月 18 日（調査は 7 月 14 日）から平成
18 年 11 月 14 日

調査区 C 区 1,500 m²（調査委託範囲下表参照）

日誌記入者 主任調査員 吉田 寿、調査員 小宮山

※調査日誌は調査過程を知る上で重要と判断し、原文のまま掲載している。

※本調査区では他の県直轄調査区と遺構名の重複を防ぐ目的で、すべての遺構規模の前に調査区名 C、D をそれぞれ冠し遺構番号を付すよう指示した。（例：SA001 → CSA001）

7.14 本日は現場作業なし。

7.18 明日より調査関係の予定とし、本日はその準備作業を行ふ。

7.19 降雨により本日開始予定の作業は中止する。

7.20 降雨により現場作業中止。

7.21 降雨により現場作業中止。

7.24 現場状況不況につき作業を中止する。

7.25 現場状況不良につき作業を中止する。

7.26 暫定調査区の精査作業を開始する。

7.27 暫定区、遺構検出作業。

7.28 暫定区、遺構検出作業。当初の範囲中、南側では複数の窓穴の切り合いと思われるプランが確認される。

7.31 暫定区、遺構検出作業。精査及び一部掘り下げ。

8.1 暫定区、遺構検出作業。

8.2 暫定区、遺構検出作業。15 時 40 分落雷により、作業中止とする。

8.3 暫定区、遺構検出作業。

8.4 暫定区に於いて遺構検出作業を継続した。漆仕様書中の面積について、最終的な調査範囲の決定をみていない。

8.7 初当調査範囲内、遺構検出作業を行う。先行調査部分（西側幅 7m）を中心に精査。北側に於いて、3～5 軒程度の窓穴のプランを検（マツ）。する。

8.8 当初調査範囲、西側先行部分について遺構検出作業。

8.9 当初予定範囲内、先行調査部分について遺構検出作業。面積について協議が持たれ調査範囲がほぼ確定となる。

8.10 面積確定に伴い当初範囲外であった D ブロック内の調査につき、遺構検出作業を開始する。

8.16 確定した調査区に、5m メッシュを基本とするグリッド杭と基準杭の打設を行う。また、北側部（C ブロック）1 面につき、包含層の掘り下げを行う。C ブロック先行調査撮影。本日、グリッドが確定したので以降、包含層

出土の遺物の取り上げについては、基本的にグリッドの属性を持たせる。尚、開始以来の貴（以降記述なし）

8.17 昨日に引き続き、C・D 両ブロック内での遺構検出作業を行う。先行調査部分である C ブロック西側にて構、堅穴状の落ち込みの精査作業を中心に行う。

8.18 台風による降雨の為、現場作業を中止する。

8.21 C ブロック遺構検出作業、先行調査部につき再度の精査作業。

8.22 精査作業を継続しているが、先ずプラン撮影の為の先行調査部分についての作業を中心に行う。

8.23 先行調査部のプラン写真撮影を試みるも、午後 2 時過ぎに雷雨により中止になり掘削作業も中止とした。

8.24 先行調査部分（西側北部）プラン写真撮影。D ブロック

遺構検出作業。15 時雷雨により作業中止→終了した。調査区北西部側検出遺構プラン撮影（小宮山）

8.25 調査中央部（C ブロック）西側南部プラン写真撮影。D ブロック遺構検出。調査区中央部西側検出遺構プラン（小宮山）

8.28 調査区中央部西側プラン写真撮影（全体、単体）D ブロック遺構検出（遺構の大半は 2 層目の古代のものと思われる。）調査区中央部西側遺構プラン（全、単体）

8.29 D ブロック 2 面を精査。C ブロック北部東側を 1 面目の遺構検出作業。C ブロック北部東側につき 1 面目（中近世）の遺物を包含層中の遺構検出が予想以上に困難なため、数センチ程度の掘り下げを行い、検出を試みることとした。結果、途中だが該期と思われるビット類の検出がみられる。

8.30 昨日の作業をそのまま引き続き行い、C ブロック北東部 1 面目遺構検出。D ブロックは若干の掘り下げも行い遺構の検出を行った。D ブロックは北側に於いて、堅穴住居 1 軒のほか、純柱式と思われる据立柱建物のビット群が検出される。なお、南方に向かい遺構の切り合いの影響なのかプランの把握がやや困難となっている。

8.31 午で午前 9 時より作業を開始した。C ブロック北東部 1 面目、D ブロック 2 面目遺構検出作業。

9.1 C ブロック 1 面目は、ビット、溝が検出され、それら全体のプラン写真撮影を行う。また D ブロック遺構検出を一旦終了し、C ブロック南側より 2 面目精査を開始した。C ブロック 1 面目検出のビットはわずかでその在り方に特徴は見られない。C ブロック 1 面目プラン CS1001、CSF001 ～、C ブロック西側単体プラン撮影。（小宮山）

9.4 C ブロック 1 面目遺構掘削を開始する。C ブロック中央部遺構検出。C ブロック北東部 CSP001、CSD001。（小宮山）

9.5 C ブロック 1 面目遺構半段、実測。（吉田・小宮山）C ブロック中央部遺構検出作業。（大川）

9.6 C ブロック 1 面目遺構掘削。C ブロック中央南側、遺構検出作業。C ブロック北東部半段等、溝ベルト廻し廻削。（吉田・小宮山）C ブロック北東部ビット、溝。セクション実測（大川）

9.7 C ブロック 1 面目遺構掘削、実測。中央西部（大樅乱を抜き西側）精査。C ブロック北東部ビット、溝の完掘への掘削。（吉田・小宮山）ビット、溝セクション（大川）

9.8 調査区全体を仮称①～④とする。① 1 面目完掘写真撮（吉田・小宮山）

①～④廻し廻削

9.11 ② 2 面目包含層廻削（吉田・小宮山）。① 1 面目 SP001 ～ SP005、SD001 平面実測（大川）、② 全体プラン写真及び単体（土坑）（小宮山）

9.12 ②南北溝（SD002 ～ 004）堅穴（SI01、SI02）① 区包含層廻り下げ（吉田・小宮山）。②南北溝断面① SP006 ～ 011 平面（大川）

9.13 ②南側 SD002 ～ SD004、SI001、包含層（IV 層）廻削→精査（吉田・小宮山）。②南北溝断面（大川）

9.14 ③ 区遺構検出、② 区 SD002 ～ 004 調査（吉田・小宮山）、②南北溝平面実測（大川）、① 区 2 面目検出遺構プラン全体、単体撮影（吉田・小宮山）

9.15 ③ 区全体精査、SI002 調査（吉田・小宮山）。②南北溝、土坑実測（大川）。③ 区検出遺構プラン全体撮影（小宮山）

9.19 ③ 区 SI005、006、008 調査（吉田・小宮山）、③ 区 SI002 平面実測（大川・山中）、② 区 SD005 ～ 007 セクション（藤木・山中）、③ 区 SD003 セクション（大川）、③ 区 SI008、011

プラン撮影（小宮山）

9.20 SK003～005, SD008～11, S1003 摂剤（新たに遺構番号を付す）（吉田・小宮山）、SD005, 006 平面実測（藤木・山中）、S1003, SK004, 005 間切り合いプラン写真（小宮山）

9.21 S1003～005, SD010, 011, SK003, 004, SE001 摂剤（吉田・小宮山）、SD006, 008 平面、SD008 セクション、SK003 平面実測（大川、藤木、山中）

9.22 S1005, SK004～006 摂剤（吉田・小宮山）、SD008, 010, 011 平面、S1001 セクション、SD011 セクション（藤木・山中・大川）

9.25 ③区 S1008～011 摂剤（吉田・小宮山）、③区 SK004, 006, SE002 セクション、S1005 平面（藤木・山中・大川）、②区 SD005～008 完掘状況、遺構プラン（S1013, 014）撮影（小宮山）

9.26 ③S1008～011 摂剤（吉田・小宮山）、③S1008, 009 セクション、SK008 セクション、SD001 平面実測（藤木・大川・山中）。③SK004, SE001 セクション、S1012, 014 カマド部プラン撮影（小宮山・吉田）

9.27 SK004, 008, SE001, 0 0 2, S1009, 008 ベルト 摂剤、S1003, 008, SK002 平面、S1008～011 セクション、③区 SE003 セクション

9.28 SE01, 02, SI001～004, SI007 実測（藤木）、SE001（出土状況）、SI008, 009（完掘）撮影（小宮山）

9.29 C ブロック S12, 12～19（吉田・小宮山）、S1002, S001 セクション（大川・藤木）、D ブロックプラン全景、S1001 柱穴群撮影（小宮山）

10.2 C ブロック ①②区 S1002, 012～019、③区 SB001, SE003, 004 調査（吉田・小宮山）、C ブロック S1017, 018 セクション、ビット群、SE003（大川・山中・藤木）

10.3 C ブロック S1003 清掃（吉田・小宮山）、SI017～019 カマド実測（大川・藤木）、CS1003, SI001 完掘撮影（小宮山・吉田）

10.4 ①区を開始する。S1017～SI019（吉田・小宮山）、③区ビット群（藤木・大川・山中）

10.5 S1003, 009 摂方摺剤、S1016, 015、①区ビット群調査（吉田・小宮山）、SB01, SI03（藤木・山中）

10.6 CS1003, 009, S1016, 015 調査（小宮山・吉田）、S1003, 009, 011, SB001P2 半裁撮影（小宮山）

10.10 CS1019, 20 及びそれを中心に周囲調査（吉田）、S1006, 007, 010 調査（小宮山）、S1006 セクション③区ビット群（大川）、S108, 09 ビット群（藤木）、調査区壁面セクション（C 区）7（山中）

10.11 S1012～020 部分、SI004（吉田・小宮山）、SB01 完掘（吉田）、S1006, 007 実測（大川）、S1008, 009, 010（藤木）、調査区壁面セクション（山中）

10.12 C ブロック S1002, 013, 14, 004, 007 調査（小宮山）、S1012, 016, 020 調査（吉田）、SI004, 007 実測（大川）

10.13 本日より D ブロック調査区の遺構摺剤を開始する。

C ブロック S1002, 013, 014 調査（小宮山）、DS001 調査（県 SD053）（吉田）、C ②区 SP 群実測（山中）

10.16 D ブロック DS001, DS001 調査（吉田）、C ブロック S1013, 14, 17, 19（小宮山）、C ブロック SK001 セクション（大川）、C ブロック ①区 SP、SK 群 SK004 実測（山中・藤木）

10.17 D ブロック DS0001, DS001 サブトレ設定→摺剤（吉田）、CSI013～20（小宮山）、DSK001 セクション（大川）、S1003,

014（山中・藤木）

10.18 DS1001～003, 007 調査（吉田）、CSI013, 14, 12 カマド調査（小宮山）、SI016, SK061, 160, 11, 14 実測（山中）、S1013 床、S1012 カマド半裁（小宮山）

10.19 DS1001～003, 007 サブトレ（吉田）、CSI002, 012, 017 調査、CSI012 カマドセクション（大川）、①区ビット群（山中・藤木）

10.20 D ブロックサブトレ摺剤、SI001（吉田）、CSI002, 012 清掃、013, 017 摂剤（小宮山）、CSI002, 017 摆方、S1012 カマド完掘撮影（小宮山）

10.23 D ブロック SI002, 007, 003 遺構重複部調査（吉田）、CSI013～020（小宮山）、SK026, SP182, 178, SK113, 100, 180 実測（藤木）、SK101, 103, 105, 108, 109, 106, 068（山中）、DSI002, 3, 7 セクション（小宮山）

10.24 DS1001, 2, 7, 3, 6, SE001, S1008, 009、その他の重複部（吉田）、S113～20（小宮山）、(SI013, 014（大川）、DS0001～004, 008～010 実測（藤木）、CSI013 カマド半裁（小宮山）

10.25 CSI002, S1012～20 調査（小宮山）7、DSI001～3, 6～7 調査（吉田）、DSI008～10 実測（藤木）

10.26 CS1013 摂方摺剤（小宮山）、重複部、S1004, 005（いずれも熊本市との境界線上）調査（吉田）、DSI001 セクション、DSP16, DS1002（藤木）、①区ビット群（山中・大川）

10.27 C ブロック SI037, 017 調査（小宮山）、D ブロック 遺構の切り合ひ部分調査（吉田）

10.30 D ブロック 遺構重複部調査、想定プラン（S1009）を設定し、それらに切られる各面をプラン実測（藤木）

10.31 D ブロック 主に S1009 摂剤後の 011, 015, 017 の摺剤を進め、摆方による把握に努める。

11.1 D ブロック 重複部、SE002 調査（吉田）、サバベルトセクション SP、SI04, 05, SE02 実測（大川）、D 北側柱穴群（SB001）、DSE001 撮影（小宮山）

11.2 D ブロック 全面精査後、全景写真の撮影を行い発掘作業を終了した。

11.7 高所作業車上り全体写真撮影を行い発掘調査を終了した。

3 第14次発掘調査日誌

2010年(平成22年)7月20日

調査担当者 文化財調査第一係 長谷部善一

125J・K-I・50rid 内に位置する。調査面積は調査区上端で2m × 10m (20 m²)

遺構実測業務 糜埋蔵文化財サポートシステム

7.20 鉄道・運輸機構により図りだされた工事範囲を重機を用い削除する。(表土剥ぎ業務)

地表から約1.5mは旧熊本駅造成時に背後の万日山山塊の一部を削り取りられた層を確認。客室中には近現代の陶磁器をはじめ、鉄片、ガラス等が多数含まれる。現地表から約1.8m下で調査の対象としている褐色土層(4b)を確認。よって、調査はその上層にあたる3層(黒色土)で止め調査を実施することとした。

7.21 3層の掘削を開始する。遺物は古代の土器類、須恵器を中心出土するが遺構は確認できない。

7.22 主な作業は3層削除。昨日に比べやや大きめの土器片がJ-4・5Gridで出土し始めるも遺構は検出できない。遺物は南側K-4Gridにかけてやや減少する。3層中より歓賀門面鏡の脚部のみが1点出土する。

7.23 3層削除。4層底上まで掘り下げ遺構検出を試みるが、J-4・5Gridでは検出できなかった。K-4Gridでは柱穴と見られる遺構を検出。

7.26 3層削削を終了し4層上面で遺構検出を実施。堅穴状遺構と見られる方形掘り込み1基、柱穴数基を検出する。

7.27 遺構検出状況撮影後、各遺構の調査に着手する。昨日検出した堅穴状遺構は削削を開始した時点で遺構ではなく、地形の縦やかな落ちであると判断されたため遺構から除外した。この結果を受け再度、遺構検出作業を実施した。3層の堆積状況再度確認し自然堆積によるものかどうかを検討する。

7.28 午前中は天候不良のため出土遺物の整理を行う。午後から改めて遺構検出を実施し、遺構の切り合い関係を把握する。現段階では柱穴、土坑状遺構以外に遺構は確認できていない。

7.29 以前に堅穴状遺構としていた部分は柱穴の集中部であることが確認されたため、改めて遺構を見直すと本調査区検出の遺構はすべて柱穴であることが判明した。柱穴埋土は遺物包含層としているやや混入物が多い黒色土層(3層)に由来する土である。また、埋土の状況から複数時期の遺構が切り合っている状態ではないことも分かつてき。

7.30 昨日まで検出した遺構の調査を実施し終了する。S26のみ断面で柱穴が確認された。遺構実測に着手。

8.2 朝から清掃後、完掘撮影を実施する。遺構の面は古代およそ8世紀後半から9世紀初頭と判断される。その後、遺構平面図及び土層断面図作成(土層注記)まですべての作業が終了。

(長谷部、糜埋蔵文化財サポートシステム 上高原 聰)

コラム2 旧熊本駅出土の遺物

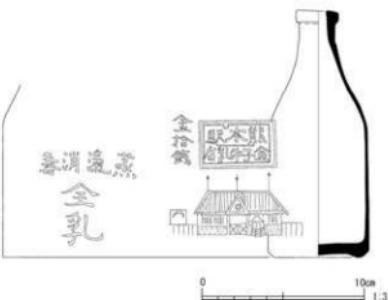
熊本駅銘入 牛乳瓶

平成16年(第6次)調査に着手した際に表土剥ぎ時に近現代の鉄道関連出土遺物遺物がまとめて廃棄された中から出土したもので、瓶は縦15.2cm、口径2.6cm、底径6.2cmの大きさで円筒状をしています。飲み口となる口縁部では厚く作られ瓶自体のガラスの透明度はやや低く濁っています。瓶外側には表面に二段に渡り「熊本駅 金子牛乳 金拾錢」、裏面に「蒸気消毒」その下段に縦に「全乳」と縦書きされています。

昭和33年3月20日に現在の形となる熊本駅が竣工していることから、それ以前の建物といえます。さらに、図をよく見ると正門となる中心部分の右側に小さな施設が敷設されているのを見て取れます。この建物は今では何の役割をしていたのか分かりませんが、当時の熊本駅を撮影した写真を見ると高さ約3m近くあり、屋根はドーム状に丸みを帯び本体建物は現在の電話ボックスを一回り大きくした建物であったのを見て取れます。さらに、この建物は明治38年の日露戦争での傷病兵が帰還した際に撮影されている写真にも写っているのを確認することができます。しかし、大正3年4月に解体新築され、その後、大正7年の熊本駅を写した写真の中にはこの建物はないことから、牛乳瓶が消毒を繰り返しながら使われていた時期は明治24年以降、大正3年以前のものと考えられます。

参考文献

『線路は続くよどこまでも』熊本鉄道管理局記念誌 製作・発行 日本国鉄道熊本鉄道管理局 発刊昭和62年3月31日



第3章 遺構

調査区は新幹線「新熊本駅」建設に伴い南北に全長約 375m、東西に最大幅約 37.5 mを測る細長い調査区である。調査時には最初に調査に着手した北側から A 区・B 区・C 区・D 区と調査区を設定し調査を実施した。本書ではこの呼称は正式には用いないが、説明上必要な場合は用いていることがある。

総発掘調査面積は最終的に 12,700 m²を測り、全域で古代から近現代までの遺構を検出した。しかし、鉄道施設に隣接する建物群による搅乱や、JR 九州施設に関する建物群及び営業線隣接という条件のもとでの調査となり、当初は困難を極めた。また、調査途中で鉛汚染による土壤汚染の報告があるなど、調査に際して極めてデリケートな問題も発生した。

1 遺跡の調査

律令国家の地方支配の要として地方行政官庁である国府が全国的に成立してくるのはおおよそ養老、神亀から天平期（8世紀前半）とされる。そのなかで肥後の国府についてはいまだに諸説あり確固たる場所が確認されたところはない。二本木遺跡群もそのなかの一つで江戸時代からその可能性は指摘されている。大正年間には、八木田政名により『新選事跡通考』のなかで二本木が四神相応の地であるとされ、また、二本木地内から奈良時代の古瓦が出土することから、乙益重隆氏、松木雅明氏、佐藤伸二氏により有力な国府推定地として研究され現在に至っている。1999 年から始まった熊本市教育委員会による民間開発に伴う「二本木遺跡群第 13 次調査」で、8世紀中葉の古代官衙とみられる 8間×8間の絶柱建物が検出されるなど国府推定地としての可能性をもった遺構が確認されている。また、当該遺跡は九州新幹線全線開業に伴う熊本駅周辺整備及び熊本駅西地区画整理事業等により熊本県・熊本市による数次に渡る調査が行われ、なかでも熊本市による第 28 次調査区からは村落内寺院と考えられる方形区画に囲まれた掘立柱建物群やそこから出土した唐三彩陶枕片など県内では他に類例を見ない遺構・遺物が出土している。

このような周辺の調査状況の中で迎えた「二本木遺跡群（春日地区）6 次調査」では、調査面積も広大であったことから多くの遺構と共に古代から近現代までの調査を実施することができた。

2 遺構各説

（1）中世（方形区画内及び周辺）の遺構群

古代の遺構が多数を占める当遺跡のなかで、14世紀から15世紀頃の遺構として確認した一群である。調査区のなかでは当該遺跡中、最高所にあたる。周辺に長く JR の関連施設群があったことから建物基礎による掘り込み、鉄道施設等の掘り込みが多数あり、遺構の残存度は良くない。

溝 SD001～SD004 (Fig. 9) 遺構は、南北方向に平行に検出した 2 条溝（溝 SD001・溝 SD002）と、やや軸と規模の違う 1 条溝（SD003）の計 3 条からなる溝と、東西方向に溝 SD001・溝 SD002 と直角に交わるとみられる 1 条溝（SD004）の溝を検出した。南北方向に検出した溝と溝 SD004 は、JR 営業線電柱部下で直角につながるものとみられる。南北溝は全長約 36m、東西溝は約 27m を測る。溝が交わる部分は、調査工程と JR の営業線切り替え工事に伴う工事の兼ね合いから今回は、発掘調査を実施することはできていない。

主軸方向は、溝 SD001 から溝 SD003 はほぼ南北軸で N-6° -E を測り、溝 SD004 は東西に軸をおき N-96° -E と、直角に東西方向に軸をおく。遺構断面はいずれの遺構とも逆台形の掘形を持つが、溝 SD002 と溝 SD004 では掘形中段に 1 段の平坦面を有し、底部近くで更に深く掘り遺構込むことから類似性を持つ。幅、深度とも規模が同等なのは溝 SD001・溝 SD002 及び溝 SD004 であるが、先にあげた掘形の形状から溝 SD001 と溝 SD004 が同一の遺構であるとみられる。

両遺構は古代の遺構群と切り合っていることから 9世紀代の遺物と混在しながら、在地系の土師器等とともに龍泉窯系青花蓮弁文碗 (Fig. 116, Fig. 118)、備前の大甕、擂鉢 (Fig. 117) が出土している。溝からの出土遺物の年代がこれら 14～15世紀前後の遺物が最も新しいことから、これらの遺物が当該遺構の時期を表しているものと考えている。

また、断面図を作成した A-A' 付近からは、掘立柱建物群を検出している方形区画内部（西側）への入り口と想定する礎石の一部及び礎石を据えていたと考えられる根石を検出していることから門跡の可能性が高い

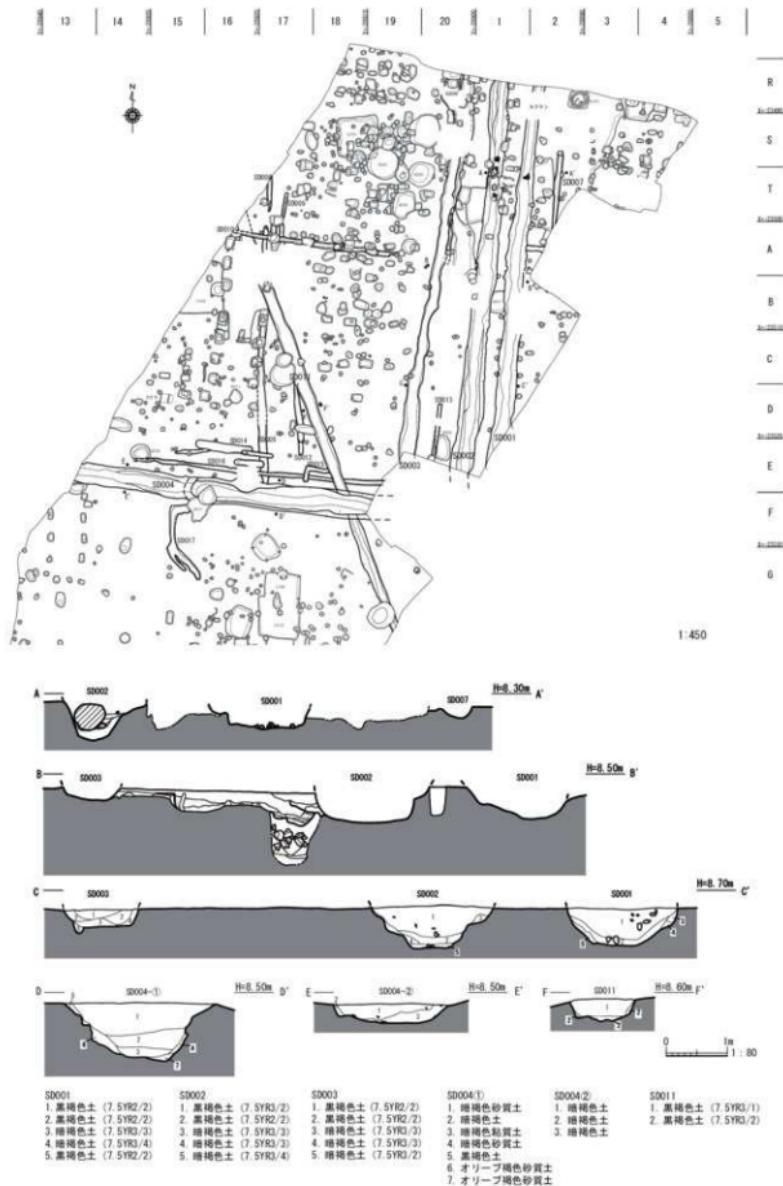


Fig.9 方形区画内溝配置図、実測図



Fig.10 方形区画内門跡 SX001 実測図

と判断し、以下に門跡 SX001 として報告する。

門跡 SX001 (Fig. 10.11) 溝 SD001、溝 SD002 及び柵列 SA003 周辺にある門跡とみられる遺構を検出して いる。この遺構には先に記述した礎石根石を溝 SD002 底面に 2ヶ所残し、根石上に置かれていたとみられる転石と化した石と根石上に置かれている石を検出している。また、礎石が移動され根石のみの状態で溝 SD001 基底部に 1ヶ所、溝 SD002 基底部に 1ヶ所、さらに同遺構南側に 1ヶ所検出している。周辺には柵列に伴う柱穴列があるため、断定はできないが出入り口としての門であった可能性は高いと考える。上層が大幅に削平されていることから当初の形状は確認されないが、溝 SD001 から溝 SD003 にかけ溝を直角に横断する橋の存在も考えられる。

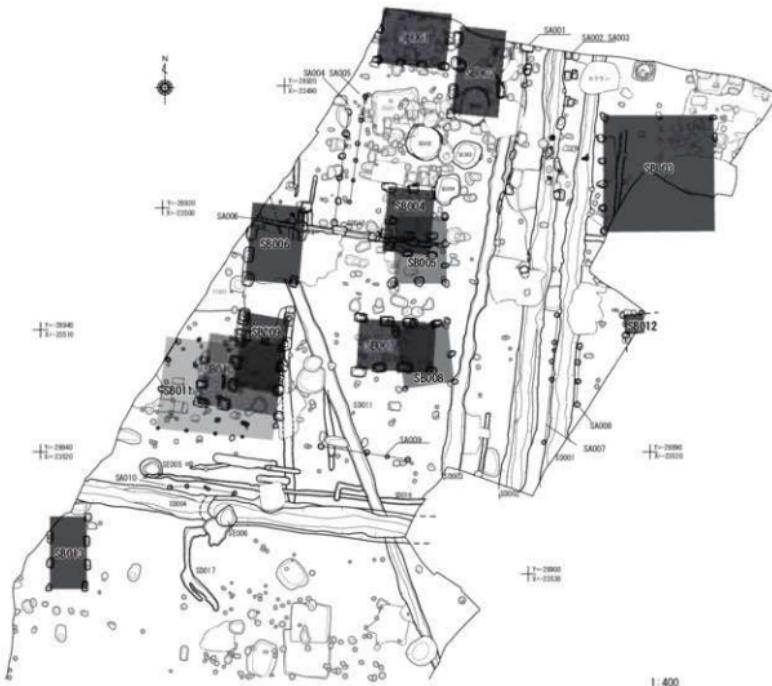


Fig.11 方形区画内遺構配置図

柵列 SA001 (Fig. 12) 調査区の北端で検出し、溝 SD003 と並行に確認した柱穴列。途中 1 基は擾乱により消滅しているが、方形掘形による柱穴が溝に沿い並ぶ。のちに報告する柵列 SA002 に柱穴の掘形が類似すること、溝 SD003 の上端に沿って掘り込まれていることから柵列と判断した。検出した柱穴列は 5 基(途中 1ヶ所は消滅)、検出長約 12m を測る。

柵列 SA002・SA003 (Fig. 13) 溝 SD001 と溝 SD002 とに挟まれた範囲で検出したが、溝 SD002 上端に近い位置で沿っていることから溝 SD002 に対して構築されているとみられる。柱穴平面形は長軸に沿い方形掘形が主で、近隣で見られる掘立柱建物と同じ形態をしている。

柵列 SA006 (Fig. 14) 構状の遺構に沿い掘り込まれている柱穴列。当初は溝と柱穴列は別とも考えられたが、調査を実施した中で並列する周囲に柱穴がないことから構を伴う柱穴列であると判断した。柱穴列は方形掘形のみは 4 基・3 間 (溝長 16m 以上、柱穴列約 9m) からなる。柱穴の掘形は周辺で確認している掘立柱建物と同規模であり、基本的に隅丸方形の掘形を有し、下端まで同一レベルの深度を持つ柵列と確認した。

柵列 SA007・SA008 (Fig. 15) 溝 SD001 の南端近くで検出した柱穴列。SA008 は溝の東側、SA009 は溝の西側に存在する。それぞれの柵列を構成する遺構が溝を挟んで相対することから 1 間 × 2 間の掘立柱建物であるとも考えられた。しかし、それぞれ逆方向に更なる柱穴の並びを検出したため、溝を挟んで相対する柵列であると判断した。柱穴平面形は円形の小柱穴で掘立柱建物を構成するほどの掘形ではない。SA007 は 5 基・4 間 (全校約 10.5m) とも考えられるが、間隔を置いて 1 基が南に位置するため軸線上には乗るが間が空き

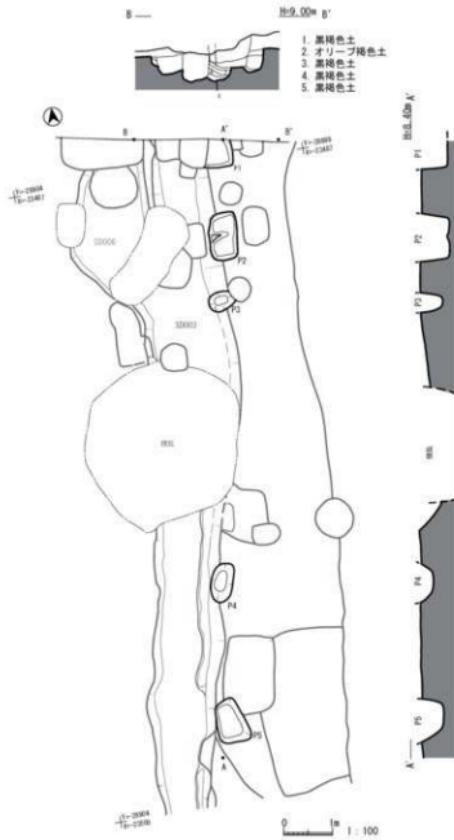


Fig.12 方形区画内柵列 SA001 実測図

すぎ、同一遺構とするにはいかがなものかと考えられる。SA008はSA007よりやや大きな柱穴列で並びも4基・3間（全長約5m）で間隔もほぼ等しいものとなる。

柵列 SA009 (Fig. 11) 溝SD011により一部を切られた状態で検出している。他の柵列と同じ規模であるが、他に比べやや小さな柱穴により構成されている。柱穴列は4基・3間（約7m）からなる。どの遺構に対応している柵列かは確認できない。

柵列 SA010 (Fig. 11) 溝SD004と溝SD016に挟まれているが溝と並列する柱穴列。小柱穴4基からなりやや列を乱すものもあるが柱穴列と判断した。隣接する溝SD004の遺構下端深度が変化する地点にあたる。柱穴列は4基・3間（全長約6m）からなる。溝と並列することにより効果をあげる目的で付設された柵列であろう。

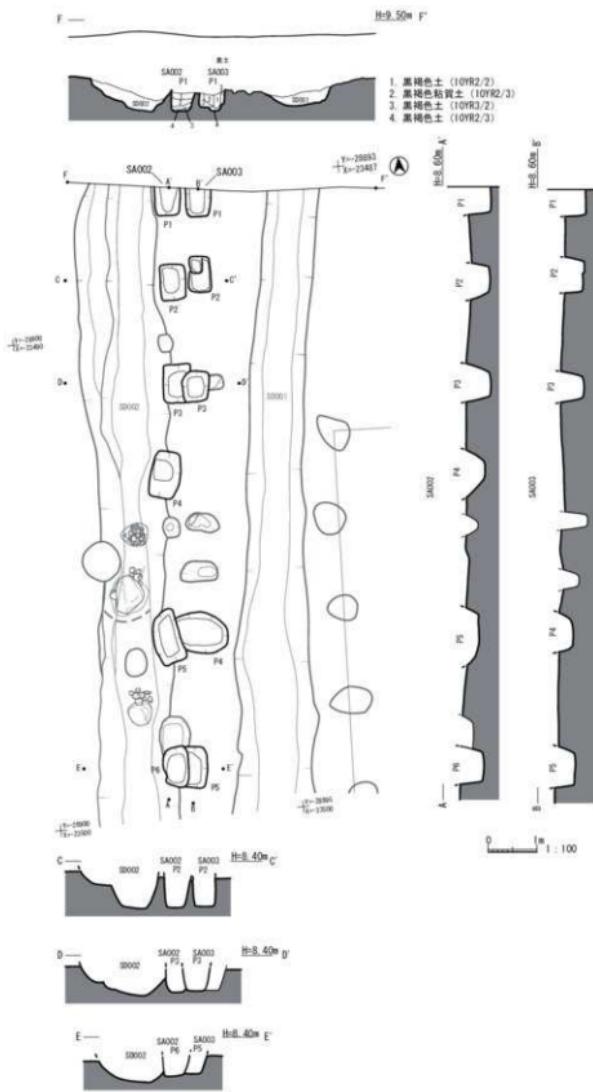


Fig.13 方形区画内柵列 SA002・SA003 実測図

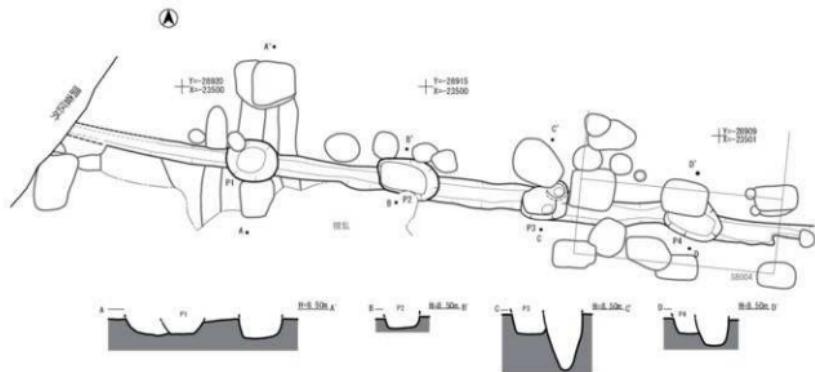


Fig.14 方形区画内柵列 SA006 実測図

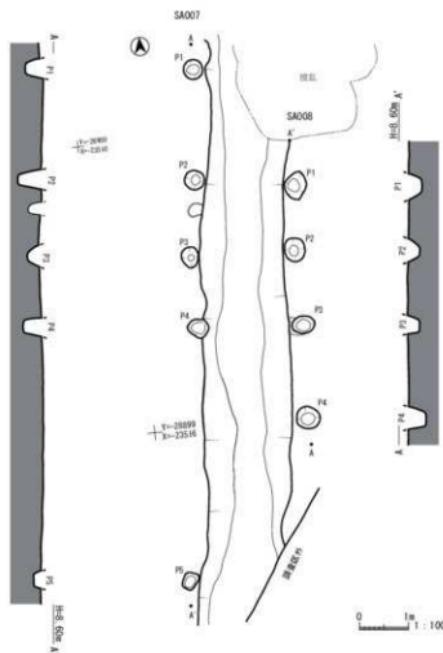


Fig.15 方形区画内柵列 SA007・SA008 実測図

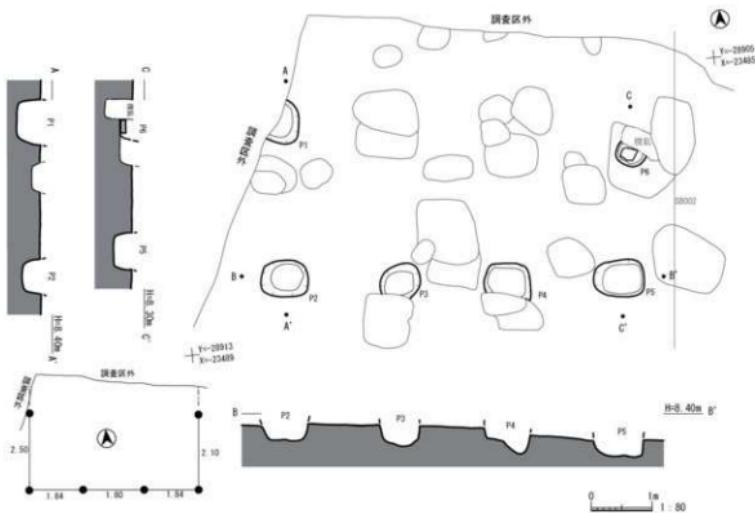


Fig.16 方形区画内掘立柱建物 SB001 実測図

掘立柱建物 SB001 (Fig. 16) 建物の規模は確認できた範囲で桁行総長 5.48m、梁行総長 2.50m を測る。梁行側は調査区外に伸びるため全体形（規模）は不明。検出した遺構規模は梁行 1 間 × 桁行 3 間だが、検出できた柱穴列の規模から推測すると、おそらくは梁行 2 間、桁行 3 間からなる掘立柱建物と考えられる。柱間寸法は桁行柱間は 1.84m [6 尺]、南北方向梁行はやや広く 2m [7 尺] を超える。建物は柱穴掘形は隅丸方形を基本とし主軸方向に長軸をおく。P6 のみは円形で柱穴下端に板状の石を利用した礎盤をおく。

掘立柱建物 SB002 (Fig. 17) 掘立柱建物 SB001 同様に梁行 1 間 × 桁行 3 間で検出した掘立柱建物。桁行総長 6.2m、梁行は残る柱から推定して 3.7m を測る。柱穴掘り込み形状はやや不定形な部分もあるが、おおよそ建物方向に沿った隅丸方形となる。柱穴の間隔は 1.80m [6 尺] と 2.20m [7 尺] を測る。P3 にのみ柱を据えたであろう礎盤（板状石）が残る。周辺には後世に掘り込まれた遺構も多く切り合いも多いことから、後世に掘削された柱穴もあるが、埋土の状態、遺構深度がほぼ均一などの要件を備えていることから同一遺構として捉えた。

掘立柱建物 SB003 (Fig. 18) 溝 SD001 の東側、方形区画溝外側に位置し検出した大型の掘立柱建物。主軸は N-1°-W を示しほぼ南北に沿い、規模は梁行 9.2m、桁行 9.4m を測る。梁行・桁行とも調査区外に伸びる可能性もある。ほかの隅丸方形の掘形を有する掘立柱建物の柱穴よりやや径が小さくなり、小不定形柱穴により構成される。規模は梁行 2 間 × 桁行 5 間の総柱方式で、柱間寸法は梁行東西方向に平均 4.50m [15 尺]、桁行 1.75m から 1.95m を測り平均して 1.90m [6 尺] を測る。同建物に類似する遺構としてのうちに報告する掘立柱建物 SB010 がある。

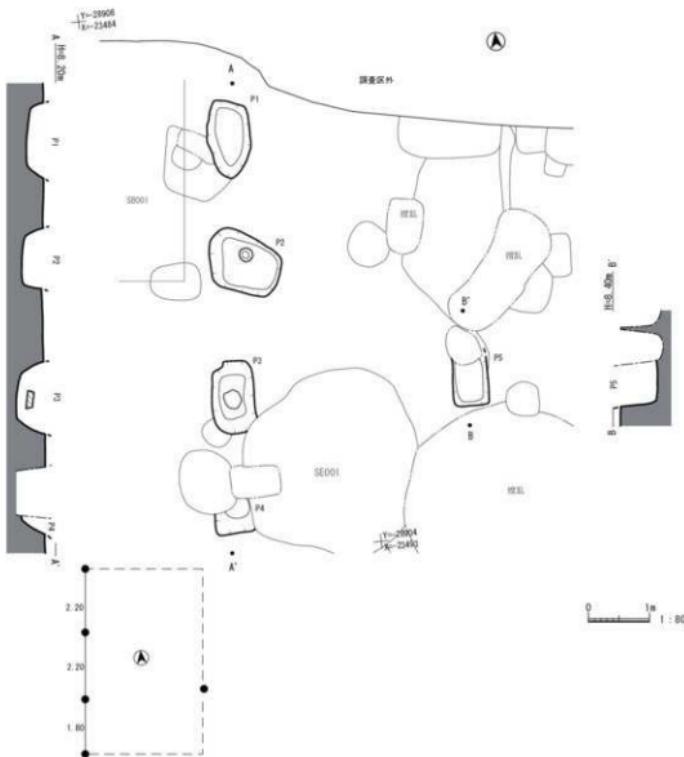


Fig.17 方形区画内掘立柱建物 SB002 実測図

掘立柱建物 SB004 (Fig. 19) 掘立柱建物 SB005 に先行して建てられた掘立柱建物。主軸は N-4° -E を測る。桁行総長は 5.2m、梁行総長は 4.0 m を測る。変則的な 2 間 × 2 間の建物だが、他の掘立柱建物規模からすると 2 間 × 3 間と同規模である。北西隅を基点とし桁行で柱間が南に寄り 1 間分抜ける。柱間寸法は桁行柱穴間で 3.70m [約 12 尺]、1.50m [5 尺] 間を示し、梁行間は 2.00m [約 7 尺] の間隔を有する。柱穴掘形は建物に沿った方向は示さず、東西方向に長軸をおく。P5、P7 に柱座と見られる小柱穴が下端に残る。

掘立柱建物 SB005 (Fig. 20) 掘立柱建物 SB004 を切り検出された掘立柱建物。平面形はほぼ同規模であるが、主軸は N-1° -W とやや西に軸を振る。桁行総長は 5.70m、梁行総長は 4.38m を測る。梁行 2 間 × 桁行 3 間であるが、梁行では中間の柱を検出していない。相対する柱間は梁行 2.10m [7 尺]、桁行は平均 1.90m [約 6 尺] を測る。このことから、この妻部に扉口等の柱間装置が設けられていた可能性も考えられる。柱穴平面は掘立柱建物 SB004 が長方形掘形であったのにに対してややいびつな円形である。

掘立柱建物 SB006 (Fig. 21) 調査区西端に接し検出した掘立柱建物。建物主軸は N-6° -E を測る。搅乱により一部の柱穴が失われているが 1 間 × 3 間により構成される建物である。桁行総長は 6.20m、梁行総長は 4.10m

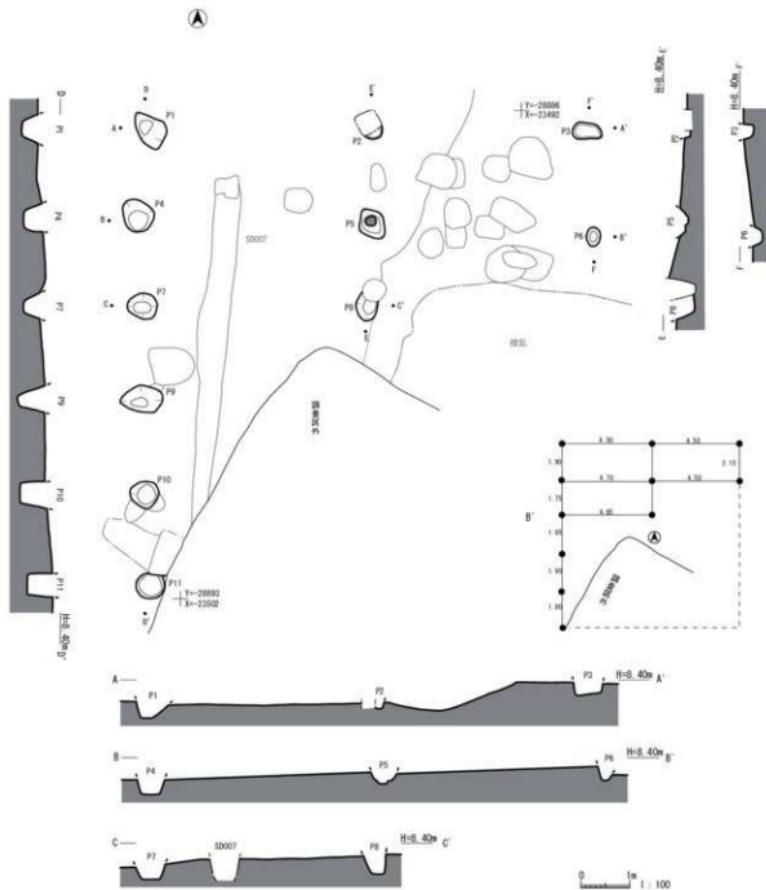


Fig.18 方形区画内掘立柱建物 SB003 実測図

を測る。桁行で 2.20m [7 尺]、梁行で 4.10m [14 尺] の間隔を持つ。柱穴は建物主軸方向に長軸を持ち隅丸方形に掘り込まれる。P1 には柱痕が明確に残り、P3 には柱座をわざかなくぼみを持ち検出した。

掘立柱建物 SB007 (Fig. 22) 掘立柱建物 SB008 废絶後に建てられた掘立柱建物。主軸方向はおよそ 90 度振り、主軸を東西に有し、N-88°-W を図る。梁行総長は東側で 4.00m、西側で 4.40m 桁行総長は 6.20m を測る。柱穴は主軸方向に長軸を持つ隅丸方形を呈し並び、梁行 2 間 × 桁行 3 間で東側梁行側では中間に柱を配置しておらず、4.0m [13 尺]、西側梁行では中間柱を配置することから、1.60m [5 尺]、2.80m [9 尺] となる。このことから、この妻部に扉口等の柱間装置が設けられていた可能性も考えられる。

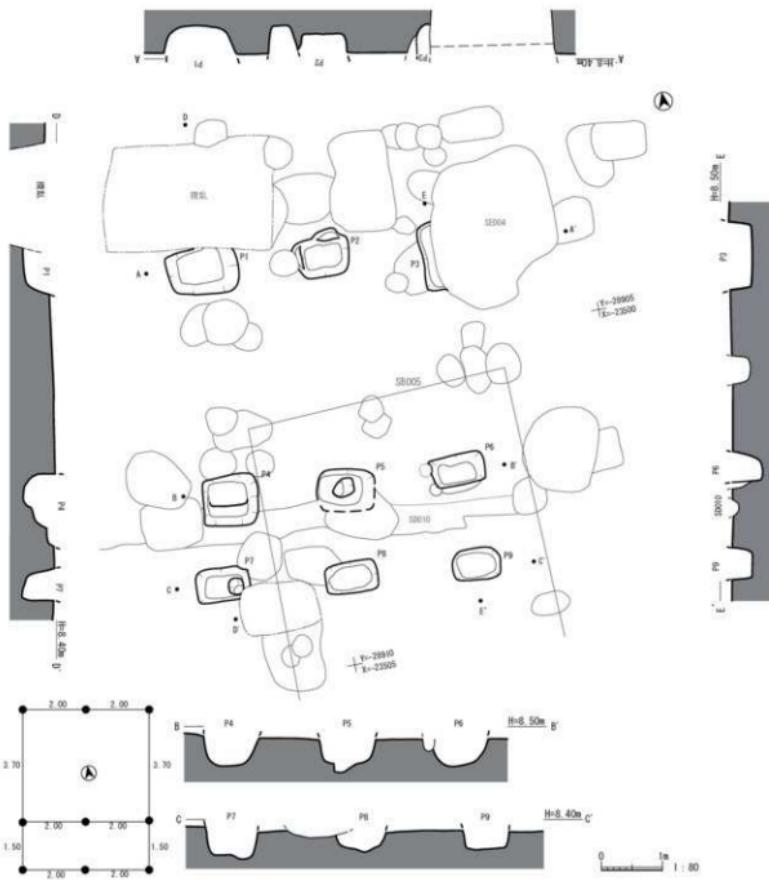


Fig.19 方形区画内掘立柱建物 SB004 実測図

掘立柱建物SB008 (Fig. 22) 掘立柱建物SB007に先行する掘立柱建物。主軸を N-10°W にとる。桁行長総 4.94m、梁行 4.3m を測る。柱間寸法は 梁行北側で 2.30m [8 尺]、2.00m [7 尺]、梁行方向 2.70m [9 尺]、2.24m [7.5 尺] を測る。梁行北側に柱間柱を置くことから、この妻部に扉口等の柱間装置が設けられていた可能性も考えられる。柱掘形は主軸に合わせた長軸を意識したものもあるが、大半は楕円形の小規模な掘形である。

掘立柱建物 SB009 (Fig. 23) 掘立柱建物 SB010・SB011 の廃絶後に建てられた掘立柱建物。主軸は N-10°-E に有し掘立柱建物 SB011 に比べ約 90 度主軸を南北方向に振る。桁行総長は 5.9 m、梁行総長は 3.60m を測る。柱穴は主軸方向に長軸を持つ隅丸方形を呈し並ぶ。規模は梁行 1 間 × 桁行 3 間で掘立柱建物 SB006 と同じ柱穴の配置となり、梁行 3.60m [12 尺]、桁行平均 1.90m [6 尺] を測る。桁行東側柱穴列では他の建物と比べ柱痕がよく残っており P5、P6、P8 で根固めの様子を見ることができる。桁行西側柱穴列においても P4 でよく柱痕及び根固めの状況がよく残る。

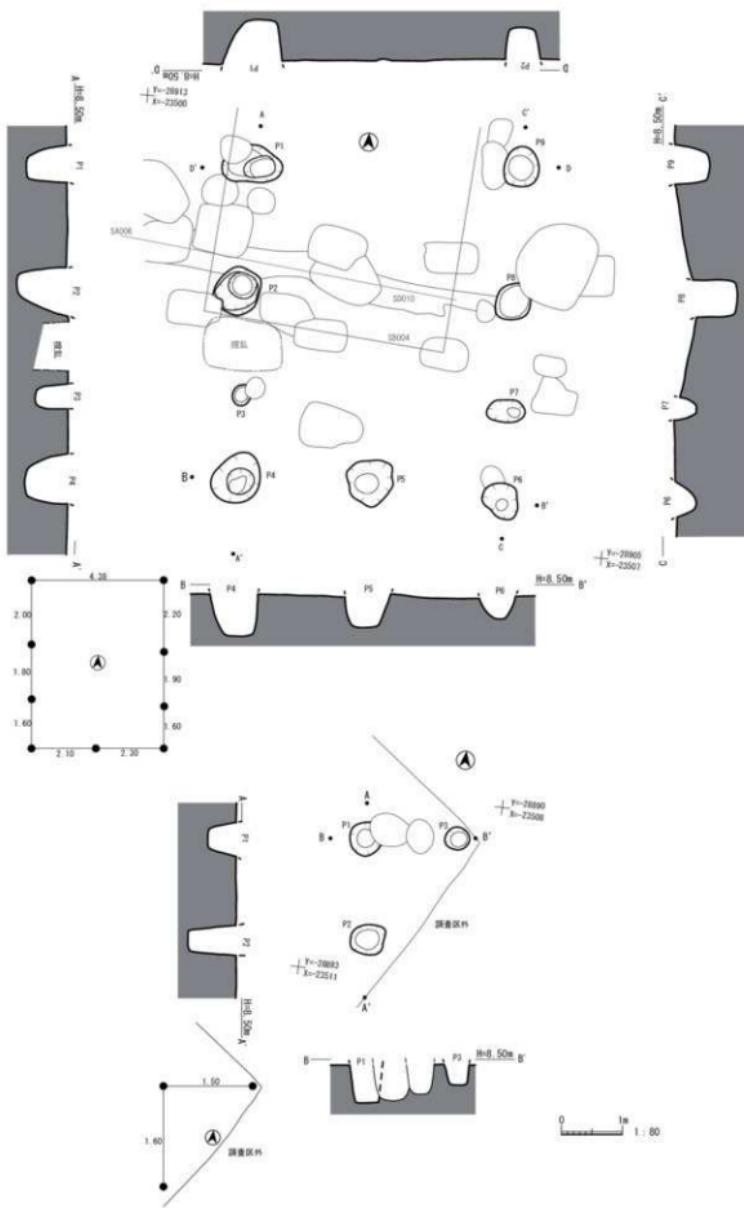


Fig.20 方形区画内掘立柱建物 SB005（上）・SB012（下）実測図

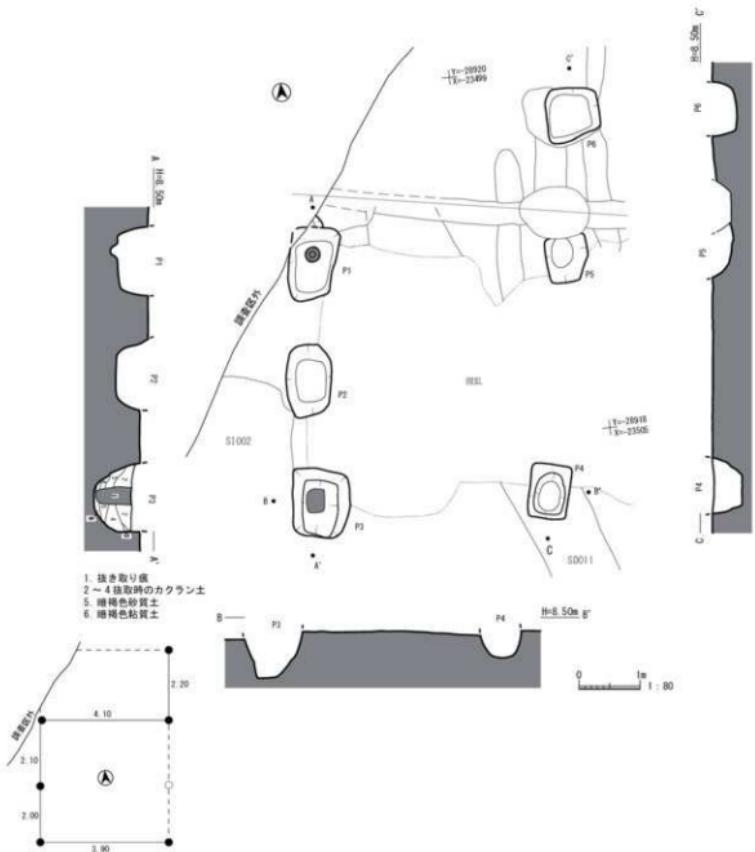


Fig.21 方形区画内掘立柱建物 SB006 実測図

掘立柱建物 SB011 (Fig. 24) 掘立柱建物 SB009・SB010 に切られ検出した掘立柱建物。最も小規模な柱穴列を配するが、柱による構造をなす。柱間の検討から桁行側に 4 間、梁行側に 3 間となる。桁行長総は 9.45m、梁行長総 6.35m を測る。また、南側に 1.2m の距離をおき 4 間（推定）からなる側柱を検出する。建物を構成する柱をすべて検出できたわけではないが、柱穴列の状況から復元を試みた。

掘立柱建物 SB010 は、調査時に平面図は作成しているが断面図及びレベル未記入であったため、図化できなかった。よって、平面図のみ掘立柱建物 SB011 中に梁行 2 間 × 桁行 3 間（推定）であったと報告する。

掘立柱建物 SB012 (Fig. 20) 掘立柱建物 SB003 の南に位置し遺構の大半が調査区外にあたる。おそらく、遺構の北西隅の一角が検出されているものであろう。検出した規模は 1 間 × 1 間で桁行、梁行の区分は不明。

掘立柱建物 SB013 (Fig. 23) 溝 SD004 の南に位置し、方形区画の外に当たる位置で検出した掘立柱建物。主軸を N-3° -E を測る。桁行長総は 5.64m、梁行 3.02m、桁行 3 間、梁行 1 間での規模である。柱間寸法は梁行間は平均 2.0m [約 7 尺]、桁行間は 3.02m [10 尺] を測る。掘形は主軸方向に長軸を有する隅丸方形で径 12 cm の柱痕を残すものもある。

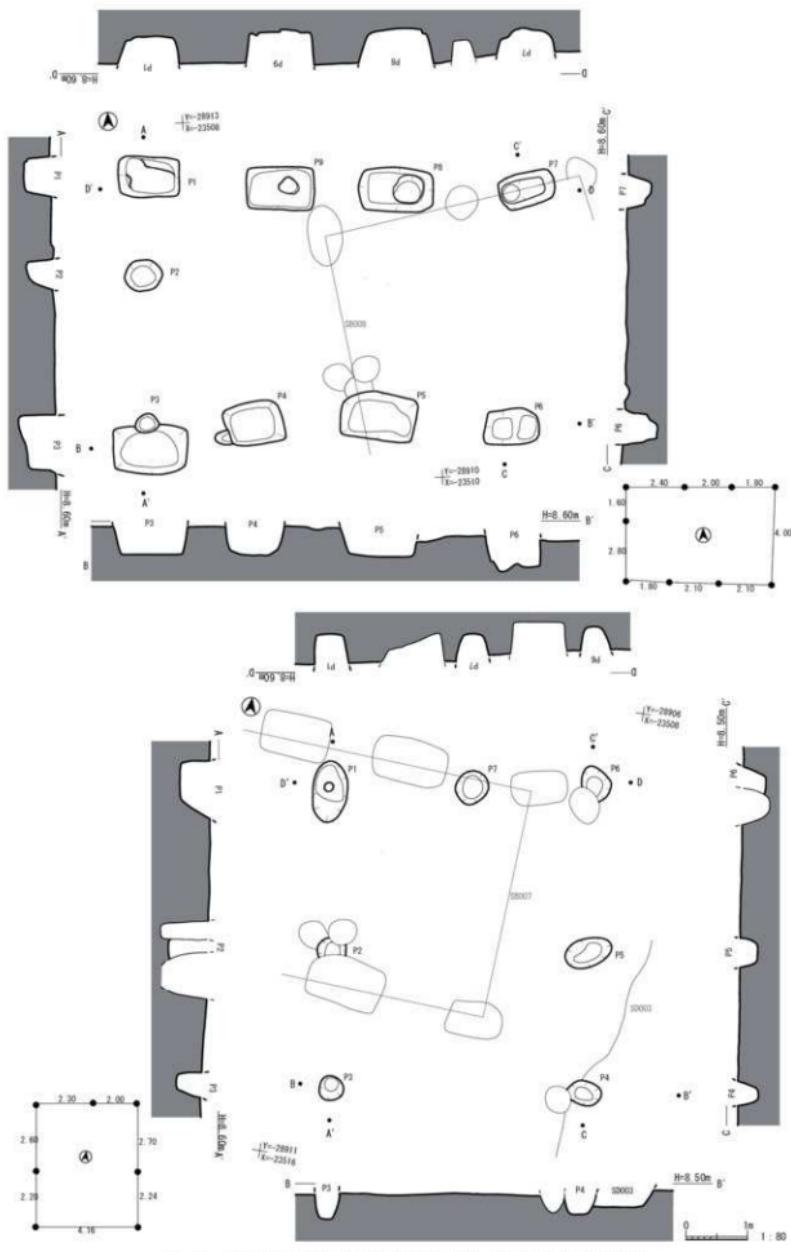


Fig.22 方形区画内掘立柱建物 SB007（上）・SB008（下）実測図

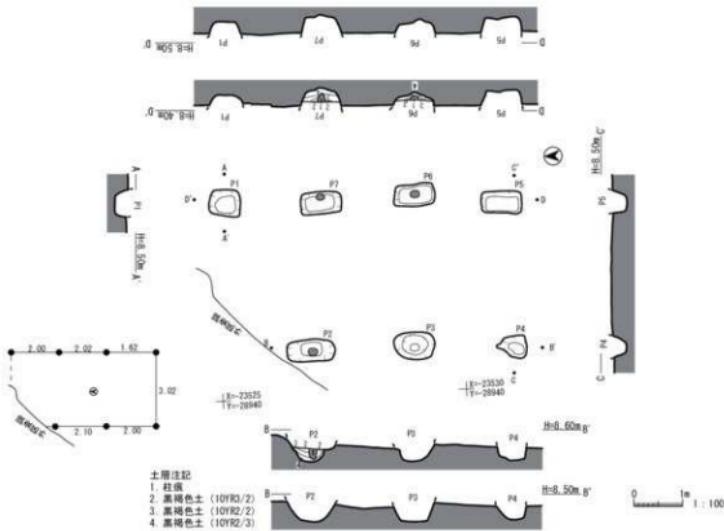
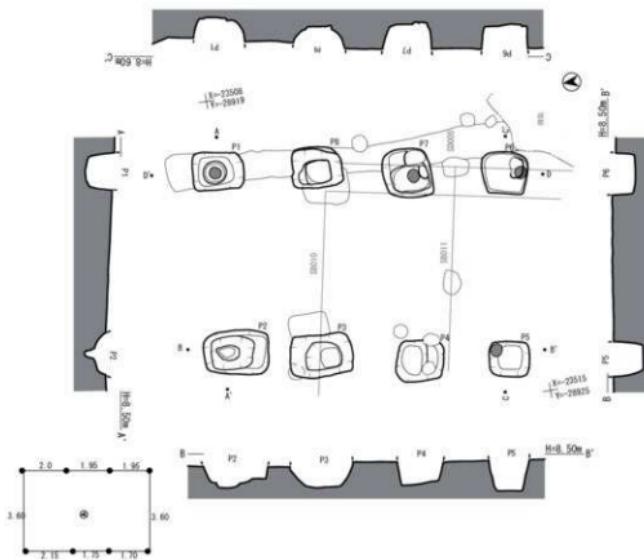


Fig.23 方形区画内掘立柱建物 SB009 (上)・SB013 (下) 実測図

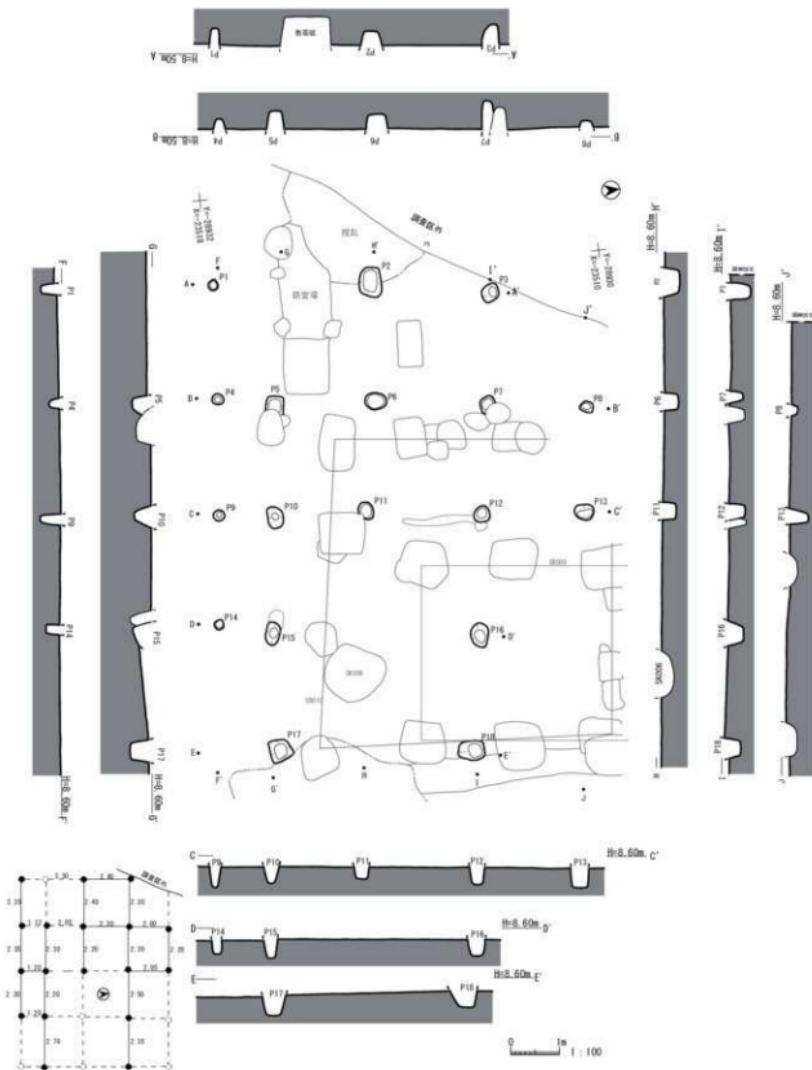


Fig.24 方形区画内掘立柱建物 SB011 実測図

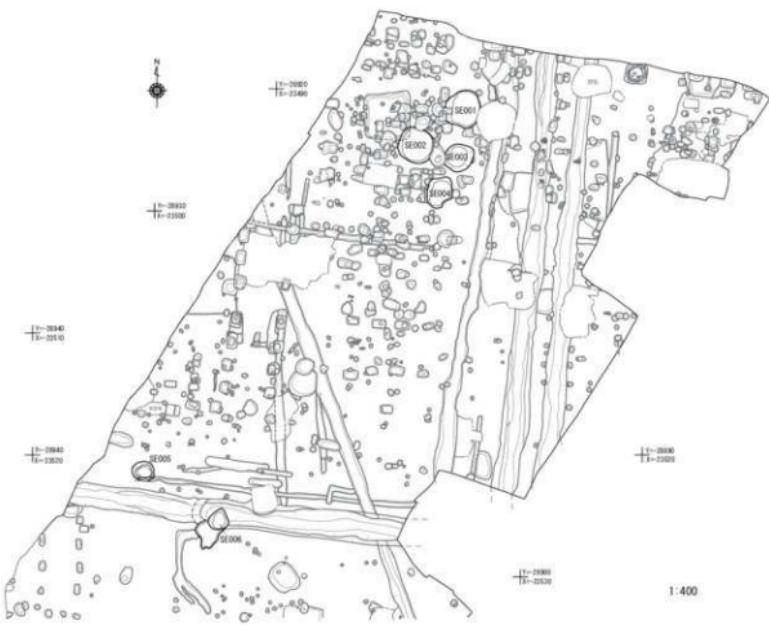


Fig.25 方形区画内井戸遺構配置図

井戸 SE001 (Fig. 26) 周辺で検出している他の遺構に比べ、やや規模の大きな掘形を持つ。土層断面の観察からは、やや複雑ではあるが南側からの流れ込みが見られ、自然堆積ではなくブロック状に投げ込まれた状態を示しているように見える。上層にあたる1～10層では灰層が堆積しており他の遺構同様にシルト状に漬れた状態で検出している。埋土中からは糸切り底土師皿、ヘラ切り底土師皿、白磁碗が出土していることから13世紀から14世紀頃と想定される。

井戸 SE002 (Fig. 27) 周辺の土坑を切り円形に掘り込まれた遺構。掘形は上端から垂直に掘削後に、西側で平坦面を1段もち、その後緩やかに弧を描きながら下端へと向かう。底面は平面をなさず円弧状のままである。埋没過程は土層を見る限り、自然堆積による埋没とみることができる。13層にあたる埋土中では砂岩質のブロックが転がり落ちる状態で含まれていた。本遺構でも検出した時点で設定した土層の最上層部に炭化物を粒状に含む灰層を3層に渡り見ることができた。この灰層は中世の遺物を含む井戸遺構では見られる層である。灰層は土壤化せずシルト状に漬かかった状態で確認した。土坑の可能性もあるが、この深度でも掘削後には水が染み出し、数日後には溜まっていたことから井戸の可能性もあるため井戸として報告している。埋土中からは糸切り底土師皿、板状压痕土師皿、研磨土器碗等が出土していることから13世紀以降の時期を想定できる。

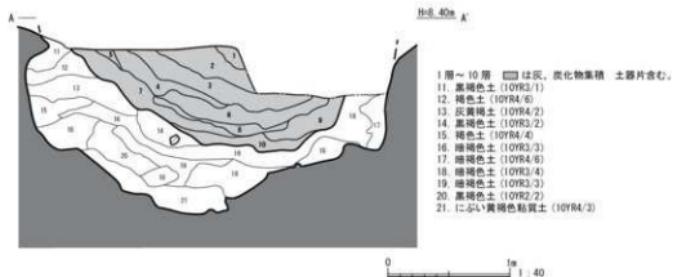
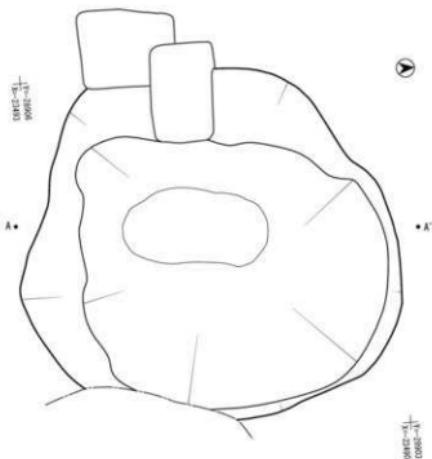


Fig.26 方形区画内井戸 SE001 実測図

井戸 SE003 (Fig. 28) 挖形は検出した上端から垂直に掘り進めたあと、中央に向かい狭まり更に中心部のみ深度をまし底面を形成する。1～4層で灰が土壤化して堆積しシルト状に慣れている。この灰層下面で土層が安定している状況から、埋没が一時的に止まるか緩やかになっていたものと見られる。本遺構完掘後、底面付近では掘削翌日に水の染み出しが見られ、その後常に水が溜まった状態となつた。後述するが、古代の井戸とは深度が明らかに違うため井戸ではない可能性もある。

井戸 SE004 (Fig. 28) 挖形平面はこれまでになくいびつで、併せて下端も上端と同じく不定形である。下端は南側でフラットな面を持ち北側に寄った位置で挖形が垂直に落ち始める。土層断面を見ると北側の井戸部へ向かい落ち込む土層が見られることから、自然堆積による埋没であることが想定される。埋土中からは、糸切り底土師皿、ヘラ切り後板状圧痕底皿・杯等が出土していることから13世紀から14世紀頃と想定される。

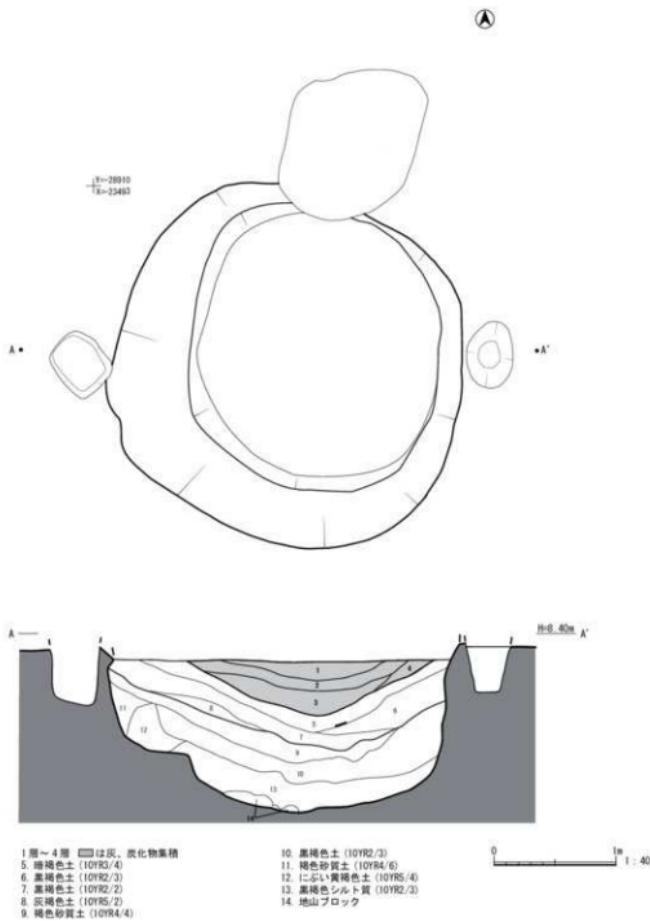


Fig.27 方形区画内井戸 SE002 実測図

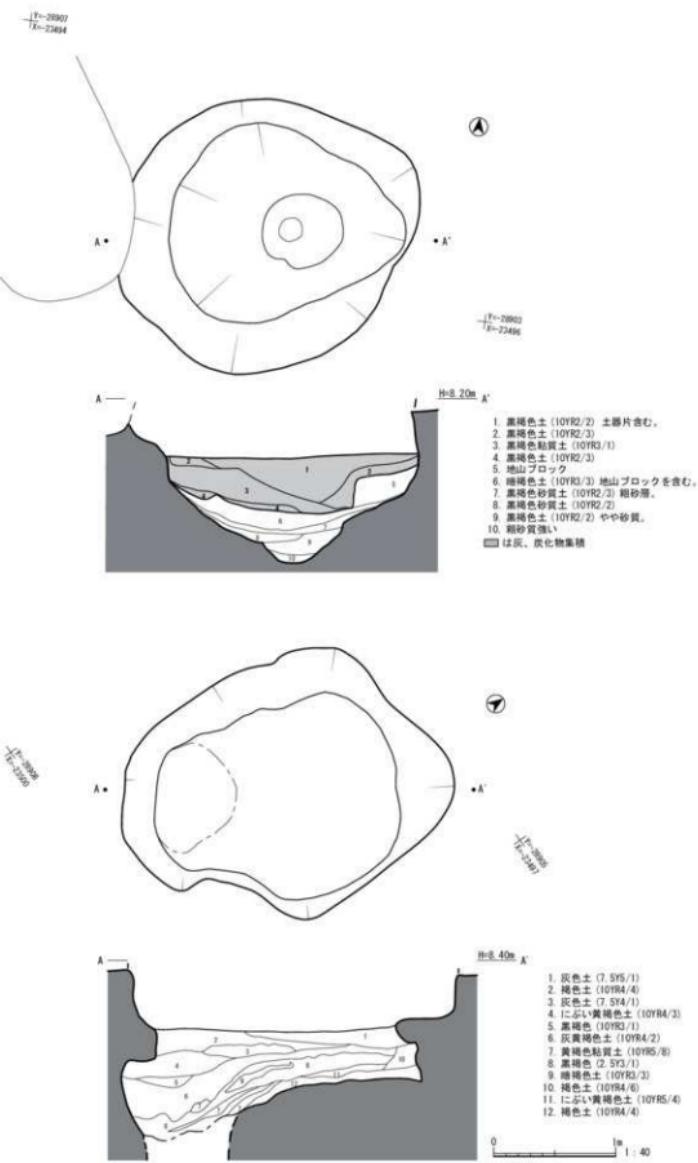


Fig. 28 方形区画内井戸 SE003 (上)・SE004 (下) 実測図

(2) 溝 SD 群と道路 SF

道 路 SF001 (Fig. 30) 本遺構は調査区をおよそ東西に横断し検出した大規模な掘形を有する道路跡。遺構幅は中心付近の上端で約 5.1m、北側に平行に検出している溝 SD085 を側溝とみると 5.9m を測る。道路面は逆台形状をなし、遺構下端で輻状に 2 本の帯状の凹部を伴い連続する硬化面を確認している。

底面のわだち状遺構を輻として報告すると、幅は両端間で約 3.2m、凹部中心間で幅約 2.9m、中央部の凸部と凹部の比高差は最大約 20 cm を測る。凸部の上面は硬化しており軸線方向に対して踏み固められた状況が確認できた。底面内部は硬化しているなかに粘性の強い砂質土を主体とする小礫が多数混じる。この硬化面を確認した面上で景德鎮系の染付陶片が出土していることから、14 世紀から 15 世紀頃の遺構と想定される。この溝は調査区両端（東西方向）へ伸び、現在の市道直下へと続き、道路としての区画が現在まで踏襲されていることが見て取れる。熊本市教育委員会による発掘調査で確認されている SD50 が本遺構と同様の性格を持つ。

溝 SD095 (Fig. 30) 道路 SF001 に調査区中央部付近で T 字状に接し、その後南へと伸び調査区端でやや東向きへ方向を変える溝。道路 SF001 と遺構底面と同じレベルで調査面から約 60 cm を測る。遺構断面は逆台形状で下端はフラットな面であった。部分的にやや硬化した部分もあるが道路状遺構とは積極的に判断することはできない。

溝 SD085・SD086・SD087・SD089 (Fig. 30) 道路 SF001 に平行し軸を同じとする溝群。小規模な溝が道路 SF001 を切りながら数回に分かれ掘り返された状況を示す。溝 SD086・SD087 は道路 SF001 の側溝の意味あいをもつ。幅は最大部で約 40 cm、狭部で約 20 cm を測る。

溝 SD082・SD083 (Fig. 30) 道路 SF001 及びそこに接し検出された溝群から北へ 5m から 7m 離れた場所で検出した溝。遺構主軸は、前述の溝群と同じく調査区を横断するなど遺構全長は道路 SF001 と関係がある様相を見せる。

溝 SD091・SD098 (Fig. 30) 溝 SD095 に対し東から T 字状に接する溝。遺構同士が近接するが平行に検出されていることから、区画をなしていたものとも考えられる。

溝 SD031・SD032・SD030・SD090 (Fig. 30) 道路 SF001 を中心とするこの周辺の溝で、切り合いの関係からもつとも新しい溝の方向を示している。ほぼ南北に主軸を置きやや湾曲する溝の一群である。規模は幅約 20 cm から 1 m まで、全長は最も長いもので約 30 m を超える。遺構からの遺物の出土はないが、周辺の遺構のあり方と、道路 SF001 が中世後期とみられることからすると近世にまでは至らない時期の遺構と考えられる。

溝 SD100・SD096・SD097 (Fig. 31) 道路状遺構として報告した道路 SF001 の南に位置し、3 本の溝から推定される方形区画。

南北約 26m、東西不明（測定困難）の方形区画を有するとみられる遺構。積極的な設定ではないが遺構埋土の土質が類似していること、遺構の軸が同一または直角となると想定されることから、一边が 25m 四方の方形区画を想定した。西に向かう溝 SD100 先端部の埋土中からはほぼ一本分の歯骨が出土している。（自然科学分析結果を参照）

溝 SD020・SD022・SD101・SD023・SD036・SD099 (Fig. 32) 溝 SD020・SD022 は軸をほぼ南北にその他は、東西に延びる遺構群である。溝 SD101 は（市）SD05 もしくは SD06 と軸を同じとすることからいざれかの溝が延びてきているものとみられる。溝 SD023・SD035・SD099・SD036 はこの溝 SD101 と方向を同じとすることから、おおよそ同じ時期の遺構であると考えられよう。また、溝 SD023 の埋土からは二彩托が出土しており注目される。

溝 SD021・SD033・SD034 (Fig. 33) 隣接する熊本市教育委員会による調査で F・K 地点として調査され「村落内寺院」と称される（市）SB01 とその建物の周囲を囲む溝に隣接する遺構で、（市）SD02・SD04 の延長線上に位置する溝。県調査区内において（市）SD02 は直角に折れその先端がわずかに残り、そこからさらに切り合ひながら 3 条の溝を検出している。しかし、遺構の大半は鉄道施設に伴う工事により以前に掘削が行われており消滅している。県調査分は溝 SD092・SD021・SD034 である。遺構は大成 En. が実測した際には単純な 3

1 熊本市教育委員会『二本木遺跡群Ⅵ』熊本駅西地区両整理事業に伴う発掘調査報告(4) 2009

2 熊本市教育委員会『二本木遺跡群V』熊本駅西地区両整理事業に伴う発掘調査報告(2) 2008

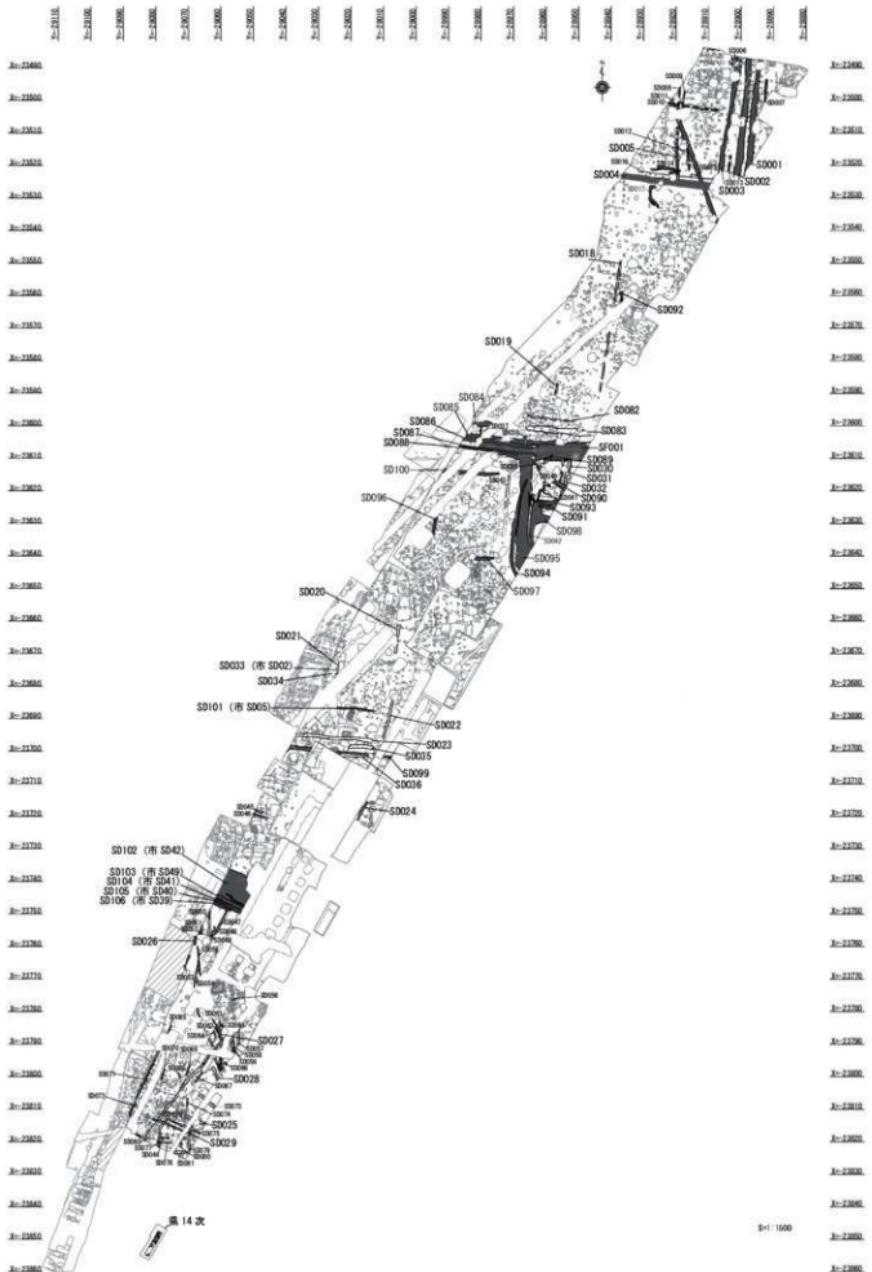


Fig.29 調査区溝遺構配置図

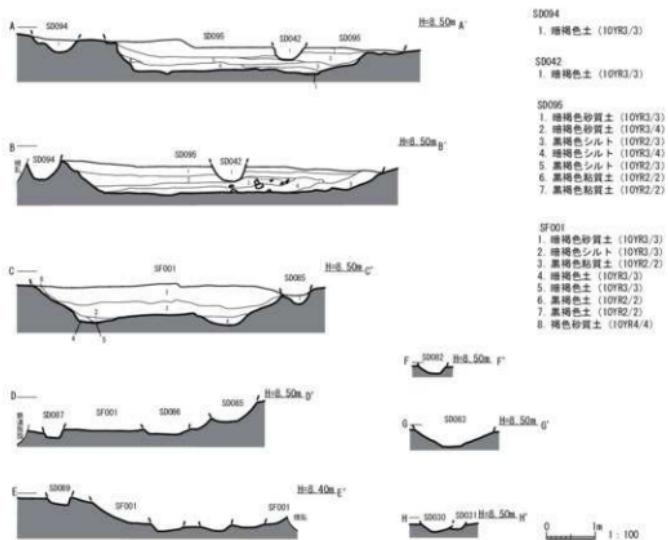
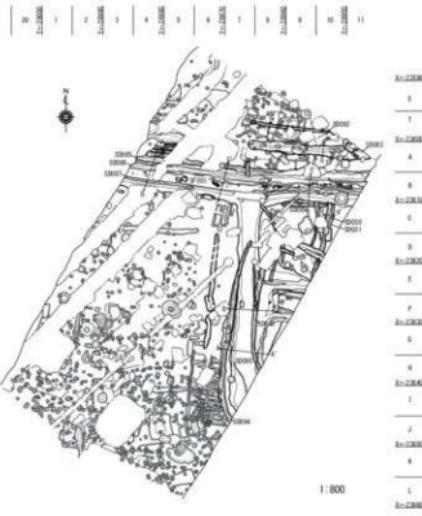


Fig.30 道路SF001、溝SD遺構配置図

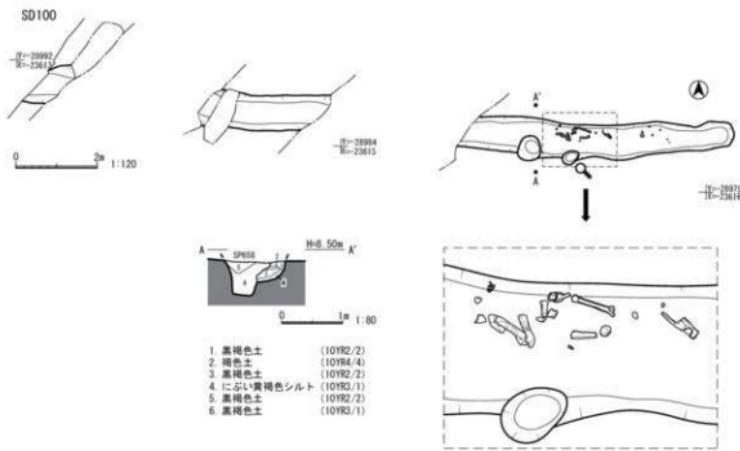
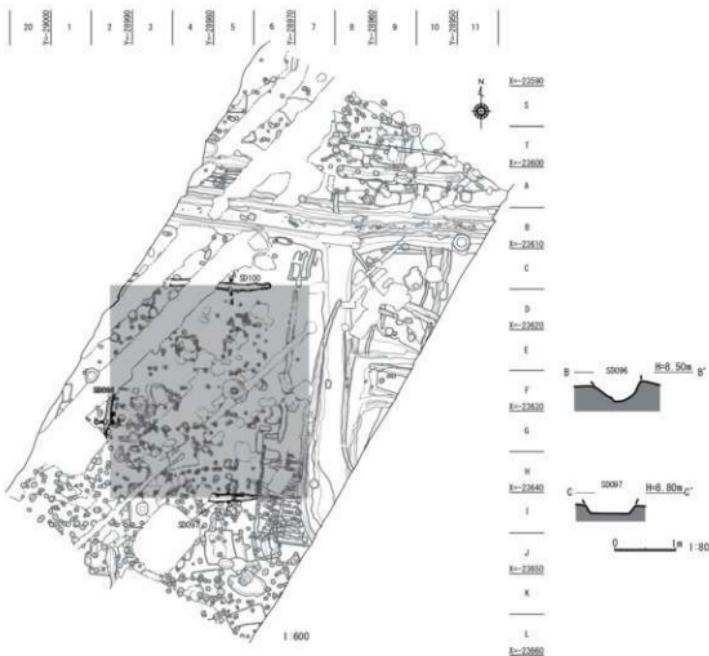


Fig.31 溝 SD100・SD096・SD097 方形区画溝（推定）遺構配置図



Fig.32 溝 SD020 ~ SD023 · SD033 ~ SD036 · SD099 · SD101 邊構配置図

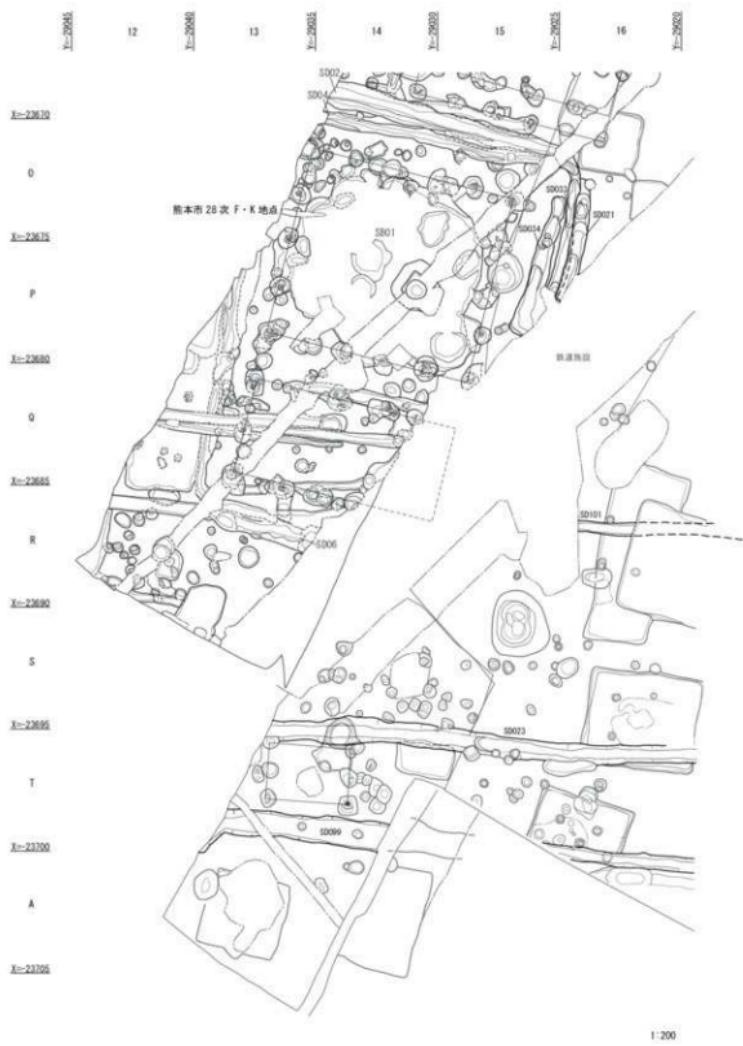


Fig.33 村落内寺院（熊本市）周辺遺構配置図

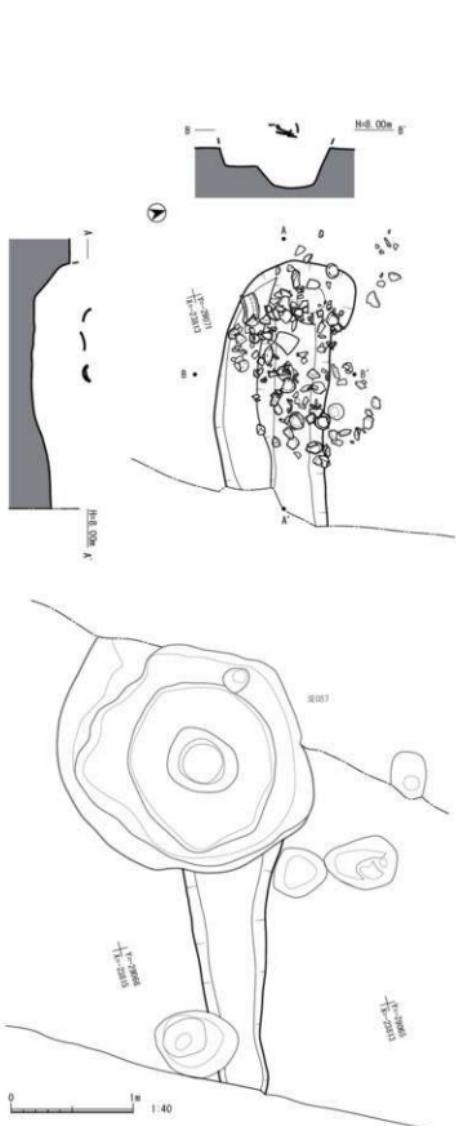


Fig.34 溝 SD025 遺物出土状況実測図

条の遺構として捉えていたようだが、図面確認の際に遺構と実測図を実見し検討した結果、南に向かい緩やかな傾斜をもち、3段の掘形からなる溝であることが判明している。検出した溝は（市）SB01の東区画にあたり、南側前面で検出されている（市）SD06と接続するものと判断される。埋土中からの遺物の出土はなかった。

溝 SD025 (Fig. 34) 調査区内で止まり調査区東に向かって延伸する溝。先端部には埋土よりやや浮いた状態で多数の遺物が出土しており、遺構掘り込みは現検出面よりやや上であるが本遺構の埋土中にあたることから本遺構埋土出土遺物として報告する。遺構先端部は他と比べやや深くなり、土坑状の掘形を見せる。途中には上部から井戸が掘り込まれ分断されている。

溝遺構 (Fig. 29) この地域では多数の溝を検出しているが大まかに3つの流れがある。まず最も規模が大きく規則性を持ち、比較的新しい時期の遺物を持つ溝 SD018、溝 SD082などの一群である。市調査区でも同規模のまま西へ伸びている溝である。

溝 SD102（市 SD042）を始めとする溝は周辺の小規模な溝も入れると10数本に近い遺構群である。遺構底面は砂岩質の硬い層にあたっており掘削当時の掘削痕がよく残っている。埋土中には古代の遺物も含むが近世の肥料系染付磁器片なども出土することから近世以降であると考えられる。

数は少ないが溝 SD060に見られる北東→南西に伸びる溝がある。溝 SD071なども近いものであろう。埋土からは古代の遺物が主に出土するが数が多く、小片であることから時代を決定する決め手にはならなかった。また、途中で切れながら蛇行し、調査区南端近くから北にかけて伸びる小規模な溝 SD027を始めとする、一群も溝も概観するうえで目を引く。本遺構群でも埋土中に土師器、須恵器の小片を含むが小片であることから遺構の年代を決定するまでには至らなかった。しかし、南北方向に蛇行する溝は一部において堅穴建物 SI087, SI088, SI089を避けるように蛇行していることから、9世紀後半期の遺構である可能性もある。

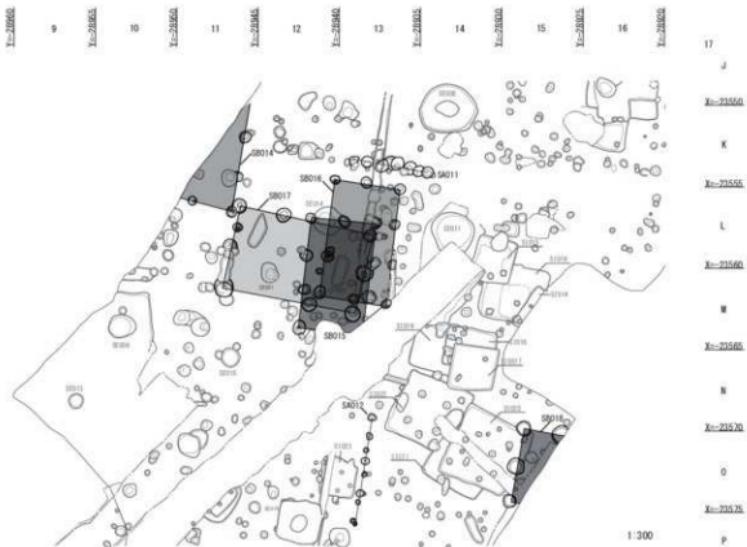


Fig.35 古代 柵列 SA011・SA012、掘立柱建物 SB014～SB018 遺構配置図

(3) 古代の遺構群

当該地域では、方形区画に囲まれた建物群が示す時代以外に、古代（8世紀後半から9世紀後半）にかけての遺構群が多数検出されている。二木木道跡群はこれまで研究的にも古代を中心に注目されており、いわばこの時期の遺構が道跡の中心である。

本調査区では包蔵層の遺物も含め多くの遺物が出土し、遺構の年代を示している。この資料をもとに掘立柱建物、柵列、井戸、竪穴建物を中心と報告している。さらに、これらの遺構以外に出土遺物が著しい遺構などは遺構各説のなかで掲載している。掲載順序は、調査区の北側から南側にかけブロックごとに遺構配置図を掲載しそこに含まれる遺構を柵列 SA から竪穴建物 SI、墓 ST へと紹介している。しかし、柵列 SA と掘立柱建物 SB に関しては検出状況が近接し関係性を想定できる場合には同時に掲載している部分もある。

柵列 SA012 (Fig. 35) 溝 SD018 と平行し検出した柵列。全長 6.8m で 8 基の柱穴が直線に並ぶ。柱穴間は 0.80m から 1.1m と統一性はない。柱穴直径は円形で 20 cm から 30 cm を測る。遺構下端までの掘削深度はほぼ同じで、そこでのみ統一した基準が窺える。

掘立柱建物 SB014 (Fig. 36) 掘立柱建物 SB017 に隣接し検出した掘立柱建物。P2 が掘立柱建物 SB017 北西隅柱穴と切り合っており、掘立柱建物 SB014 → SB017 の関係をもつ。検出した柱穴は 1 段 × 2 段であり桁行か梁行かは判断できていない。柱穴間距離は 2.2m ~ 2.5m であるここから 7 尺から 8 尺の間隔に柱穴を有するものと見られる。南東隅に位置する P2 にのみ柱痕を確認し根固めのあとも確認している。

掘立柱建物 SB015 (Fig. 37) 掘立柱建物 SB016 と重複し検出した掘立柱建物。桁行総長 6.80m、梁行総長 4.0m を測る。主軸 N-6° -E を測り先行し切り合う掘立柱建物 SB017 とはほぼ直角に方向を変える。柱穴は径約 30 ~ 40 cm の円形掘り込みが主であるが、P7 にのみ方形掘り込みを有する。主軸を南北に有する桁行方向では、柱穴間 7 尺から 8 尺、梁行で 7 尺ほどの間隔を有する。長軸の方向が建物とはあってないが周囲に他の同様の柱穴が存在しないことから同遺構に伴う柱穴の一つと判断した。柱痕を確認した柱穴もあるが、いずれも径約 10 ~ 20 cm 程度の柱痕であった。同遺構を検出した地域は複数の掘立柱建物以外、溝、井戸等を検出しており掘立柱建物の確認がしづらい範囲の一つである。

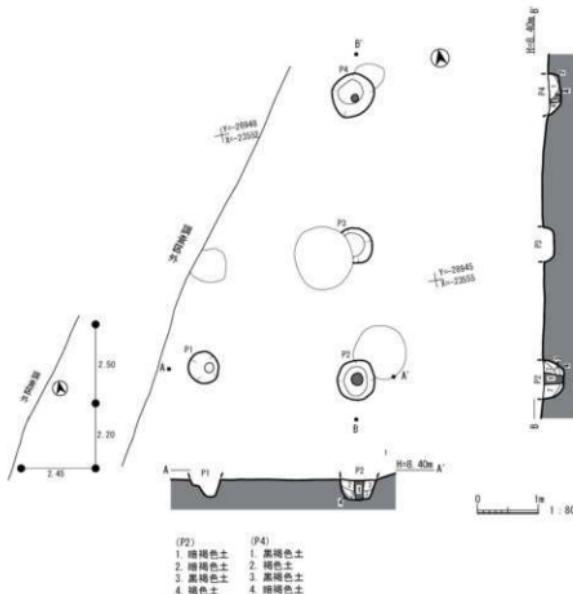


Fig.36 挖立柱建物 SB014 実測図

掘立柱建物 SB016 と柵列 SA011 (Fig. 38) 両遺構は掘立柱建物梁行側と柵を平行に検出していること、埋土の状況が同じであることから調査段階から相並び検出した遺構。柵列は径が 20 cm 弱の柱穴列と、径 40 cm 強の柱穴列が切り合いつつ残る。小柱穴の並びは比較的簡単に理解できるがもう一方の柱穴列に関しては切り合いで考慮すると容易には並びを理解するには至らなかった。

掘立柱建物 SB016 は前述した柵列の南にて検出した掘立柱建物。主軸を N 7° - E におき、桁行総長 7.15m、梁行 4.0m の 3 間 \times 2 間を測る。柱間寸法は桁行は平均して 2.20m [7.5 尺]、梁行平均 2.0m [約 7 尺] となる。柱穴掘形は円形で径約 15 cm の柱痕を残す。

掘立柱建物 SB017 (Fig. 39) 梁行 2 間 \times 桁行 3 間規模で検出した掘立柱建物。主軸はおよそ東西におき、切り合う掘立柱建物群とは約 90° 主軸を異にする。北辺に本来は位置していたであろう P6 に対する柱穴は井戸 SE014 との重複で消滅していると考えられる。しかし、南辺に位置し、本来は P2 と相対する柱穴は同じ検出面上では検出することができなかった。もとから本柱穴のみは遺構になかったものと考えられる。遺構規模は梁行 4.85m (約 16 尺)、桁行 8.3m (約 28 尺) を測る。各柱穴では土層断面で径 15 cm から 20 cm の柱痕を残し周囲を根固めの埋土が良好な状態で残る。遺構平面形は上端、下端とも円形をなしている。本遺構は隣接する掘立柱建物 SB014 との建替えに伴う切り合いがある。

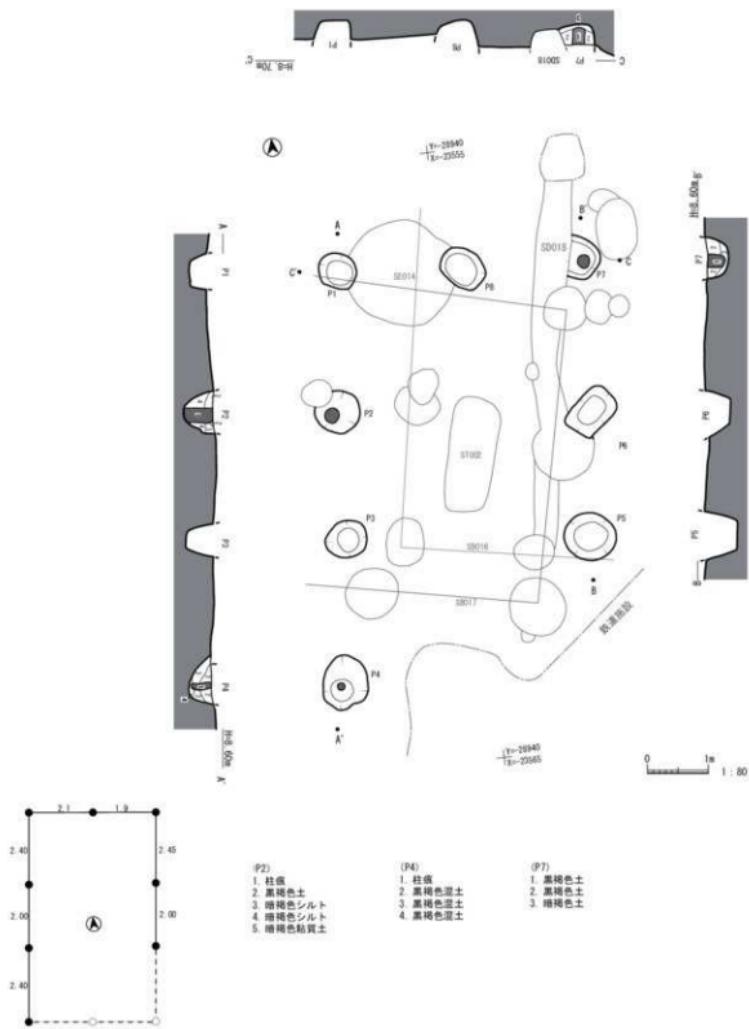


Fig.37 挖立柱建物 SB015 実測図

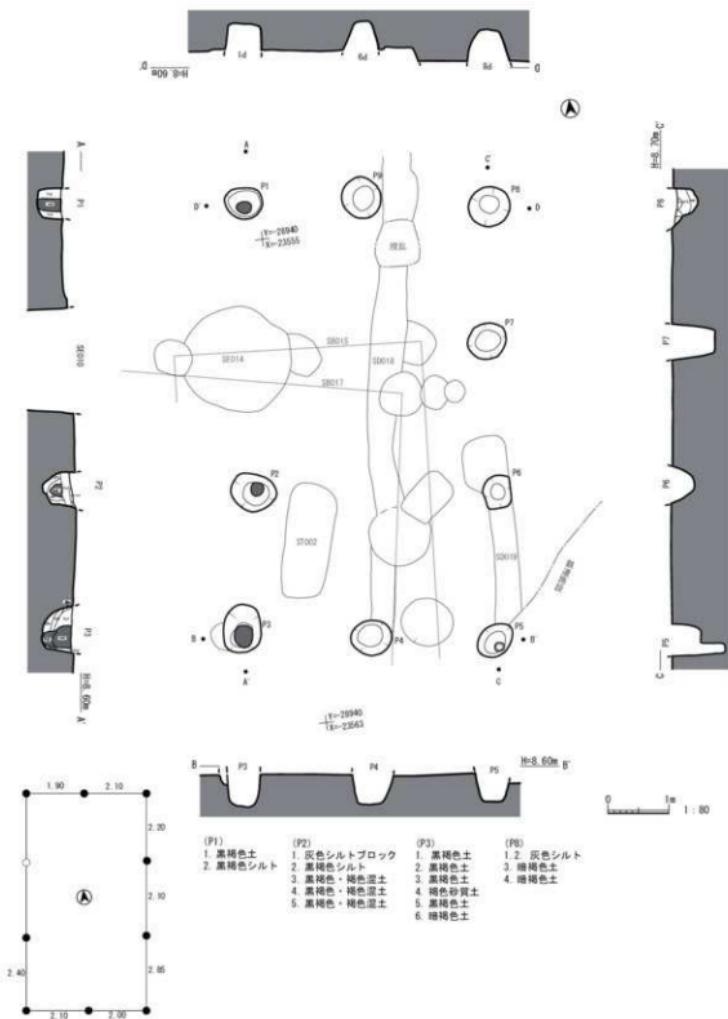


Fig.38 掘立柱建物 SB016 実測図

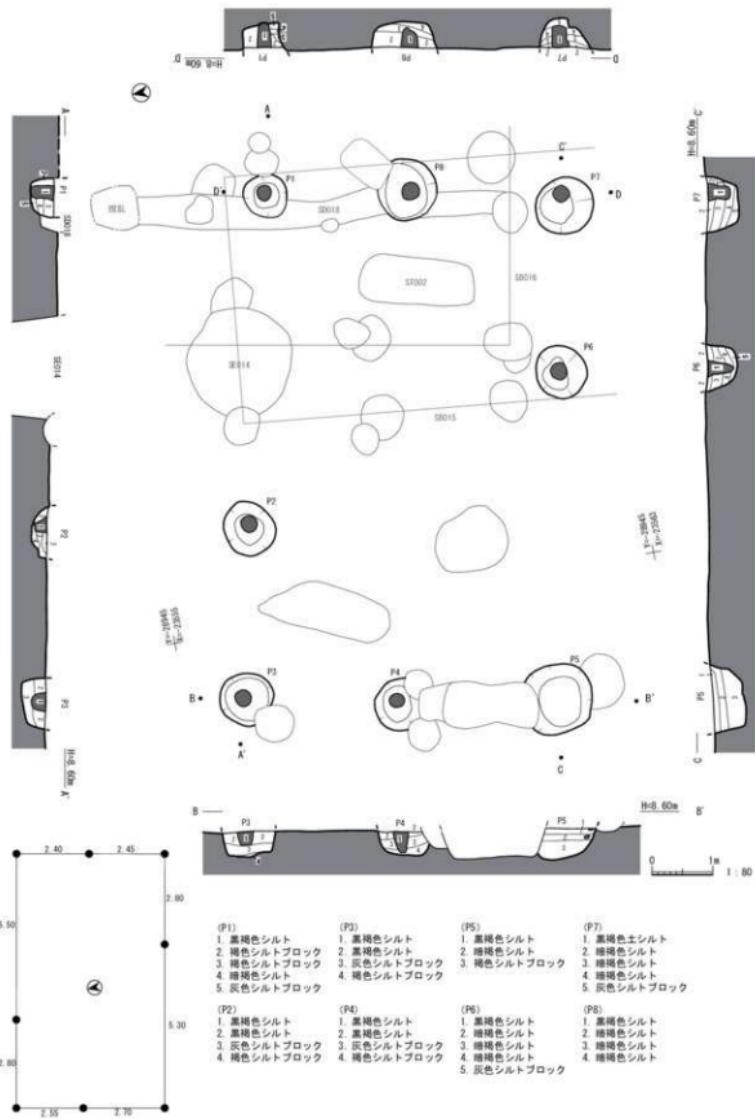


Fig.39 堀立柱建物 SB017 実測図

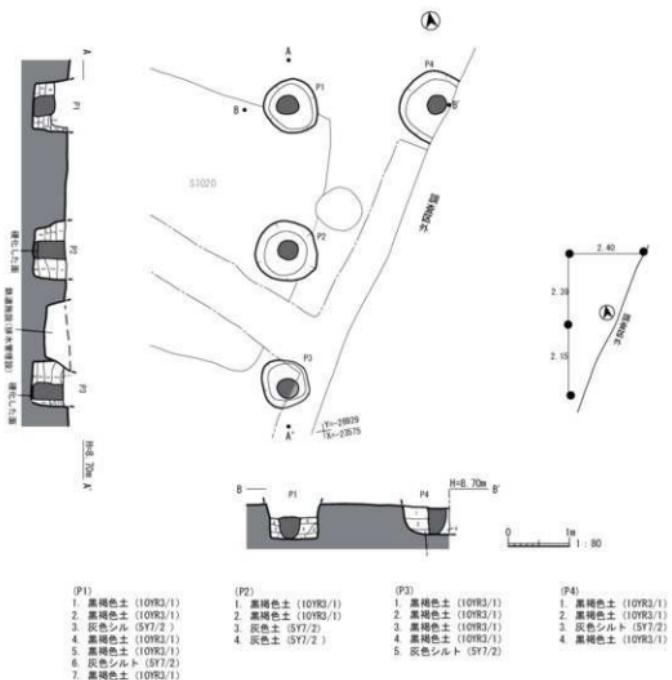


Fig.40 掘立柱建物 SB018 実測図

掘立柱建物 SB018 (Fig. 40) 堅穴建物 SI020 の上から掘り込まれる柱穴径が 1m 弱を測る大型掘立柱建物。遺構の大半が調査区外に延び、検出できた範囲は 1m × 2m で 4 基の柱穴があり、主軸は N-10°-E を測る。桁行か梁行かは判断できないが総長 4.54m と 2.40m を測る。柱穴はいずれも柱痕が残っており、およそ 25cm から 30cm の痕跡がみられた。掘形は径が 80cm から 1m で垂直に掘り込まれ、下端はほぼ水平である。柱穴間は平均 8 尺を測る。

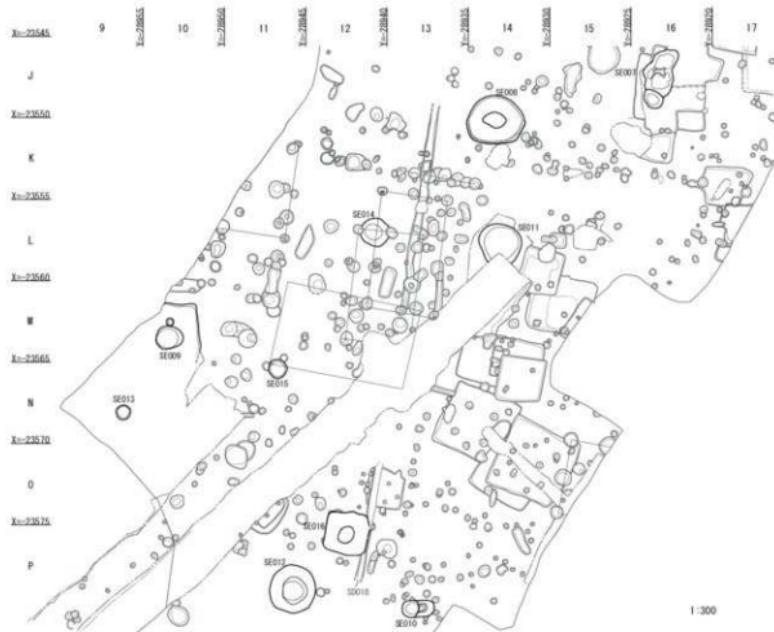


Fig.41 井戸遺構配置図

井戸 SF007 (Fig. 42) 古代の堅穴建物上から掘り込まれている井戸。調査時には隣接する不定形土坑と別遺構であるとしていたが、検討の結果、井戸に伴う掘り込みであると判断した。土坑も含めた全体長は約3.9mで井戸本体の掘形が1.2m、調査深度は2mとした。この井戸でも調査段階に壁面の崩落があったことから下端までの完掘は至っていない。埋土は1、2層まで一度埋没が止まつたか、または再度掘り返されたのか不明だが、3～5層へ掘り込むように層の落ち込みが見られる。遺構深度2mまでしか掘削していないが、宇城産の高台付杯や荒尾産の凸帶付長頸壺等多くの遺物が出土している。また、製塩土器の出土も見られている。

井戸 SE008 横列SA001の北側にて検出した井戸。掘形は東西に約3.6m、南北に3mで約15～20cmの楕円形の掘形を有する。井戸は東西に1.6m、南北に1.0mの長楕円形で掘形に比べ極端に狭い。半裁をかけたが内部が狭いため完掘までは至らなかった。埋土中からは土師器杯、椀が出土している。小片ではあったが、須恵器の底部を利用した転用器が出土している。

井戸 SE009 (Fig. 42) 調査区の際で確認した方形掘形を有する井戸。掘形は大半が削平を受けており本来の高さは保っておらず、南側には残らない。復元長一辺が約3.2mほどであったとみられる。井戸本体の横には径30cmの柱穴を1基検出しているが、これに対する柱穴は確認していない。井戸本体は掘形上部で径1.4mを測り垂直に落ち始める部分で1.2mの幅となる。掘削が進むにつれ周囲からの湧水が増え掘削深度1.7mのところで掘り下げる断念した。埋土中からは土師器杯、高台付皿、椀等が出土している。

井戸 SE010 溝SD018の東に位置し、墓ST001の北側で検出した井戸。調査の初期段階で検出した遺構であるため、井戸と土坑が切り合っていると判断し調査を実施していたが、調査途中で土坑部が井戸に伴う施設であると判断した。周囲には柱穴が散在するが井戸堅形を構成するとみられる柱穴は確認できていない。規

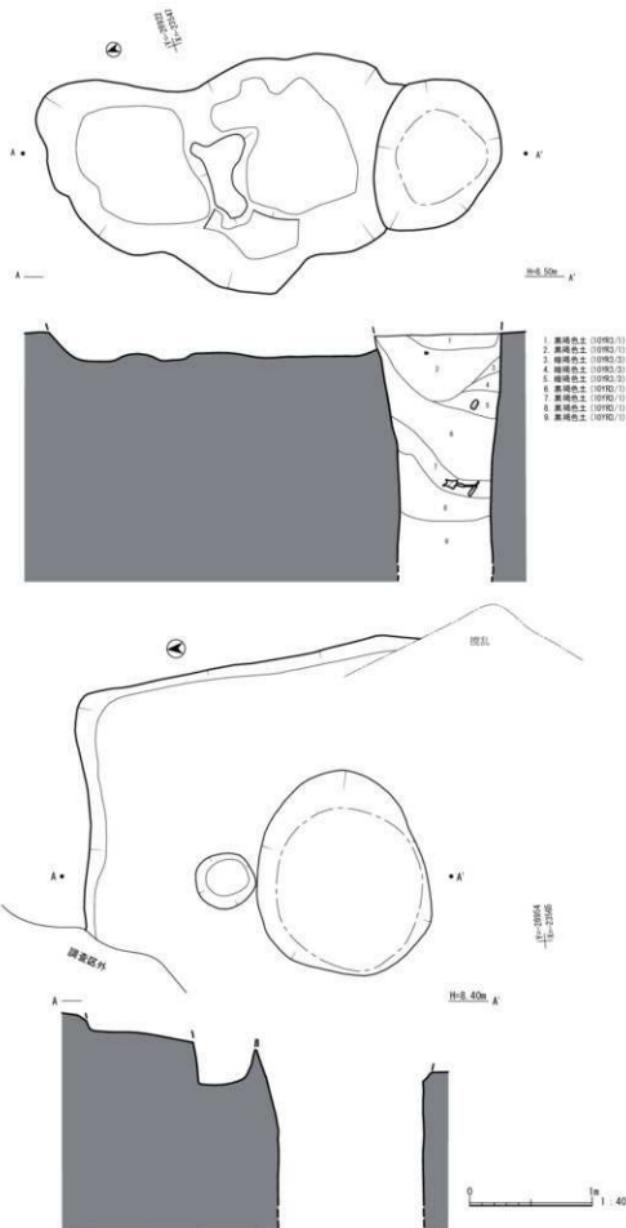


Fig.42 井戸 SE007(上)・SE009(下)実測図

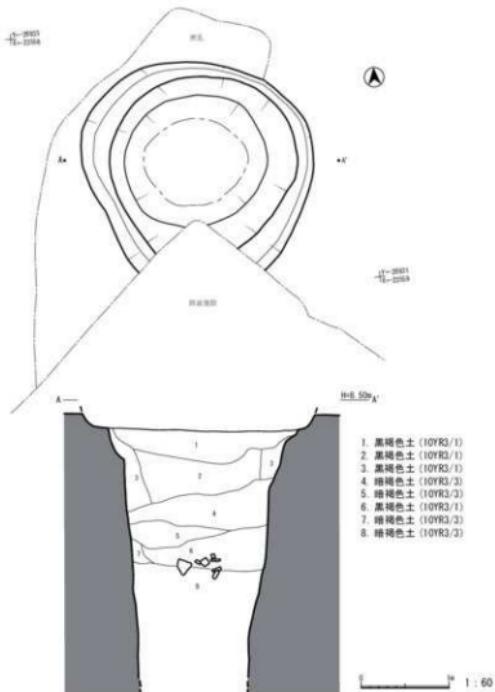


Fig.43 井戸 SE011 実測図

している。遺構掘削深度は井戸上端から1.4m（掘形上端より1.9m）まで調査を実施し、周壁からの湧水が沁み出してきたことから掘削を中止した。井戸掘形は掘削を中止した付近で径1.2mの円形となる。出土遺物は埋土中から杯（土師器）が出土している。

井戸 SE014 (Fig.41) 挖立柱建物 SB016 の柱穴を切り検出した井戸。掘形は直径約1.65mで垂直に落ち始めの中位で約1.0mを測る。下端は壁面が脆弱で崩落する可能性があったことから現地表面から2mの深度で調査を中止した。井戸に接し直径50cmの柱穴があるが、切り合う挖立柱建物の柱穴列の一部であり井戸屋形の痕跡ではない。埋土の状況から古代の井戸であると考えられる。

井戸 SE015 (Fig.41) 挖立柱建物 SB017 の南に隣接し検出した井戸。掘形は検出面で1.15m、垂直に落ち始め部分で0.98mの円形である。深さは1.7mまで掘削したが周囲の壁からの湧水が多く掘削を断念した。土層は大まかに上下2層を確認した。

井戸 SE016 (Fig.41) 溝 SD018 の上部から掘り込まれた井戸。掘形は2.6mの正方形で井戸掘形上端に向かい緩やかに傾斜する。掘形径は0.90mでそのまま垂直に掘り込まれる。井戸上端から約1.5mまで掘削したが、壁面の崩落が見られたことから下端までの掘削を断念した。周囲には井戸屋形を構成していたと目される柱穴等はみられない。

模は土坑部も含め直径約2.95m、横幅約1.0mの長楕円形で、井戸部で径1mの円形を測る。深度は掘形上端から1.2mまで調査を実施した。出土遺物は埋土中から古代の杯（土師器）が1点出土している。

井戸 SE011 (Fig.43) 鉄道施設に一部を切られ検出した井戸。井戸周囲に浅い掘形を有し中央に井戸本体を持つ。掘形直径は約2.65m、井戸本体の上端での径は2.1mを測る。井戸本体は下端に向かい垂直に落ち始める時点で径は1.4mとなる。ここでは慎重に掘削を進め壁面の状態を見ながら掘削し、3.6mまで掘り下げを実施した。しかし、下端までは至らずに調査を終えることとなった。調査を実施した季節もあろうが、壁面からの湧水が多く水中ポンプを入れて調査を実施した。

井戸 SE012 (Fig.41) 井戸 SE016 の南に位置し検出した井戸。掘形は2.9mの円形で掘形上端から井戸上端まで0.40mの比高差を有し緩やかな傾斜を持つ。SE020同様に井戸上端付近では平坦面を有していない。井戸本体は径1.5mで楕円形を



Fig.44 竪穴建物群遺構配図

堅 穴建物 SI003 ~ SI005 (Fig. 45) 3軒切り合った状態で検出した堅穴建物。もっとも切り合いの古い堅穴建物 SI005は東西に2.54m、南北に1.97m（残存部のみ）、堅穴建物 SI004で東西に3.77m、南北3.65m（残存部のみ）、堅穴建物 SI003で東西3.20m、南北に3.20m（カマド部は除く）主軸はカマドが残る堅穴建物 SI003でN-4° -Eを測る。おそらく、切り合いの下位に位置する堅穴建物でも出土遺物の時期からカマドを有していたと見られるが、北に向かい切り合いが重なるため残されていない。床面積は堅穴建物 SI003で12.8 m²、堅穴建物 SI004で13.8 m²である。床面となる硬化面は本遺構では明確には確認できなかった。また、主柱穴も生活面相当層の調査後に貼床を剥がしたのち確認したが、検出することができなかつた。

堅穴建物 SI007 (Fig. 46) 坚穴建物 SI008の上部より掘り込まれた堅穴建物。東西に2.63m、南北に2.7m（カマド煙道部まで含め3.45m）で主軸はN-9° -Eを測る。床面積は約7 m²である。平面形は正方形に近く住居隅は角が立つ。遺構掘り込みもほぼ垂直でカマド周辺では硬化面の発達が著しい。カマドは住居北辺中央に位置し燃焼部を住居内におき、煙道部が住居外に約70 cm伸びる。貼床を剥いだのち主柱穴を確認したが検出しきれていない。出土遺物はカマド近くの床面上より須恵器蓋、杯が出土している。

堅穴建物 SI012・SI013 (Fig. 47) これまでに記述してきた堅穴建物とは平面形、カマド煙道部の作りなどがやや単純な作りの堅穴建物。堅穴建物 SI013 → SI012へと建て替えが行われたとみえ遺構の一部を接し建て替えられている。堅穴建物 SI013は東西に約2.5m（平均）、南北約2.4mで床面積は約6 m²、堅穴建物 SI012が南北に2.4m、東西方向は調査区外にあたり全長は不明である。主軸はカマド煙道部中心をとおるラインを主軸とするとそれぞれN-86° -W、N-92° -Wとほぼ直角に西へ向く。カマド部は燃焼面は確認されていないが、煙道部のみ約1mの長さを検出している。煙道部にも焼結まるほどの硬い燃焼部に準ずる部分や、被熟し焼けたあとはみられない。遺構掘形も通常の堅穴建物と比べやや稚拙であり、掘形縁辺部にも丁寧さはみられない。

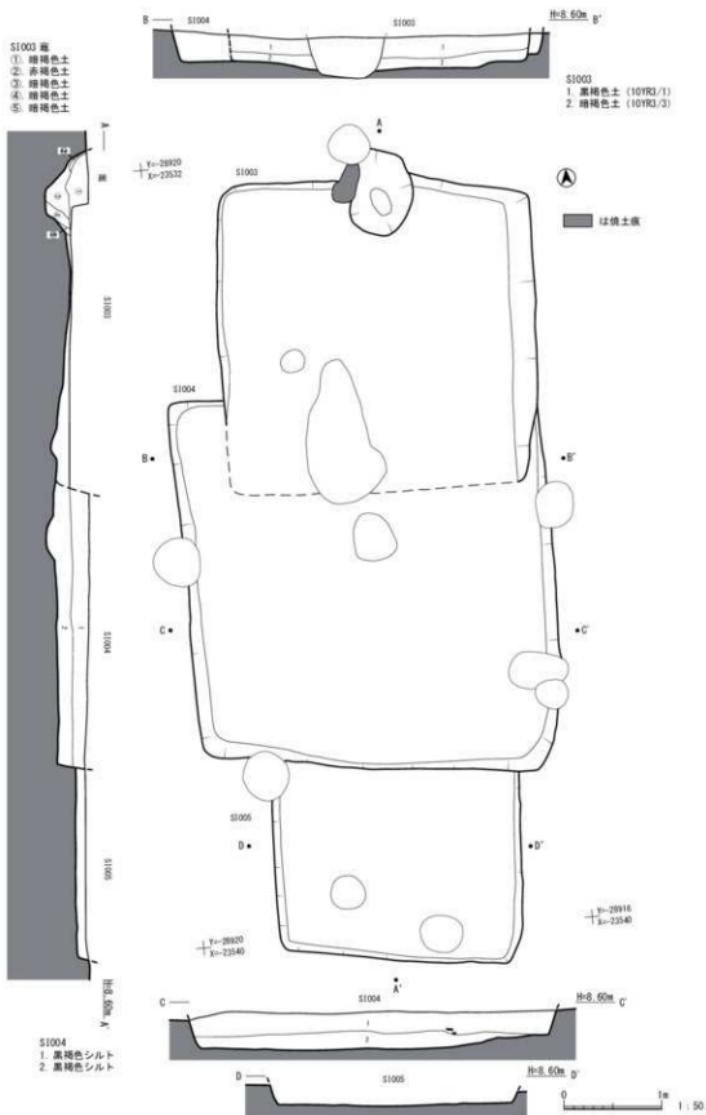


Fig.45 竪穴建物 SI003・SI004・SI005 実測図

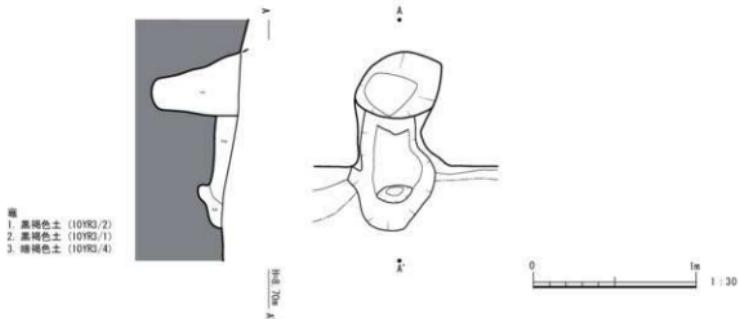
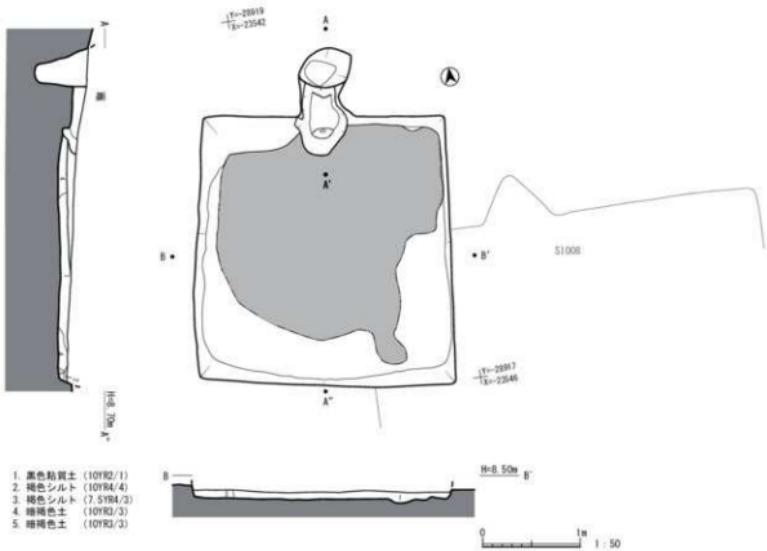


Fig.46 壺穴建物 SI007 実測図

壺穴建物 SI015 (Fig. 47) 壺穴建物 SI003 から SI013 までの壺穴建物の一群から離れた壺穴建物 SI014 までの一群を構成するなかで、最も北に位置している壺穴建物。南西隅を鉄道遺構により削平されているが、わずかに主柱穴の下端を検出している。南北に約 2.6m、東西 2.8m を測り床面積は約 7.3 m²である。主軸は N-11° - E を測る。カマドは北辺のやや東よりに位置すると思われ、煙道部掘り込みをわずかに確認することができた。

硬面は主柱穴に囲まれた内側に広く確認できている。主柱穴は遺構隅に各 1 基の計 4 本を検出している。西壁下に貯蔵穴と見られる掘り込みを床面で検出、確認した。遺物は土師器杯が出土している。

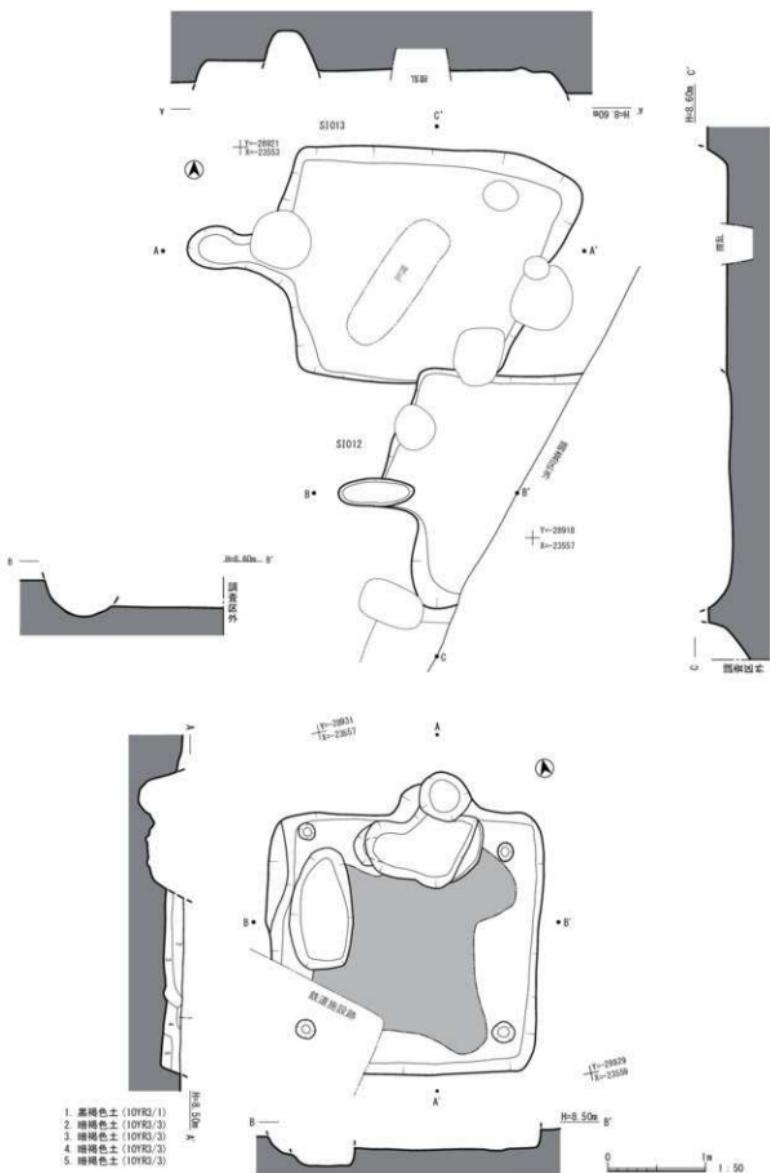


Fig.47 竪穴建物 SI012・SI013(上) SI015(下) 実測図

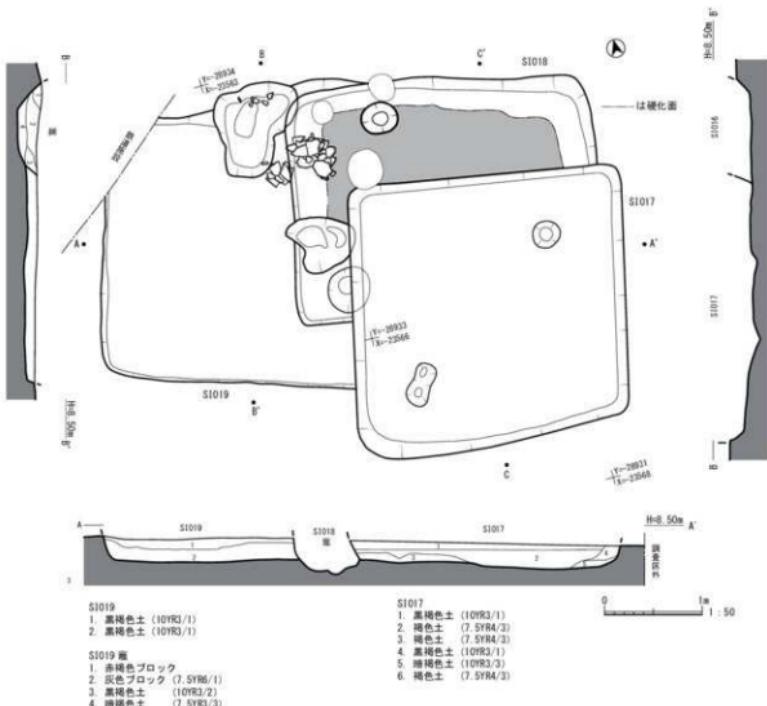


Fig.48 積穴建物 SI017~SI019 実測図

積穴建物 SI017 ~ SI019 (Fig. 48) 3軒の積穴建物が切り合う状態で検出した。積穴建物 SI017は南北、東西も約2.8mで床面積は約8m²を測る。南辺でやや歪みがあるが、ほぼ正方形である。対角線上に小柱穴を1基づつ検出したが、主柱穴となりうるかは不明。作り付けのカマドではなく、床面では硬化面も確認していない。

積穴建物 SI018は遺構の大半を積穴建物 SI017に切られている。北西隅に遺物の出土がまとまって見られ、主に須恵器把手兼が土圧により押しつぶされた状態で出土している。切り合いの最下段にあたる住居のカマド横に位置しているようにも判断されたが、調査の結果、本遺構に伴うものと判断した。現状では作り付けカマドは確認できないが、遺構中央に硬く発達した硬化面を確認することができた。しかし、主柱穴等の遺構は確認できていない。

積穴建物 SI019は、切り合いの最下段に位置する積穴建物。北辺にカマドを敷設するが燃焼面や煙道、窓体を構成する粘土等の痕跡は残されていなかった。土坑状の掘り込みは、おそらくカマドを設置する際の掘形であると見られる。主柱穴、硬化面等は確認できなかった。

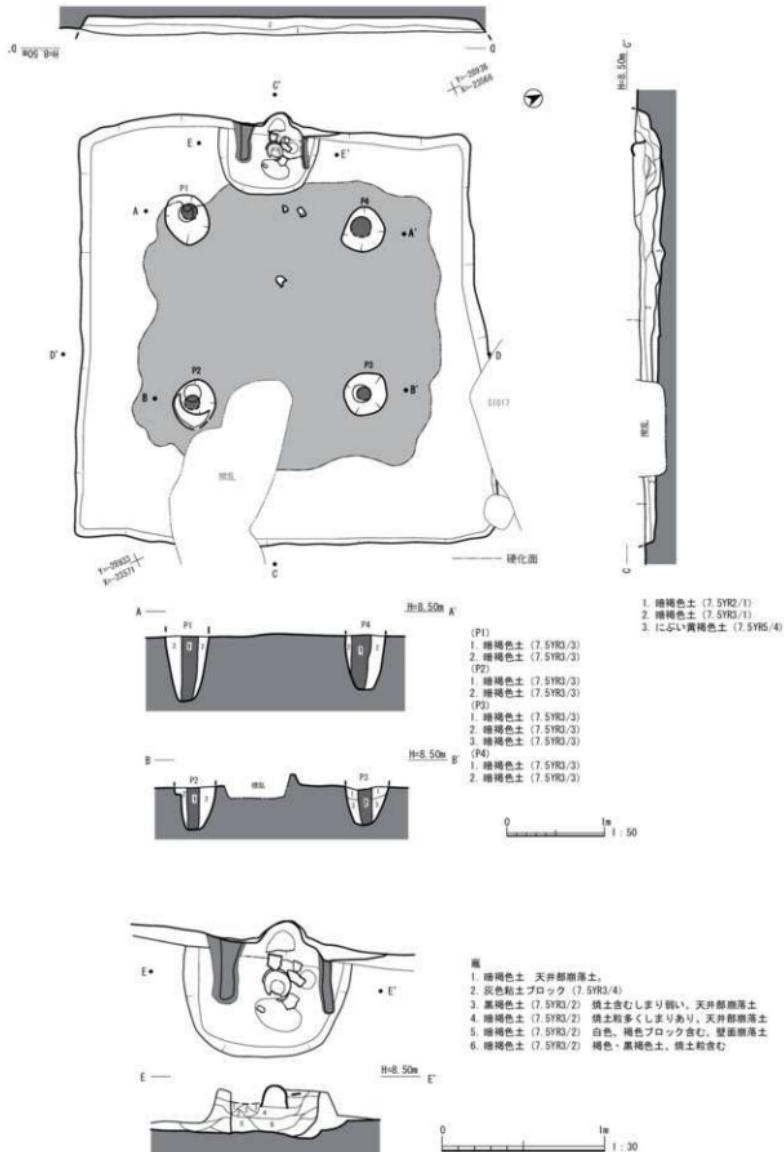


Fig.49 竪穴建物 SI022 実測図

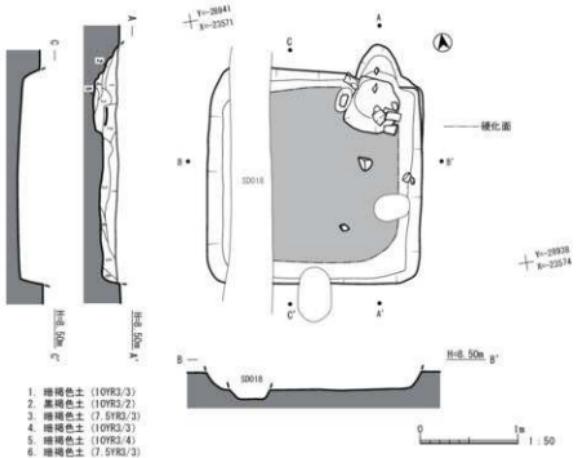


Fig.50 穹穴建物 SI023 実測図

穹穴建物 SI022 (Fig. 49) これまでに報告してきた穹穴建物のなかで最も残りが良い遺構であった。規模は南北に約4.2m、東西4.17mで床面積は約18 m²を測る。主柱穴は遺構のほぼ中央に4本バランスよく配置され、硬化面は主柱穴を取り込みながら壁際にまで広がっている。カマド中心を主軸とするとN-63°-Wを測りやや東へと煙道部が向く。作り付けカマドは依存度がよく燃焼面、窯体粘土据部とも観察することができた。燃焼部には窯体をつぶした後に土師器甕が伏せられた状態で出土しており、カマド（住居）廃棄の祭祀に用いられた可能性もある。

穹穴建物 SI023 (Fig. 50) 調査区内を南北に伸びる溝SD018に切られ検出した穹穴建物。検出時にカマドが東に寄った位置に存在することから周辺の精査を実施し遺構の広がりを確認したが状況は変わらず、このような形態の穹穴建物と理解し調査を実施した。規模は南北、東西ともに約2.2mで約5 m²を測る。主軸はカマド中心をとおる線を中心に考えるとN-11°-Eを測る。カマドは北東隅に接し外に向かい煙道部の張り出しがある。燃焼部は確認できなかったが掘り込み部の土層中から須恵器甕が横倒しに出土している。窯体を構成していたであろう白粘土のブックが、一部に残り天井部の崩落若しくは袖部である可能性もある。主柱穴等は確認できていない。

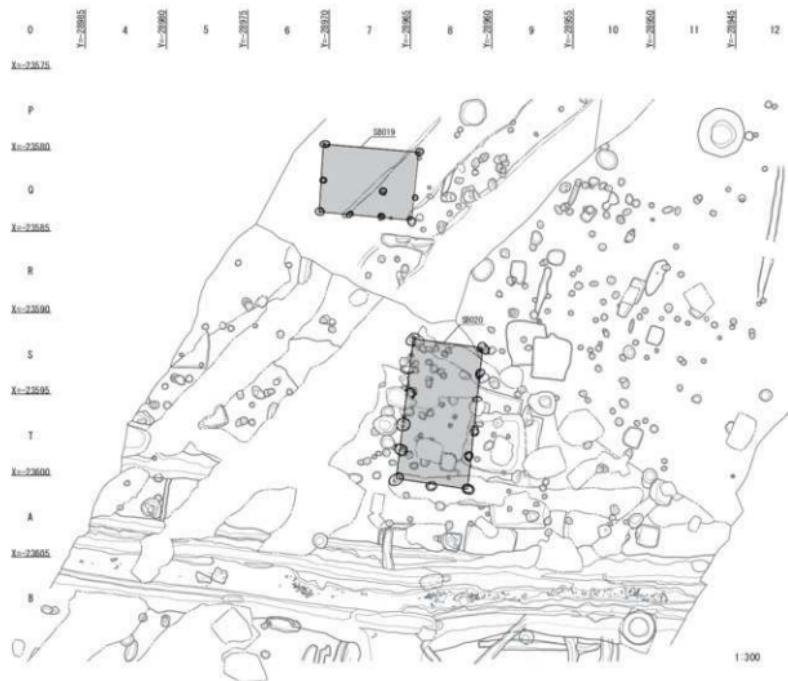


Fig.51 掘立柱建物 SB019・SB020 遺構配置図

掘立柱建物 SB019 (Fig. 52) 調査区西壁近くで検出した掘立柱建物。検出した周辺は井戸 SE009・SE012・SE013など同様に、鉄道関連施設の建設に伴い大幅に削平を受けた範囲にある。

よって本遺構で検出した柱穴は、基底部に近い部分でのみの検出となった。規模は東西方向に主軸を有する2間×3間で桁行総長5.75m、梁行4.20mで主軸N-5°-Eにおく。側柱のみで構成される建物が一般的であるが、本遺構では内部にP4を配置する。柱間寸法は桁行で6~8尺、梁行でも同様の尺を示している。掘形はすべて不定形ながら円形で、断面で柱痕を残すものもある。

掘立柱建物 SB020 (Fig. 53) これまでに見られないほどの規模を有し検出した掘立柱建物。梁行2間×桁行5間、約4.4m×約8.8m(15尺×30尺)を測り、床面積は約38m²である。主軸はN-7°-Eを示す。柱穴平面形はほぼ円形から梢円形で素掘りである。削平が激しく特に南辺ではかろうじて下端付近の検出できた状態である。

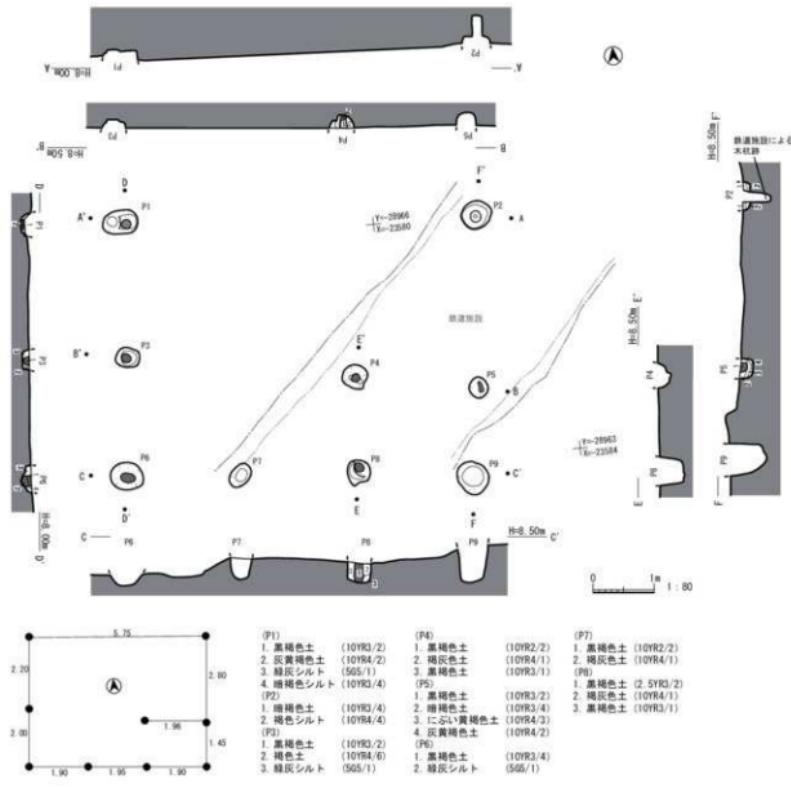


Fig.52 掘立柱建物 SB019 実測図

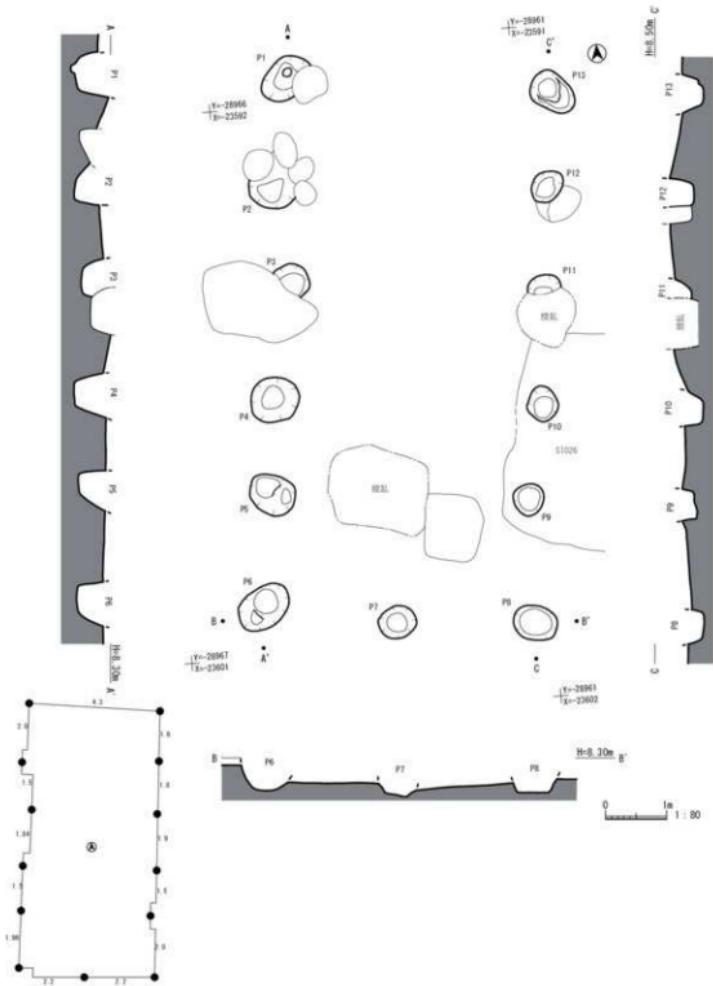


Fig.53 挖立柱建物 SB020 実測図

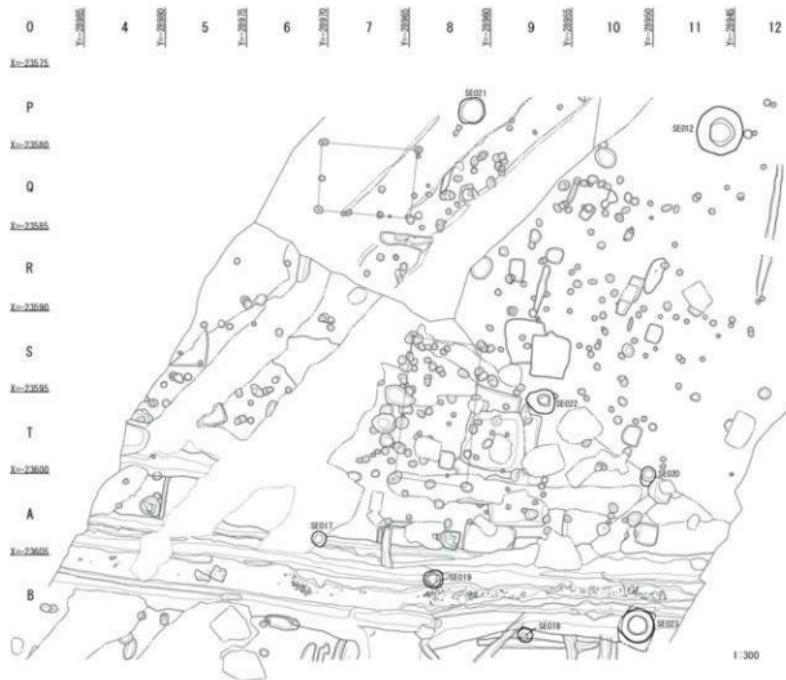


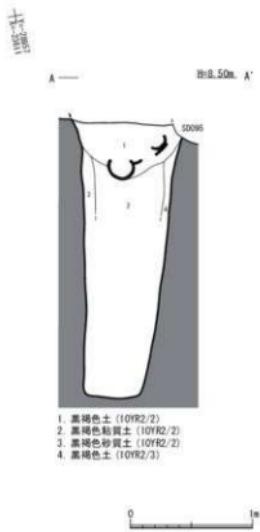
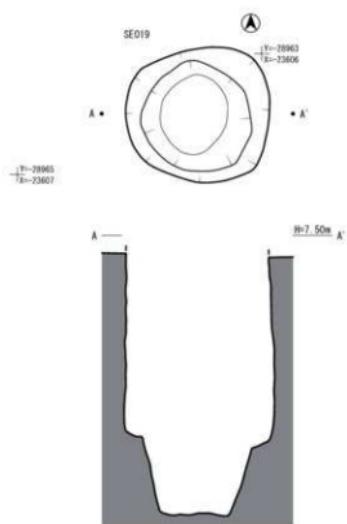
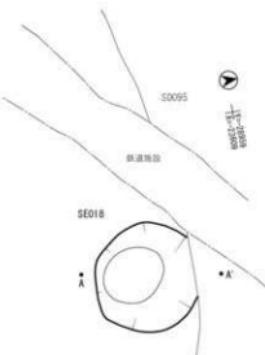
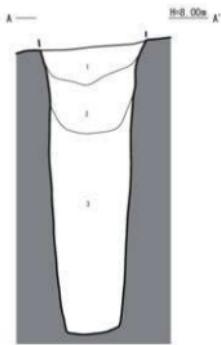
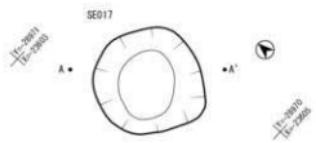
Fig.54 井戸 SE017～SE023 遺構配置図

井戸 SE017 (Fig. 55) 溝 SD085 に切られ検出した井戸。上端は検出した面でやや外に広がり、その後垂直に下端にまで至る。井戸 SE019 に見られる段状の掘形はみられない。検出面で直径 90 cm、中位で 70 cm、下端 50 cm、検出面から下端までの深度は 2.3m を測る。周囲からは井戸屋形を示す柱穴等は検出されていない。

井戸 SE018 (Fig. 55) 溝 SD095 に一部を切られながら検出した井戸。上端直下にやや張り出しがみられ、やや角度を変えることから上部に向かって開き、中間端もしくは段状等の施設があったのかもしれない。中世遺構に近接することから削平された可能性もある。平面直径は 90 cm で下端は約 50 cm、深度は 2.2m を測る。埋土からは古代の遺物が出土している。

井戸 SE019 (Fig. 55) 道路 SF001 の上端から下端へ向かう傾斜面上で検出した井戸。井戸は上端から下端近くまで垂直に掘削され、下端付近で段を有し狭くなり下端へと向かう。平面形は円形で径約 1.2m、掘形は途中でやや中が膨らみながら、段を示し約 90 cm に狹まりながら下端へと向かう。下端では 60 cm となる。遺構深度は 1 段目まで 1.6m、下端までの部分で 50 cm で計 2.1m となる。遺物は埋土中から古代の風字硯が出土している。

井戸 SE021 井戸 SE009 付近から広がる削平が酷いなかで検出した遺構。南側に掘立柱建物 SB019 を検出している。検出した面で径約 1.7m、掘削を中止した部分で深度 1.3m を測る。周囲には井戸屋形を構成すると見られる柱穴は確認していない。



0 1m 1:40

Fig.55 井戸 SE017 (上)・SE018 (左下)・SE019 (右下) 実測図

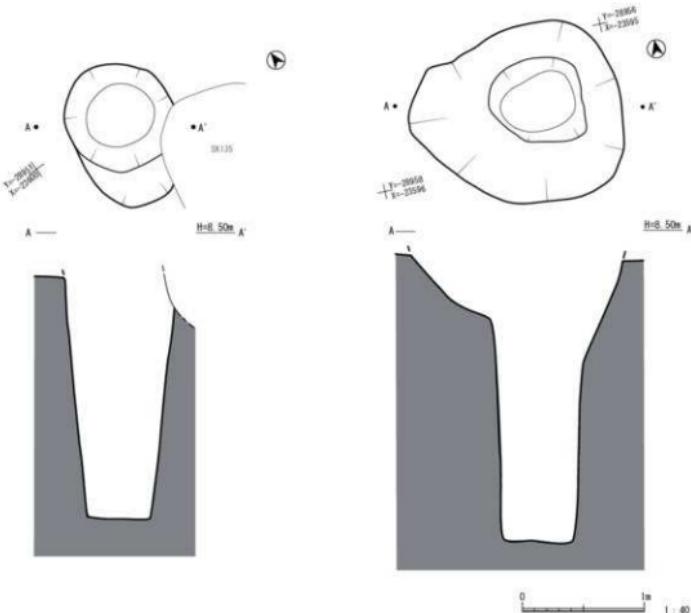


Fig.56 井戸 SE020 (左)・SE022 (右) 実測図

井戸 SE020 (Fig. 56) 土坑 SK135 に一部を切られながら検出した井戸。平面形は円形で南に向かい傾斜を有する掘形を持つ。遺構は途中に段を持たず垂直に下端に向かう。井戸本体の直径は 90 cm、掘形部も含め 1.2m、下端は 50 cm、遺構深度は 2m を測る。埋土からは 9 世紀後半の土師器が出土している。

井戸 SE022 (Fig. 56) 挖立柱建物 SB020 の東側で検出した井戸。平面形は楕円形で西側に緩い勾配を持つ。中間端から下端にかけては垂直に掘削されており下端へ至る。上端長径では約 1.7m 中間端付近で約 90 cm、下端で 60 cm を測る。

井戸 SE023 (Fig. 54) 道路 SF001 の掘形傾斜部上にて検出した井戸。上層からブロック状に混土した土が詰まつており搅乱と見まがうほどの様相を示していたが、掘削中に礫群が出土し始め井戸であることを認識した。礫中には方形に切りだされ石垣状に組まれた部分をみるとことができ、当初は上部にまで切石が積重ねていたものと見られる。掘形は切石を設置する範囲まで広く、木枠が設置されている深度では狭くなる。検出面（繰り返し検出面も同じ）で径は 2.1m、木枠が置かれ狭くなる部分で径 1.1m 下端も 1.1m で、木枠部は径 90 cm、高さ 1.0m、遺構深度は最終的に 2.6m を測る。出土遺物はないが周辺の調査事例から判断すると近世の遺構であるとみられる。よって、木枠部は調査終了後廃棄処分とした。



Fig.57 竪穴建物 SI024~SI034 遺構配置図

先に記述した竪穴建物 SI 群の間には竪穴建物群の棟出ではなく、空白区間となっている。最多数の切り合いは竪穴建物 SI062 付近で見られる 3 基の切り合いで他は 2 基もしくは切り合はない。後世の掘り込み等で詳細な形を残していないもののが複数 11 基を検出している。

竪 穴建物 SI026・SI027・SI028 (Fig. 58) 本竪穴建物群のなかで最も多い 3 基の切り合いからなる竪穴建物群である。竪穴建物 SI026 は切り合いで最も新しく検出している。隅丸方形で下端は上端に比べ内に入り緩やかな傾斜面を持つ。北辺中央には作り付けカマド燃焼部掘形が残るが煙道部の残りはない。床面では硬化面等の確認はできていない。主柱穴となる柱穴は西側で 2 基小柱穴を確認したが、東側では対となる柱穴は確認していない。また、床面調査後に掘形まで進めたが主柱穴となるものは確認できていない。竪穴建物 SI027 は方形建物として確認し、竪穴建物としての施設等は何もなかったため、規模から竪穴建物と判断した。掘形の形状は竪穴建物 SI026 と違い、角は直角に掘られ上端と下端の間隔は狭く整っている。得られた情報は少なく、床面には硬化面ではなく、主柱穴等も確認されていない。規模は不明。竪穴建物 SI028 は切り合いの最下段にあたると判断し調査を実施した。平面形は方形で遺構の形状は、角の掘形が直角で上端と下端の間隔が近いことなどから竪穴建物 SI027 の掘形と類似する。南側掘形付近は他の遺構掘形や搅乱で狭い部分が残るのみでそこに他の遺構も切り合っていることから正確な遺構掘形は確認できていないと判断される。当初の掘形は、他の竪穴建物の事例から正方形に近い掘形であったとみられる。北辺の東寄りに作り付けカマドが残る。燃焼部掘形から外へ延びる煙道まで残り他の遺構に比べると良好な状態を示している。カマドを構成していた白粘土等の残欠は出土していない。床面では硬化面等の広がりはなく、主柱穴等

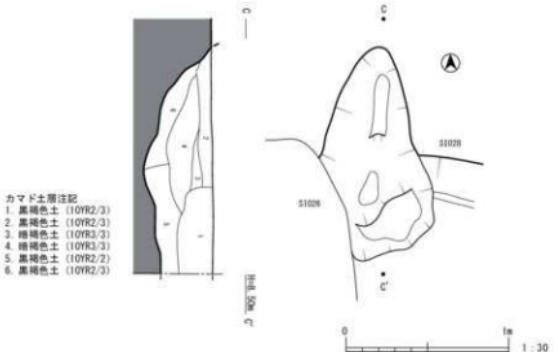
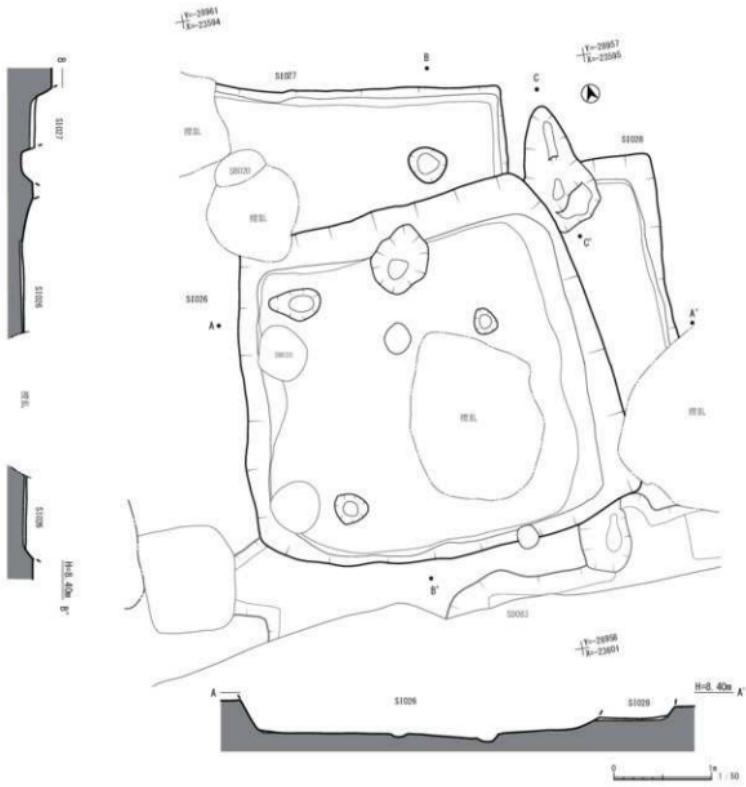


Fig.58 壁穴建物 SI026・SI027・SI028 実測図

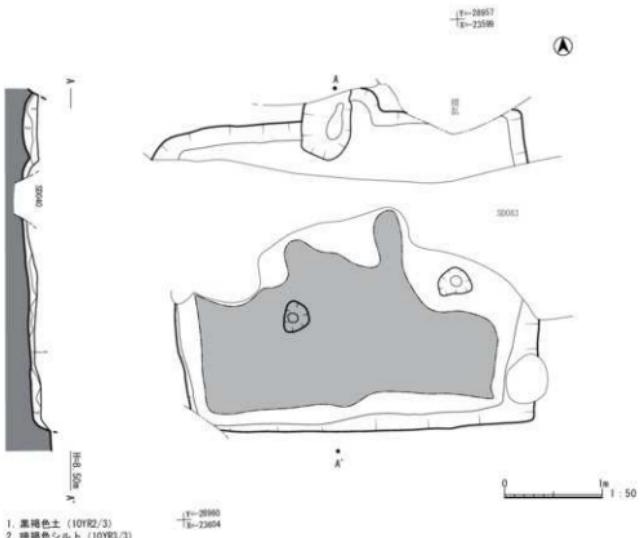


Fig.59 穹穴建物 SI032 実測図

も確認できていない。規模は不明。

穹穴建物 SI032 (Fig. 59) 遺構中央を東西に後世の溝により切られる。隅丸方形建物で土層の観察から放棄後に自然堆積によって埋没したと考えられる。北辺中央に作り付けカマドの掘形のみを残す。周辺にはカマド残欠等は残らない。床面には南側を中心に硬化面が発達し、溝掘削の影響を受ける付近まで広がる。硬化面が遺構下端近くまで及んでおり、遺構内の利用を考えるうえで重要な事例となりうる。主柱穴は中心付近に2基検出していることから、切られている範囲内に2基あったことが想定され、4本柱建物であったみられる。規模は南北約3.5m、東西約3.8mを測り、主軸は作り付けカマド中心をとおる線を基軸とするとN-2°-Wを示している。

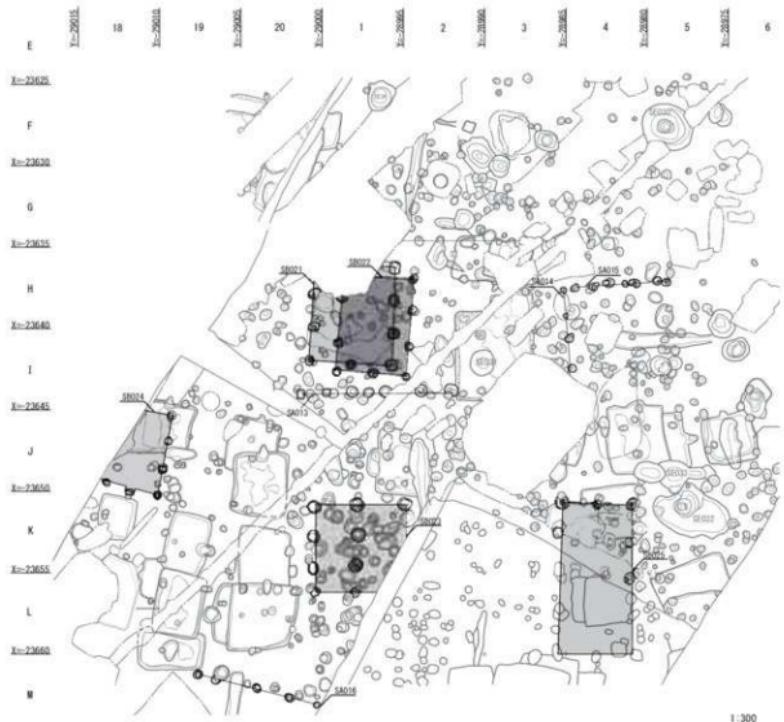


Fig.60 槵列 SA013~SA016、掘立柱建物 SB021~SB025 遺構配置図

ここで報告する調査区には、調査委託を実施した調査区を含んでいる。発掘調査自体の民間調査委託は熊本県としては初めての事例であったことから、受託し調査を実施した大成エンジニアリング株式会社へは常時、隣接する調査区を担当していた県担当が監督し、慎重に助言・指導をおこなったにも関わらず、受託業者は熊本県の土に慣れていないこと、主任調査員・調査員の不慣れ、実測担当者の技量不足、これまで業者が受託してきた地域との調査手法の違い等から、熊本県における最低限度の記録保存の措置が不十分であった。業務委託は調査のみであったため、整理・報告書作成は熊本県が実施した。

柵列 SA013 (Fig. 60) 掘立柱建物 SB021・SB022 の南に平行に立地し検出した柵列。おそらく、同掘立柱建物に伴う柵列であった可能性が高い。全長約 9.5m で柱穴間はおおよそ 1.0m から 2.0m を測る。本遺構でも柱穴間の狭い部分もあることから建て直しの可能性もある。掘面形は円形で、ここで報告している柵列 SA014・SA015 に比べると規模は大きい。

柵列 SA014 (Fig. 60) 柱穴の密集する一角で検出した柵列。概観すると掘立柱建物の一辺のようにもみえるが掘立柱建物としては不完全であるため、柵列として報告する。全長 4.9m で 3 間からなり、柱穴間は約 70 ~ 80 cm を測る。柱穴平面は削平を受けているものもあるが、おおよそ円形の掘面形となる。柱底は検出できていない。

柵列 SA015 (Fig. 60) 柵列 SA004 に隣接し確認した柵列。検出した状況等は柵列 SA004 と同じである。全長約 2.8m、5 間を想定できるが、途中に接する柱間もあることから建て直しの可能性も高い。柱穴間は約 40

cmから50cmを測るが一定しない部分もある。

柵列SA016 (Fig. 60) 5基の柱穴が並び約7.6m(約26尺)の規模をもつ柵列。すぐ北に掘立柱建物SB023が位置している。

掘立柱建物SB021 (Fig. 61) 掘立柱建物SB022と軸を同じくし、建て替えに寄る切り合いを示している掘立柱建物。柱穴の切り合い関係はないため遺構の新旧は不明。規模は一部を搅乱により削平されているためはつきりとは断言できないが、検出できている範囲検討すると梁行2間×桁行3間、約4.9m×5.9m(約16尺×20尺)を測り床面積は約28m²である。主軸はN-4°-Eを示す。また、柱穴平面形は長軸側に長方形掘形を持つものが多いが、なかには円形の掘形を持つものもある。しかし、それら円形掘形を有する遺構は中間端から下端にかけては方形掘形を示している。西側の柱列にはすべて遺構底面に板状石を配する。

掘立柱建物SB022 (Fig. 62) 先述した掘立柱建物SB021との間に建て替えを想定される掘立柱建物。一部を搅乱により乱されるため柱列すべて検出できとはいえない。規模は梁行2間×桁行3間、約4.2m×5.8m(約15尺×20尺)と掘立柱建物SB021とほぼ同規模で、床面積は約24m²を測る。主軸はN-5°-Eを示し掘立柱建物SB021にくらべやや東へ軸を振る。柱穴平面形は掘立柱建物SB021では方形掘形を有していたものもあつたが、円形掘形を主体とし中間端から下端まで含め方形掘形を示しているものはない。東側柱列のP8では遺構底面にやや厚めの礫を配している。

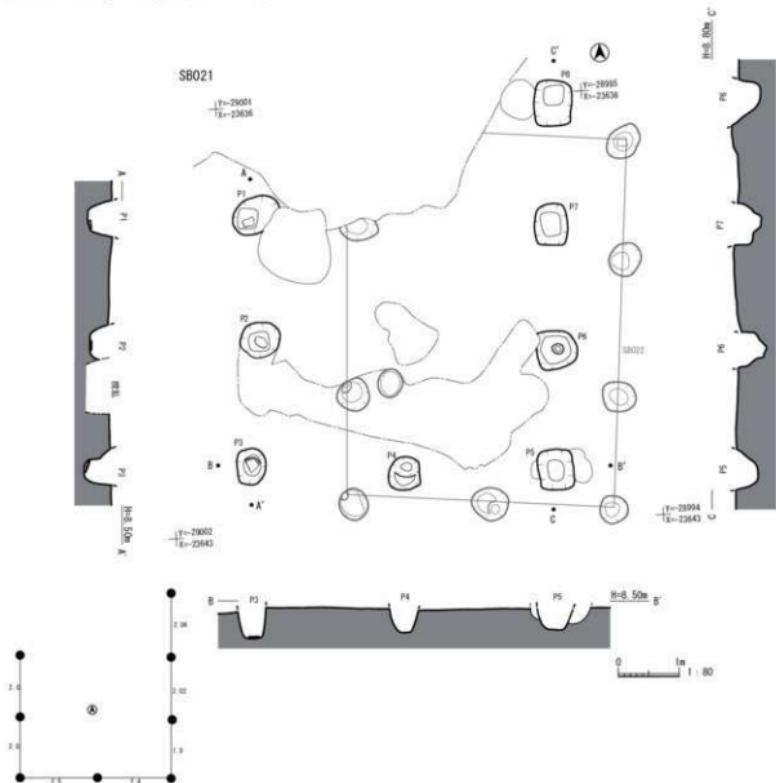


Fig.61 掘立柱建物SB021実測図

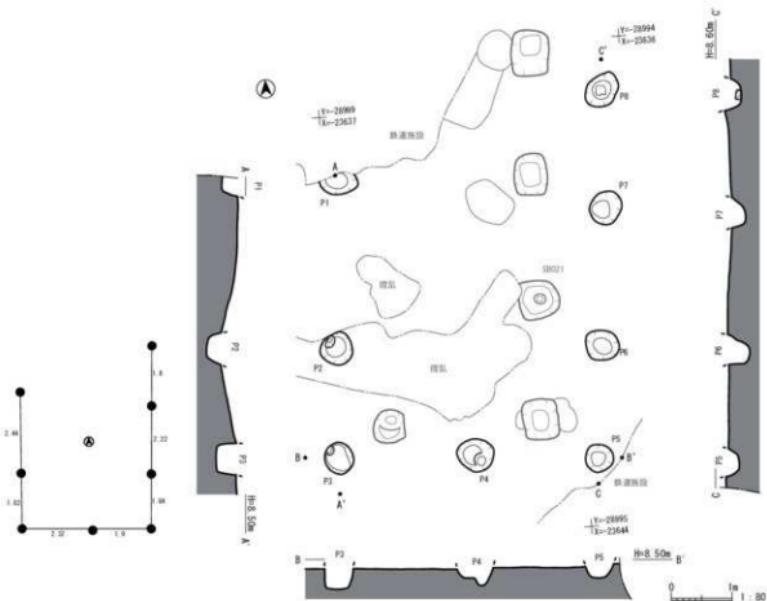


Fig.62 挖立柱建物 SB022 実測図

掘立柱建物 SB023 (Fig. 63) 鉛汚染土に接し遺構の約 1/5 が未調査の掘立柱建物。側柱の他に中間にも柱を配することから総柱建物である。梁行 2 間 × 斎行 3 間であるが南側の列が他の柱間よりも狭いこと、東西の柱穴間が南北軸のものと比べ広いことから平面形は正方形に近い。柱穴形状はほぼ円形であるが P1、P2、P3 などに本来は隅丸方形をしていたとみられる柱穴も存在する。大半の柱穴土層断面では水平堆積による柱穴が見られることから、廃絶時には抜き取ったのち埋戻しをしていた可能性が高い。規模は、南北が約 5.4m (約 18 尺)、東西が約 5.6m (約 18.5 尺) を測る。主軸は南北方向を主軸として捉えると、N-1° -E を示す。

掘立柱建物 SB024 (Fig. 64) 調査区の端に位置し、西側柱列部は未調査である。柱穴遺構平面は円形をしているが、方形の掘形を有するもの (P4) があることからすべて当初は方形の掘形であった可能性が高い。規模は梁行 3.3m × 斎行 4.9m (約 11 尺 × 18 尺) を測り、N-9° -E を示す。同じ位置で検出された竪穴建物との切り合い関係は竪穴建物 → 掘立柱建物である。

掘立柱建物 SB025 (Fig. 64) 竪穴建物と重複して検出した掘立柱建物。調査区南側約 1/3 は鉛汚染土にかかり上端のみの検出で留め掘削はしていない。北側 2/3 のみは下端まで掘削し調査を実施した。規模は梁行 2 間 × 斎行 4 間、約 4.2m × 8.4m (14 尺 × 28 尺) を測る。主軸は N-3° -E を示す。柱穴平面形は P1 のみ上端、下端とも隅丸方形で検出した。他の柱穴も削平を受けていなければ、隅丸方形の掘形を有していたと見られる。遺構北辺となる P1 ~ P5 では下端に柱座による小柱穴が残る。

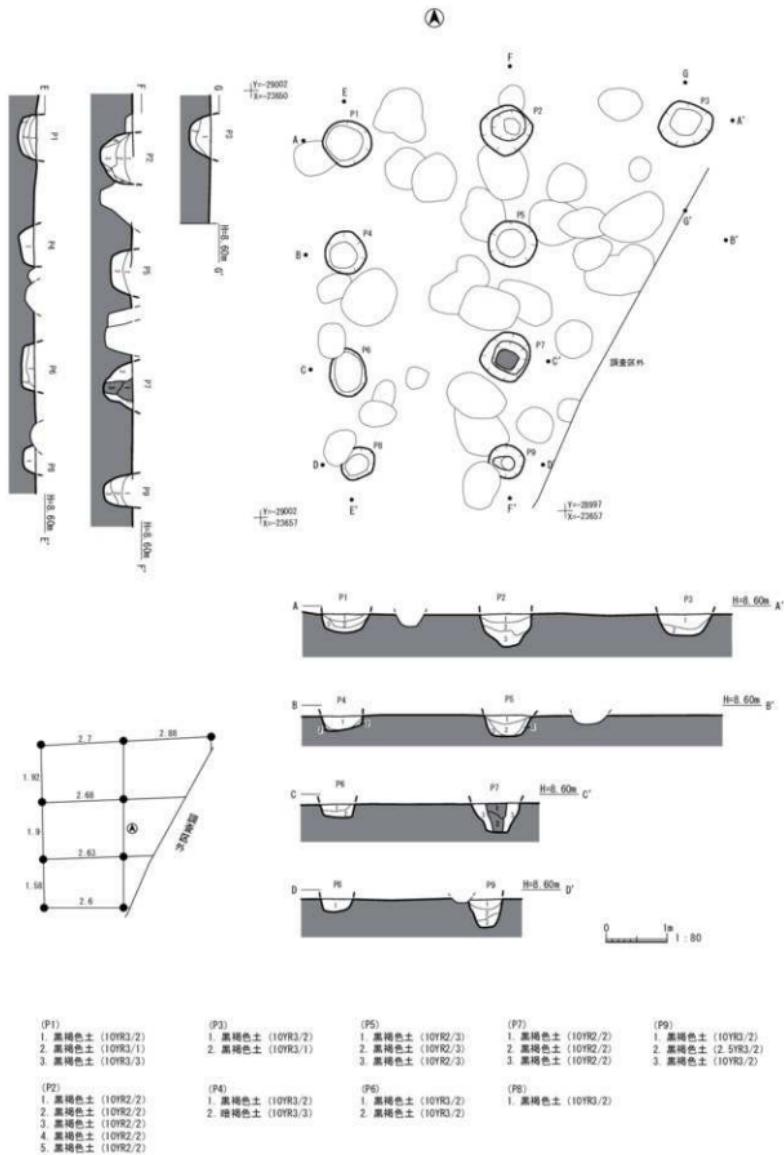


Fig.63 掘立柱建物 SB023 実測図

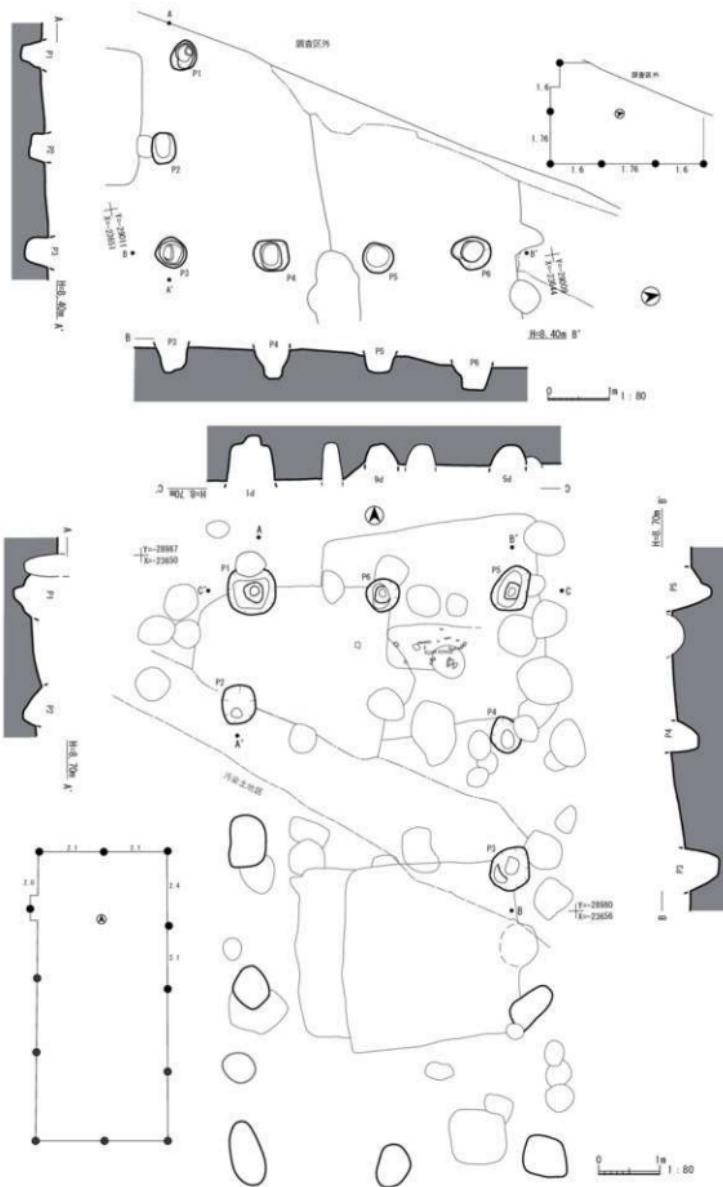


Fig.64 掘立柱建物 SB024 (上)・SB025 (下) 実測図

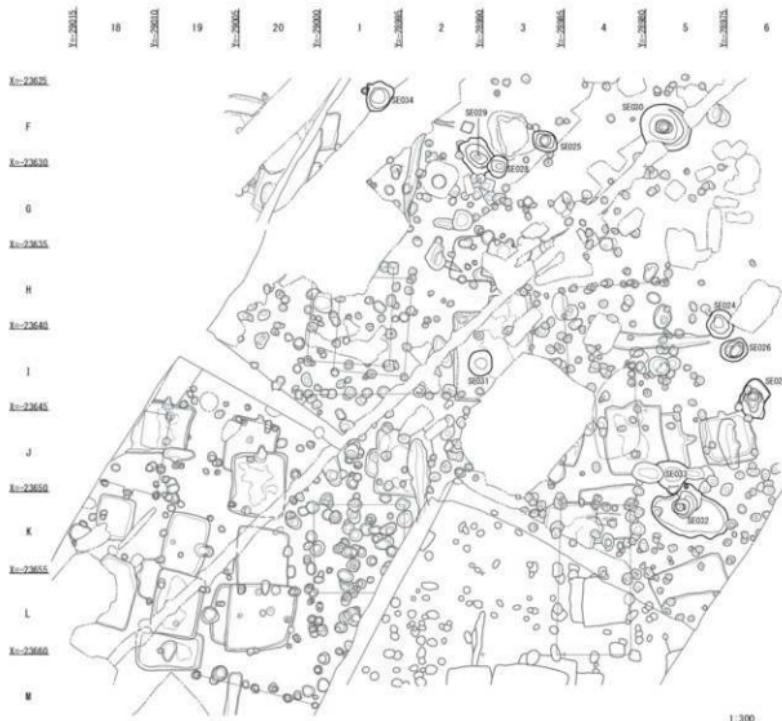


Fig.65 井戸 SE024～SE034 遺構配置図

井戸 SE024 (Fig. 66) 隣接して 2 基の井戸が並び、検出した遺構で両遺構の間隔は約 40 cm である。平面形はやや歪みのある円形で、遺構の一角が搅乱により削平を受けている。遺構掘形上部は脆弱な層にあたるためやや崩れしており掘削当初より崩落が広がっているようである。中間端として認識した線は明確な掘形の変化があるところではなく層の分かれ目である。中間端より下層では掘形がよく残っており垂直な掘削である。遺構規模は平面で直径約 1.7m、中間端付近で約 1.0m、下端で 60 cm、深度は約 2.5m を測る。周囲からは井戸堅形等を構成する柱穴は検出されていない。埋土中からは古代の土師器高杯が出土している。

井戸 SE025 (Fig. 65) 溝 SD096・SD097・SD100 からなる方形区画と想定した内部から出土した井戸。平面形は梢円形をしていてことから当初は長径に土層を設定し調査を進めたが、途中から井戸であると判断した遺構。上端は東西に主軸を持ち梢円形であるが中間端の時点では長方形の掘形となり下端では円形と形を整える。上端長径で 1.7m、中間端長径 1.1m、短径 1.0m、下端は径 70 cm を測る。上端掘形からすると 3 段の掘形を示す。埋土中からは古代の土器が出土している。

井戸 SE026 (Fig. 66) 先述した井戸 SE024 に隣接し検出した井戸。平面は梢円形で緩やかな土坑状の掘形の後、方形掘形が掘削され、そのなかに井戸本体の掘削が及んでいる。規模は検出面となる上端で約 1.7m、2 段面掘形で 1.1m、下端で 50 cm、深度は約 2.2m を測る。2 段目の掘形部までは土層が確認でき、廃絶後の自然堆積による土砂の流れ込みを観察することができた。埋土からは土師器甕の口縁から体部までの部位が出土している。

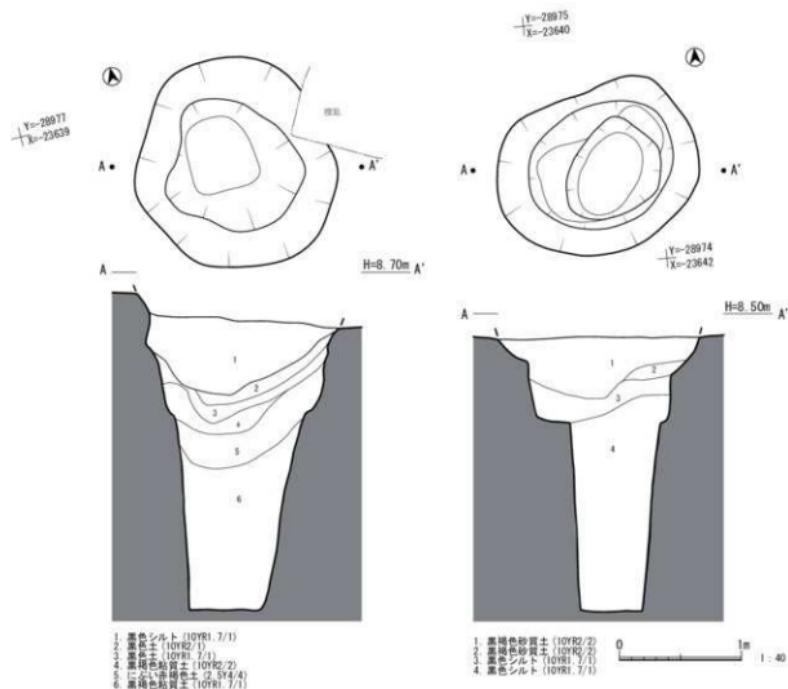


Fig.66 井戸 SE024 (左)・SE026 (右) 実測図

井戸 SE027 (Fig. 67) 南北に広がる土坑状の掘形を持ち、中心部付近に井戸本体を置く。北側に浅くステップを置き、南側では4段の中間端を形成しながら底面へと続く。確認できた限りの土層では、1層あたりの層が厚く、東西側から流れ落ちている痕跡を示す。壁面の崩落が見られたことから底面まで完掘はしていない。規模は検出した上端で約2.4m、深度は約1.6m、掘削した最深部での径は約40cmを測る。埋土中からは須恵器壺などとともに、製塙土器片が出土している。

井戸 SE031 (Fig. 67) 深さからすると、土坑とも考えられたが掘削翌日には自然と水が染み出し溜まっていたことから井戸として報告する。検出した平面形は円形で底面直上付近で中間端を持ち、中間端以降は垂直に落ち底面へ至る。底面は東に向かいやや傾く。土層は自然堆積による埋没を確認できる他の遺構と比べるとやや1層あたりが厚いが交互堆積を見せていていることから自然堆積の可能性もある。規模は径約1.6m、深度は約1.3m、底面径は70cmを測る。

井戸 SE028・SE029 (Fig. 68) 2基の井戸が切り合い検出した遺構。切り合いの関係は井戸 SE029 → SE028 となる。先行する井戸 SE029 は不定形な掘形上端であるが、中間端以下は当初は方形であったことを窺わせるやや崩れかかった楕円形となっている。中間端は2段に及び下端は楕円形となる。遺構掘形上端は一部井戸 SE028 に切られるが長径約2.3m、短径部で約1.7mを測る。掘形途中に2段の緩やかな中間端を持つが、1段目では

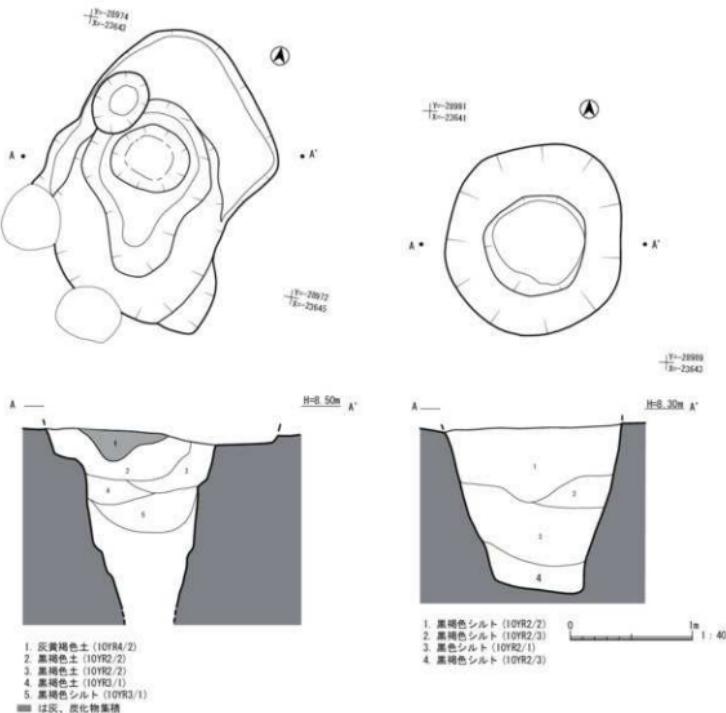


Fig.67 井戸 SE027 (左)・SE031 (右) 実測図

狭いながらも平場を形成していた可能性が高い。遺構深度は約1.4mである。埋土の基本土質は検出面となっている褐色土の上層の黒色土層が基本埋土となることから上層にあたる黒色土からの掘り込みであるとされることから、当初の掘り込み面は現在の深度より約30cmから50cm深かったとみられる。遺構埋土中からは8世紀後半から9世紀初頭にかけての遺物が多数出土していることから、9世紀初頭期の井戸である。

井戸SE030 (Fig. 65) 調査区のはば中央部に位置しており遺構南北側両端を鉄道遺構により削平を受けている。平面形状は東西方向にやや広がる円形をしており、東側から2段、東側からは1段のステップを持つ。井戸本体掘り込み部は円形で、下端よりやや上部で一度狭くなり、底面へと続く。底面はフラットである。埋土中からは8世紀末から9世紀初頭の土師杯、須恵器高台付杯、盤、壺等が出土している。規模は、検出時上端で約3.3m、井戸本体掘形上端で1m、底部で40cm、深度は約3.3mを測る。

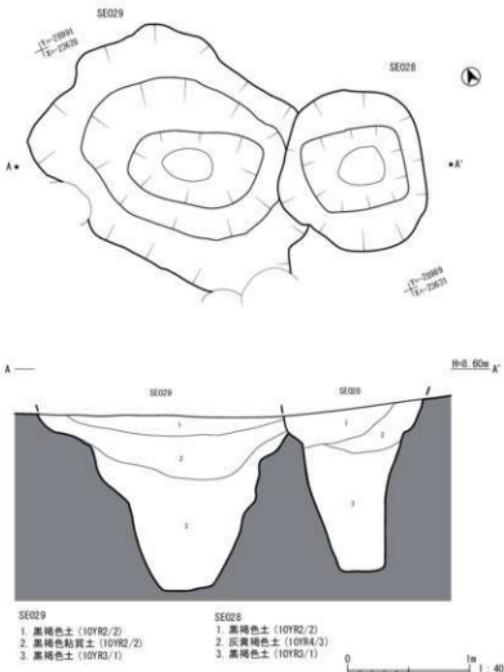


Fig.68 井戸 SE028・SE029 実測図

井戸 SE032 (Fig. 69) 検出時には大量の土師器杯が出土しており、廐棄土坑かとも考えられたが遺構検査を実施した結果、見えてきたのは長楕円形の掘形を持つ井戸であった。浅い土坑状の範囲は東西に広く、大量に出土している土師器群はこの掘形埋土中に含まれている。

土師器の出土状況は、小片となっていない大部分の個体が一部に割れは見られるもののほぼ個体を保っており破損した事による廐棄とは考えられない状態を示している。また、出土状態には規則性はないが、小破片ほど周囲に飛び散っていることから、関係品として使用後に投げ込まれた可能性もある。さらに、土器には赤色の顔料が塗布されたものが多く、日常雑器としての道具でもないことから、井戸庭絶時の祭祀行為の跡とも考えられる。井戸本体掘形の長軸両端には、各1基の柱穴があることから、井戸屋形の存在が想定される。遺構の規模は長径約 5.4m、中心部的最大径部で約 3.2m、中心部の井戸本体部で径 1.5m、土坑深度 10 cm、土坑底面から井戸底面までの深度 1.8m、底面径 45 cm を測る。

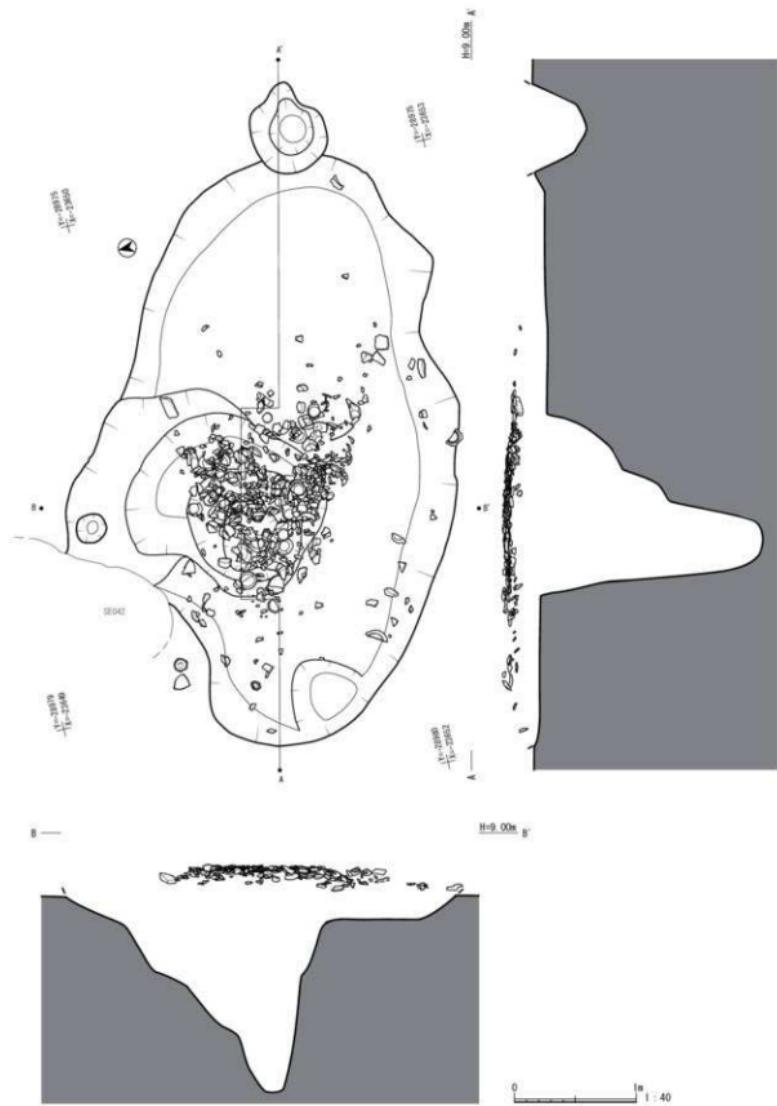


Fig.69 井戸 SE032 実測図

T=20079
TS=22648

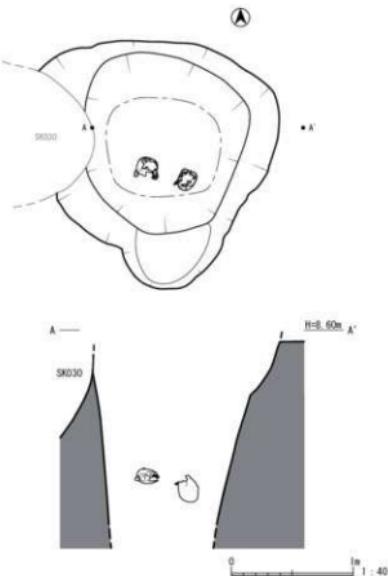


Fig.70 井戸 SE033 実測図

井戸 SE033 (Fig. 70) 複雑に遺構が切り合う場所で土坑に切られ検出した井戸。調査開始時には他の井戸とは違いやや明るめの土が入っていたことから、土坑が切り合う区域であるとみて調査を実施していたが、他の井戸同様に中間端となる変化点を検出したこと、その後、垂直に落ち始めたことから井戸であると判断し調査を実施した遺構。中間端から下へ調査を進めていた時点で人骨が出土したことから調査を止め、松下孝幸氏に調査依頼し取り上げ作業を実施していただいた。出土した人骨は頭骨のみ 2 体分であり胴体部の出土はなかった。図面中、左側で出土した頭骨は北を向き、右側頭部を上面に置いた状態で出土し、右側で出土した頭骨は頸部を上に向け顎面は北を向いた状態で出土しており、出土状態に規則性はみられない。井戸上からの投げ込みの状態を示している出土状況であると判断する。遺構は周囲の土層が脆弱であるため約 1.5m 以上の掘削は実施していない。規模は上端で幅約 1.5m 以上 (吉いのたわら)、中間端付近で 1.2m、頭骨を検出したレベルで 1.0m、深度は約 1.6m (未完掘) である。埋土からは土師器杯、土師器高台付皿が出土している。井戸 SE034 (Fig. 65) 調査区の一部を鉄道施設により深く掘削され検出した井戸。上端北辺に接する柱穴は井戸屋形を構成する柱穴の一つと見られるが、対となる南東側が大きく削平されていることから確認はできない。井戸は検出面で上端径が約 1.8m、緩やかな勾配を示しながら 50 cm 掘削後に、垂直に角度を変え下端へと続く。検出面からの深度は 2.1m、下端径で 90 cm を測る。

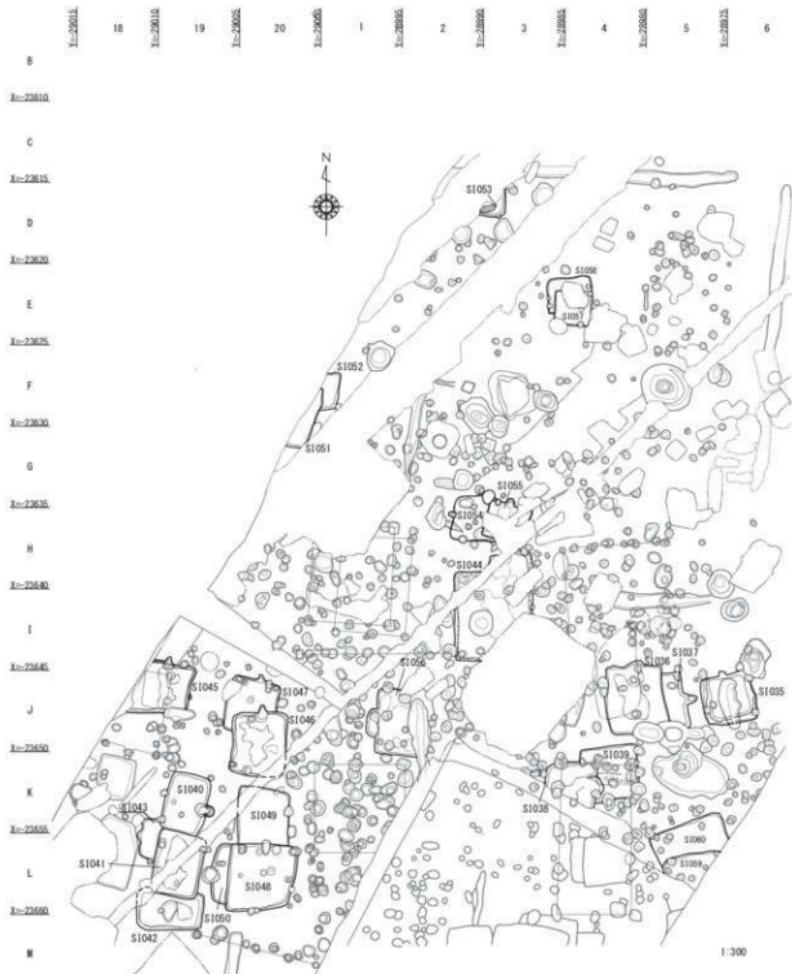


Fig.71 窪穴建物 SI035~SI060 遺構配置図

壁 窪穴建物 SI035 (Fig. 71) 北辺中央に作り付けカマド煙道部張り出しを持つ。しかし、燃焼部や炉体等の痕跡は確認できていない。遺構は平面形が正方形をしており、内部に浅い方形掘り込みである掘形を持つ。調査時に床面を掘り過ぎていたようで、掘形まで露出させていた。よって、硬化面等は確認できていない。主柱穴は掘形時点でも検出することはできなかった。埋土中からは、日常雑器とぼしき壺、甕、鍋、杯、蓋類の破片が出土している。規模は、南北約 3.3m (南北幅さむき)、東西約 3.3m を測り、主軸は N-11° -W を示している。

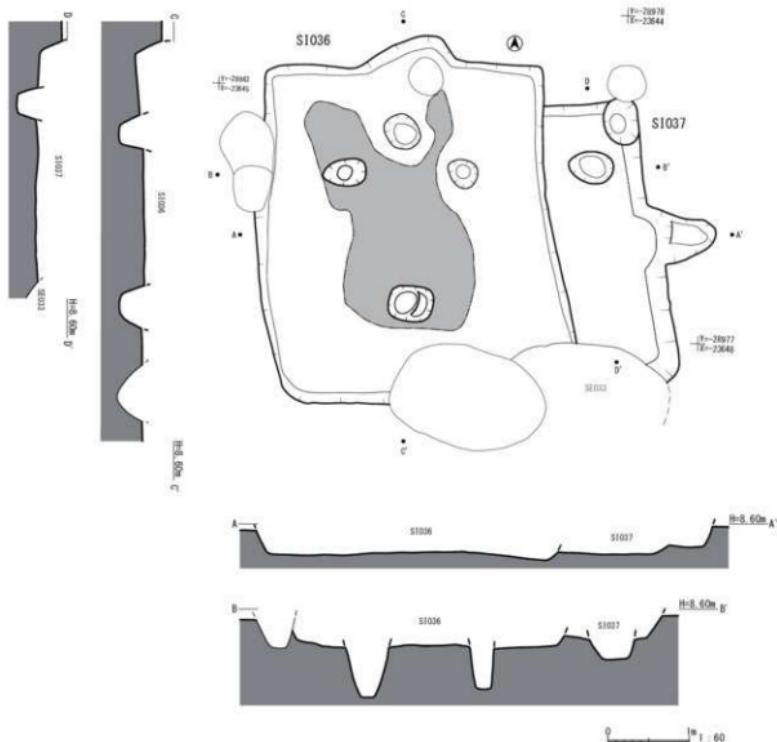


Fig.72 積穴建物 SI036・SI037 実測図

積穴建物 SI036・SI037 (Fig. 72) 作り付けカマドをほぼ 90° 振り重複し検出した積穴建物。積穴建物 SI081 は北辺中央に作り付けカマド煙道部張り出しを持ち、切り合いの新しい積穴建物である。カマド部は煙道部張り出しじゃ残るが燃焼部掘形は残っていない。燃焼部掘形部に残る柱穴は後世の遺構で本遺構には関係していない。中央部には硬化面の広がりが確認できるが残りが悪く、硬化面による空間利用推定までは至らない。わずかに、カマド前面でカマド掘り込み及び柱穴を避けるように U 字状に広がっていることから焚口としての空間を想定させる場所となっている。主柱穴はすべて検出しきれていないがカマド前面に 2 基検出していること、カマド前面に 1 基、それに対をなすように南側壁近くに 1 基検出していることから変則的ではあるが、これらが屋根を支えていた柱穴である可能性が高い。規模は、南北約 4.5m (作り付けカマド)、東西約 3.7m を測り、主軸は N=2° -W を示している。

積穴建物 SI037 は東辺中央に作り付けカマド煙道部張り出しを持ち検出している。カマド燃焼部はわずかに下端の線が変化することから推測されるが、炉体を示す痕跡、物証は残っていない。全体の規模は不明であるが、カマドがある東辺のみは一辺約 2.0m を測ることができる。遺構内施設である硬化面、主柱穴等は確認できていない。

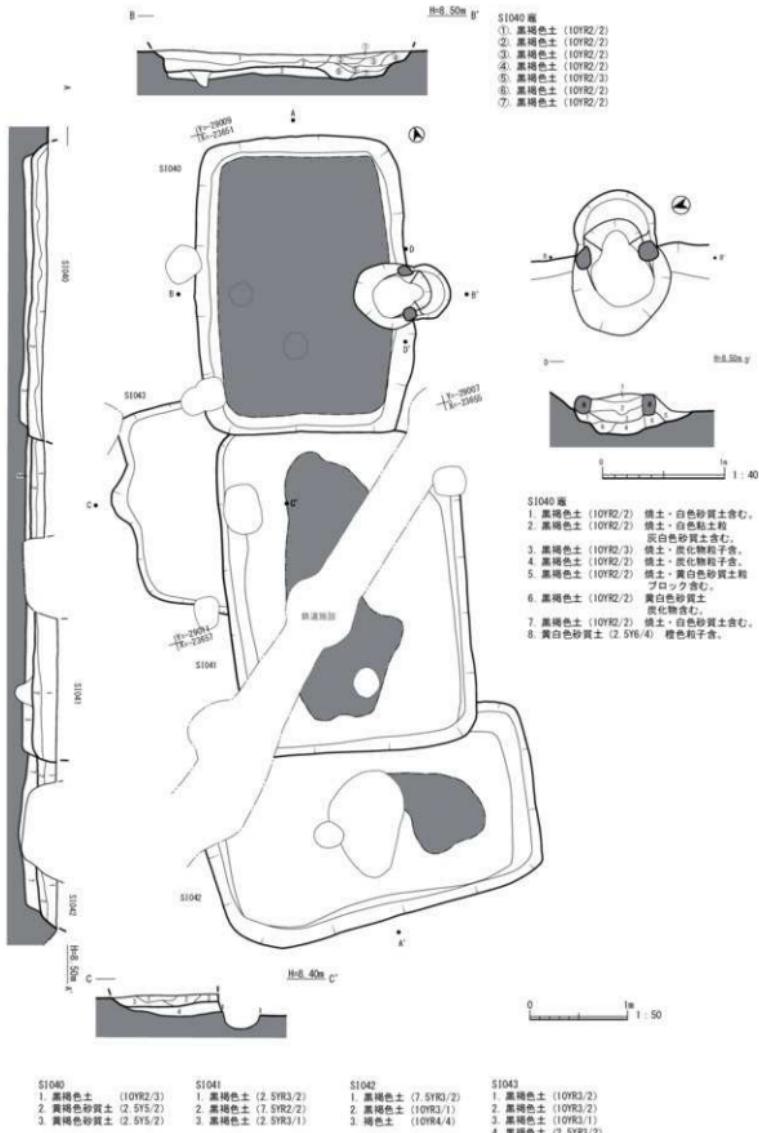


Fig.73 穴穴建物 SI040~SI043 実測図

堅穴建物 SI038・SI039 (Fig. 71) 2基の切り合いからなる堅穴建物群。堅穴建物 SI038は東に作り付けカマド煙道部張り出しを持ち、北側に炉体袖の一部と見られる白色粘土の基底部が残る。しかし、燃焼部があつたとみられる範囲には焼土等の痕跡はない。遺構の規模は主軸側から示すと東西約 3.7m (幅2.5m), 南北は調査区外に出るため、2.75m以上を測る。主軸はN-94°-Eを示している。

堅穴建物 SI039 平面形はほぼ正方形で作り付けカマドの痕跡はない。遺構内には硬化面、主柱穴等の施設は確認されなかったが、わずかに貼り床面下に掘形を確認することができた。

堅穴建物 SI040・SI041・SI042・SI043 (Fig. 73) 長方形で小型の堅穴建物の切り合いによる一群。切り合いの関係は(旧)堅穴建物 SI043・SI042→SI041→SI040 (新)である。切り合いの最も新しい堅穴建物 SI040は長軸となる東壁に作り付けカマドを残す。袖部に砂岩による基礎をおき周囲に白色粘土を張り付けた跡を残す。燃焼部掘形及び2段整形による煙道部など本遺跡検出作り付けカマドのなかではよく姿を残す。規模は堅穴建物 SI040が南北約 3.6m、東西約 2.6m で主軸はN-12°-E、堅穴建物 SI041は南北約 3.9m、東西約 3.0m で主軸はN-9°-E、堅穴建物 SI043は遺構大半が切り合いの下にあることから規模は不明であり、主軸は作り付けカマド煙道部張り出しが西に付くことからおおよそ N-83°-Wであろう。堅穴建物 SI042は南北約 2.3m、東西約 4.1m を測り主軸はN-84°-Wを示す。

堅穴建物 SI044 (Fig. 71) この周辺で検出した遺構のなかで最も規模の大きな堅穴建物。北東隅に約 1.0m × 2.8m の方形張り出しをもつ。南東隅を搅乱により掘削されているが全体規模を把握することはできた。主柱穴は搅乱部を除き 3 本検出し、その内部から張り出し部に向かい硬化面の広がりを見て取れる。硬化面は貼り床上部にあり、遺構下端の一回り内側から掘り込まれている掘形は浅い。規模は南北約 6.6m (うち張り出し部 1.0m)、東西は約 4.8m を測り、主軸はN-1°-Wを示す。

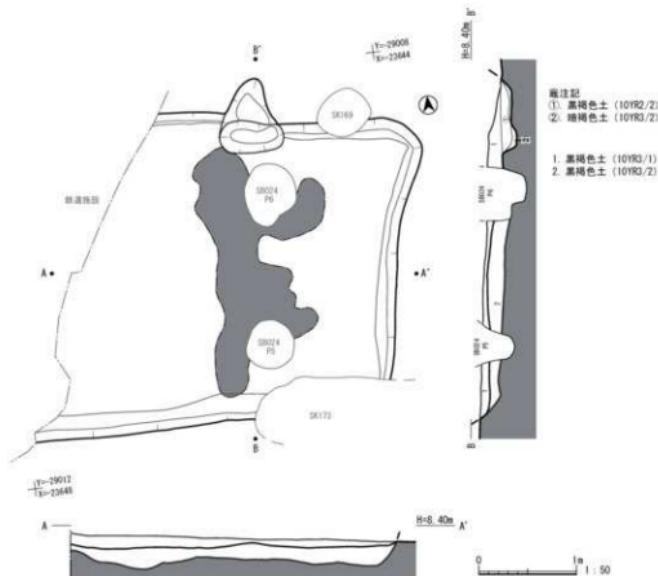


Fig. 74 堅穴建物 SI045 実測図

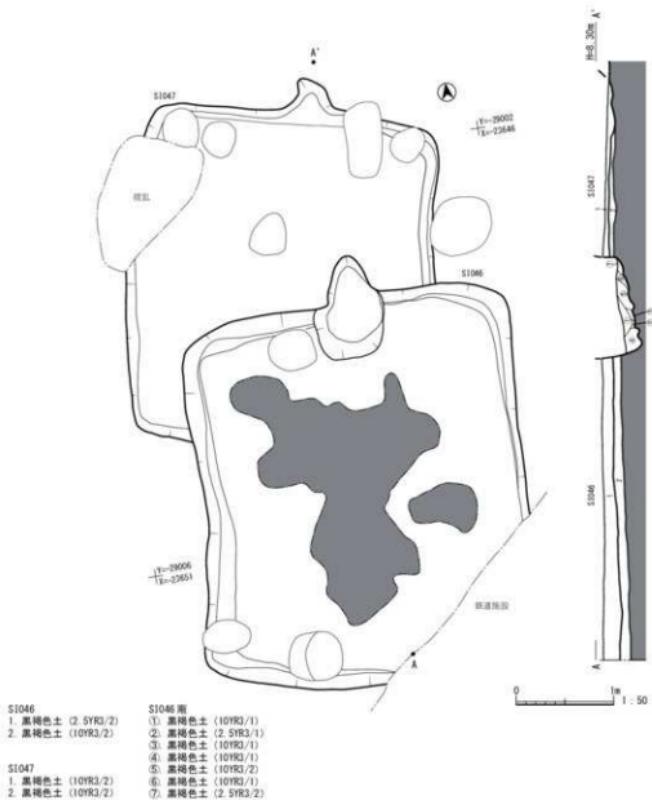


Fig.75 積穴建物 SI046・SI047 実測図

堅穴建物 SI045 (Fig. 74) 挖立柱建物 SB024 柱穴が上部から掘り込まれ検出した堅穴建物。遺構西側を約 1/3 ほど鉄道施設により掘削され消滅し全体規模を把握することはできない。遺構北壁中央からやや西に寄った位置に作り付けカマドの掘形のみが残る。遺構規模は南北に約 3.5m (アーチ高さ 2.5m)、東西に約 3.5m 以上の東西に長い形をする。遺構中央に硬化面が残るが当初の形状をしているものとは考えられない。調査時に剥がした可能性がある。カマド中心を軸とすると主軸は N $9^{\circ} - E$ を示している。

堅穴建物 SI046・SI047 (Fig. 75) 2軒の切り合いからなる堅穴建物。2基とも北辺中央に作り付けカマドを持つ。堅穴建物 SI046 は規模は遺構中央に硬化面の広がりをみるが主柱穴は確認できていない。床面は貼床であり、床面下端内側から掘り込む。カマド周辺には本体に伴う部材は残らない。規模は南北約 4.4m (ヨコの間約 2.6m)、東西約 3.3m を測り、主軸は N 4° - E を示す。堅穴建物 SI047 は北に隣接する堅穴建物 SI046 に切られる。作り付けカマドは丁寧に部材が取り除かれ煙道部張り出しのみ残る。床面には硬化面の広がりではなく、主柱穴等の遺構も検出できていない。規模は南北約 3.6m 東西約 3.2m を測り、主軸は N 11° - E を示す。

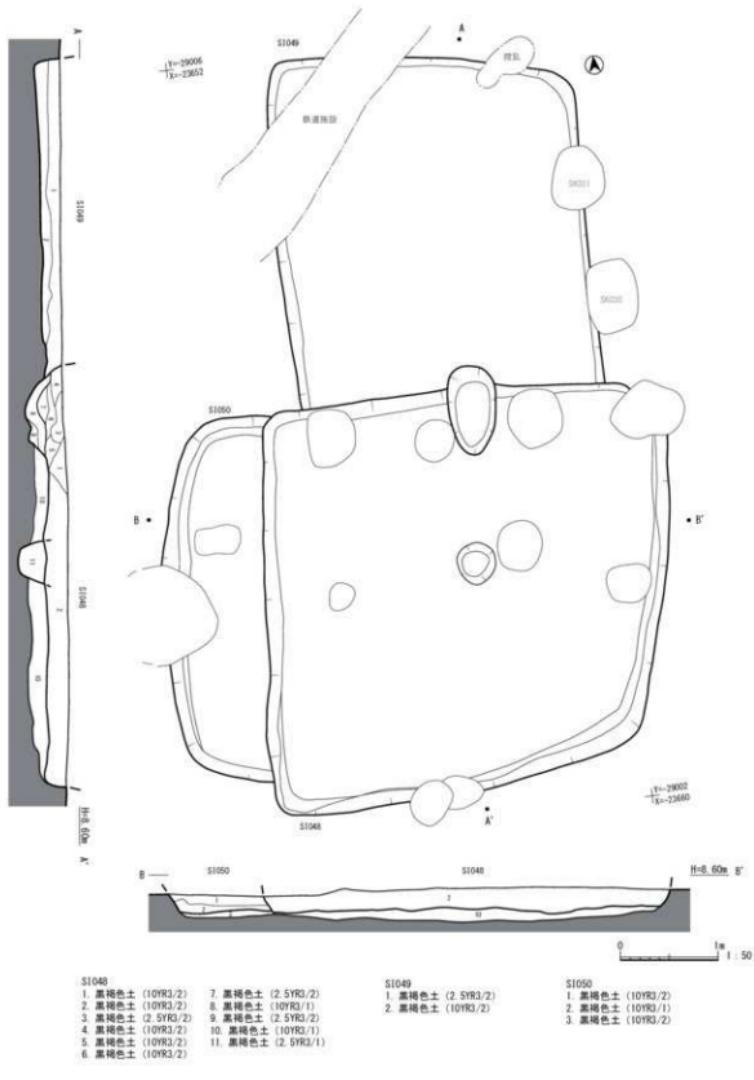


Fig.76 竖穴建物 SI048~SI050 実測図

堅穴建物 SI048・SI049・SI050 (Fig. 76) 3軒の切り合いからなる堅穴建物群。切り合いの関係は最も新しい堅穴建物 SI048 以外は、切り部が重複していることから新旧は分からない。

堅穴建物 SI048 は方形掘形で北辺中央に作り付けカマドの掘形が残る。南東隅はやや内に入り他の隅よりも角度が大きく不定形となる。床面では硬化面等の痕跡は残っておらず主柱穴も確認できていない。床面相当面下端の内側から掘形掘り込みが見られ、遺構下端と掘形上端が重なるところもある。遺構規模は約 4.1m 四方であるが南東隅のみ狭い。埋土の基本土質は検出面となる褐色土層の上層の黒色土を主体としていることから、当初の掘り込み面は現在のレベルよりも約 30 cm ~ 50 cm 上層であったとみられる。遺構埋土中からは 8 世紀後半から 9 世紀初頭にかけての遺物が多数出土していることから、9 世紀初頭期の遺構である。

堅穴建物 SI050 は遺構の大半を堅穴建物 SI048 と重複しており西側掘形一辺のみしか検出できていない。わずかに残る面において、遺構床面想定面上では硬化面等の遺構内施設は確認されていない。しかし、遺構下端線上から遺構掘形が始まり浅くはあるが掘形を持つ。検出された範囲で規模を計測すると一辺 3.8m を測る。堅穴建物 SI049 は南北に長軸を持つ長方形の平面形である。堅穴建物 SI048・SI050 の平面形と違い長方形をなしていることから異質な感じを受ける。遺構は堅穴建物 SI048 南辺の一部を切られているのみで遺構の大半は残るが、遺構内の床面では硬化面等の遺構内施設は検出されず、主柱穴も検出できていない。床面相当面から遺構掘形が残り、南に行くに従い掘形部は深くなる。埋土中より 8 世紀後半の遺物が多数出土している。



発掘調査風景（奥に熊本駅 5番ホーム（現在は撤去））



Fig.77 柵列 SA017・SA018、掘立柱建物 SB026～SB029 遺構配置図

柵 列 SA017 (Fig. 77) 全長 11.9m (約 39 尺) を測り、7 基の柱穴からなる柵列。柱穴間距離は 1.1m から 2.1m とややバラつきがあるが、2m (約 7 尺) を測る柱穴間が 3 節所あり、当時の距離感を残しているものとみられる。各柱穴とも柱痕を残し、一部には根固めの層を観察することもできる。埋土の基本土質は、遺構検出面となっている褐色土層の上層にあたる黒色土を主体としていることから、遺構の掘り込みレベルは少なくとも 30 cm 以上高かったものと考えられる。柱穴平面形はほぼ円形で方形掘形を有するものはない。P2・P5・P7 では小柱穴が重なっており、掘形が若しくは建て直しの際に一部、掘りなおされた部分であると考えられる。本柵列は掘立柱建物 SB026 の南に主軸を同じくし並ぶこと、西に掘立柱建物 SB027 が同様に、軸を同じくして並ぶことからこれらの建物と同時に存在していた可能性が高い。

柵 列 SA018 (Fig. 77) 全長約 11m (約 37 尺) を測り、6 基の柱穴からなる柵列。柱穴間距離は 1.9m ~ 2.1m とほぼ均一で、約 7 尺前後を測る。他の柵列でも見られるが、柱穴間距離はおおよそ 2.1m (約 7 尺) を基本として掘削されているものと見られる。層の基本土質は遺構検出面となっている褐色土層の上層にあたる黒色土を主体としていることから、本遺構周辺でも遺構の掘り込みレベルは少なくとも 30 cm 以上高かったと考えられる。柱穴平面形は、現時点での平面形は円形に近いが、わずかに方形と観察できる柱穴 (P4・P5・P6) があること、中間端で方形と観察されるもの (P3・P4・P5) があることから本来の掘り込み面では方形掘形であった可能性が高い。北に軸をほぼ同じくし平行して存在する構 SD036 があることから、構と柵列が同時に供用されていた可能性が高い。

掘 立柱建物 SB026 (Fig. 78) 長軸を東西にもち柵列 SA017 を伴う掘立柱建物。側柱内側に柱穴 (P5) を有することから総柱建物であるとみられる。梁行 2 間 × 枠行 3 間で 4.5m × 6.3m (約 15 尺 × 21 尺) を測り、主軸は N-88° -E を示す。

柱穴平面形は円形であるがややいびつな形状をしており、大幅な削平を受けた結果とみられる。

掘立柱建物 SB027 (Fig. 79) 検出遺構の約半分が鉄道遺構により削平された遺構。規模は 2 間 × 3 間以上であろう。梁行東側に並ぶ三基の柱穴は直径が約 70 cm と他の掘立柱建物の柱穴規模よりも大きなもので中間端から下端にかけての掘形も方形をなすなど、しっかりしたものとなっている。柱穴 P3 が側柱内部で検出されていることから総柱建物となる可能性が高い。土層断面には柱痕が残るもの (P1, P4)、抜き取り痕の可能性があるもの (P2, P6) がある。梁行側の柱穴間にはそれぞれ 1.4m, 1.56m の間隔で総計 2.96m (約 10 尺)、東西は確認される距離間でそれぞれ 1.5m, 1.64m (約 5 尺) を測る。主軸は東西側にあり N-11° -W を示す。

掘立柱建物 SB028 (Fig. 80) 壁穴建物と重複し検出した掘立柱建物。柱穴 1 基あたりの大きさは小さく隣接する掘立柱建物 SB027 と比べると小柱穴により構成される。柱間もやや狭く南側桁行では 1.4m 間隔に並ぶ。柱穴平面形は P2 が隅丸方形の掘形をしている事から、本遺構においても方形掘形であった可能性が高い。規模は桁行 3 間 × 梁行 3 間以上である。南側桁行 4.2m (約 14 尺) を測り、主軸は N-9° -E を示す。桁行規模は不明。

掘立柱建物 SB029 (Fig. 80) 熊本市第 28 次調査の際に村落内寺院と指摘されている SB01 の南に位置する遺構。遺構の一部を溝 SD023 に切られ方形及び円形掘り込みによる柱穴列により構成される。梁行 1 間 × 枠行 3 間で主軸は A-A'、C-C' を長軸とした場合に N-4° -E を示す。遺構規模は 3 基・2 間で構成する主軸長で約 2.3m (約 9 尺)、2 基・1 間で構成する梁行長で約 3.2m を測る。各柱穴は周辺の柱穴群とグラベルと掘削深度も深く下端まで端正な掘形となっている。中でも P4 では中間に段を有し下端では硬化している柱座を確認するまで至っている。P3・P5・P6 でも下端付近で小規模な掘り込みがあることから硬化した面は確認できていないが柱座である可能性が高い。

P1・P6 の北側に位置する柱穴列を切り検出している溝 SD023 は熊本市調査で 14 世紀頃遺構と推測されているが、溝埋土から後に混入したとみられる二彩托 (9 世紀～10 世紀) が出土している。

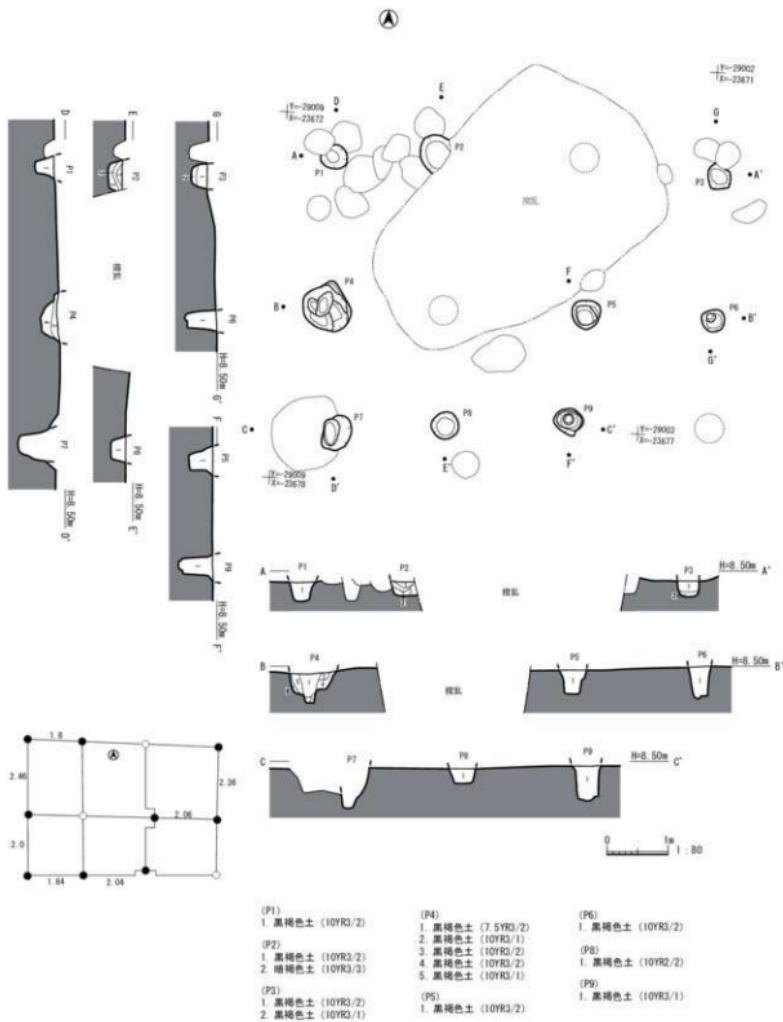
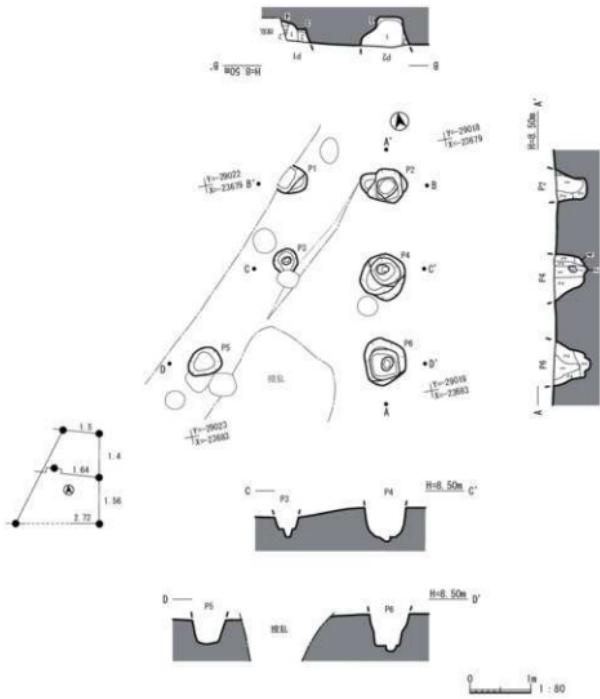


Fig.78 掘立柱建物 SB026 寒測図



(P1)

1. 黑褐色土 (10YR3/1)
2. 黑褐色土 (10YR3/2)
3. 黑褐色土 (10YR3/2)

(P2)

1. 黄褐色土 (10YR2/3)
2. 黑褐色土 (10YR2/3)
3. 黄褐色砂质土 (2.5YR3/2)

(P3)

1. 黑褐色土 (10YR2/3)
2. 黑褐色土 (10YR2/2)
3. 黑褐色土 (10YR2/2)

(P4)

1. 黑褐色土 (10YR2/3)
2. 黑褐色土 (10YR2/1)
3. 黑褐色土 (10YR2/2)
4. 黑褐色土 (10YR2/2)

Fig.79 挖立柱建物 SB027 実測図

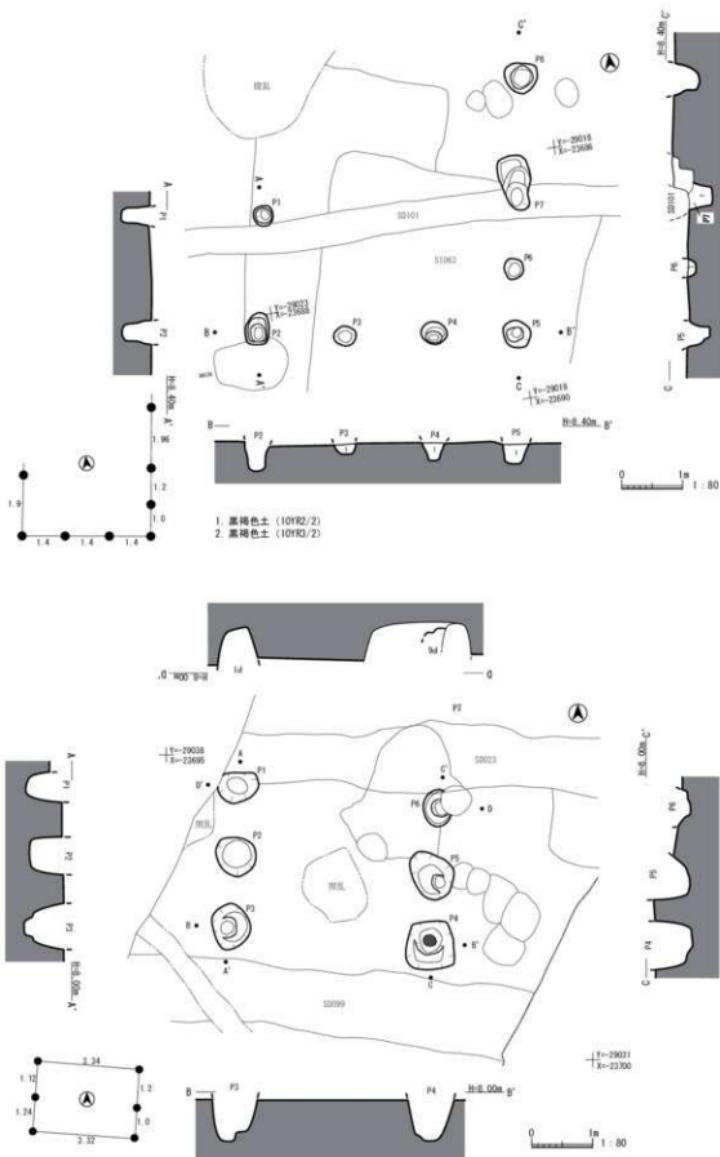


Fig.80 掘立柱建物 SB028 (上)・SB029 (下) 実測図

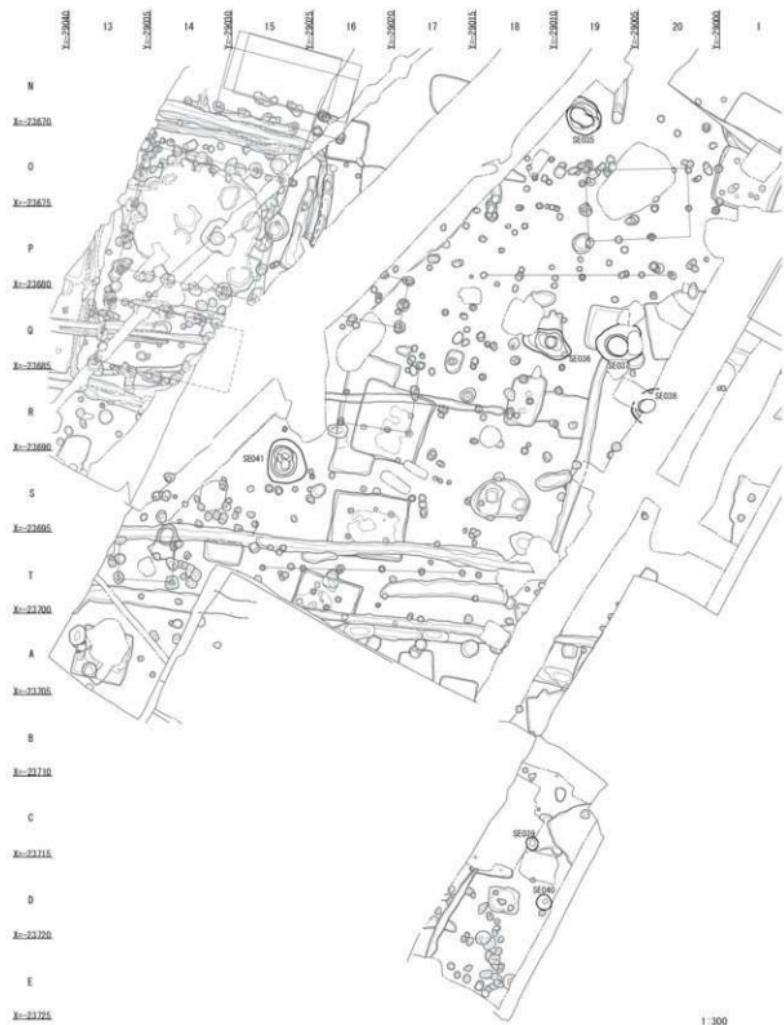


Fig.81 井戸 SE035～SE041 遺構配置図

井戸 SE035 (Fig. 82) 挖立柱建物 SB026 の北に位置する井戸。平面形は円形であるが、中間端付近で掘削面が脆弱であるためかやや乱れる。井戸本体となる中間端下で SE041 と同様に 8 字状に掘られる。上端径は約 2.1m 中間端付近で径 1.3m、井戸本体の掘形部で 1m を測る。調査は検出面から 1.4m にまで達したが、壁面の崩落が予想されたため途中で止めた。

井戸 SE036 (Fig. 83) 長楕円形の平面をもち検出された井戸。中央に井戸本体となる掘形をおき東西に段上の緩やかな傾斜をもつ。井戸へ降りていく際の段があったことが予想される。平面上端長径部で約 3.1m、約 2.7m、中間端付近で 70 cm を測り、最終的に 2.1m まで掘削した。このレベルで地下水が湧出しこれ以上の掘削は困難となる。井戸本体部は径 80 cm の円形で直垂に掘削される。

井戸 SE037 (Fig. 84) 楕円形の掘形をもち、緩やかな傾斜をしながら井戸本体の掘形へと移る。井戸は土坑 SK187 の上部から掘り込まれ遺構の端に SK187 の一角が残る。規模はおおよそ南北に約 2.4m、東西に 2.8m、井戸本体掘形は径 1.3m の円形となる。深度は 1.5m まで掘削し湧水のため調査を止めた。

井戸 SE038 (Fig. 84) 掘形上端から井戸本体部にかけ鉄道施設による掘削で全体形は把握できていない。おそらくは椭円形の上端であったと考えられる。井戸本体掘形は長径で 1.0m で、掘削は最終的に 1.8m にまで及んだ。

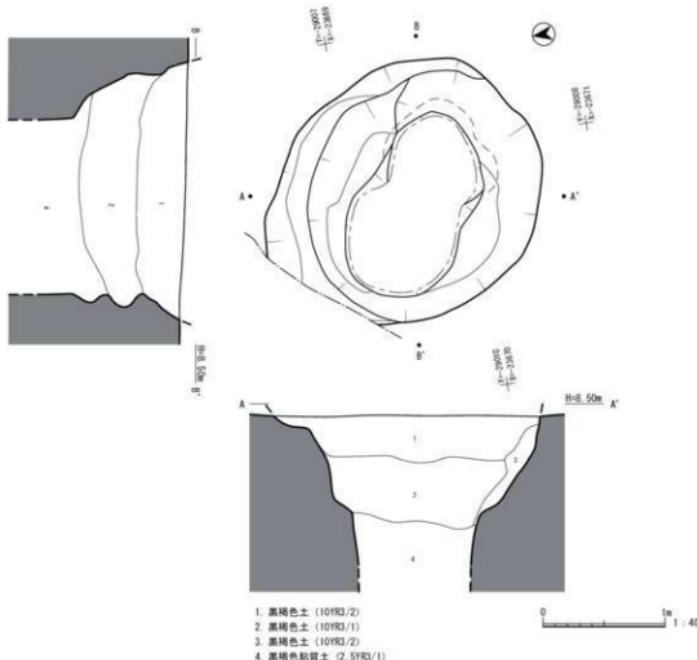


Fig.82 井戸 SE035 実測図

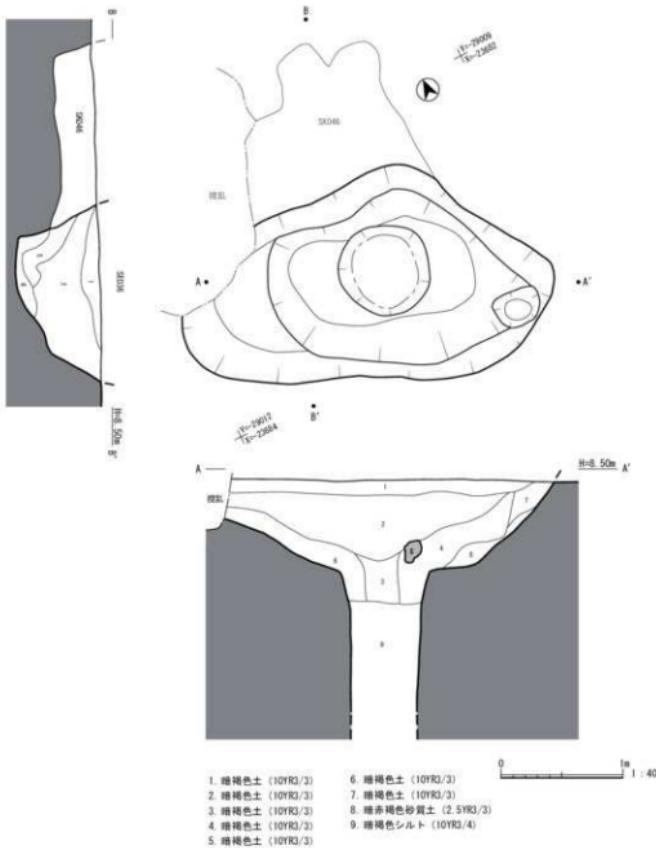


Fig.83 井戸 SE036 実測図

井戸 SE039 (Fig. 85) 井戸 SE036 の南に位置し上端に土坑状掘形を持たない井戸。平面上端は90cmを測り、一見土坑として調査を進めていたら深度が深くなり井戸となつた。断面における1層がわずかに横に広がる広がる。本体はやや下方に向かいすばりながら遺構底面へと伸び底面に至る。下端では径40cmを測る。

井戸 SE040 (Fig. 85) 周囲を鉛汚染土範囲に囲まれ、部分的に残された調査区に位置する井戸。平面形は円形で直径約90cm、遺構深度約1.7mを測る。遺構底面は他の井戸と違いU字状で平坦面は有していない。

井戸 SE041 (Fig. 85) (市) 村落内寺院とされる遺構の全面東に位置する井戸。平面上端で橢円形掘形を示し、中間端で8字状の掘形へと変化する。井戸本体は掘り返された結果、このような形状となったものと考えられる。中央には径が50cmから70cmの礫が3個入る。礫の下層からは水が染み出してきており井戸であったことが予想される。礫の下方は壁面が脆いことから掘削はしていない。土層の断面観察では1～5層まで埋まつたのち一時的に掘り返された可能性がある。規模は上端で長径約2.7m、掘削深度は約1.7mに及んだ。

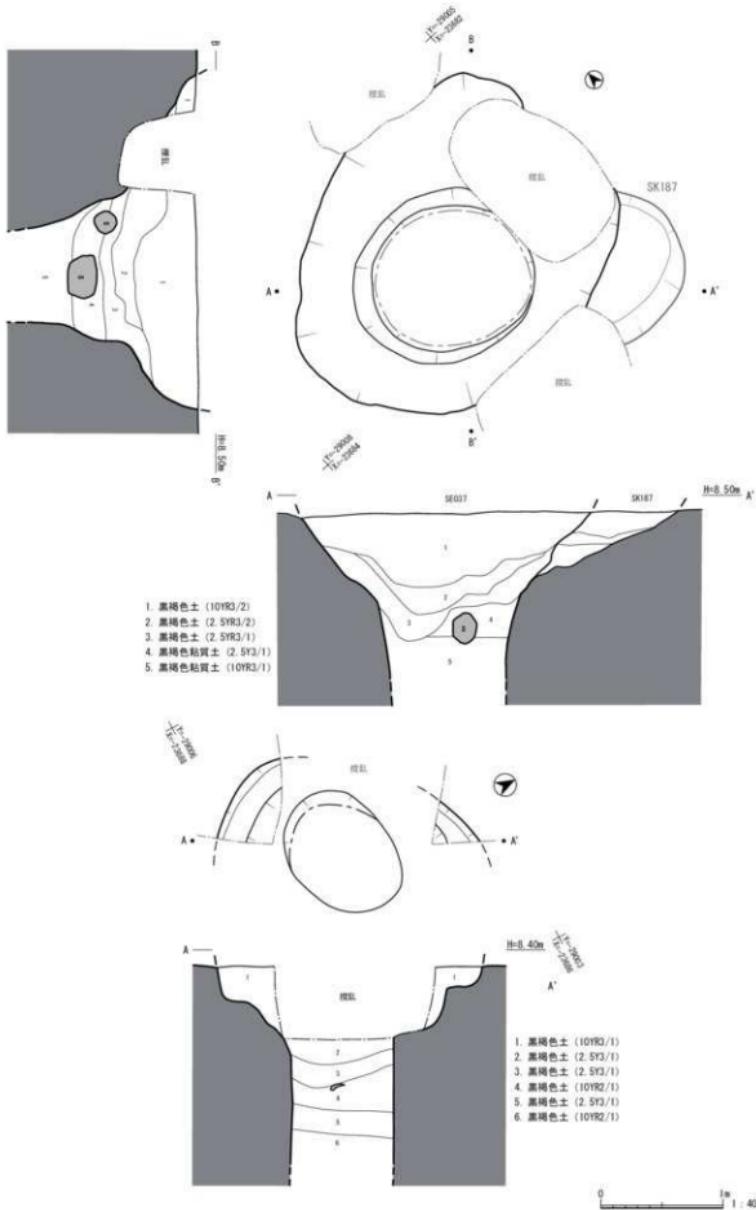


Fig.84 井戸 SE037 (上)・SE038 (下) 実測図

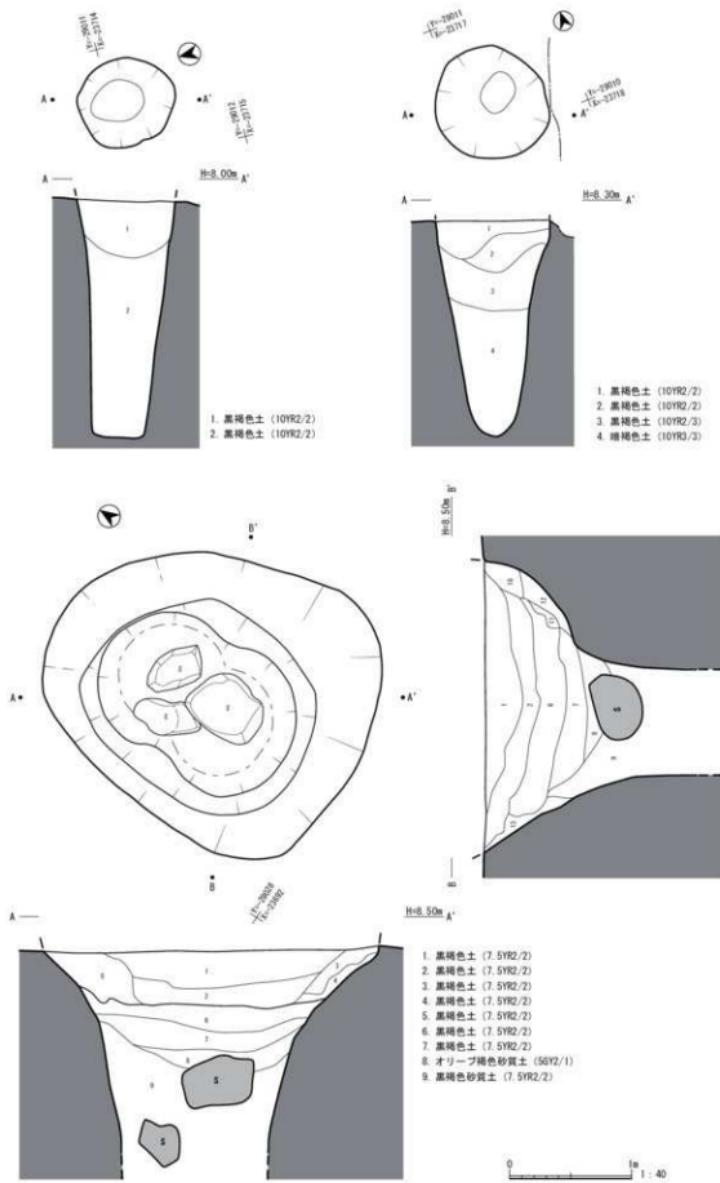


Fig.85 井戸 SE039 (左上)・SE040 (右上)・SE041 (下) 実測図



Fig.86 竪穴建物遺構配置図

堅穴建物 S1061 (Fig. 87) 熊本市教育委員会調査の「村落内寺院跡」北に位置するSB04の柱穴が遺構内に掘り込まれた堅穴建物。北西隅は鉄道施設に伴う掘削により消滅する。平面形は南北にやや長く長方形で、南北約 2.6m、東西 2.4m を測る。南東隅に作り付けカマドの煙道状の掘形が残る。床面下には貼床があり掘形部が残る。

堅穴建物 S1062 (Fig. 87) 他の堅穴建物と比べ小規模であることから土坑とも考えられたが、東辺中心に作り付けカマドが敷設されていること、下端中央付近に硬化面がわずかに残されていることから、これまでに報告してきた堅穴建物とやや用途に関しては違いがあるかもしれないが、堅穴建物として報告する。

規模はカマドが敷設されている東西約 2.5m (ヨコ)、南北約 3.1m、深度は約 20 cm を測る。遺構埋土は黒褐色土を主体としていることから、現遺構検出面である褐色土層の上層に当たる黒色土層からの掘り込みであることが窺える。このことから当初の遺構深度は約 50 cm 以上あったことが窺える。掘形は硬化面を検出した中心部から東側でわずかに確認できたが、そのレベルにおいても主柱穴等の遺構は検出されていない。

堅穴建物 S1063 (Fig. 88) 正方形に近い形状で検出した堅穴建物。遺構はいずれの角もほぼ直角で他に例のある隅丸形建物とは角度に違いを見せる。遺構上層からは掘立柱建物 SB028、溝 SD101 が切っているが、本遺構自体は土坑 SK203 を切っており、明確な切り合いによる時代差を示している。遺構規模は南北約 4.5m、東西約 4.3m を測る。遺構深度は現状で約 25 cm から 30 cm で、埋土の主体をなす埋土が黒褐色土で検出面としている褐色層上層の土であることから、遺構深度は少なくとも約 50 cm 以上の掘り込みがあったことが窺える。遺構床面には中央付近に硬化面が南北に広がった状態で残る。しかし、残存状態は悪く遺構内空間利用を想定できるまでには至っていない。床面下には掘形を最深部で約 5 cm の深さで確認した。主柱穴等は掘形面まで掘り下げたのちも確認できていない。

堅穴建物 S1064 (Fig. 89) 本遺跡のなかでは稀にみる残りの良さを保つ堅穴建物である。端正な方形堅穴建物で隅は丁寧に直角に掘り込まれる。床面下端の内側から貼床が施された掘形となる。掘形底面は下層の砂岩質の層に達しているため凸凹な面となる。床面上には主柱穴が 4 本と支柱と見られる小柱穴が 1 基確認される。硬化面は 4 本の一部を巻き込みながら柱内部空間に達する。主柱穴は遺構平面が方形掘形で中間端を持ち、下端へと至る。堅穴建物の柱穴としては方形掘形を持つなどここでも他とは違う作りとなっている。規模は、南北約 4.1m、東西約 4.6m を測る。

堅穴建物 S1065 (Fig. 90) 遺構の約半分が調査区の外へと延び検出した遺構。東西に延びる溝によりさらに切られる。本遺構も堅穴建物 S1064 と似た作りで肩を張る隅をもち、方形の掘形を持つ主柱穴により構成される。北辺には作り付けカマド跡が中央に大きな掘形をもち残る。燃焼面、煙道部とも掘形でしか確認できていない。床面には硬化面が広がるがカマド周辺にまでは広がっておらず、貼床直下は約 10 cm の深さをもち掘形底面に至る。規模は全体が分かる東西で約 3.9m、南北は 2.57m 以上 (付帯柱穴を含む) を測り、主軸はカマド中心をとおる軸線上で N-19° -N を示す。

堅穴建物 S1066 (Fig. 90) 遺構の真上に大きな擾乱が掘り込まれ遺構中心部の詳細は確認することはできない。西側中央部に作り付けカマドが煙道部張り出しと並びに炉体袖部を残し良好な状態で検出できた。また、南辺中央にも煙道張り出しと見られる部分が見られ、作り替えの可能性がある。主柱穴は擾乱により消滅している。硬化面はカマド部の対となる東側壁際下まで広がり、ほぼ遺構の中央部に広がっていたものと考えられる。規模は東西約 3.6m (付帯柱穴を含む)、南北約 3.2m を測り、カマド中心部をとおる軸線を主軸とすると N-72° -W を示す。

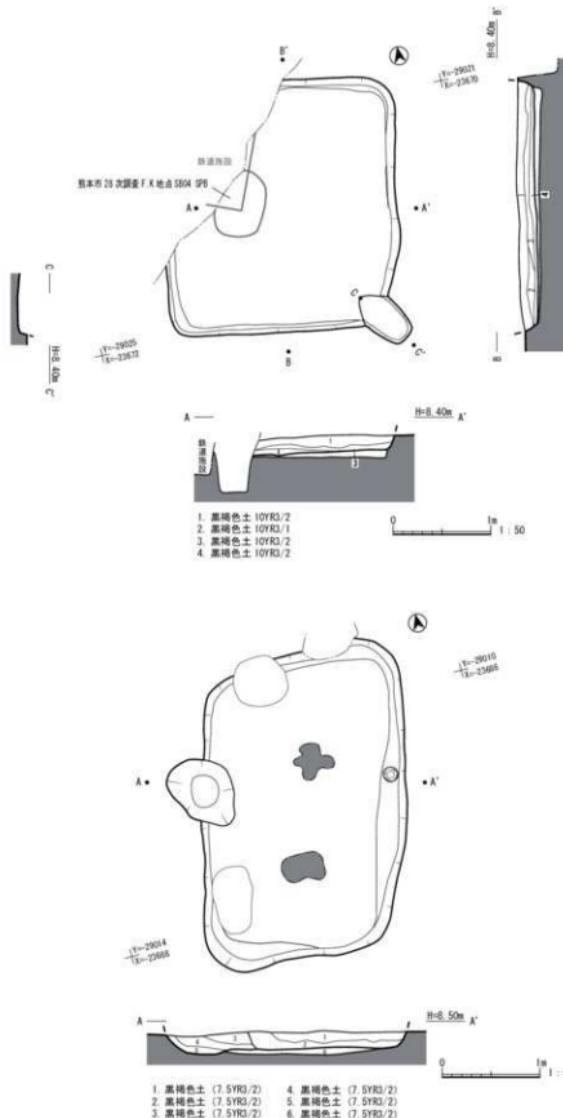


Fig.87 竪穴建物 SI061 (上)・SI062 (下) 実測図

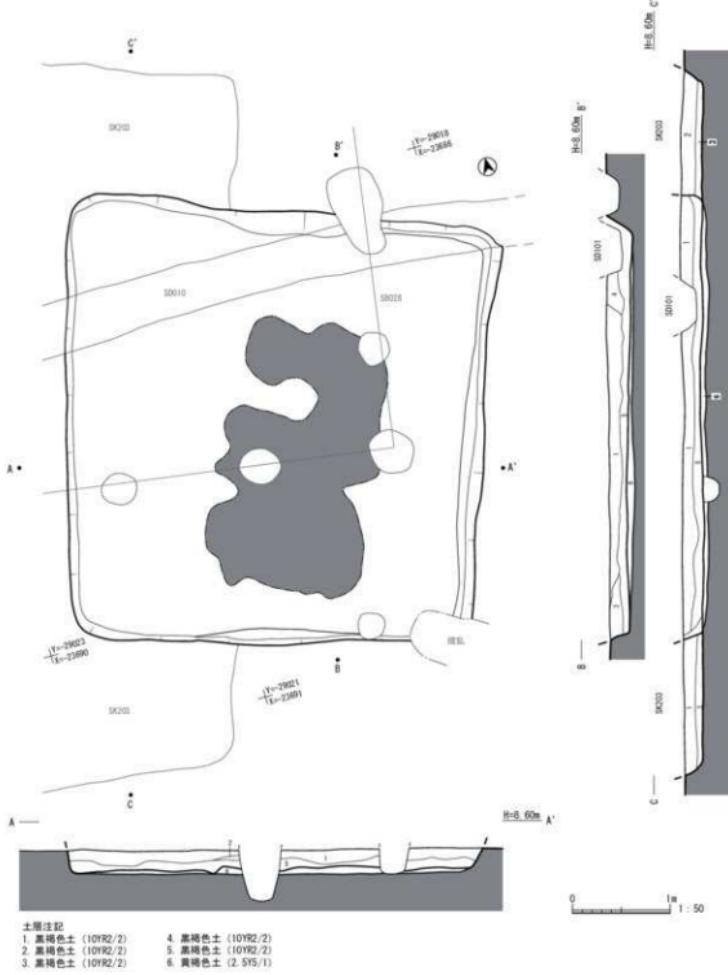


Fig.88 積穴建物 SI063 実測図

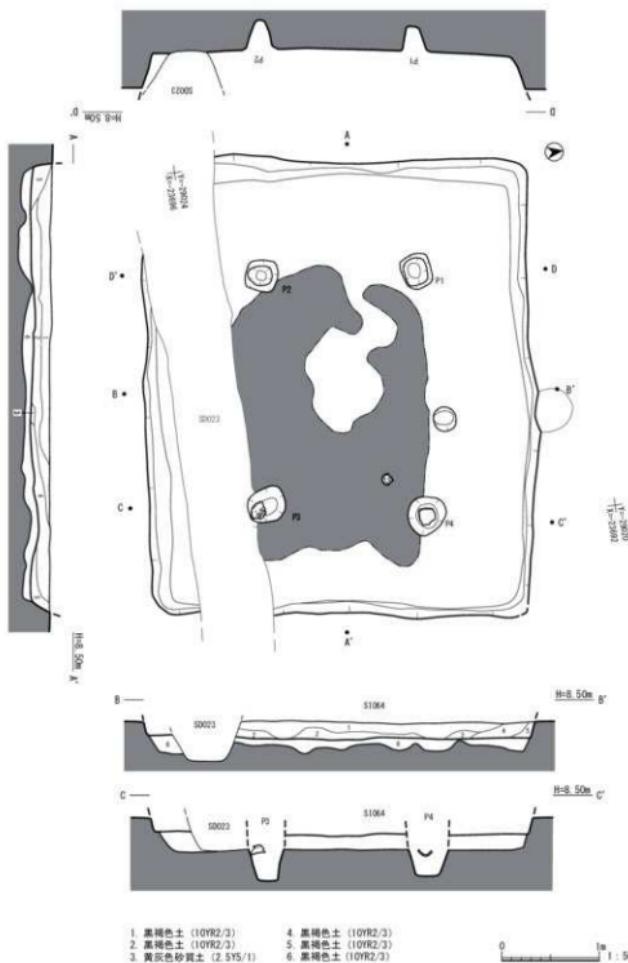


Fig.89 穹穴建物 SI064 実測図

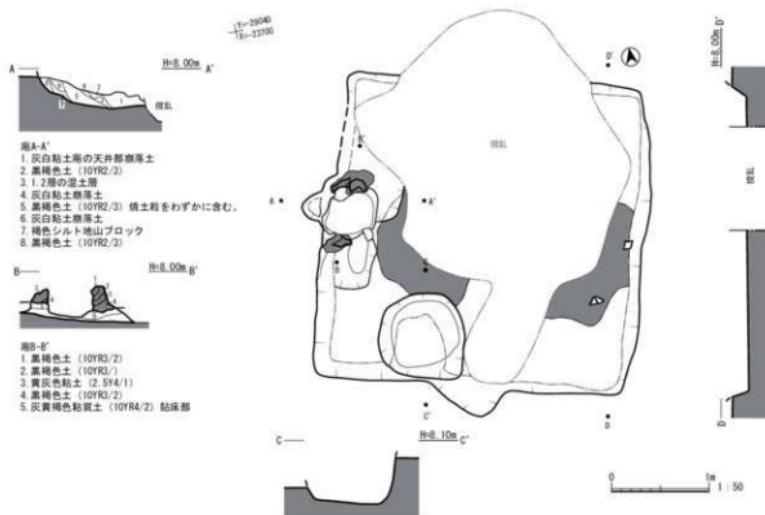
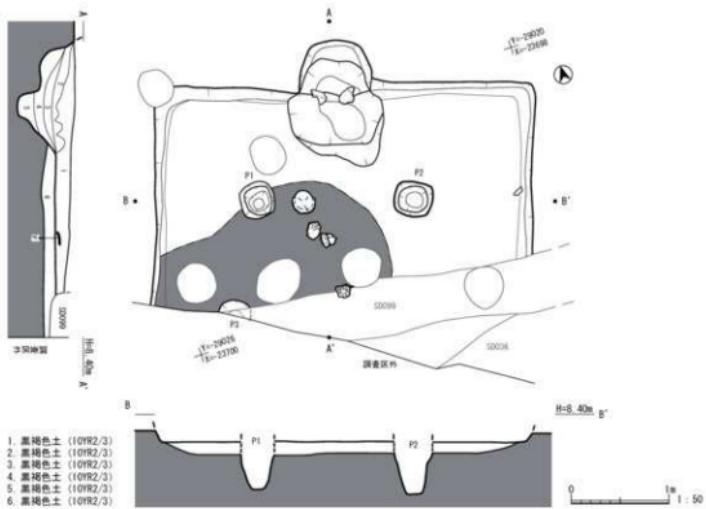


Fig.90 竪穴建物 SI065 (上)・SI066 (下) 実測図



Fig.91 柵列 SA019・SA020、掘立柱建物 SB030～SB033、井戸 SE042～SE053 遺構配置図

この地域では、熊本県で調査を実施した範囲と、調査を委託し大成エンジニアリング㈱が調査を実施した範囲が一部混在する。以下に報告する遺構のうち掘立柱建物 SB032、井戸 SE042・SE043、廻穴建物 SI075 から SI084 までは大成エンジニアリング㈱が調査を実施し、他の遺構は県が調査を実施している。

掘立柱建物 SB030 (Fig. 92) 本遺跡中で最も大きな掘立柱建物。南北 6 基・5 間、東西 4 基・3 間からなる。梁行 3 間・約 5.9m (約 20 尺)、桁行 6 間・約 9.8m (約 33 尺) で、掘立柱内部の面積は約 57 m² を測る。各柱穴は大半が方形掘形を持つが一部に円形もしくは橢円形掘形を見せてているものや中間端・下端付近で方形のものもあることから、当初は方形か隅丸方形掘形であった可能性が高い。柱穴の埋土の主体となる黒褐色土は検出層となってる褐色土層上層の黒色土からの土であることから、遺構掘削深度は現在のレベルより約 50 cm 近く上であったと考えられる。

本遺構を中心に周辺の遺構を概観すると、柵列 SA019、SA020 が遺構を挟んで南北側に位置していることが見て取れる。柵列 SA020 は掘立柱建物 SB030 南側に梁行に沿って平行に位置し、柵列 SA019 も北側に沿い検出配置され、位置関係からおそらく、当初から SB030 に伴う柵列として設置されたものと考えられる。

掘立柱建物 SB031 (Fig. 93) 遺構の二方向が調査区外、西側一方が鉄道施設により切られている掘立柱建物。鉄道施設を介して熊本市調査箇所とも接する。遺構は南北に 3 基・2 間、東西に 2 基・1 間でしか検出できていないが、主軸がほぼ南北軸にあたり、これに類する掘立柱建物が存在することから本来は梁行 2 間、桁行 3 間からなる掘立柱建物であったころが窺える。各個の柱穴掘り込みは現況では隅丸方形から円形に近いが、掘削時の掘形は中間端や下端のあり方から方形掘形であった可能性が高い。本遺構に伴う柱穴は周辺の柱穴に比べ径は大きく下端までの掘形はしっかりとをしている。遺構規模は残存状況では 3 基・2 間間南北約 4.9m (約 16.5 尺)、2 基・1 間間東西約 1.8m (約 6 尺) を測る。

掘立柱建物 SB032 (Fig. 94) 東西方向に主軸を有し検出した掘立柱建物。調査区の際で検出していることから全体を検出したものではないため、調査時に検出した 2 間 × 2 間の規模が当初からだったのかは分からぬ。柱穴平面形は丸みを帯びるものも見られるが中間端では方形をしていることから、本来は上端でも方形の掘形をしていたものとみられる。現状での規模は東西に 3.84m (約 13 尺)、南北 2.92m (約 10 尺) を測る。柱穴間は南北間より東西間約 40 cm から 50 cm 長い。

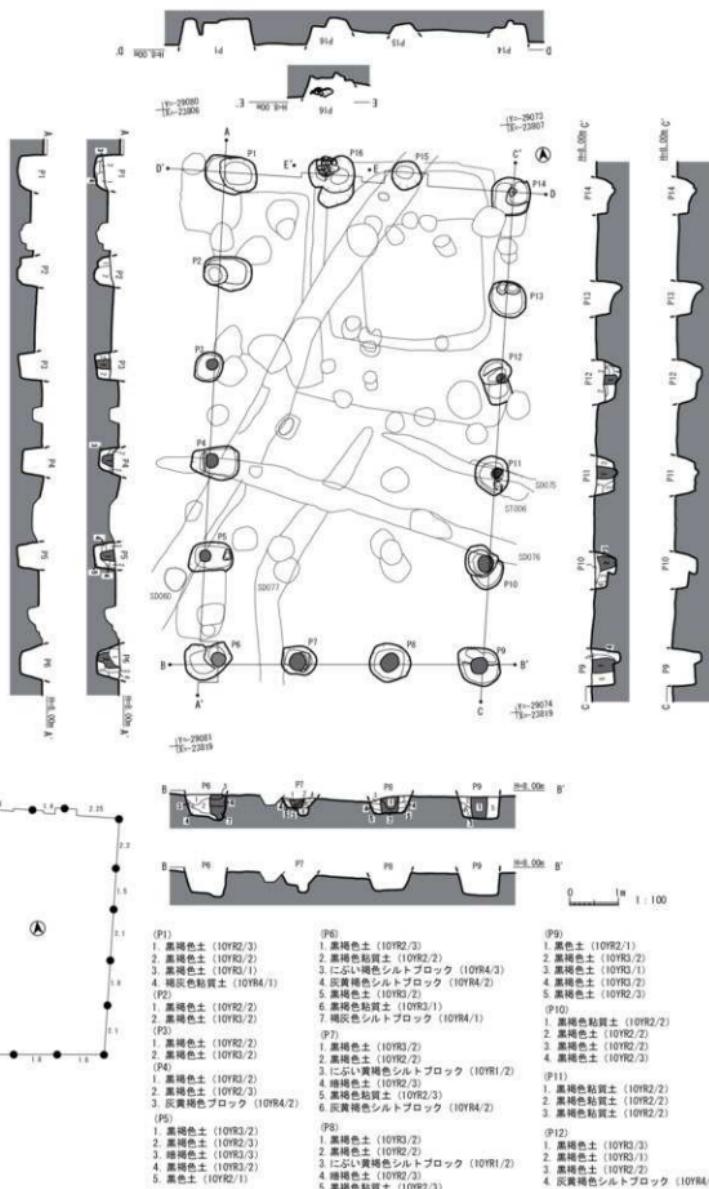


Fig.92 挖立柱建物 SB030 実測図

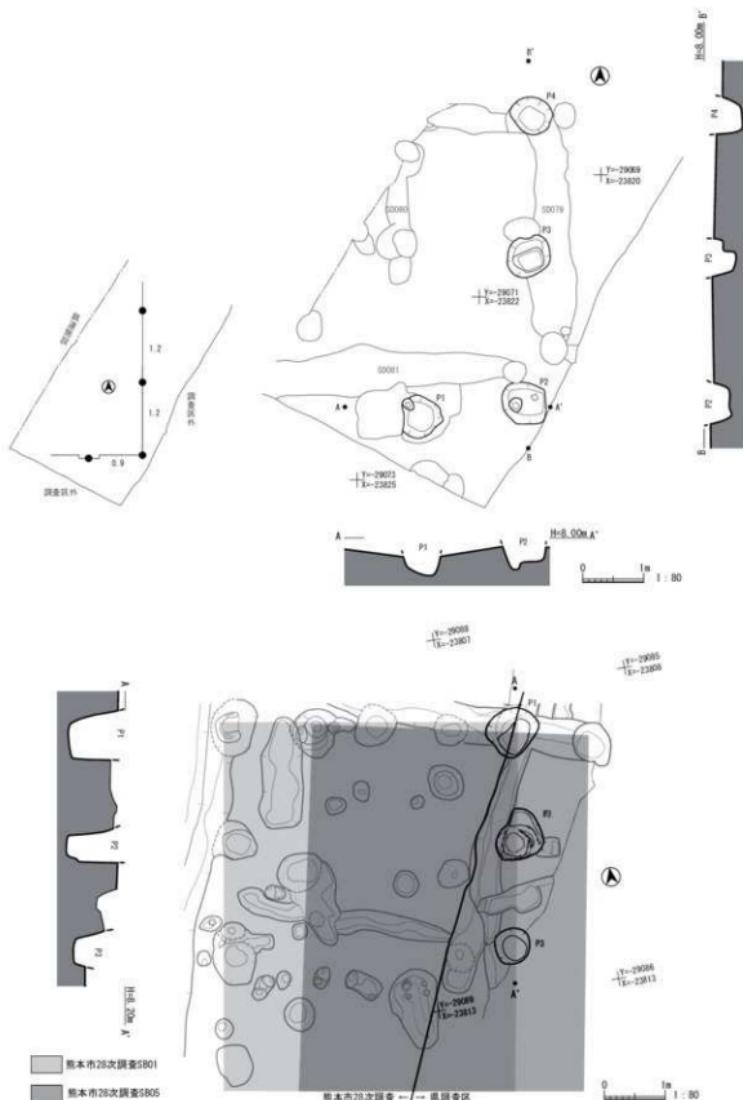


Fig.93 据立柱建物 SB031 (上)・SB033 (下) 実測図

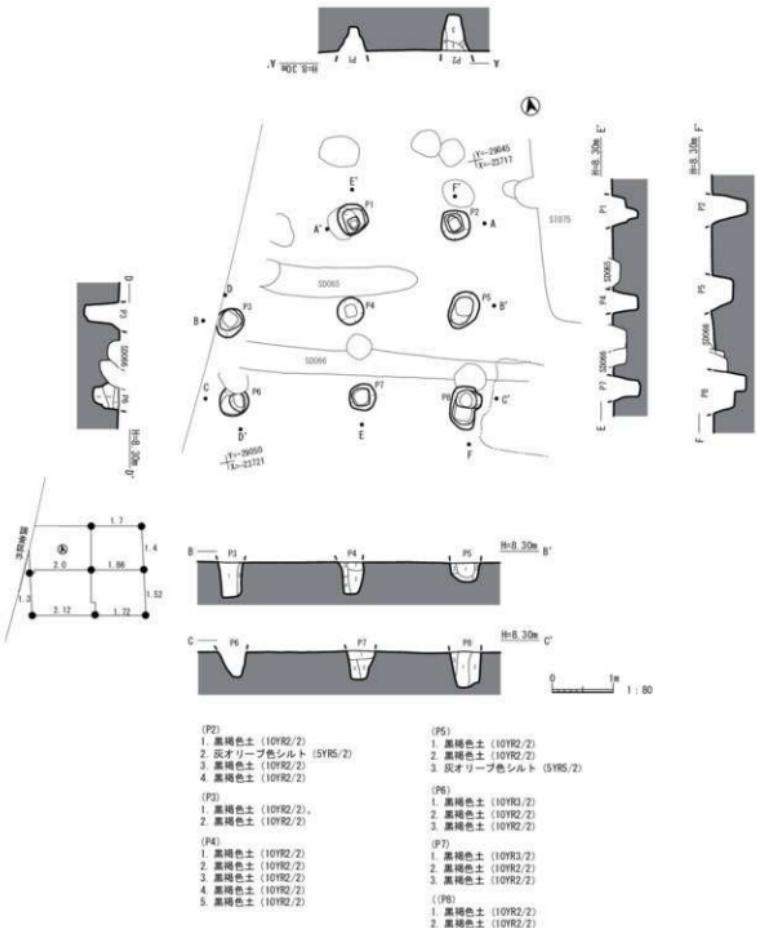


Fig.94 挖立柱建物 SB032 実測図

掘立柱建物 SB033 (市SB01)・市SB05 (Fig.93) 熊本市調査のG地点 125B・C・D-2・3 Gridで検出されている市SB01の東側柱列のうち3基にあたる。遺構の大半が熊本市側に位置することから熊本市報告書中記載を参考にすると桁行4間以上、梁行2間の南北棟と推定される。柱穴掘形は1基あたりの掘形が径約80cmと大きく掘立柱建物SB030と規模は変わらない。主軸はN-10°-Eで掘立柱建物SB030と平行に立つ建物といえよう。

井戸 SE042 (Fig. 95) 壁穴建物群が検出されているなかで検出した井戸。基本的に、壁穴建物→井戸の切り合いを示す。本遺構は、平面形は円形で柱間に段を有し、その後垂直に底面へと延びる。壁面の崩落の危険性があつたことから下端までは至っていない。遺構掘形は、中間端以降は緩やかな隅丸方形掘形へと変化している。規模は平面断面部で約 1.5m、掘削深度は 1.8m を測る。

井戸 SE043 (Fig. 99) 壁穴建物 SI081 の遺構上から掘り込まれている井戸。削平率が大きいためか上端付近にある土坑状の掘形は残っていない。平面形はほぼ円形で中間端を上端より約 80 cm 下に持ち、深度 1.6m まで掘削している。上端幅は約 70 cm で底面（下端）幅は約 40 cm を測る。

井戸 SE044 (Fig. 96) 新幹線工事が始まるまでレンガ作りの機関車倉庫が建てられていた場所にあたり、機関車台車点検のためのピットが深く掘り込まれていた場所である。そのため、周辺にくらべ全体に掘り下げられ遺構の残りは悪い。本遺構を検出した部分も周囲が削平され、かろうじて井戸、墓、柱穴を確認するに止まった。本遺構は井戸屋形など関連する柱穴等は確認されていない。規模は、掘形上端南北側で約 1.8m、中間端までの深度 60 cm、底部までの深度が 2.2m、底部径 50 cm を測る。

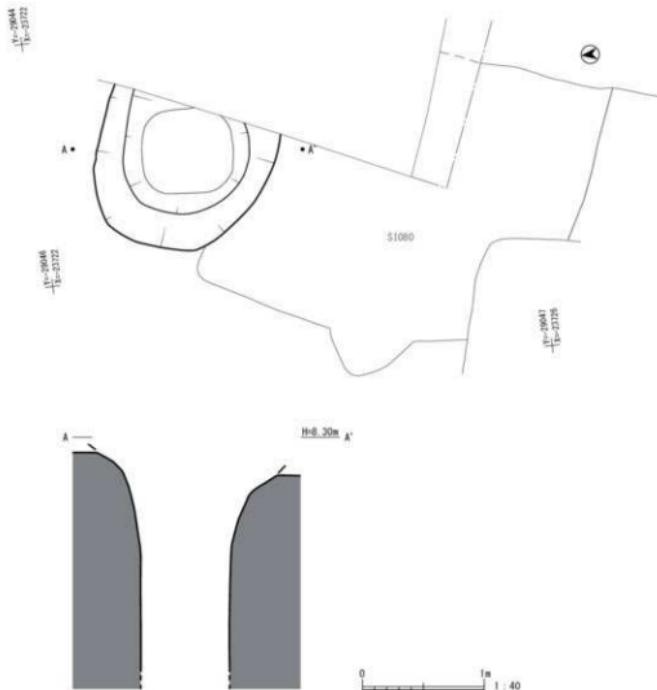


Fig.95 井戸 SE042 実測図

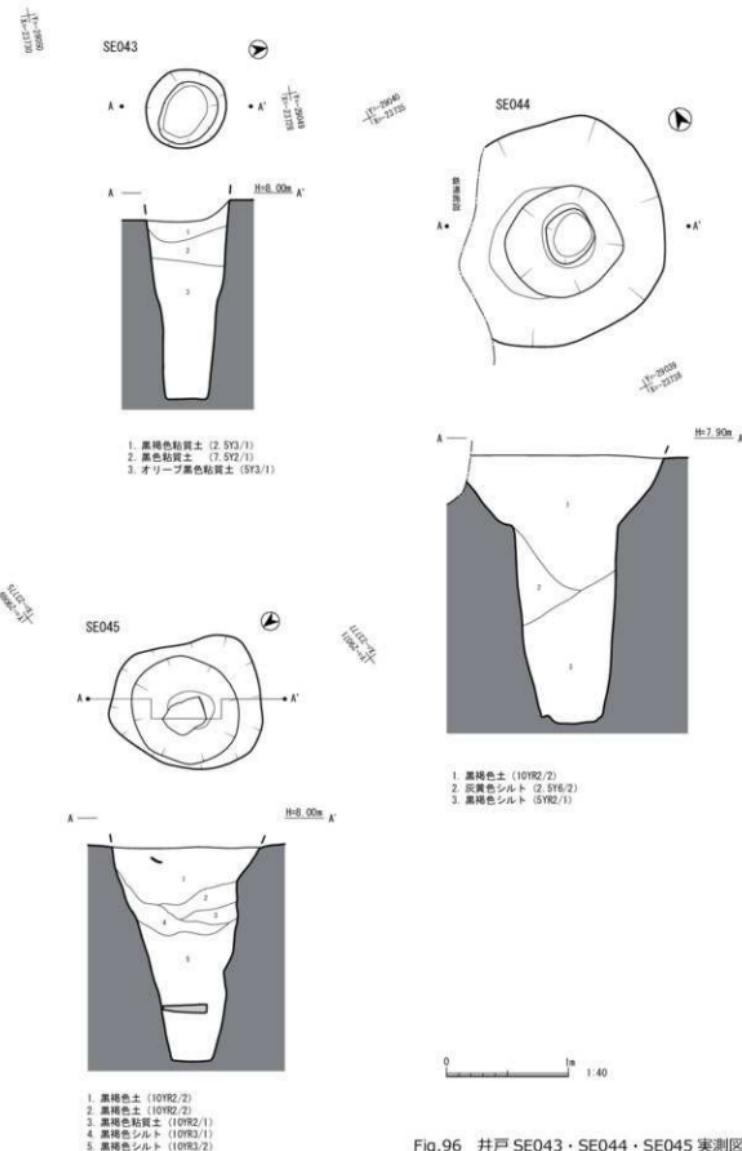


Fig.96 井戸 SE043・SE044・SE045 実測図

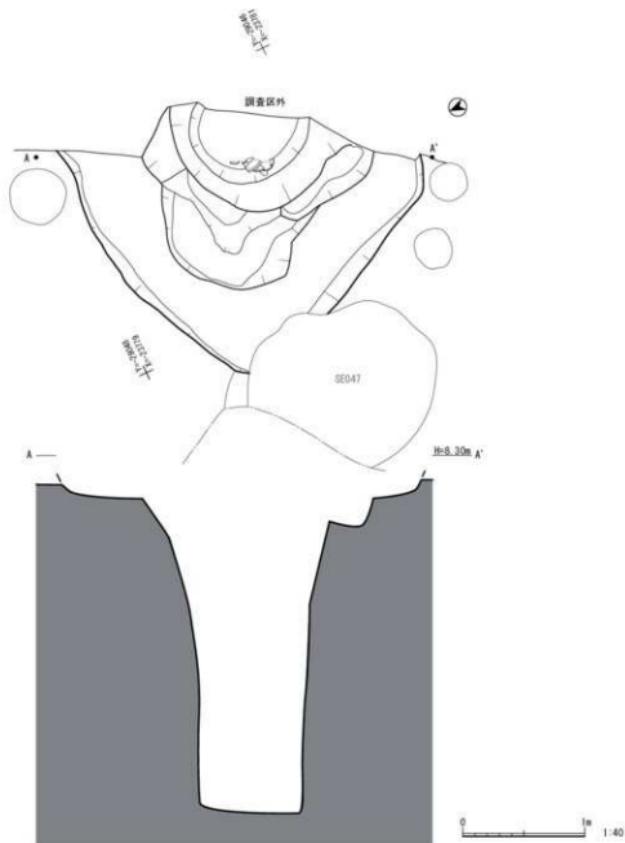


Fig. 97 井戸 SE046 実測図

井戸 SE045 (Fig. 96) 市調査箇所に近く井戸 SE046 と並び検出した井戸。平面形は不整形な円形で検出面から約 30 cm 下で中間端を持つ。平面径は最大で約 1.3m、総深度 1.7m、下端径は 35 cm を測る。検出面から約 1.3m の底面に近い埋土中より板状の石が水平に置かれた状態で出土している。大きさは径 40 cm、厚さ 8 cm から 10 cm を測る。板状石の意味するところは分からぬが、水平を保っていることから井戸廃棄時に入ったものと考えられる。

井戸 SE046 (Fig. 97) 検出した範囲では、方形掘形をもち中央にやや不定形ながらも井戸本体を持つ井戸。西側約半分が調査区に広がる。中心部の井戸本体は円形をしており、その外縁部のみのがいびつな形状をする。本体埋土上面には土師器杯、須恵器高台付杯、黒色土器a類等が出土していることから9世紀中ごろの遺構であろう。

井戸 SE047 (Fig. 98) 積穴建物群に隣接し、井戸 SE046 と隣接する井戸。平面はほぼ円形で鉄道施設により一部が削平される。平面形は梢円形で、中間端から底部にかけて円形となる。土層断面からは、浅い方から

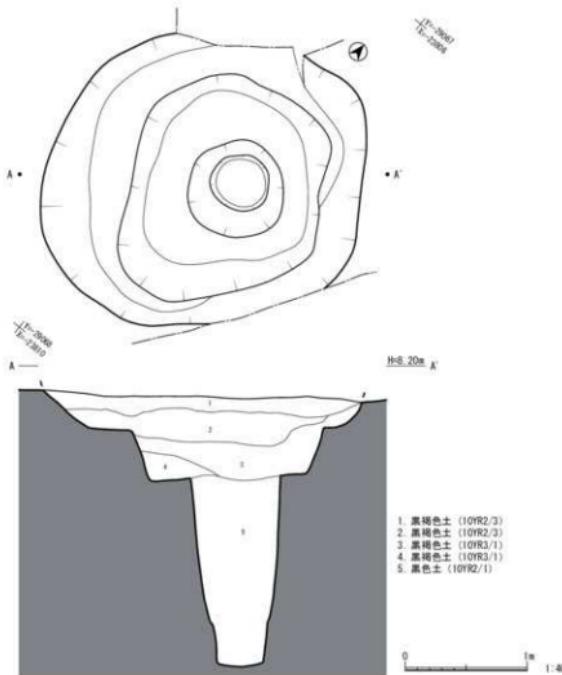
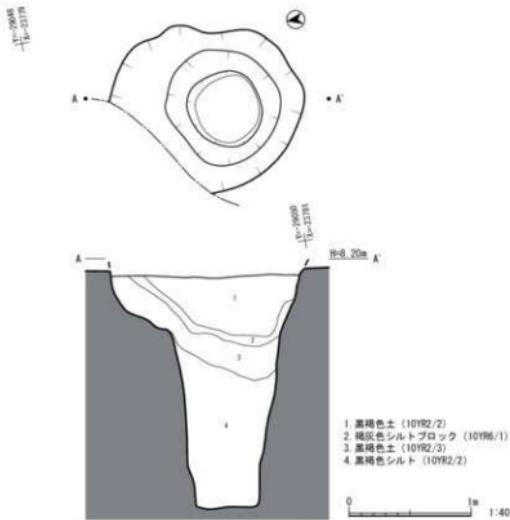


Fig.98 井戸 SE047(上)・SE049(下)実測図

深い方へと土砂の流れ込みがみられることから、放棄されたのち自然堆積による埋没過程を辿っていることが窺える。規模は上端長径で約1.6m、中間端までの深度60cm、中間端径は90cm、総深度は1.9m、下端径は50cmを測る。井戸本体部としては大きい部類に入る井戸であろう。

井戸 SE048 小規模であり下端までは到達できなかったことから個別図としては図示していない。調査区の際に位置し、上端が市調査区に入る。

井戸 SE049 (Fig. 98) 2段の掘形をもつ井戸。平面形は不整形ではあるが、中間端で隅丸方形気味となり井戸掘形で円形となる。掘形段は井戸掘形を巡り丁寧な作りとなる。上部から1段目(上端)径は約2.6m、2段目上端で1.60m、2段目掘形下端で1.3mを測る。また、1段目掘形深度は約30cm、2段目掘形は40cm、で井戸底面までの総深度は約2.2mを測る。井戸底面から約30cm上でややくびれる。

井戸 SE050 (Fig. 99) 南側に2段の掘形を持ち検出した井戸。北側壁は角度が変わる変化点をもつが段是有していない。規模は上端長径で約1.7m、掘形深度は1段目約40cm、2段目40cm、井戸本体1.3m、総深度約2.1mを測る。

井戸 SE051 (Fig. 99) 先に記述した近世溝により上部を掘削され検出した井戸。円形で中間端から下端まで円形の掘形をもつ。規模は平面で約1.0m、中間端までの深度は40cm、総深度は1.7m、底面径は20cmを測る。

井戸 SE052 (Fig. 100) 楕円形の平面形で東西に長軸をおく。井戸掘形は上端から垂直に掘り込まれ約70cmの深さで1段からなる。井戸本体の掘形は長軸方向に長方形をしており、底面で不整形な円形となる。井戸本体部の深度は1.7mで掘形までいれて総深度は約2.4mを測る。

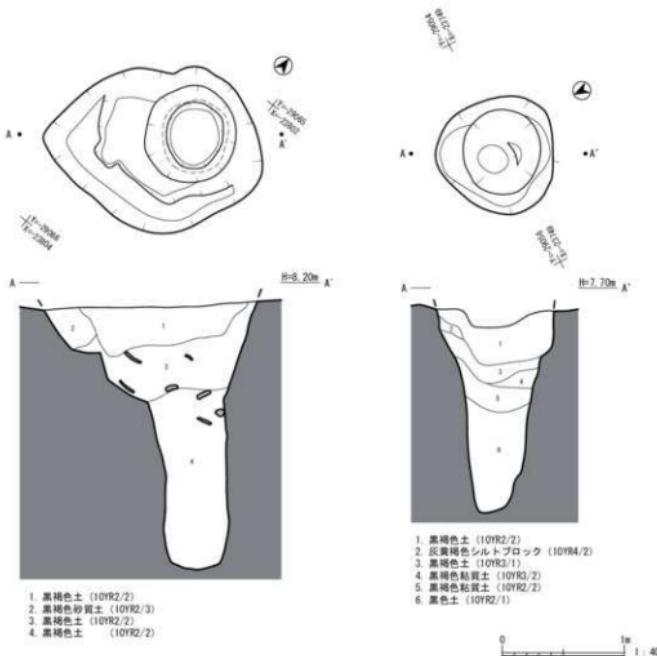


Fig.99 井戸 SE050 (左)・SE051 (右) 実測図

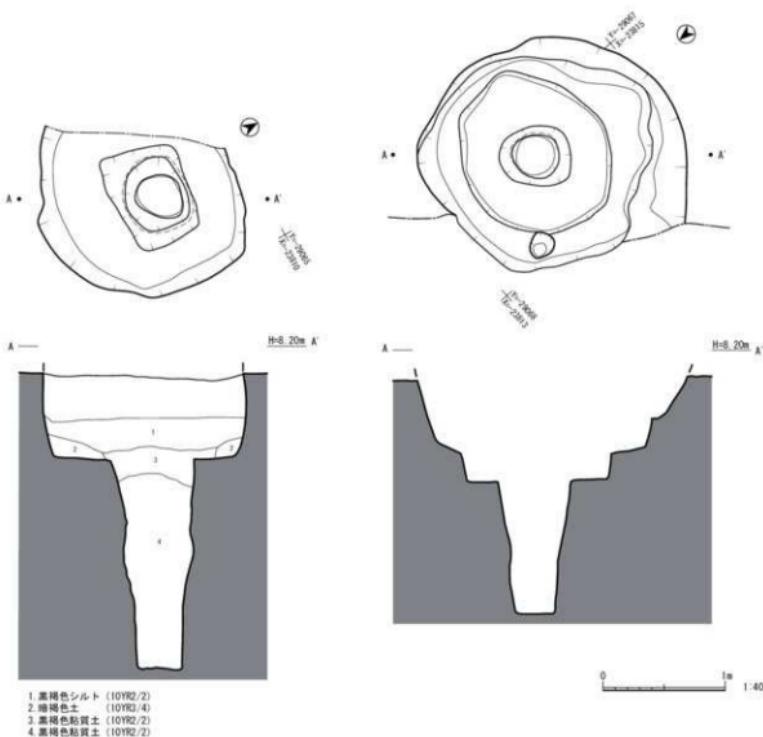


Fig.100 井戸 SE052 (左)・SE053 (右) 実測図

井戸 SE053 (Fig. 100) 井戸の作りのなかでもっとも丁寧な掘形を持つ井戸。溝 SD025 を切る状態で検出している。井戸本体は3段の掘形からなり中心の井戸本体へといたる。上端径は約 2.2m、1段目下端 1.9m、2段目下端 1.5m、3段目下端 1.1m、1段あたりの深度は約 20 cm から 30 cm、井戸本体は上端径 60 cm、底面 30 cm、総深度約 1.9m を測る。1段目平坦部に柱穴痕が 1 基検出でき、井戸屋形を構成していた柱の一部である可能性もある。



Fig.101 積穴建物 SI075~SI118 遺構配置図

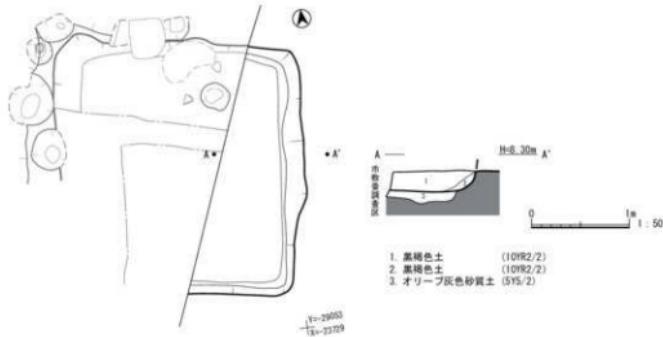


Fig.102 壁穴建物 SI086 実測図

壁穴建物 SI082 (Fig. 101) 2軒の壁穴建物に切られ検出した遺構。規模は長軸となる東西に約4.2m、南北に約3.2mを測る。主軸は長軸となる軸をもとに設定するとN-75°-Eを測る。

壁穴建物 SI084 (Fig. 101) 遺構の中心にトレンチを設定しているため、遺構内の詳細が消滅している部分がある。主柱穴、硬化面等は検出されていない。平面形はやや不整形であり上端両端が平行には検出できておらず、壁穴建物と報告するには所見が乏しい感は否めない。しかし、規模が南北約2.8m、東西約2.9mと周辺で検出されている小型の壁穴建物に近いことから壁穴建物として報告するのが適当と判断した。主軸は長軸となる軸からみるとN-82°-Eを示す。

壁穴建物 SI086 (Fig. 102) 熊本市調査のなかで一部を検出・調査された壁穴建物。全体面積の約1/3が当調査区内にあたる。遺構内には柱穴群が多数上部から掘り込まれており、遺構上端の検出を難しくしている。作り付けカマドは熊本市調査区側にある。貼床下からは一回り小さな掘り込みで掘形が検出された。

壁穴建物 SI087・SI088・SI089 (Fig. 103) いずれの遺構も遺構北辺中央に作り付けカマド掘形を残す。壁穴建物 SI087はカマド煙道部先端で壁穴建物 SI088を切ることから、壁穴建物 SI087→SI088の時期差を示している。平面形は東西に広く長方形で当遺跡中で他には例をみない形をしている。カマド掘形わきには炉体の一部であるとみられる白粘土の一部が残る。規模は南北約2.1m(推定)、東西約2.2m(推定)を測る。遺構内には主柱穴、硬化面等は検出していない。壁穴建物 SI088は壁穴建物 SI087よりも規模が大きく、平面形は正方形となる。北辺中央に作り付けカマド煙道部掘形が延び、前面に燃焼部掘形を持つ。壁際立ち上がり部には一部に周壁が残る。遺構の左右に柱穴を配するが、主柱穴または本遺構に伴うものかは分らない。規模は南北約3.1m(推定)、東西約2.4m(推定)を測る。主軸は2基ともN-10°-Eを示す。壁穴建物 SI089は東西に長径を持つ壁穴建物。平面形は東側2角は方形、西側は1角は削平を受け消滅しているが1角は隅丸方形となる。方形ではあるがややいびつな感じを受ける。床面には硬化面が発達し遺構下端直下まで及ぶ。柱穴は硬化面上で検出したものを図示したが、主柱穴を構成するような柱穴は確認できていない。北側壁際には灰の集中区を確認した。焼土は粒状に残るが大半は削平されたかのように薄い。硬化面下には貼床部が存在し、剥いで掘形のみにすると壁沿いに周溝が巡ることが判明した。しかし、その用途は不明である。

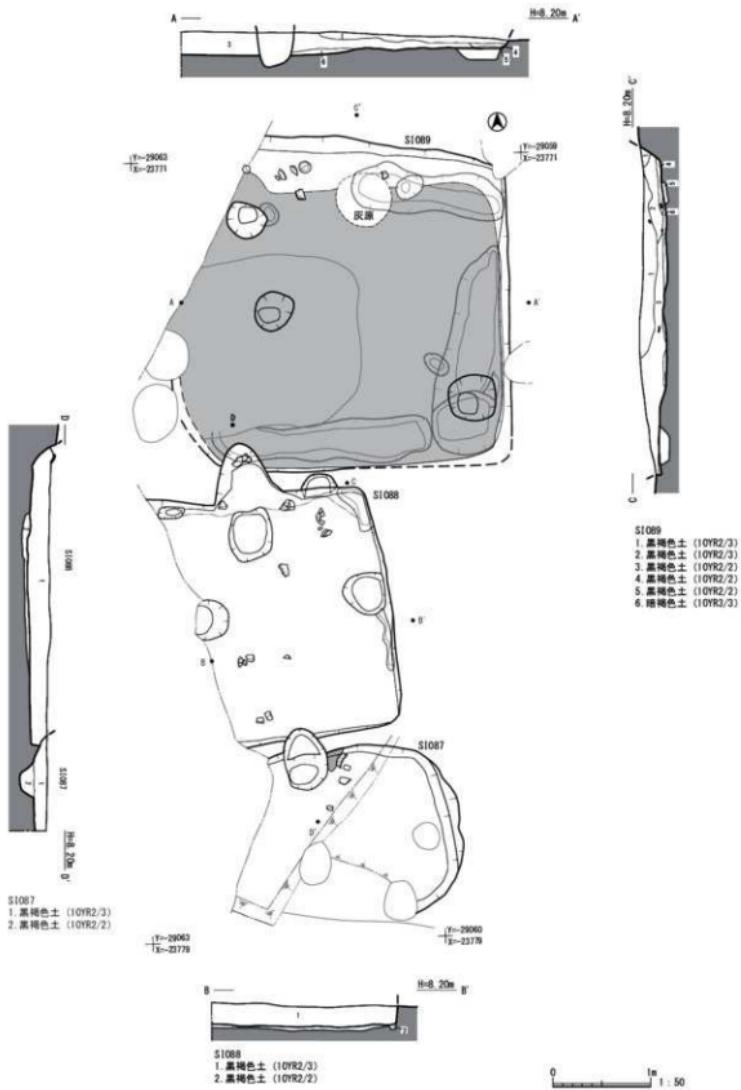


Fig.103 竪穴建物 SI087・SI088・SI089 実測図

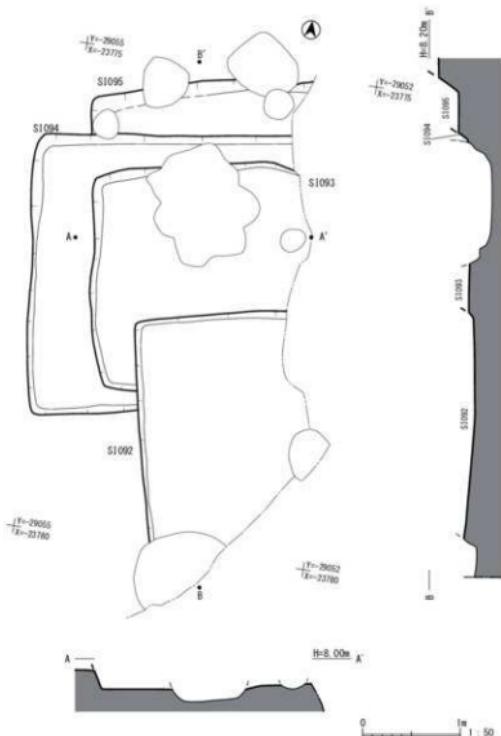


Fig.104 竪穴建物 SI092~SI095 実測図

堅穴建物 SI092・SI093・SI094・SI095 (Fig. 104) 4軒の堅穴建物の切り合いからなる遺構群。遺構規模、掘形の特徴から堅穴建物 SI092 → SI093 → SI094 → SI095 の連続性を見ることができよう。すべて規模をみることはできないが、堅穴建物 SI093 の南北で約 2.28m、堅穴建物 SI094 の同じく南北で約 2.86m を測る。作り付けカマド、主柱穴、硬化面等の住居内遺構はいずれにおいても検出していない。

堅穴建物 SI101・SI102 (Fig. 105) 2軒の堅穴建物が寄り添い切り合う遺構。堅穴建物 SI101 は遺構北辺中央に作り付けカマドの掘形を円形に残す。煙道部は削平のため残らない。南辺中央には階段状のステップが一段残り硬化面等は確認できていないが、入口であった可能性が高い。主柱穴は小柱穴 4 基（「主柱」は「主柱」からなるものとみられる）。遺構規模は南北約 4.1m、東西約 4.2m を測り、主軸は N=13° -E を示している。貼床下からは掘形を検出しており、中心部が高く周辺部にかけて溝状の掘り込みとなっている。堅穴建物 SI102 は東側 1/3 が切られるとともに、溝、土坑等の後世の掘り込みが多いことから詳細は分からぬところが多い。主柱穴は南壁に沿い 2 基検出しているが他は未検出である。作り付けカマドは土坑 SK211 により切られ残っていない。床面は掘形はない。

堅穴建物 SI104 (Fig. 106) 端正な掘形をもち検出した堅穴建物。四隅は角が立ち丸みを帯びない。主柱穴は小柱穴が 4 基遺構中心部に並び、その内部に硬化面がカマド前面から両サイドに向かって発達する。北辺中

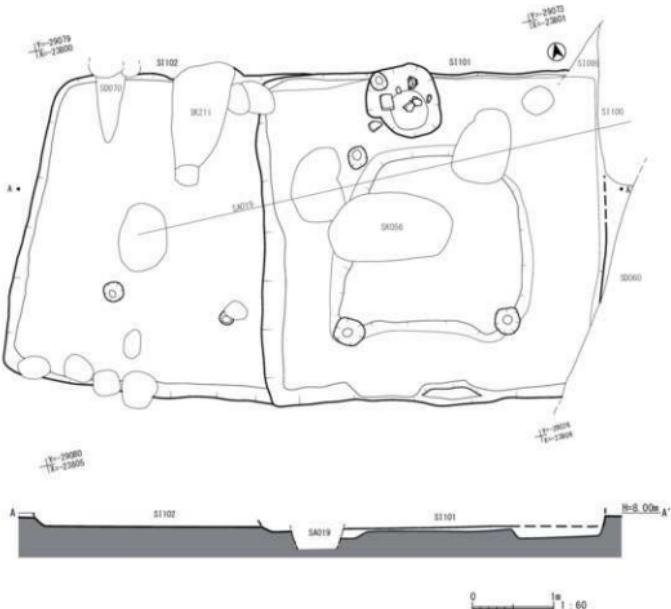


Fig.105 竪穴建物 SI101・SI102 実測図

央に作り付けカマドが作られるが、炉体に関する部分は基底部となる両袖部のみである。あとは、周囲に炉体に使われていたとみられる白粘土塊と土坑状の掘形のみである。掘形中央には小型の甕が1個横倒しの状態で検出している。貼床下の掘形はわずかに中央部が高く壁に向かいや下がる。

竪穴建物 SI111・SI112・SI113・SI114 (Fig. 107) 4軒の切り合からなり検出した竪穴建物群。規模を確認できるのは最も新しい竪穴建物 SI111のみである。遺構の新旧関係は、竪穴建物 SI111 → SI112 → SI114 → SI113である。竪穴建物 SI111は東壁中央に作り付けカマドをもち、向かって右側に棚状の平坦な高まりがある。床面には遺構中心部からカマド前面にかけて硬化面が発達しており、住居内の人の動きが分かる遺構となっている。規模は東西約3.8m (ヤリイリヤマ開)、南北約3.9mを測り、主軸をN-82°-Wに示す。

竪穴建物 SI114は北辺中央に作り付けカマドをもつ。炉体があった範囲にはカマド基部となる白粘土の広がりがカマドの痕跡を残す。遺構プラン外に煙道部掘形を短く残す。規模は南北約4.2m (ヤリイリヤマ開)を測る。

竪穴建物 SI113はここでは最も古い遺構となる。切り合により残存状況は1/4以下で遺構としての詳細は分からぬ。唯一観察できるのは貼床があること、また、貼床下に中央部から壁際に向かい周溝状に掘形を巡らせていることのみである。この例は他の遺構にもあることから竪穴建物の掘形を考えるうえで重要な資料となろう。

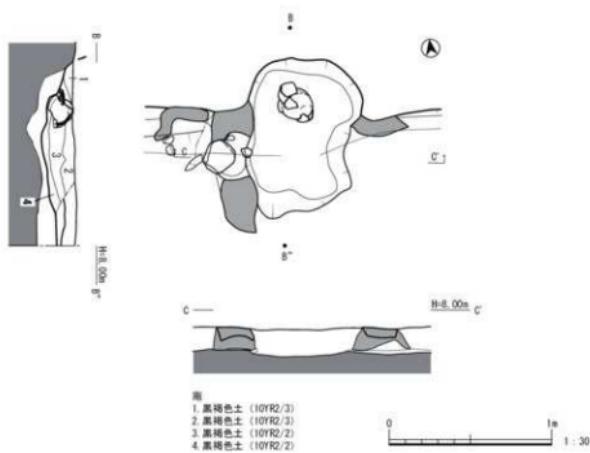
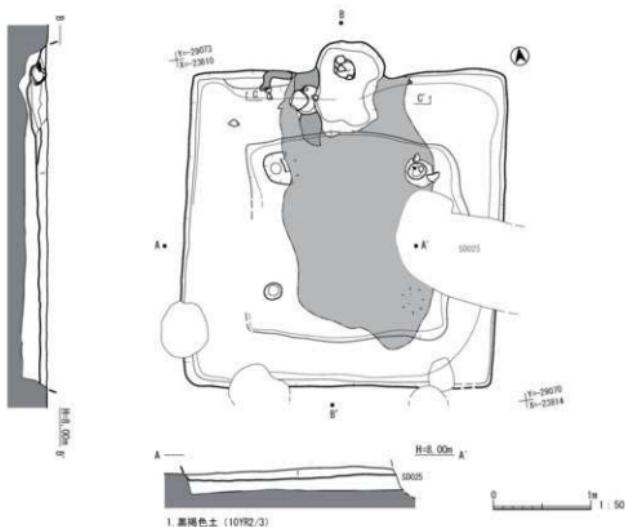


Fig.106 竪穴建物 SI104 実測図

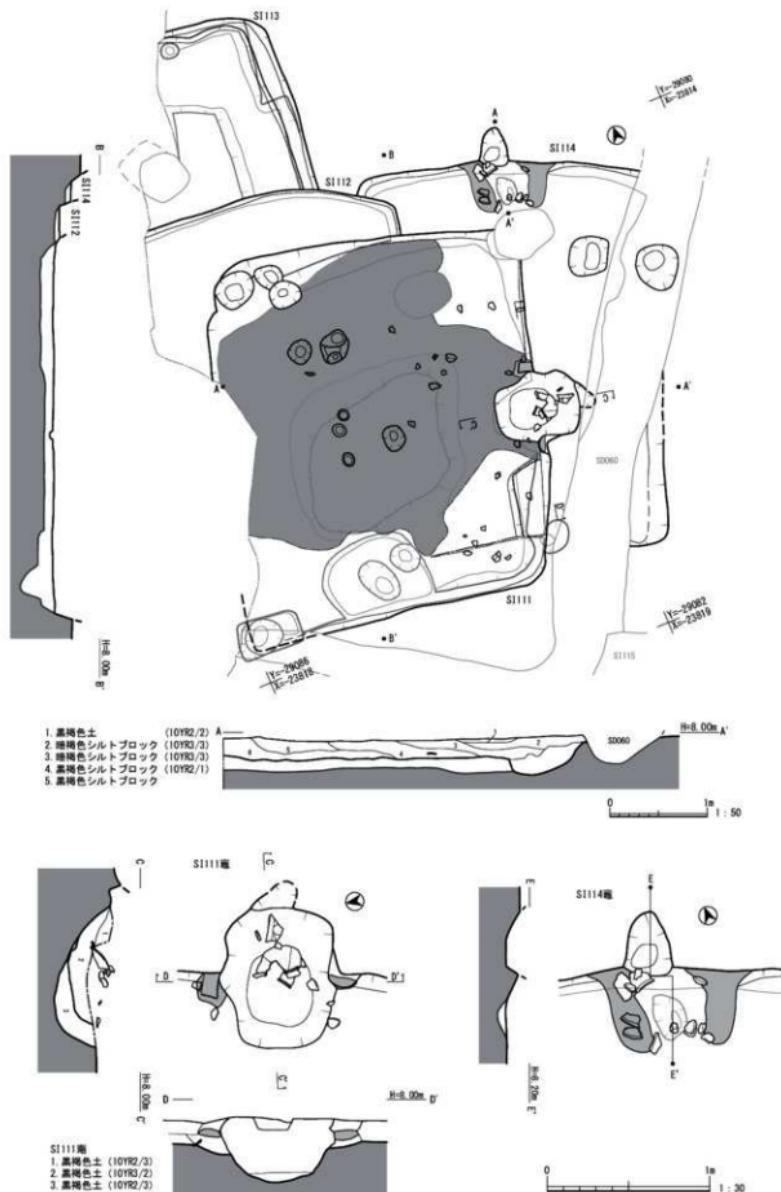


Fig.107 穂穴建物 SI111~SI114 実測図

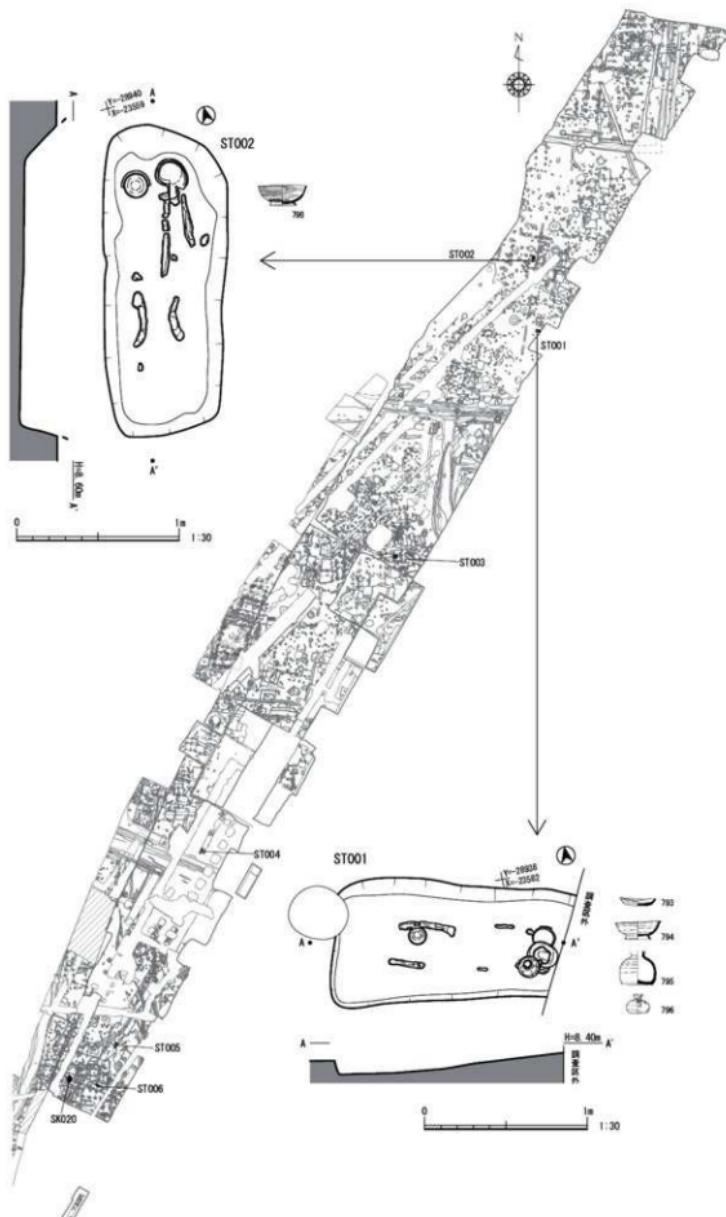


Fig.108 墓 ST001~ST006、土坑 SK020 遺構配置図

墓 ST001 (Fig. 108) 全長約 1.4m 中央付近幅約 70 cmで、一部が調査区外に延び検出した土坑墓。遺構の中心に人の大腿骨が見え始めたことから墓と認識した。頭部にあたる部分に供獻土器が置かれていた。人骨は土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏に調査を依頼している。

遺構深度が浅くしか検出できていないため、土層の確認はできていないが人骨と供獻土器の置かれている状況から直葬による土坑墓であると見られる。主軸は供獻土器が置かれている方向に N-80° -E を測る。

墓 ST002 (Fig. 108) 挖立柱建物 SB015 から掘立柱建物 SB017 を検出したなかで検出した土坑墓。全長約 1.9m、中心付近の幅約 75 cm を測り、頭部付近で掘形がややゆがむ。主軸は N-16° -E を測る。人骨は残りの状態が悪くスponジ状になっていた。頭部は北に置き横を向く。上部が削平されているため側頭部が削れた状態である。頭部横には供獻土器の研磨土器が 1 点置かれた状態で出土している。

墓 ST003 (Fig. 109) 壓穴建物 SI039 の埋没後に掘りこまれた土坑墓。包含層を一部削平した時点で、人骨出土があったことから検出へとながった。東側が切れているのは、遺構確認作業中に気が付かず掘り下げてしまつたため消失してしまったからである。遺構埋土は黒褐色土を主体とし、遺構下端は古代の遺構検出面としている褐色土層中にまで及ぶ。残存部で 1.5m を測り、出土している人骨は大腿部付近とされ伸展葬と見られる。このことから当初は墓坑が約 1.8m 前後はあったものと考えられる。人骨に混じり古代の土器片が数点出土しているが副葬されたものではない。人骨の取り上げ及び実測は、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏に依頼して調査・ご指導を頂き、本報告書中で人骨の分析、報告まで頂いている。(人骨に関する詳細は第 4 章参照)

墓 ST005 (Fig. 110) 周辺の竪穴建物を切り検出した墓。長楕円形で両サイドの掘形は垂直に掘り込まれる。検出時に木棺痕跡に注視し調査をおこなったが確認できていない。おそらく、土壙墓である可能性が高い。土層断面の状態からも木棺痕跡を示すものは検出されていない。頭位は北東部に位置することが調査段階で確認している。出土遺物は古代後期と見られる土器器杯が墓壙中よりやや南側、遺体安置の状況からは腰の部分に、黒色土器 a 類で体部が丸みを帯びる椀が頭部東側から出土している。規模は南北約 1.9m、東西約 60 cm を測り、主軸は N-14° -E を示している。

墓 ST006 (Fig. 110) 遺構の中心を溝 SD075 が縱断する。残りの遺構埋土中から人骨片が出土している。人骨の残りは悪く、大腿骨は埋葬状態を保っているが、脛骨、上腕骨等は散乱していた。(松下氏所見)

頭位は南東方向におく。規模は、東西（長軸）約 1.35m、南北約 50 cm を測り、主軸は N-51° -W を示す。

墓 ST007・ST008 本調査において遺構の確認は出来ていないが、自然科学分析資料によれば人骨出土の報告がある。(詳細は第 4 章参照)

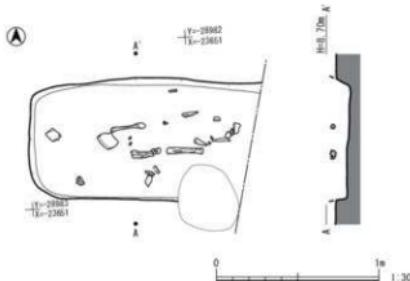
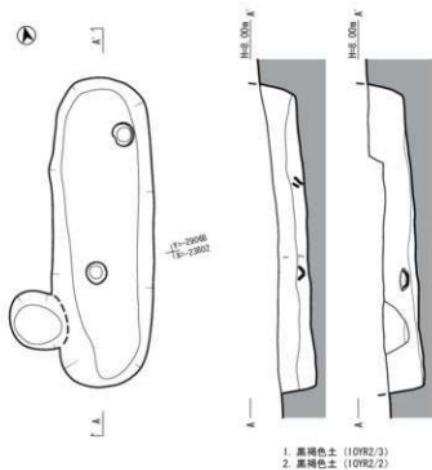


Fig. 109 墓 ST003 実測図



1. 黑褐色土 (10YR2/3)
2. 黑褐色土 (10YR2/2)

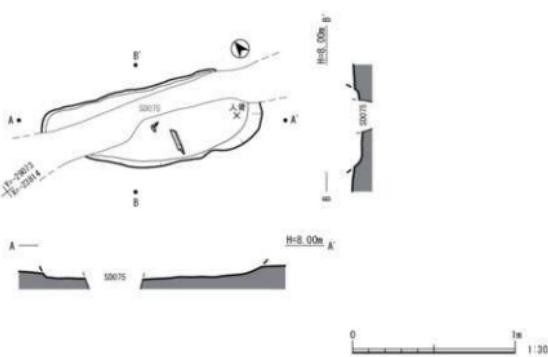


Fig.110 墓 ST005 (上)・ST006 (下) 実測図

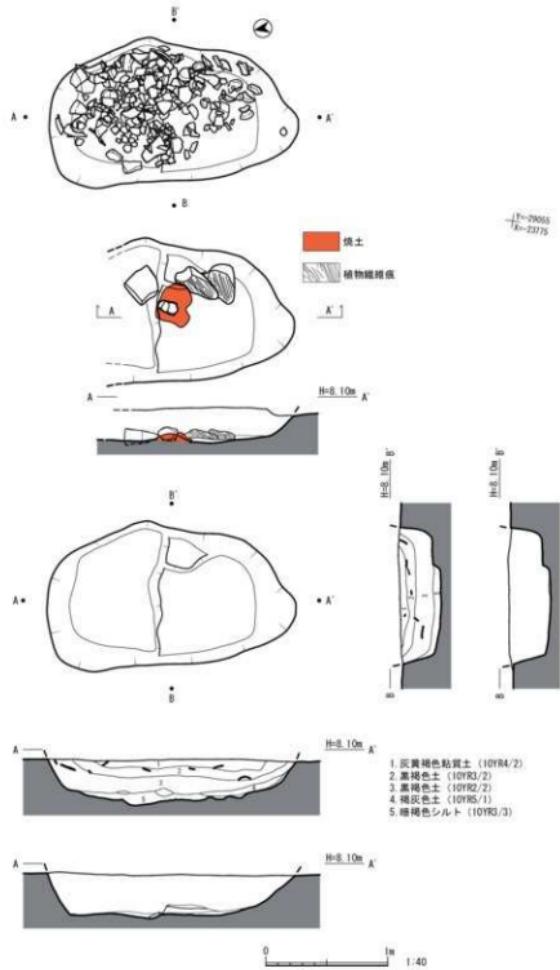


Fig.111 土坑 SK020 実測図

土 坑 SK020 (Fig. 111) 竪穴建物群よりも新しく上部から掘り込まれている土坑。南北方向に軸を置き検出している。遺構内には検出時から遺物が多数出土しており基底にまで及んでいる。基底部では焼土が塊をなし、その周囲には植物纖維痕が敷かれた状態で検出された。植物痕跡は筵状に編まれているものかは観察できていない。

防空壕 SX002 (Fig. 112) 調査中に搅乱かと思われるような新しい土がはいった状態で検出されたため、途中まで調査を放棄していた遺構であるが、周辺遺構の精查を繰り返すうちに柱穴も伴ってきたため調査を実施した。長軸約3.5m、中心付近幅約1.0m、主軸はN-87°-Wを測る。東側から内部に向かい3段の階段状に掘り込まれ3段目となる下端の規模は2.3m×0.9mとなり、中心に側壁部と天井部を支える柱が4本ある。熊本市内での調査例は多いようである。

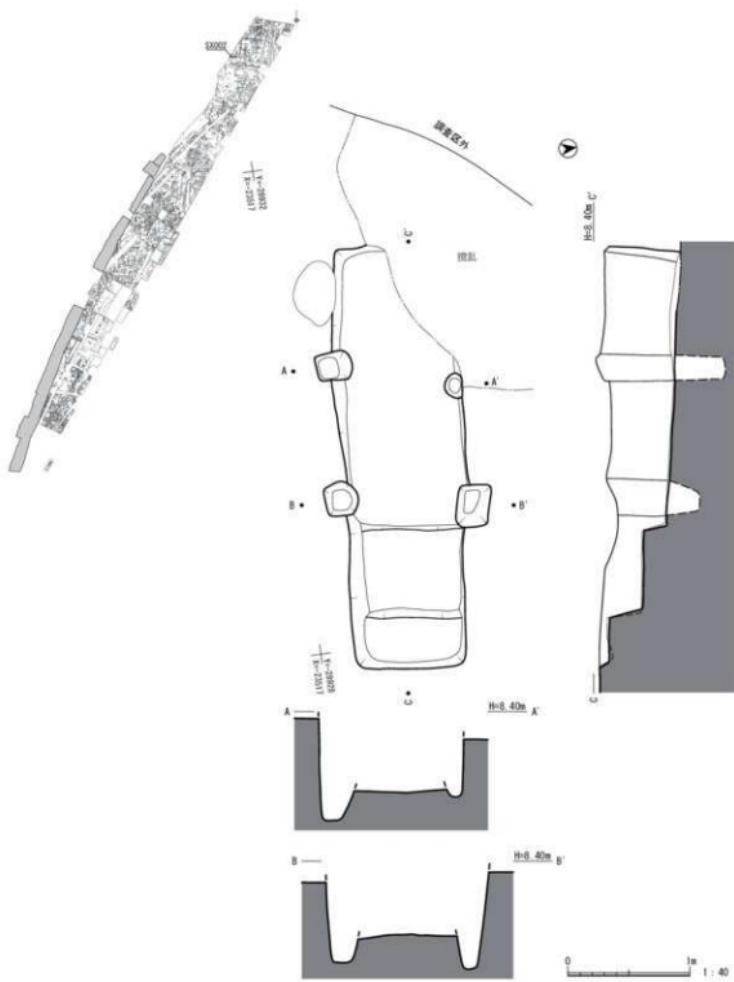


Fig.112 防空壕 SX002 実測図

3 第14次調査

調査機関 熊本県教育委員会
調査期間 平成22年7月20日～8月2日
調査総括 熊本県教育庁文化課 文化財調査第一係 文化財調査第一係長 村崎孝宏
調査担当者 " 参事 長谷部善一
整理期間 平成23年度 二本木遺跡群（春日地区）第6次調査分と同時に整理を実施
整理担当者 教育庁文化課 参事 長谷部善一
" 非常勤職員 稲葉貴子
" " 唐木ひとみ

調査支援業務 4級基準点測量及びメッシュ杭設置業務、遺構実測業務 株式会社埋蔵文化財サポートシステム

※ 調査日誌は同録第6次調査日誌掲載後に収録

1 調査の概要

平成23年3月12日に全線開業した九州新幹線は熊本駅から新大阪駅間を2時間59分、熊本駅から博多駅間を33分で結ぶなど人的交流、経済的交流を深める機会をもたらした。

今回、鉄道・運輸機構の「非常用電源装置設置に伴う排煙装置」取り付け工事は、当初設置されていた非常用電源容量を大幅に増加させ、安定した新幹線運行を行うために必要な工事内容であった。調査面積は協議した結果、台座の設置面積部として東西2m、南北10mとした。

この調査依頼を受け、当初予算に含まれていないものであったが、双方協議のうえ整理を受託している予算のなかで契約書を読み替え、調査を実施することとした。調査に係る経費により年度途中に予算が不足した場合は鉄道・運輸機構と2月補正で増額変更契約とすることで合意したことを踏まえ、当初予算のなかで調査に係る費用を積算し、整理費の残額を調査にあてるよう県内部で措置した。調査は開業している新幹線本線「新熊本駅」高架下とJR九州熊本駅営業線とに挟まれた場所にあたることから、調査依頼の事前準備として鉄道・運輸機構担当者側でJR九州工事部門と隣接工事協議を実施し、調査スペースの安全を確保したのち双方作業内容を確認の上、JR営業線隣接工事範囲とはしないこととし調査に着手した。

2 遺構各説

調査は重機を用い表土となる部分を掘削の後、当該調査区周辺での調査事例を参考に進めた。表土とする土層は大半が明治期に熊本駅を新設する際に万日山を掘削し埋められた土で2mほど整地された状態で入っていた。調査に着手したレベルは標高約8mからで、やや粘質を帯びる黒褐色土層（4層）からとした。本層は粘質が強く、上層は厚さ質とも非常に安定していた。この層は後に判明するが、この時点では遺物包含層として遺物を取り上げながら掘り下げを急いだ。5層、6層に至り出土する遺物の破片も大きくなり安定した状態での出土状態となってきたが、黒褐色土を主体とする埋土が想定されたことで明確に遺構を検出できる状態ではなかったことから、下層にあたる7層上層（にぶい黄褐色土）まで下げ遺構検出をおこなった。

遺構検出の結果、柱穴を主体とする遺構を28基検出した。しかし、調査面積が狭小であることから掘立柱建物等の遺構に関連する柱穴とは確認できていない。検出面は南に向かいレベル差約5cmを測り南に傾斜している。

3 出土遺物

主な出土遺物は6層から出土したものである。出土遺物は須恵器蓋、杯、獸脚硯脚部、土師器片を始めとするものであった。図示できるものは少ないとから3点のみ実測し掲載している。

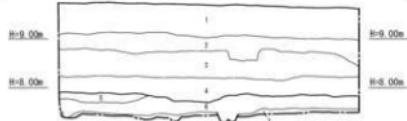
4まとめ

調査に着手した時点で周辺の調査事例をもとに遺物包含層として扱った4層は調査を進めるに従い、単純な遺物包含層ではないと判断するに至った。この付近では土地の傾斜が北側より緩い傾斜をもち始めるにも関わらず遺構密度が変わらないこと、小磯・砂を混土した粘質土を敷き詰めることで安定面を作り出していることから、この層を整地層として捉えると、これまでにならない不利な地形上における遺構の広がりも説明することができよう。

調査では遺構検出面を7層上面としたが、遺構埋土の状態は4～6層の土が混土していることからもこれを裏付ける事例となっている。南に位置する田崎地区周辺までは沖積地が迫ってきていることから、緩やかな傾斜を続けながらも高い密度の状態で遺構が広がっていることを窺わせる。



NP H-10.00m X-23849 X-23850 X-23851 X-23852 X-23853 H-10.00m SP



1. 現地表。バラスを数段した整地層
2. 黒色砂質土 (10YR1/7.1)
3. 黑化安山岩で構成された万日山を削り出した土砂を数段した層
4. 黑褐色土 (10YR2/2) φ数mmの子礫、炭化物と橙色を含む
5. 黑褐色土 (10YR2/2) φ数mmの子礫を含む
6. 黑褐色土 (10YR2/2) φ数mmの褐色・白色粒、子礫、炭化物粘土塊を含む
7. にじい黄褐色土 (10Y4/3) φ数mmの子礫を含む

Fig.113 二木本遺跡群第14次調査区遺構・土層実測図

コラム3 旧熊本駅出土の遺物

酒瓶

上段「鳥井酒店」、下段「徳永酒店」銘入り酒瓶。近世遺跡を調査するとさまざまな店名入りの酒瓶が出土します。口縁口唇部の肥厚状態・形状の違い、高台調整等の違いから別の窯元へ各酒店から発注されたようです。記されている数字は「辰」「申」などの年号を表す文字とともに、顧客へ貸し出した番号であると考えられます。



第4章 自然科学分析調査報告

二本木遺跡群（春日地区第6次調査）出土の古代人骨

はじめに

所見

I. 人骨の埋葬姿勢と形質

II. 井戸跡から出土した人骨について

要約

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

二本木遺跡群（春日地区第6次調査）における自然科学分析

動物遺存体同定

土器付着物の蛍光X線分析

株式会社 古環境研究所

熊本市二本木遺跡群（春日地区第6次調査）出土の古代人骨

松下真実・松下孝幸^{**}

【キーワード】：熊本県、古代人骨、平安時代、井戸跡、カラベリー結節、臼旁結節

はじめに

熊本市春日三丁目に所在する二本木遺跡群（春日地区第6次調査）の発掘調査が新幹線建設工事に伴っておこなわれたが、2005年（平成17年）度と2006年（平成18年）度の発掘調査で、合計11体の人骨が出土した。2体は井戸跡（SE033）から、1体は溝から（SD067）、残りの8体は墓坑から出土した。この11体の人骨は後述しているとおり、古代（平安時代）に属する人骨であるが、古代人骨の出土は全国的に少なく、本例は貴重な資料である。

新幹線工事と熊本駅周辺整備事業に伴う発掘調査によって、二本木遺跡群から古代に属する古人骨の出土例が増加している。

03年（平成15年）度に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡群の第18次調査区から古代に属する人骨が1体出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。06年（平成18年）度におこなわれた第28次調査においても古代末の人骨が2体が出土したが、これは大腿骨片と歯のみであった（松下・他、2008）。熊本県教育委員会が実施した08年（平成20年）度の合同庁舎跡における発掘調査では10世紀後半の人骨が出土している。また、08年度の二本木遺跡群（さつま荘跡）における発掘調査でも10世紀代の人骨が検出されているが、この人骨は古代人骨としては珍しく保存状態が良好で、特筆すべきは、この男性被葬者の推定身長が164.97cm（Pearson式）の高身長であること、大腿骨には縄文前期人なみの柱状性（骨体中央断面示数125.93〔右〕、145.83〔左〕）が認められたことである。古代人骨の保存状態は一般的に悪いものが多く、形質所見を明らかにできるものはきわめて少ないので、このような特徴が古代人の時代的特徴であるのかはまだ明確ではない。

08年度におこなわれた二本木遺跡群第40次調査区F地点からは、頭を簾に入れ、おそらくは両足も左右別々に甕に入っていたものと推測される、10世紀末～11世紀に属する人骨が出土している。また、同じ年に二本木遺跡群第41次調査区からは11世紀頃の古代末に属する人骨が1体出土している。この人骨は長頭型であり、低額で、歯槽性突頭を示す男性骨であった。

09年度におこなわれた二本木遺跡群春日地区第11次調査区の発掘調査では、1区から古代と中世に属する人骨が合計4体、3区からは古代に属する人骨が1体出土しており、10年度には二本木遺跡群春日地区第13次調査区4区から古代の人骨が1体出土した。また、09年度におこなわれた二本木遺跡群第50次調査区でも古代人骨2体が出土している（松下・他、2011）。

その他に、2005年（平成17年）度には、大江遺跡群第97次調査区から9世紀後半の男性人骨（松下、2007b）が、古町遺跡第5次調査区では10世紀初頭に属する男性人骨が多く副葬品（土師器など）を伴って出土したが、ともに保存状態は著しく悪いものであった（2007）。

09年度におこなわれた新屋敷遺跡からも8世紀から9世紀にかけての人骨が1体出土している。

* Masami MATSUSHITA, ** Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]

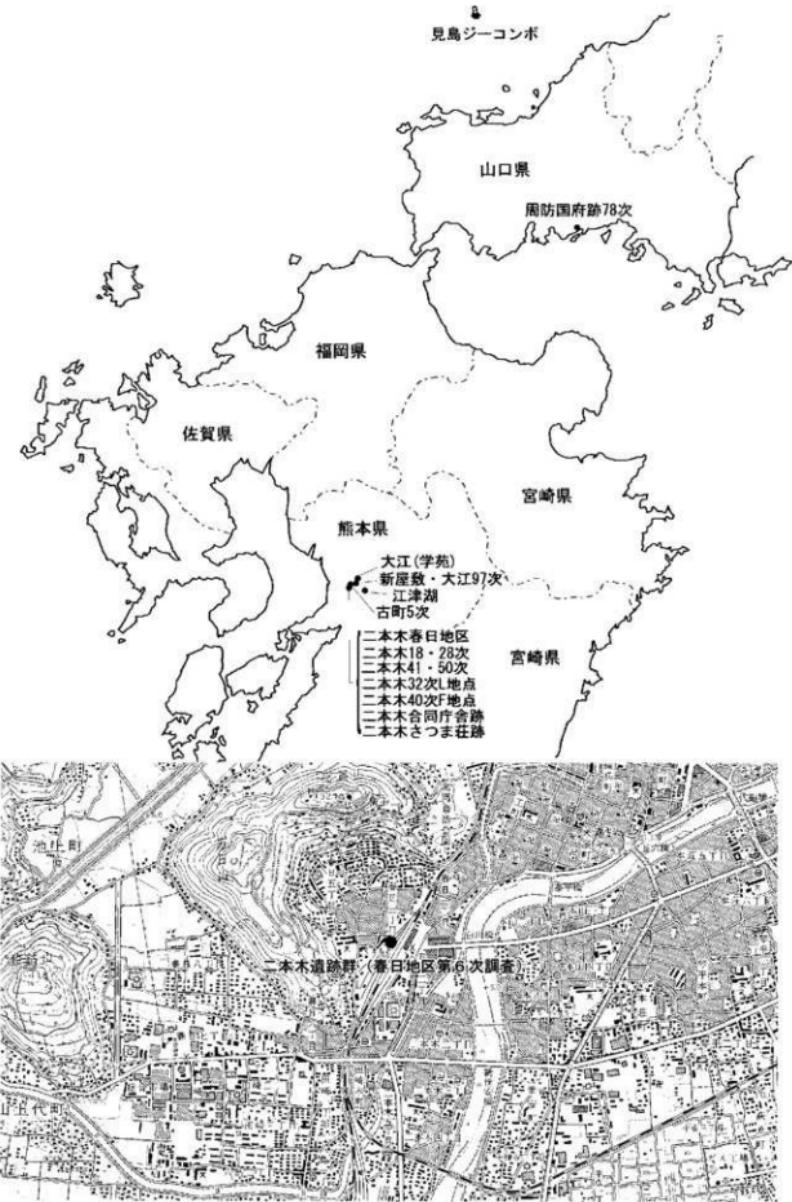


図1 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of place of sixth excavation, the Kasuga area of the Nihongi sites.

Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

この古代人骨は、超短頭型で、大腿骨には強い柱状性が、脛骨には扁平性が認められ、高身長であるという注目すべき特徴が認められた。また、大江（学苑）遺跡群（松下、2006）と江津湖遺跡群では平安時代の火葬骨が出土している。

今回出土した11体の人骨の保存状態はかならずしも良好なものではないが、現場でできる限りの観察をおこない、計測や観察に耐えられた人骨については、人類学的観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小兒	合計
男性	女性	不明		
5	1	3	2	11

2005年度と2006年度の発掘調査で検出された人骨は表1に示すとおり、合計11体である。各人骨の性別・年齢は表2に示した。これらの人骨は考古学所見から9世紀～11世紀の平安時代（古代）に属する人骨と推定されている。

計測方法は、Martin-Saller (1957) によった。年齢区分は表3のとおりである。

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	時 代	頭位	埋葬姿勢
ST001	男性	熟年	平安（11世紀）	東	仰臥
ST002	男性	不明	平安（11世紀）	北東	仰臥
ST003	女性	不明	平安（9-10世紀）		不明
ST004	不明	不明	平安（9-10世紀）		不明
ST005	不明	不明	平安（9世紀後半）	北東	不明
ST006	男性	不明	平安（9世紀後半）	北東	不明
ST007	不明	不明	平安（9世紀後半）		不明
ST008	—	幼兒	平安（9世紀後半）		仰臥
SD167	男性	不明	平安（9世紀後半）		不明
SE033 No.1	男性	壯年	平安（12世紀）		井戸跡中
SE033 No.2	—	小兒	平安（12世紀）		井戸跡中

表3 出

年齢区分	年 齢
未成人 乳児	1歳未満
幼兒	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
小兒	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人 壮年	21歳～39歳（40歳未満）
熟年	40歳～59歳（60歳未満）
老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次調査報告書（1996）を参照されたい。

所 見

I 人骨の埋葬姿勢と形質

ST001 (男性・熟年)

埋葬遺構は木棺と考えられている。埋葬姿勢は仰臥。頭位は東。肘関節の状態は前腕の骨が残っていなかったので、不明である。また、膝関節も脛骨が残存していなかったので、不明である。従って姿勢と膝関節の状態からは仰臥伸展葬であろう。

残存していたのは頭蓋、下顎骨の一部、左右の上腕骨、左右の大腿骨であるが、左側の上腕骨は少量の骨粉状態であった。ラムダ縫合の観察ができたが、内板は癒合し、外板は縫合が明瞭である。大腿骨体は大きく、骨体横径を現場で計測したところ、右側は約32mm、左側は約30mmであった。

性別は、大腿骨体の径が大きいことから、男性と推定した。年齢はラムダ縫合の癒合状態から熟年と思われる。

副葬品は須恵器、綠釉陶器、土師器が頭蓋の両側から検出され、土師皿の一部が右側大腿骨体の下になるような状態で土師皿が1枚検出された。その他に鉄製の紡錘車が1点、頭蓋近くで出土した。

ST002 (男性・年齢不明)

埋葬遺構は木棺と考えられている。埋葬姿勢は仰臥。頭位北東。肘関節の状態は前腕の骨が残っていなかったので、不明である。膝関節は両側とも伸展状態だったと考えられる。残存していたのは、頭蓋、下顎骨、左側上腕骨、左右の大腿骨、右側の脛骨である。左側上腕骨はほとんど骨粉状態で、右側脛骨は骨体のごく一部のみである。下顎には歯が釘植しており、左側の第一、第二大臼歯の咬耗はかなり強い。大腿骨体の径は大きく、右側大腿骨の横径は31mmであった。

性別は、大腿骨体の径が大きいことから、男性と推定した。

墓坑は大きく、長径は約190cm、短径は約72cmである。

頭蓋の下には小さな甕みが存在し、中から銅製品と骨片が検出された。骨片は頭蓋の一部ではなく、指骨か中手骨の一部と思われ、銅製品に接してた部分は緑色に変色していた。頭蓋の下から銅製品や四肢骨片が検出された例を、寡間にしていまだ知らない。

ST003 (女性・年齢不明)

現場で実見していない。実測図をみても埋葬姿勢を明らかにすることができるない。残存していたのは左側大腿骨体と左右不明の前腕の骨の一部にすぎない。大腿骨体は形を残しているが、計測できない。観察によれば、径は小さく、粗線の発達はみられない。

大腿骨体の径が小さいことから、性別を女性と推定した。年齢は不明である。

ST004 (性別・年齢不明)

本例も現場で実見していない。実測図をみても埋葬姿勢を明らかにすることができるない。残存していたのは、頭蓋、左右不明の大腿骨、左側尺骨である。頭蓋は左側側頭骨の観察ができた。乳様突起は小さく、外耳道には骨腫は認められない。粗線の様態は不明である。残存量が少ないので、性別を明らかにできない。年齢も不明である。

ST005 (性別・年齢不明)

埋葬遺構は土壙墓。残存していたのは頭蓋と遊離歯のみ。頭位は北東。歯は頭蓋の南西側で検出さ

れた。四肢骨が残存していないので、埋葬姿勢は不明である。肘関節と膝関節の様態も不明であるが、墓坑の長さが約190cmもあることから、おそらく膝関節は伸展状態だったと思われる。黒色土器の碗が1個とやや大きい土師器が1個副葬されていた。前者は頭蓋の北東部に、後者は下半身の位置から検出された。

残存していた遊離歯冠の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 / /	5 4 /	2 1		/ / / / / / / / / /
/ / / / / / /				/ / / / / / / / / /

●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。また、歯冠サイズは小さい。性別、年齢は不明である。

STO06 人骨（男性・年齢不明）

埋葬遺構は土壤であろう。左右の大腿骨体、左右不明の脛骨と上腕骨体および腓骨体を現場で確認した。大腿骨は埋葬状態を保っていたが、脛骨、上腕骨などは散乱状態で出土した。頭位は北東と思われる。埋葬姿勢は仰臥と思われるが、肘関節と膝関節の様態は不明である。大腿骨体の径はやや大きい。このことから、性別を男性と推定した。

本人骨は後述しているSTO08と隣接して検出された。本来STO08の人骨があるべき位置から本被葬者の上腕骨が検出されたことから、この2体は埋葬された後に両者が一緒に攢乱を受けたものと思われる。

STO07 人骨（性別・年齢不明）

埋葬遺構は土壤であろう。残存していたのは遊離歯冠1個と下顎骨体の一部で、保存状態はかなり悪い。埋葬姿勢は不明である。残存していた歯冠は上顎左側第一大臼歯の歯冠である。咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱いことから、未成人の可能性もある。性別、年齢は不明である。

STO08 人骨（幼児）

STO06人骨の東に隣接して出土した。埋葬遺構は土壤であろう。検出されたのは左側の肋骨の一部のみであるが、埋葬状態を保った状態で検出された。埋葬姿勢は仰臥であるが、肘関節と膝関節の様態は不明である。肋骨の大きさから被葬者は幼児である。

SD067 人骨（男性・性別不明）

この人骨はSTO05の北東にあり、この土壌墓に隣接している溝から検出された。人骨はこの溝が埋まつた後に墓坑が作られたようである。埋葬遺構は土壤であろう。残存していたのは左右不明の大軸骨体の一部に過ぎないが、その径はやや大きい。おそらく頭は北東にあったものと思われる。埋葬姿勢は不明である。性別は大腿骨体の径がやや大きいことから、男性と推定した。

SE033 No.1（男性・壮年）

井戸跡（SE033）から2体の頭蓋が検出された。そのうちの1体である。

1. 頭蓋

残存していたのは図2に示すとおり、主に脳頭蓋である。眉間の隆起はやや強く、前頭節結の発達や前頭鱗の膨隆はみられない。外後頭隆起はやや突出している。乳様突起は小さい。両側の外耳道の観察ができたが、骨腫は存在しない。三主縫合の観察ができたが、これらは内外両板はともに開離している。計測はほとんどできないが、脳頭蓋の径は小さい。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が172mm、頭蓋最大幅は129mmで、頭蓋長幅示数は75.00となり、頭型は長頭に近い中頭型である。頭蓋水平周は計測できないが、脳頭蓋の径は小さい。

2. 齒

上顎骨には一部歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	/	/	/	/	/	/	/	/	5	6	7	/
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種)

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの2度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。なお、歯の径はやや大きい。

3. 性別・年齢

眉間の隆起が強いこと、外後頭隆起も発達していること、脳頭蓋の径は小さいものの歯の径が大きいことなどから、性別を男性と推定した。年齢は三主縫合が内外両板とも開離していることから壮年と思われる。

SE033 No.2 (小児)

頭蓋と下顎骨が残存していたが、その他に第一および第二頸椎の一部も残存していた。頭蓋壁はかなり薄い。三主縫合の観察ができたが、ともに内外両板は開離している。前頭鱗は丸い。左側外耳道が観察できたが、骨腫はみられない。下顎体の高径は低い。

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	/	/	2	/	/	/	/	/	/	5	/	7	/
/	7	6	/	/	3	/	/	/	2	/	4	5	6	/	/	

(●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種)

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

なお、上顎右側の大臼歯にはカラベリー結節が、上顎左側第一大臼歯には臼旁結節が認められる。

咬耗度はBrocaの1度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱い。根尖孔がまだ開存しており、歯根尖の形成状態は本例がまだ未成人であることを物語っている。歯根形成状態から、本例は15歳程度の小児と推測される。

II 井戸跡から出土した人骨について

二本木遺跡群ではこれまでに井戸跡から人骨が検出されている。1例目は二本木遺跡群第27次調査区（2006年調査）から1個の中世人頭蓋が検出された（松下、2007）。2例目は2006年に出土した本例（古代）である。3例目は二本木遺跡群合同庁舎跡（2006年調査）から出土した1個の中世人頭蓋で、4例目は二本木遺跡群第35次調査区（2008年調査）から井戸跡の埋土から2個の中世人頭蓋が出土した。5例目は二本木遺跡群第47次調査区H地点（2009年調査）で検出された保存不良の中世人頭蓋（1個）である。本例以外はいずれも中世人骨で、古代の例は本例のみである。

現場で出土状況を実見していないので、詳細は不明である。検出されたのは2個の頭蓋である。2個とも保存状態が決していい方ではないので、殺傷痕などの有無を確認することができない。ただ、

No.2（小児）は頭蓋の他に、第一、第二頸椎の歯突起部（第一頸椎は歯突起窓、第二頸椎は歯突起）が残存していた。この上部頸椎の一部が頭蓋とともに検出されたということは、完全に骨になった状態の時にこの井戸跡に持ち込まれたのではなく、まだ軟部組織（筋、韌帯、結合組織）が残存しており、頭蓋には上部頸椎が付いた状態の時に持ち込まれたことを物語っている。井戸跡から出土する頭蓋の例数が増加していることから、偶然に井戸跡に頭蓋が入り込んだ可能性は低くなり、意図的に頭部だけをこの井戸跡に収めたようである。二本木界隈には当時埋葬されないで放置された死体があった光景を思い描く必要があるのかもしれない。

要 約

熊本市春日三丁目に所在する二本木遺跡群（春日地区第6次調査）の発掘調査で平安時代の人骨が出土した。人骨の保存状態はあまりよくはなかったが、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 2005年（平成17年）度と2006年（平成18年）度の発掘調査で、合計11体（男：5、女：1、不明：3、幼小児：2）の人骨が出土した。この人骨は9世紀～11世紀の平安時代（古代）に属する人骨と推測されている。
2. 11体のうち2体は井戸跡から検出された。
3. 頭蓋の保存状態は悪く、頭形も顔面の形態も明らかにはできなかったが、男性1例についてが脳頭蓋の計測が可能で、頭蓋最大長172mm、頭蓋最大幅129mm、頭蓋長幅示数は75.00となり、頭型は長頭に近い中頭型である。
4. 1例（SE033 No.2）にカラベリー結節、臼旁結節がみられた。
5. 井戸跡から2個の頭蓋（男性、小児）が検出された。出土状況の詳細は不明であるが、保存状態は悪く、受傷痕などは確認できない。1個の頭蓋には下顎骨と第一、第二頸椎の一部が伴っていることから、まだ軟部組織が残っている状態で井戸跡に持ち込まれている。二本木界隈の当時の死体処理の一端がうかがえる。

謝 辞

掲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育委員会の皆様に感謝致します。

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fischer Verlag, Stuttgart : 429-597.
2. 松下孝幸・他、1983：山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジーコンボ古墳群（山口県埋蔵文化財調査報告73）：32-36。
3. 松下孝幸、1985：山口県見島ジーコンボ古墳群出土の人骨—山口大学理蔵文化財資料館所蔵の資料—。山口大学構内遺跡調査研究年報IV : 83-90。
4. 松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群I－第18次調査区発掘 調査報告書一：41-46。
5. 松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群II（熊本県文化財調査報告第231集）：80-84。
6. 松下孝幸、2007a：熊本市古町遺跡第5次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第9号：148-152。
7. 松下孝幸、2007b：熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群VI（－第97次－

- 第 106 次調査区発掘報告書ー) : 114-117.
- 8. 松下孝幸・他、2008:熊本市二本木遺跡群第 28 次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群 V [二本木 遺跡群第 28 次調査区 (E-I・K・L・P 地点) 発掘調査報告書]〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告 (2)〕: 178-183.
 - 9. 松下孝幸・他、2011:熊本市二本木遺跡群第 41 次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群 X II - 二本木 遺跡群第 41 次調査区発掘調査報告書ー: 127-135.
 - 10. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群 41 次調査区出土の古代人骨。(投稿中)
 - 11. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群 (合同庁舎) 出土の古代・中世人骨。(投稿中)
 - 12. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群 40 次調査区 F 地点出土の古代・中世人骨。(投稿中)
 - 13. 松下孝幸・他、熊本市新屋敷遺跡出土の古代人骨。(投稿中)
 - 14. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 11 次調査区出土の古代・中世人骨。(投稿中)
 - 15. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 11 次調査区 3 区出土の古代人骨。(投稿中)
 - 16. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 13 次調査区 4 区出土の古代人骨。(投稿中)
 - 17. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群 (合同庁舎 2 区) 出土の古代・中世人骨。(投稿中)

表4 脳頭蓋(mm)(Calvaria)

		二本木春日6次 SE042-No.1
		男性
1.	頭蓋最大長	172
8.	頭蓋最大幅	129
17.	バジオン・ブレグマ高	-
8/1	頭蓋長幅示数	75.00
17/1	頭蓋長高示数	-
17/8	頭蓋幅高示数	-
1+8+17/3	頭蓋モズルス	-
5.	頭蓋底長	-
9.	最小前頭幅	-
10.	最大前頭幅	-
11.	両耳幅	113
12.	最大後頭幅	103
13.	乳突幅	-
7.	大後頭孔長	-
16.	大後頭孔幅	-
16/7	大後頭示数	-
23.	頭蓋水平周	-
24.	横弧長	305
25.	正中矢状弧長	355
26.	正中矢状前頭弧長	119
27.	正中矢状頭頂弧長	132
28.	正中矢状後頭弧長	104
29.	正中矢状前頭弦長	105
30.	正中矢状頭頂弦長	116
31.	正中矢状後頭弦長	89
29/26	矢状前頭示数	88.24
30/27	矢状頭頂示数	87.88
31/28	矢狀後頭示数	85.58

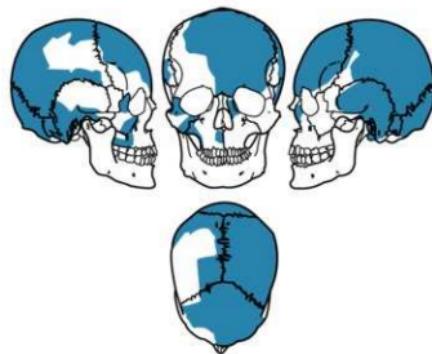
表5 下頸骨(mm、度)(Mandibula)

		二本木春日6次 SE042-No.2
		女性
65	下頸関節突起幅	-
65(1).	下頸筋突起幅	-
66	下頸角幅	-
67	前下頸幅	-
68	下頸長	-
68(1).	下頸長	-
69	オトガイ高	-
69(1).	下頸体高(右) (左)	27
69(2).	下頸体高(右) (左)	23
70	枝高(右) (左)	-
70(1).	前枝高(右) (左)	-
70(2).	最小枝高(右) (左)	-
70(3).	下頸切痕高(右) (左)	-
71(1).	下頸切痕幅(右) (左)	-
71	枝幅(右) (左)	-
71a.	最小枝幅(右) (左)	-
66/65	下頸幅示数	-
68/65	幅長示数	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-
69(2)/69	下頸高示数(右) (左)	-
71/70	下頸枝示数(右) (左)	-
71a/70(2)	下頸枝示数(右) (左)	-
70(3)/71(1)	下頸切痕示数(右) (左)	-

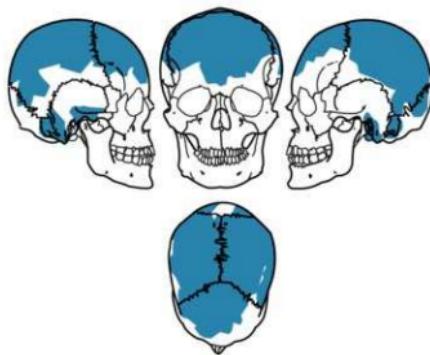
表6 形態小変異(Non-metotic crania variants)

	二本木春日6次		二本木春日6次	
	SE042-No.1		SE042-No.2	
	男性	女性	男性	女性
	右	左	右	左
1. Medial palatine canal(内側口蓋管)	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen(翼棘孔)	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging(舌下神經管二分)	/	/	/	/
4. Clinoid bridging(床突起間骨橋)	/	/	/	/
5. Condylar canal absent(頸間欠如)	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke(>1mm) (フュケ孔、鼓室骨裂孔)	-	-	/	-
7. Jugular foramen bridging	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)(眼窩上孔)	/	-	/	/
10. Accessory infraorbital foramen(副眼窩下孔)	/	/	/	/
11. Zygomatic foramen absent	/	/	/	/
12. Aural exostosis(外耳道骨腫)	-	-	/	-
13. Metopism(前頭縫合)	-	-	-	-
14. Os incae(インカ骨)	-	-	/	/
15. Ossicle at the lambda(ラムダ小骨)	-	-	/	/
16. Parietal notch bone(頭頂切痕骨)	-	-	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	-	-	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	-	/	/
20. Epipteric ossicle	/	-	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	/	/	/
23. Mylohyoid bridging(頸舌骨筋神經溝骨橋)	/	/	/	/
24. Accessory mental foramen(副才トガイ孔)	/	/	/	-
25. Mandibular torus(下頬隆起)	/	/	/	-
26. 滑車上孔(上腕骨)	/	/	/	/

[present : + , absent : - , unobservable : /]



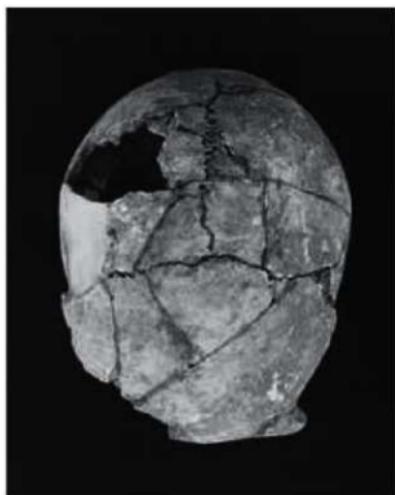
二本木遺跡群（春日地区第6次調査）SE033 NO. 1(男性・壮年)



二本木遺跡群（春日地区第6次調査）SE033 NO. 2(小兒)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig. 2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

二本木 SE033 No.1 (男性・壮年)
(The Nihongi SE-42 No. 1, mature young adult male)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

二本木 SE033 No. 1 (男性・壮年)

(The Nihongi SE-42 No. 1, mature young adult male)

熊本県教育庁文化課：二本木遺跡群（春日地区）における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 二本木遺跡群（春日地区）における動物遺存体同定

1. はじめに

日本列島は一般的に火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態に恵まれない。そのため遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰などが代表的であるが、近年では湿地環境の遺跡や遺構から多くの動物遺存体が報告されつつある。二本木遺跡群の動物遺存体も、湿地環境にある遺構などから出土しており、保存状態に恵まれたものと考えられる。

2. 試料

試料は、SE011（9世紀初頭）、SI044 内 SP904（9世紀初頭）、SE005（9世紀）、SE009（10～11世紀）、SD100（15～16世紀）、SF001（15～16世紀）から出土した計 538 点（破片を含む）の動物遺存体である（表1、表2）。

3. 方法

試料を肉眼で観察し、現生骨格標本と形態的特徴を対比して同定を行った。

4. 結果

動物遺存体の同定結果を表1に示し、主要な分類群の写真を示す。動物の種類や部位が同定できたのは、ウマ46点、ウシ15点、ウシとウマの判別ができないもの20点、ニホンジカ6点、イノシシあるいはブタ4点の計91点である。なお、破片数の算定は、接合しないものでも同一の骨とわかるものは1点とし、離歯のうち同一個体のものは1点と数えた。

哺乳綱 Mammalia

奇蹄目 Perissodactyla

ウマ科 Equidae

ウマ *Equus caballus*

偶蹄目 Artiodactyla

ウシ科 Bovidae

ウシ *Bos taurus*

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

イノシシ科 Suidae

イノシシ / ブタ *Sus scrofa*

5. 種類別の特徴

(1) ウマ

9世紀初頭の井戸 SEO11 から 1 個体分のほぼ全身の骨格部位が出土している。下顎骨は小片となったものが 1 点、椎骨 2 点、肋骨 2 点が出土している。肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、第 3 中手骨、寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、中足骨、距骨は左右一対が、踵骨は右側だけが出土している。なお、右の第 3 中手骨は第 4 中手骨が癒合した状態で出土している。このほか前肢と後肢の判別できない指骨が 9 点出土しており、その内訳は基節骨（左 2、右 1）3 点、中節骨（左右不明 3）3 点、末節骨（左右不明 3）3 点である。また、手根骨、足根骨では、中間手根骨（左 1）、第 3 手根骨（左 1、右 1）、中心足根骨（左 1）が出土している。さらに、顎骨から遊離した状態の上顎切歯（右 1）、上顎臼歯（左 6 右 6）、下顎切歯（右 1）、下顎臼歯（左 5、右 6）、上下左右の分からない切歯が 1 点、計 26 点が出土している（表 4）。

西中川編（1991）による年齢推定式によると、臼歯の計測結果からこのウマは 8～14 歳の壯齢の個体と考えられる。犬歯は出土しておらず、雌雄は不明である。最も保存状態が良い脛骨（左）は最大長 329.6mm であり、林田・山内（1957）の体高推定式を用いると、体高 129cm という値が得られ、日本に在来の御崎馬（体高 130cm 程度）などの中型馬に相当する。以上のように一個体分のウマの骨が出土しているが、これら以外にウシあるいはウマと同定した肋骨が 13 点あり、これらも同一個体のウマである可能性が高い。

このほか、9世紀の井戸 SEO05 から、橈骨（左）が 1 点、15～16 世紀の道路 SF001 から脛骨（右）、中足骨（左）が 1 点ずつ出土している。この中足骨の骨幹部外側には、刃物によって上方から下方に向かって削りだした痕跡がみられる。

(2) ウシ

9世紀の堅穴住居 SI044 内の小穴 SP904 から、遊離歯が 7 点出土している。このほかにウシあるいはウマと同定した遊離歯 1 点もウシである可能性が高い。15～16 世紀の溝状遺構 SD100 から橈骨・尺骨（右）、中手骨（右）、中足骨（左）、基節骨（左右不明）、距骨（左）、踵骨（左）、中心足根骨（左）・第四足根骨（左）が 1 点ずつ、計 8 点が出土している。踵骨、中心足根骨、第四足根骨は解剖学的に正位置を保っており、距骨もあわせて同一個体のものである。また、重複する部位がなく、全て同一個体の可能性もある。

(3) ウシ／ウマ

9世紀初頭の井戸 SEO11 から肋骨が 13 点出土しており、上述のようにウマの可能性が高い。9世紀の堅穴住居 SI044 内の小穴 SP904 から遊離歯 1 点が出土しており、上述のようにウシの可能性がある。15～16 世紀の溝状遺構 SD100 から上腕骨、大腿骨、そして部位不明のものがあわせて 6 点出土している。大きさからウシあるいはウマの四肢骨と判別できるものが大部分であるが、保存状態が不良で部位を特定ができないものも含まれる。同遺構ではウシだけが出土しており、これらの四肢骨も同一個体のウシである可能性があるが同定には至らなかった。

(4) ニホンジカ

10～11 世紀の井戸 SEO09 から頭蓋骨が 1 点、遊離歯 15 点、計 16 点が出土している。頭蓋骨は、右側の角突起直下の前位部に異なる 3 方向から鋭利な刃物を叩きつけた痕跡と後部に割り取った痕跡が見られる。このことから枝角を頭部から外すときに、まず刃物で叩き、最後は折りとったと考えられる。遊離歯は上・下顎臼歯 15 点（うち乳歯 3 点）が出土しており、成獣と幼獣の 2 個体が見られる。これらの他にニホンジカと思われる下顎骨の小片 6 点が出土しており、いずれも接合できないが、同一個体のものと思われる（表 6）。15～16 世紀の溝状遺構 SD025 から、下顎骨から遊離した第一あるいは第二後臼歯（右）が 1 点出土している。

(5) イノシシ／ブタ

弥生時代以降の遺跡から出土するイノシシにはブタが含まれている可能性があり（西本, 1991）、骨の形態から野生のイノシシと家畜化したブタを区別することは困難である。10～11世紀の井戸SE009から、下顎骨1点、その下顎骨から遊離した切歯2点（左右不明）と臼歯9点（左4、右3、左右不明2）計11点出土している（表6）。また、橈骨（左）、尺骨（左）、脛骨（左）が1点ずつ出土しており、橈骨は近位部に叩き切られた痕跡が見られる。下顎骨は第三後臼歯が萌出しており、著しい咬耗は見られず、林良（1977）が分類した咬耗段階では生後43～44カ月に相当する。また、下顎犬歯の歯槽が大きく開口していることから、オスと推測される。さらに、下顎骨の第一後臼歯直下の舌側には、鋭利な刃物による切傷が見られる。

6. 考察

二本木遺跡群は、古代の飽田に位置する肥後国府の推定地であり、第18次調査では9世紀後半のSD001からウマの寛骨、SD044から頭部を除いたほぼ一体分のウシの骨が出土している（西中川, 2005）。第34次調査では8世紀末から9世紀にかけて複数の遺構からウマ、ウシを含む動物遺存体が出土しており、公の施設において伝令、駅馬、物資の搬入などのためにウマ、ウシを多用したことが想定されている（沖田, 2009）。

今回の調査では、古代の遺構からウマ、ウシ、ニホンジカ、イノシシ／ブタが、中世の遺構からウシ、ウマ、シカが出土している。古代ではウマがまとめて出土しているのに対して、中世では断片的な部位の出土にとどまる。一方、ウシは中世の遺構で同一個体と考えられる四肢骨が出土している。牛馬は人を乗せ、物資の輸送、農耕などに使役されるほか、祭祀・儀礼の犠牲にもなり、死後はほとんどの場合が解体され、皮、肉、骨、角、蹄、内臓などが利用されるということが近年の考古学、文献史学、民俗学の成果として明らかにされている（松井, 2005など）。

注目されるのは、9世紀の井戸SE011からウマの全身骨格がほぼ揃った状態で出土していることである。このウマは体高129cmと推定され、日本在来馬の中では中型馬に相当する。体高推定に用いた脛骨は、古代の遺跡から出土したものと比較すると、最大長(GL)に対して骨幹幅(SD)がやや細く、華奢な印象を受ける（表3）。このウマの全身骨格が正位置を保持した状態であったのか明らかでないことや解体痕が見られないことから、解体されずに井戸に投棄された可能性と、解体後に投棄された可能性の両方が考えられる。

古代ではウマのほぼ全身骨格が出土したのに対して、ウシは部分的な出土にとどまることから、解体され、皮や肉を取りはずした後に投棄されたことが想定される。狩猟で捕獲した成獣のニホンジカの頭蓋骨は、製品の素材に適した枝角を切り取ったものである。ニホンジカには解体痕が見られないが、枝角の利用のほか、肉が食用になったことが想定される。また、イノシシ／ブタの下顎骨や橈骨には傷が見られることから、解体されて食用になったと考えられる。

7. まとめ

二本木遺跡群（春日地区）では、古代から中世にかけての遺構から動物遺存体が出土しており、ウマ、ウシ、ニホンジカ、イノシシ／ブタが同定された。古代のウマは井戸からほぼ全身の骨格部位が出土している。ウシは遊離歯が出土しており、ウシやウマは役畜として人の移動や物資の運搬、祭祀における供物に利用され、その後は食肉、皮革、骨角製品の素材などに利用されたことが想定される。イノシシ／ブタは食用に供され、ニホンジカは食用以外に鹿角が利用されたと考えられる。注目されるのは、井戸SE011から1個体分のウマの骨が出土したことであり、古代のウマの利用を考える上で貴重な資料である。今後、このウマの利用について、出土状況や共伴遺物とあわせて検討する必要があろう。なお、今回の動物遺存体同定にあたっては、小舟みなみ氏（京都大学人間・環境学研究科）および丸山真史氏（奈良文化財研究所・客員研究員）の協力を得た。

文献

- 沖田絵麻（2009）熊本市二本木遺跡群第34次調査出土の動物遺存体、二本木遺跡群IX—二本木遺跡群第34次調査区発掘調査報告書一、熊本市教育委員会、p.145-149.
- 西中川駿編（1991a）遺跡出土の牛・馬の骨の形態計測学的研究、古代遺跡出土骨から見たわが国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究、平成2年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告、鹿児島大学農学部獣医学科、p.18-41.
- 西中川駿編（1991b）遺跡出土骨同定のための基礎的研究 - とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較 - 、古代遺跡出土骨から見たわが国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究、平成2年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告、鹿児島大学農学部獣医学科、p.164-188.
- 西中川駿（2005）熊本市二本木遺跡群（18次調査）出土のウシ、ウマの遺体、二本木遺跡群I—第18次調査区発掘調査報告書一、熊本市教育委員会、p.47-50.
- 西本豊弘（1991）弥生時代のブタについて、国立歴史民俗博物館研究報告第36集、国立歴史民俗博物館、p.175-194.
- 林田重幸・山内忠平（1957）馬における骨長より体高の推定法、鹿児島大学農学部学術報告第6号、鹿児島大学農学部、p.146-156.
- 林良博・西田隆雄・望月公子・瀬田季茂（1977）日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定、日本獣醫學雑誌 vol.39 No.2、社団法人日本獣医学会、p.165-174.
- 松井章（2005）考古学から見た動物と日本人の歴史、周縁文化と身分制、脇田晴子、マーチン・コルカット、平雅行共編、思文閣出版、p.187-239.
- Driesch, Angela von den (1976) A GUIDE TO THE MEASUREMENT OF ANIMAL BONES FROM ARCHAEOLOGICAL SITES. Peabody Museum of archaeology and Ethnology Harvard University.
- Wilson, Bob Grigson, Caroline and Payne, Sebastian (1982) Ageing and Sexing Animal Bones from Archaeological Sites BAR British Series 109.

表1 出土動物遺存体一覧

袋No.	遺物別No.	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
1	SE011	哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎I3			右			1	No. 1	
2		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎I3			右			1	No. 2	
3		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎/下顎I2			-			1	No. 3	
4		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P3			右			1	No. 4	
5		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P4			右			1	No. 5	
6		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎M1			右			1	No. 6	
7		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎M3			右			1	No. 7	
8		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎M2			左			1	No. 8	
9		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P2			左			1	No. 9	
10		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P3			左			1	No. 10	
11		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎M3			左			1	No. 11	
12		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P2			右			1	No. 12	
13		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎M2			右			1	No. 13	
14		哺乳類	ウマ	遊離歯	下顎P4			左			1	No. 14	
15		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P2			右			1	No. 15	
16		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M2			左			1	No. 16	
17		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M3	歯冠		左			1	No. 17	
18		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P4			右			1	No. 18	
19		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M1			左			1	No. 19	
20		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P2	ほぼ歯冠のみ	左				1	No. 20	
21		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M3	ほぼ歯冠のみ	右				1	No. 21	
22		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M1			右			1	No. 22	
23		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P4			左			1	No. 23	
24		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎M2			右			1	No. 24	
25		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P3			左			1	No. 25	
26		哺乳類	ウマ	遊離歯	上顎P3			右			1	No. 26	
27	SE011	哺乳類	ウマ	上腕骨	遠位			左	fused	1			
28		哺乳類	ウマ	上腕骨	近位、遠位			右	fused	1		骨幹は欠損	
29		哺乳類	ウマ	桡骨+尺骨				左	fused	1		尺骨近位と橈骨近位内側欠損	
30		哺乳類	ウマ	橈骨	近位			右	fused	1			
31		哺乳類	ウマ	尺骨	近位			右	fused	1			
32		哺乳類	ウマ	第3中手骨				左	fused	1		遠位に欠損があるが、ほぼ完存	
33		哺乳類	ウマ	第4中手骨				左	fused	1			
34		哺乳類	ウマ	第3+4中手骨				右	fused	1		共に完存	
35		哺乳類	ウマ	大転骨				左	fused	1		骨頭欠損	
36		哺乳類	ウマ	大転骨	近位、遠位、と 骨幹の一部			右	fused	1			
37		哺乳類	ウマ	脛骨				左	fused	1		完存	
38		哺乳類	ウマ	脛骨				右	fused	1		完存	
39		哺乳類	ウマ	中足骨				左	fused	1		完存	
40		哺乳類	ウマ	中足骨				右	fused	1		ほぼ完存	
41		哺乳類	ウマ	膝蓋骨				左		1		遠位側が残存、風化が著しい	
42		哺乳類	ウマ	膝蓋骨				右		1		内側に欠損あり	
43		哺乳類	ウマ	踵骨				右		1		近位端が欠損	
44		哺乳類	ウマ	距骨				左		1		風化はみられるが、ほぼ完存	
45		哺乳類	ウマ	距骨				右		1		風化はみられるが、ほぼ完存	
46		哺乳類	ウマ	基節骨				左	fused	1		前肢、近位外側が欠損	

袋No.	遺物別No.	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
	47		哺乳類	ウマ	基節骨			左	fused	1			後肢、遠位欠損、近位外側も僅かに欠損
	48		哺乳類	ウマ	基節骨			右	fused	1			後肢、遠位欠損、近位の縁辺部が少しづつ欠損
	49		哺乳類	ウマ	中節骨			-	fused	1			
	50		哺乳類	ウマ	中節骨			-	fused	1			風化が著しい
	51		哺乳類	ウマ	中節骨	遠位		-	fused	1			
	52		哺乳類	ウマ	末節骨			-	fused	1			前肢、縁辺部に所々欠損あり
	53		哺乳類	ウマ	末節骨			-	fused	1			後肢、縁辺部に所々欠損あり
	54		哺乳類	ウマ	末節骨			-	fused	1			前肢後肢不明、関節面を中心とする厚い部分のみ残存
	55		哺乳類	ウマ	中間手根骨			左		1			完存
	56		哺乳類	ウマ	第3手根骨			左		1			完存
	57		哺乳類	ウマ	第3手根骨	前方		右		1			
	58		哺乳類	ウマ	中心足根骨			左		1			完存
	59		哺乳類	ウマ	腰椎	右半分		-		1			
	60		哺乳類	ウマ	椎体			-		1			
	61		哺乳類	ウマ	肋骨	近位から中位		左		1			近位端欠損
	62		哺乳類	ウマ	肋骨	近位から中位		右		1			近位端欠損
	63	SE011	哺乳類	ウシ/ウマ	肋骨	全て骨幹		-		1?			13点
	64		哺乳類	大型哺乳類	肋骨	全て骨幹		-					8点
	65		哺乳類	ウマ?	仙骨	棘突起		-					
	66		哺乳類	ウマ	寛骨	前方部の寛骨から脛骨全体まで		左		1			
	67		哺乳類	ウマ	寛骨	腸骨体		右		1			
	68		哺乳類	ウマ	下顎骨	C~P1間の下顎骨		-		1			
	69		哺乳類	不明				-					破片
	70		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片、扁平骨、密度の高い海綿骨あり
	72		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	73		哺乳類	不明				-					破片、密度の高い海綿骨あり
	74		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	75		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片
	77		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片
	78		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片、怪が大きい
	79		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	80		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	81		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片
	82		哺乳類	大型哺乳類	寛骨?			-					破片、扁平骨、密度の高い海綿骨あり
	84		哺乳類	ウマ?	末節骨?			-					破片、密度の高い海綿骨あり
	85		哺乳類	不明				-					破片
	86		哺乳類	大型哺乳類	不明			-					破片

袋No	遺物 別No	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
	87		哺乳類	不明				-					破片、闊節面あり、密度の高い海綿骨あり
	88		哺乳類	不明				-					破片
	89		哺乳類	不明				-					破片
	90		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	91		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片、密度の高い海綿骨あり、扁平骨
	92		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片、海綿骨あり
	93		哺乳類	不明				-					破片
	94		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片
	95		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片
	96		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	97		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり、長管骨
	98		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり、長管骨
	100		哺乳類	不明				-					破片
	102		哺乳類	不明				-					破片
	103		哺乳類	不明				-					破片、密度の高い海綿骨あり
	104		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片、密度の高い海綿骨あり
	105		哺乳類	大型哺 乳類	四肢骨	骨幹		-					破片、海綿骨あり
SE011	106		哺乳類	大型哺 乳類	肋骨?			-					破片、海綿骨あり
	107		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	108		哺乳類	不明	下顎?			-					破片
	109		哺乳類	ウマ	肩甲骨	関節窩		右		1			破片
	110		哺乳類	ウマ	肩甲骨	関節窩	関節上 結節側	左		1			破片
	111		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	112		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	113		哺乳類	大型哺 乳類	不明			-					破片、海綿骨あり、厚い長管骨?
	114		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	115		哺乳類	不明				-					破片、密度の高い海綿骨あり
	116		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	117		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	118		哺乳類	不明				-					破片、密度の高い海綿骨あり
	119		哺乳類	不明				-					破片、わざかに海綿骨あり
	120		哺乳類	不明				-					破片
	121		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	122		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	123		哺乳類	不明				-					破片、海綿骨あり
	124		哺乳類	不明				-					破片、わざかに海綿骨あり
	125		哺乳類	不明				-					破片
	126		哺乳類	大型哺 乳類	寛骨?	脛骨?		-					破片、扁平骨、密度の高い海綿骨あり
	1	SI044内、 SP904	哺乳類	ウシ	遊離歯	上顎臼歯	舌側のエナメル質	-					破片
	2		哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯		-					
	3		哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯		-					

袋No.	遺物別No.	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
	4	SI044内、SP904	哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯	頬側のエナメル質	-					破片
	5		哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯	エナメル質	-					破片
	6		哺乳類	ウシ/ウマ	遊離歯	臼歯	エナメル質	-					破片
	7		哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯	頬側のエナメル質	-					破片
	8		哺乳類	大型哺乳類	遊離歯	臼歯	エナメル質	-					破片
	9		哺乳類	ウシ	遊離歯	臼歯	頬側のエナメル質	-					破片
	10		哺乳類	大型哺乳類	遊離歯		エナメル質	-					破片
	11		哺乳類	不明	遊離歯		エナメル質	-					破片
	12		哺乳類	大型哺乳類	遊離歯	臼歯	エナメル質	-					破片
	13		哺乳類	大型哺乳類	遊離歯		エナメル質	-					破片
	14		哺乳類	不明	遊離歯		エナメル質	-					破片
	1	SE005	哺乳類	ウマ	焼骨	遠位		左	fused				前方一部欠損
1	1	SE009	哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎P4		左	b-d	2			
1	2		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎M2	前腹	左	d-e	2			
1	3		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎M3		左	b-c	2			
1	4		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎P2		右		2			
1	5		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎P3		右		2			
1	6		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎M1/2	後腹	右		2			
1	7		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎切歯		-		2			破片
1	8		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎切歯		-		2			破片
1	9		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎M1/2		-		2			破片
1	10		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎M1/2		-		2			破片
1	11		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎P2		左		3			
1	12		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎P3		左		3			
1	13		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎P4		左		3			
1	14		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎M1		左		3			
1	15		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎M2		左		3			
1	16		哺乳類	シカ	遊離歯	上顎M3		左		3			
1	17		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎P4		左		3			
1	18		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎M1		左		3			
1	19		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎M2		左		3			
1	20		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎M3		左		3			
1	21		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎P4		右		3			
1	22		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎M2		右		3			前方咬合面に僅かな欠損
1	23		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎dp3		左		3			
1	24		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎dp2		右		3			
1	25		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎dp3		右		3			
1	26		哺乳類	イノシシ/ブタ	遊離歯	下顎P2	衝冠	-		2			破片
1	27		哺乳類	シカ?	遊離歯	臼歯?	衝冠	-					破片
1	28		哺乳類	不明	遊離歯	衝冠	-						破片

袋No	遺物No	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
1	29	SE009	哺乳類	不明	遊離歯			-					破片
1	30		哺乳類	不明	遊離歯			-					破片
1	31		哺乳類	不明	遊離歯	歯冠		-					破片
1	32		哺乳類	不明	遊離歯	歯根		-					破片
1	33		哺乳類	不明	遊離歯			-					破片
1	34		哺乳類	不明	不明			-					破片
1	35		哺乳類	不明	不明			-					破片、密度の高い海綿骨あり
1	36		哺乳類	不明	不明			-					破片、密度の高い海綿骨あり
1	37		哺乳類	不明	不明			-					
1	38		哺乳類	不明	不明			-					
2	1	SE009	哺乳類	イノシシ/ブタ	尺骨	骨幹近位側前方、骨遠位側		左			2	エ、シ、テ	
2	2		哺乳類	イノシシ/ブタ	橈骨	近位		左	切断	fused	2	コ	近位前方やや外側から骨幹中位後方に向かって斜めに切断されている。
2	3		哺乳類	イノシシ/ブタ	下顎骨	下顎体	左：I (xx)、右：(xxx x xxxP4 x)	-		b(P4より)	2	ア	破片
2	4		哺乳類	イノシシ/ブタ	下顎骨	下顎体	P (xx)	左			2	セ	
2	5		哺乳類	イノシシ/ブタ	下顎骨	下顎体	P2 (xx)	左			2		P3は後方、P4は前方のみ歯槽骨が残存。
2	6		哺乳類	イノシシ/ブタ	下顎骨	下顎体	M (xxx)	左	切傷		2	ソ	M1の歯槽骨は舌側後方、M3の歯槽骨は前方のみ残存。M1歯槽骨直下の舌側から前方にかけて、鋭利な刃物によってつけられた傷がある。
2	7		哺乳類	イノシシ/ブタ	下顎骨	下顎体	(xM3)	右		a-b (M3より)	2	タ	M3は完全に萌出
2	8		哺乳類	イノシシ/ブタ	脛骨	中位から遠位前方		左			2	カ、ス	
2	9		哺乳類	シカ	頭蓋骨	前頭骨、頭頂骨、左角坐骨		-	切断(叩き)		3	イ、ウ、オ、ケ、サ、二、ヌ、ハ、マ	オス、角坐骨下方を前位3方向から鋭利な刃物で叩き切っている。途中から折りとったためか、後方には削れた跡が残る。
2	10		哺乳類	シカ	下顎骨	下顎枝		-			3	ツ	
2	11		哺乳類	シカ	下顎骨	後方の腹縫		-			3	ナ	
2	12		哺乳類	シカ?	上顎骨	歯槽骨		-			3	ノ	破片
2	13		哺乳類	シカ	下顎骨	下顎体		-			3	チ	破片
2	14		哺乳類	シカ	下顎骨	下顎体		-			3	ハ	破片
2	15		哺乳類	シカ	下顎骨	下顎体		-			3		破片
2	16		哺乳類	シカ	下顎骨	下顎体		-			3		破片
2	17		哺乳類	不明	頭蓋骨	脳頭蓋		-				キ	破片
2	18		哺乳類	不明	頭蓋骨?			-				ク	破片
2	19		哺乳類	不明	頭蓋骨	脳頭蓋		-					破片
2	20		哺乳類	不明				-				ト	破片
2	21		哺乳類	不明				-				ヒ	破片

袋No.	遺物別No.	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
2	22	SE009	哺乳類	不明				-				へ	破片
2	23		哺乳類	不明				-				ネ	破片
2	24		中・大型哺乳類	臼齒	エナメル質		-						破片
2	25		哺乳類	不明			-						破片9点
2	26		哺乳類	不明	頭蓋骨?		-						破片5点
2	27		哺乳類	不明			-						破片32点、海綿骨あり
2	28		哺乳類	不明			-						破片259点
1			哺乳類	ウシ/ウマ	大腸骨	遠位後方		左		4?	No. 1		大きさからウシか?
2			哺乳類	ウシ/ウマ	大腸骨	遠位		-		4?	No. 1b		破片
3			哺乳類	不明				-			No. 1c		破片
4			哺乳類	不明				-			No. 1d		破片
5			哺乳類	不明				-			No. 1g		破片
6			哺乳類	不明				-			No. 1h		破片
7			哺乳類	不明				-			No. 1l		破片
8			哺乳類	不明				-			No. 1j		破片
9			哺乳類	不明				-			No. 1k		破片
10		SD100	哺乳類	ウシ/ウマ	上腕骨	骨幹～遠位		-	fused	4?	No. 2		
11			哺乳類	ウシ/ウマ	大腸骨	遠位		-	fused	4?	No. 3		
12			哺乳類	ウシ	脛骨			左	fused	4	No. 4		
13			哺乳類	ウシ/ウマ	四肢骨	骨幹		-		4?	No. 5		
14			哺乳類	ウシ	踵骨			左		4	No. 6		近位端欠損
15			哺乳類	ウシ	中心足根骨+第四足根骨			左		4	No. 6		完存
16			哺乳類	ウシ	距骨			左		4	No. 7		踵骨との関節面が風化により磨滅
17			哺乳類	ウシ	中足骨	近位から中位		左		4	No. 8		
18			哺乳類	ウシ	基節骨	後方と側面の一部		-		4	No. 9		
19			哺乳類	ウシ/ウマ	不明			-		4?	No. 10		かなり大きい
20			哺乳類	ウシ	繞骨+尺骨	骨幹		右		4	No. 11		繞骨は近位内側が一部残存。
21			哺乳類	不明				-			No. 12		破片
22			哺乳類	ウシ	中手骨	近位前方		右		4	No. 13		
23			哺乳類	ウシ?	基節骨?	遠位関節面?		-	fused				
24			哺乳類	不明	関節面?			-					破片
25			哺乳類	不明				-					密度の高い海綿骨あり
26			哺乳類	不明				-					36点
1		SF001	哺乳類	ウマ	中足骨			左	削ぎ跡?	fused			近位が欠損。骨幹外側面に刃物で削いた跡がみられる。
2	1		哺乳類	ウマ	脛骨	遠位		右		fused			
2	2		哺乳類	シカ	遊離歯	下顎 M1/2		右					歯根が僅かに欠損
2	3		哺乳類	ウシ/ウマ?	脛骨?	遠位内果?		左?					破片
2	4		哺乳類	不明	頭蓋骨?	上顎骨?		-					破片
2	5		哺乳類	不明	頭蓋骨?			-					破片

袋No	遺物別No	遺構名	大分類	小分類	部位1	部位2	部位3	左右	加工	成長	同一個体	取上げ	備考
3		SF001	哺乳類	大型哺乳類				-					5点、同一骨か?
4	1		哺乳類	不明				-					破片
4	2		哺乳類	不明				-					破片
4	3		哺乳類	不明				-					破片
4	4	SF001	哺乳類	不明				-					破片
4	5		哺乳類	不明				-					破片
4	6		哺乳類	不明				-					破片
4	7		哺乳類	不明				-					破片
5	1	SF001	哺乳類	不明				-					破片
5	2		哺乳類	不明				-					破片
6	1		哺乳類	不明				-					破片
6	2		哺乳類	不明				-					破片
6	3	SF001	哺乳類	ウマ?	中足骨?	近位後方?		左?					破片
6	4		哺乳類	不明				-					破片

・同一個体一数字は同一個体を示す。

表2 遺構年代と最小個体数

	時期	ウマ	ウシ	イノシシ /ブタ	ニホンジカ	計
SE011	9世紀初頭	1				1
SI044 内、SP904	9世紀初頭		1			1
SE005	9世紀	1				1
SE009	10~11世紀			1	2(成1、幼1)	3
SD100	15~16世紀		1			1
SF001	15~16世紀	1			1	2
計		3	2	1	3	9

(註) 別遺構は別個体とし、重複する部位がなければ同一個体として数えた。

表3 ウマ 脊骨計測値の比較

SE011 脛骨(左)		1	2	3	4
遺跡名	二本木遺跡	藤原京跡	須和田遺跡	白幡前遺跡	平安京跡
時期	平安 (9世紀初)	奈良	奈良	平安	平安
所在地	熊本	奈良	千葉	千葉	京都
GL (mm)	329.6	323.2	321.2	308.6	295.1
L1	301.4	-	-	-	-
Bp	81.2	87.1	86.9	86.5	-
SD	33.1	36.4	33.3	34.4	42.2
Bd	60.9	64.8	65.8	69	-
Dd	37.8	38.9	42.1	38.3	-
推定体高 (cm)	129	126	125	118	110

(註) 1~4は西中川(1991a)のデータをもとに作成。

表4 ウマ遊離歯計測表

SE011

	部位名	遺構別No.	年齢	左			右		
				長	幅	高	遺構別No.	年齢	計測値
上顎	I3						1	~	-
	P2	20	9~10歳	34.2	22.9	31.2	15	8~9歳	35.0 24.0 32.6
	P3	25	11~12歳	26.6	26.2	33.1	26	10~11歳	26.6 25.0 35.8
	P4	23	10~11歳	26.7	25.1	37.5	18	11~12歳	26.6 26.2 34.8
	M1	19	10~11歳	22.2	22.4	32.4	22	11~12歳	23.5 23.1 34.5
	M2	16	11~12歳	22.5	23.0	32.6	24	11~12歳	22.2 22.2 34.2
	M3	17	15歳より若い	27.1	20.3	(25.53)	21	11~12歳	26.6 20.3 32.7
下顎	I3						2	~	-
	P2	9	9~10歳	30.4	14.2	29.0	12	9~10歳	30.5 13.3 30.0
	P3	10	11~12歳	25.3	13.6	29.6	4	11~12歳	25.7 15.9 29.6
	P4	14	10~11歳	25.0	13.9	36.2	5	10~11歳	24.9 15.4 35.2
	M1						6	11~12歳	22.5 13.2 34.0
	M2	8	13~14歳	22.8	13.8	32.2	13	12~13歳	24.2 12.1 36.0
	M3	11	10~11歳	30.1	11.7	36.1	7	10~11歳	31.2 11.2 37.7
上 / 下顎 左右不明	I2	3	-	-	-	-			計測値 (mm)

表5 ウマ臼歯列長計測表

SE011

	計測部位	左	右
上顎	臼歯列長	154.0	157.5
	前臼歯列長	86.3	80.5
	後臼歯列長	71.3	75.7
下顎	臼歯列長	-	156.0
	前臼歯列長	80.9	87.4
	後臼歯列長	-	71.8

計測値 (mm)

(註) 遊離歯を並べて計測。

表6 歯の計測値表

SF001

	遺構別No.	部位	左右	成長	長	幅
シカ	2	下顎M1/2	右		15.9	7.9

SE009

	袋No.	遺構別No.	部位	左右	成長	長	幅
イノシ シ/ブ タ	1	1	下顎P4	左	b-d	14.5	8.5
	1	2	下顎M2 前腹	左	d-e	-	13.0
	1	3	下顎M3	左	b-c	34.4	15.1
	1	4	下顎P2	右	-	11.0	4.7
	1	5	下顎P3	右	-	13.3	6.3
	2	3	下顎P4	右	b	14.81	8.5
	1	6	下顎M1/2 後腹	右	-	-	12.9
シカ	2	7	下顎M3	右	a-b	33.52	15.0
	1	11	上顎P2	左		10.4	10.7
	1	12	上顎P3	左		11.4	11.6
	1	13	上顎P4	左		10.5	13.1
	1	14	上顎M1	左		16.4	15.3
	1	15	上顎M2	左		18.3	16.4
	1	16	上顎M3	左		17.9	16.3
	1	17	下顎P4	左		12.8	8.0
	1	18	下顎M1	左		15.9	9.7
	1	19	下顎M2	左		18.8	10.7
	1	20	下顎M3	左		23.2	10.8
	1	21	下顎P4	右		13.1	7.9
	1	22	下顎M2	右		18.5	10.7
	1	23	下顎dp3	左	幼	11.7	6.6
	1	24	下顎dp2	右	幼	8.1	5.3
	1	25	下顎dp3	右	幼	11.7	6.6

(註) *以外は遊離歯

計測値 (mm)

(註) イノシシ/ブタの「成長」は Wilson(1982) を利用。

表7 動物の計測値表

SEO11 ウマ

	左	右		左	右
上腕骨			基節骨	後肢	
BT	62.3	-	Bp	45.9	-
桡骨	-	66.9	Bfp	38.5	-
Bp	-		SD	25.9	25.5
Li	300.7	-	中節骨	(前後左右不明)	
SD	32.3	-	GL	40.6	-
Bd	66.0	-	Bp	42.8	40.9
尺骨	-		Bfp	35.3	-
DPA	-	52.4	Dp	26.0	-
SDO	-	42.1	SD	36.7	-
大腿骨			Bd	38.2	-
GLC	339.3	-	推定体高(cm)	118	
SD	31.0	-	末節骨	前肢	後肢
Bd	74.8	-	BF	42.0	40.4
脛骨			LF	27.3	23.1
GL	329.6	326.4	HP	34.5	29.9
LI	301.4	296.6	Ld	41.7	-
Bp	81.2	80.0	末節骨	(前後左右不明)	
SD	33.1	33.2	LF	21.9	
Bd	60.9	61.3			
Dd	37.8	37.9			
推定体高(cm)	129	127			
第3手骨					
GL	-	201.2			
GLI	198.8	198.0			
LI	195.6	191.9			
Bp	37.9	42.9			
SD	27.3	26.8			
Bd	-	39.8			
推定体高(cm)	-	122			
膝蓋骨					
GL	-	56.0			
中足骨					
GL	239.8	-			
GLI	238.2	-			
LI	234.7	-			
Bp	44.0	45.0			
CD	25.6	25.4			
Bd	38.7	38.3			
推定体高(cm)	119	-			
踵骨					
GB		47.0			
距骨					
GH	50.3	50.3			
LmT	50.6	50.4			
GB	52.9	52.7			
Bfd	46.4	46.0			
基節骨	前肢				
GL	73.4				
Dp	33.5				
SD	27.8				
Bfd	34.5				
Bd	38.7				
推定体高(cm)	119				

SF001 ウマ

袋No.	遺構別No.	左	右
1		中足骨	
		CD	26.6
		Bd	40.1

SE009 イノシシ/ブタ

袋No.	遺構別No.	左	
2	2	桡骨	
		Bp	32.8
		Dp	23.0

SD100 ウシ

遺構別No.	左
12	脛骨
14	踵骨
15	中心足根骨+第 四足根骨
	GB
16	距骨
	Gl.m
	Dl
	Gl.l
17	中足骨
	Bp
	Dp

計測値 (mm)



ウマの上顎臼歯（左）



ウマの下顎臼歯（左）



ウマの上顎臼歯（右）



ウマの下顎臼歯（右）





ウシ

- 1 桡骨・尺骨（左）
- 2 大腿骨（左右不明）
- 3 楔骨・尺骨（右）
- 4 上腕骨（左右不明）
- 5 距骨（左）
- 6 中足骨（左）
- 7 瞿骨・足根骨（左）



II. 二本木遺跡群（春日地区）における土器付着物の蛍光X線分析

1. はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー（蛍光X線）が放出され、この蛍光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類と量を調べることができる。

2. 試料

分析試料は、C区SK047から出土した9世紀の土師器の内面に付着した金属質の物質（No.1, No.2）である。試料の写真を図1、図2に示す。

3. 方法

エネルギー分散型蛍光X線分析装置（堀場製作所製分析顕微鏡、XGT-5000Type II）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。まず最初に元素マッピング分析を行い、主要元素のマッピング図を基に輝度の高い箇所を5ヶ所選んでポイント分析を行った。測定条件は、測定時間3000秒、ビーム径100 μm、電圧50kV、試料室内真空である。なお、今回は非破壊分析のため試料表面の研磨を行っていないことから、定量分析結果の数値は必ずしも正確なものとはいえない。

4. 分析結果

図1と図2に分析ポイントを示した元素マッピング図およびポイント分析により得られたスペクトルを示し、表8に各試料・各ポイントにおける各元素の定量分析結果(wt%)を示す。

土器胎土に多く含まれるケイ素や鉄などの元素を除くと、No.1では主に銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)、ヒ素(As)が検出され、ニッケル(Ni)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)、金(Au)、ビスマス(Bi)も認められた。No.2では主に銅(Cu)、鉛(Pb)、ヒ素(As)が検出され、ニッケル(Ni)、亜鉛(Zn)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)、ビスマス(Bi)も認められた。

5. 考察

土師器の内面に付着した金属質の物質（No.1, No.2）について蛍光X線分析を行った。その結果、No.1は銅、スズ、鉛、ヒ素、No.2は銅、鉛、ヒ素を主体とした元素組成であり、いずれも銅合金に由来するものと考えられる。なお、No.2はスズが検出されないなど元素組成に差異があることから、No.1とは材質が異なっている可能性が考えられる。その他の微量元素については、鉱石から分離できなかった不純物の可能性が考えられる。

表8 土器付着物の蛍光X線分析結果

(wt%)

No.	ポイント	Cu	Sn	Pb	As	Ni	Zn	Ag	Sb	Au	Bi
1	a	96.85	0.44	—	0.55	—	—	1.55	—	0.35	0.26
	b	97.12	0.41	0.23	1.45	—	—	0.58	0.14	—	0.07
	c	81.29	9.43	7.07	1.76	0.11	—	—	0.26	—	0.08
	d	72.89	5.42	15.25	5.68	—	—	—	0.76	—	—
	e	68.60	18.99	7.05	4.79	0.12	—	—	0.34	—	0.11
2	a	98.40	—	0.96	0.63	—	—	—	—	—	—
	b	96.02	—	1.54	1.45	—	0.11	0.66	0.15	—	0.07
	c	95.32	—	2.39	1.83	0.03	0.14	—	0.22	—	0.07
	d	82.68	—	6.51	10.39	—	0.43	—	—	—	—
	e	2.71	—	—	95.45	1.11	0.73	—	—	—	—

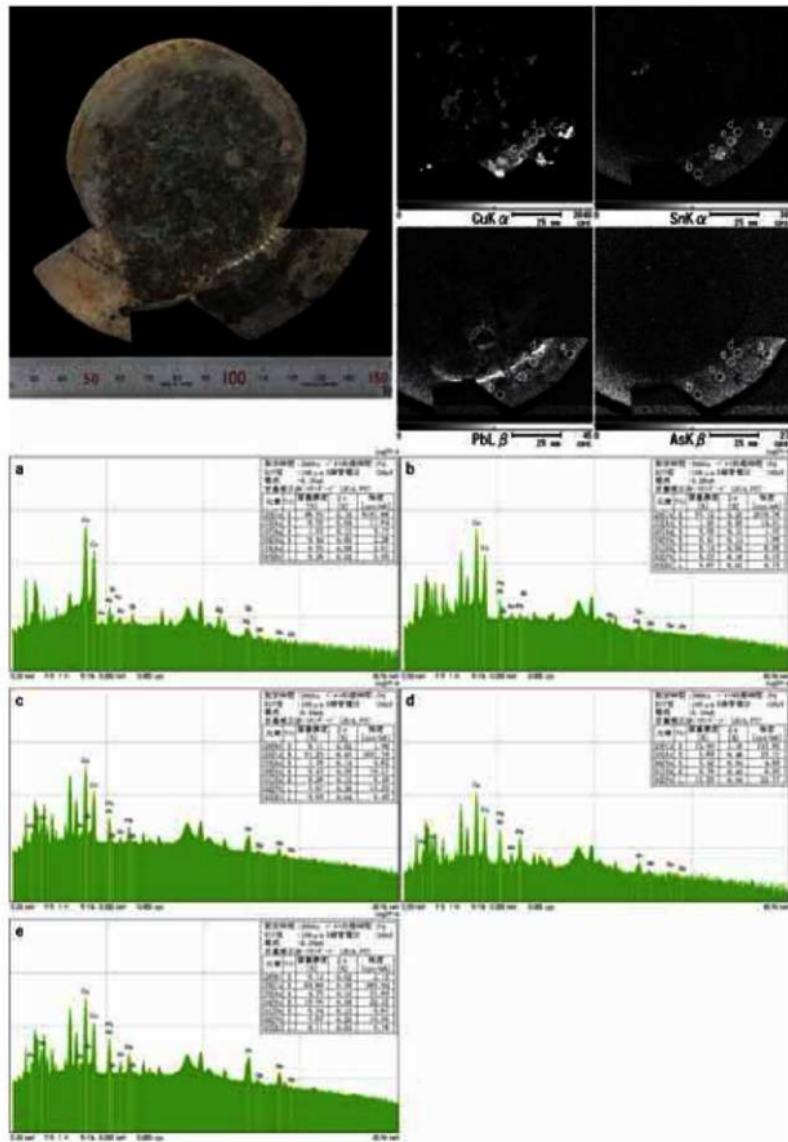


図1 No.1の元素マッピング図およびポイント分析スペクトル

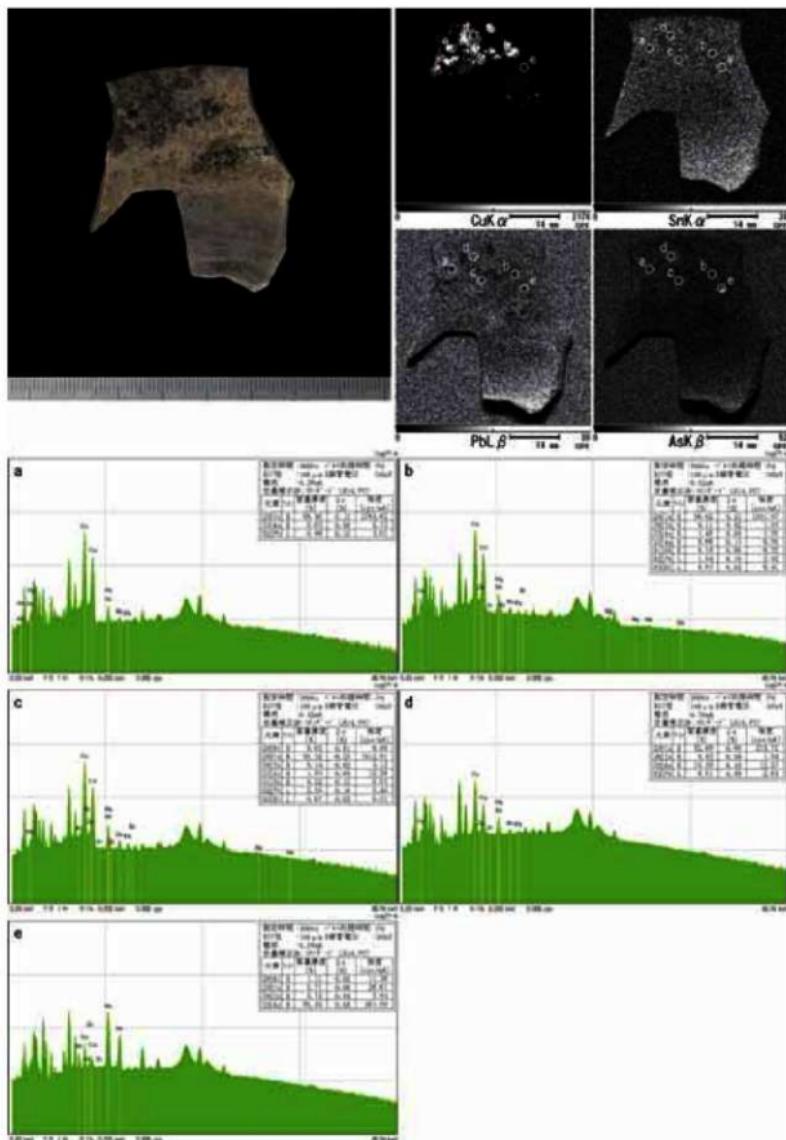


図2 No.2の元素マッピング図およびポイント分析スペクトル

第5章 調査の成果

今回調査した遺構群は年代別に遺構配置図を示すところとなる。年代は古代Ⅰ（8世紀中葉）、古代Ⅱ（8世紀後半9世紀初頭）、中世Ⅰ（12世紀前半）、中世Ⅱ（16世紀前半）、近現代のおおよそ5時期に分けることができる。

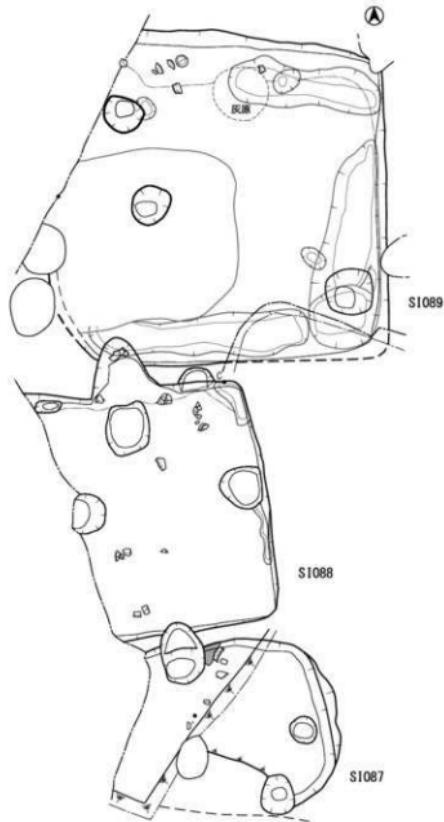
1 遺構の変遷古代Ⅰの時期は、堅穴建物を中心とする集落が調査区全域にわたり分布する。堅穴建物の1軒あたりの切り合いの詳細をみると2軒から4軒程度の切り合いからなる。また、堅穴建物のあり方をみると、8世紀中葉の遺構掘形は一辺が約4m前後の規模を持つが、8世紀後半に入ると小型化し住居跡としての用途は失われつつあるものとみられる。堅穴建物の掘形にまで、気を遣い周溝を巡らせていたものが作り付けカマドを有するだけの2m×1.5m程度の遺構へと変化していく。これは、下図の例だけではなく切り合いのある堅穴建物遺構には多少なりともこのような変化をみることができる。また、切り合う堅穴建物の掘形を観察すると掘形のバリエーションを切り合うグループ毎に違いがあることも確認される。

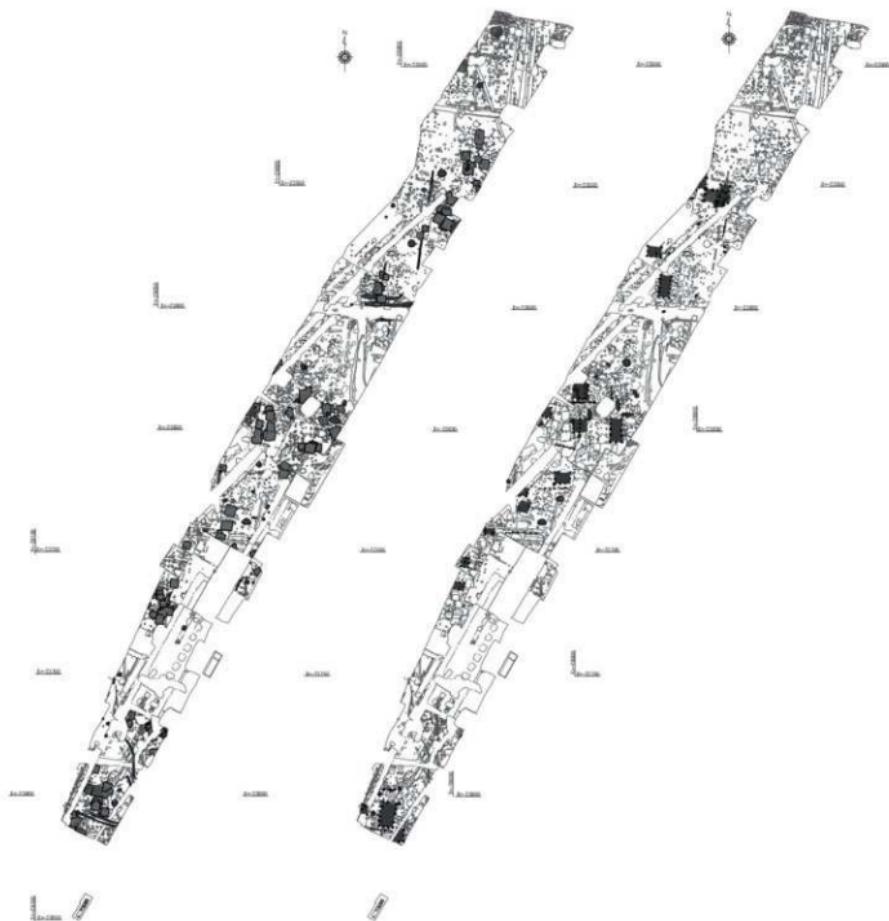
隅丸方形のコーナーを継承するSI013・SI014、直角なコーナー部を踏襲するSI093・SI094・SI103 調査方形掘形を踏襲するSI012・SI013・SI016など掘削手法に特徴を有するものがグループを作っている事例が見受けられる。それぞれに、出土遺物の年代を検討すると時期差が見受けられるかもしれないが、出土遺物の少なさからここでは大まかなくくりのなかで捉えることとする。

集落の景観としては、堅穴建物間に井戸を検出していることから、井戸を中心に堅穴建物がその周りに配されているという状況がこの集落では一般的であったようである。堅穴建物の切り合いが1ヶ所に留まった切り合いを呈することから、この段階において集落内の土地利用に強い規則性があったことも窺える。建替えに伴い前の建物を埋め戻して一部が切り合う状態で建て直しているものが大半であることから、遺構廃絶にあたってそれまでの生活道具一式、作り付けカマド等は基本的に撤去され堅穴建物内に掃き清められたものとみられる。調査の結果、遺構内出土遺物が極端に少ないこと、作り付けカマドがほぼ痕跡すら残していない事例が多いことからこのような推測を加える。

古代Ⅱ（8世紀後半～9世紀初頭）の時期は、本遺跡群において、官衙的様相を持ち始める時期にあたる。掘立柱建物を中心とする遺構群が堅穴建物に変わり調査区全域に広がってくる。

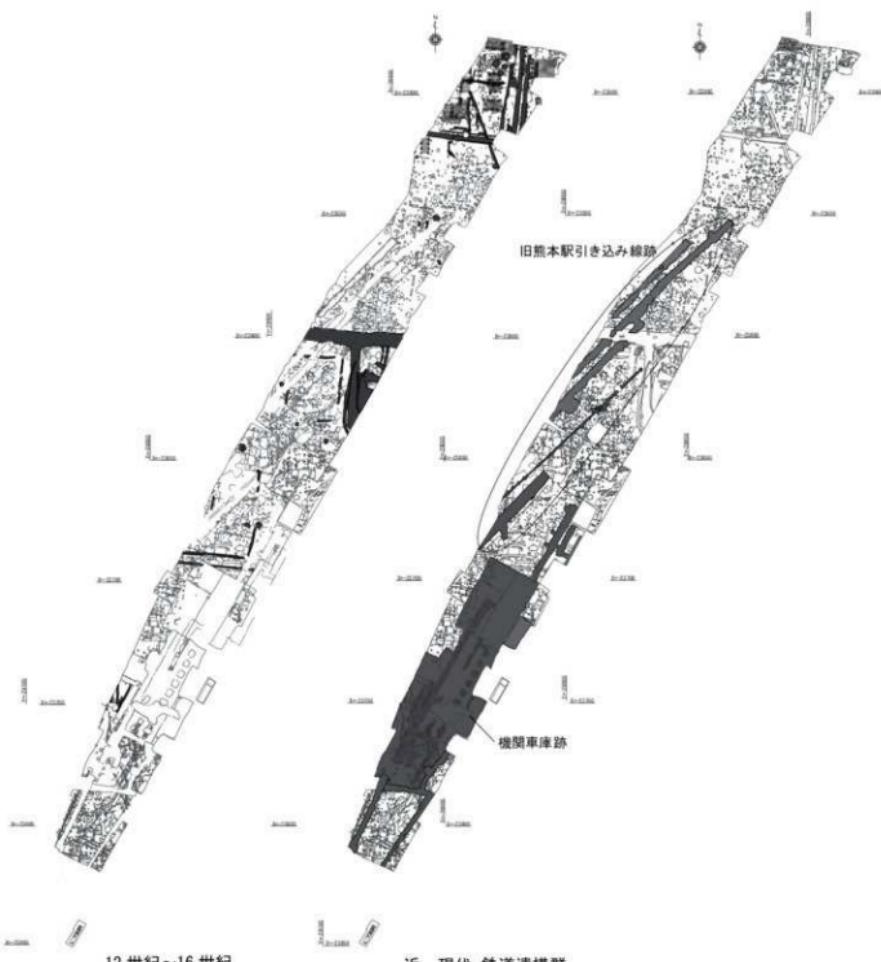
掘立柱建物の配置は、堅穴建物同様に調査区全域に渡り今回の調査区内に於いては規則性を持つ配置状況をしているヶ所はない。しかし、柵列との組み合わせによる掘立柱建物等もあることから、計画的な土地利用を前提とし、掘立柱建物が配置され





ていたことも窺える。今後周囲の遺構図を統合した時点で再検討を要する問題のひとつである。しかし、調査区南端に位置する掘立柱建物 SB030（3間×5間）では南北に柵列を配する建物を確認している。当遺跡のなかでは比較的大型の掘立柱建物であり周辺に伸びるとみられる掘立柱建物もあることから、接した位置に掘立柱建物が配されていた可能性もある。

全体を通してみると本調査区の掘立柱建物は建築時の制約のなかで主軸方向、柱穴規模等により幾バターンかの配置状況を確認することができた。まず、主軸を南北におくものと東西におくものとに大別され、南北に主軸を置くものの中では東にやや軸を振るものとがあり、真北に軸をおくものが本調査区では第1期掘立柱建物群（8世紀後半）で、北東に軸を振るもの、東西に軸をおくものの2バターンの掘立柱建物が第



2期掘立柱建物群（9世紀中葉）と考えられる。また、柱の設置状況においても、板状石の礎盤を有するもの、素掘りのうえ底面を粘土質の土で固めたもの2種に分けることができた。数が多いのは後者で検出した遺構の大半はこれにあたる。掘立柱建物の規模は、2間×3間が一般的で最も数が多く、次いで1間×2間の小規模なものまで見ることができる。

掘立柱建物のあり方として、同じ二木木遺跡群のなかでも熊本市調査第13次調査区で8世紀中葉創建の古代官衙遺構とみられる掘立柱建物群があり、8間×8間の総柱建物など当調査区検出遺構とは比較にならないほど大規模な遺構が検出されている。春日地区第8次調査（県）でも総柱建物建物を検出するなど本遺跡の中心範囲は本調査区と白川との間に広がる地域にあたるようである。

16世紀においては調査区北端において一辺の長さが35m以上の方形区画に囲まれた居館と考えられる一角を確認している。検出した溝は白川に面する東側で3条、南側では1条の溝に囲まれ北側に広がる平坦面に向かって延びている。周辺の土地の調査事例により延長上の規模を確定できるとその規模から施設の性格を類推することができよう。方形区画の内部には、6棟の掘立柱建物と井戸、内部で区画する小規模な溝が検出された。井戸出土遺物などから遺構の年代を判断すると方形区画の時期と同じく16世紀代の遺構群であることが判明した。北側に向かっては小字名に「春日屋敷」という地名も残ることから大規模な中世居館跡の存在を予感させる遺構である。

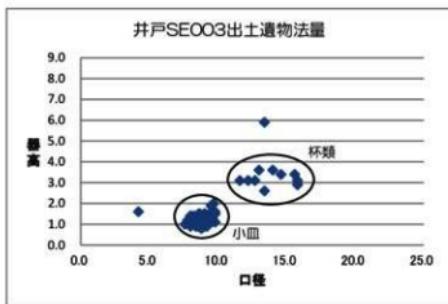
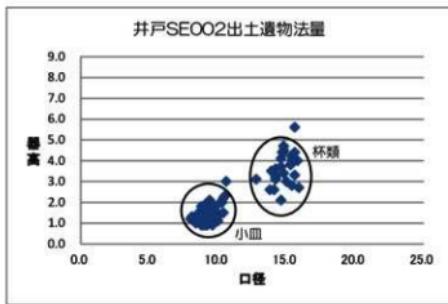
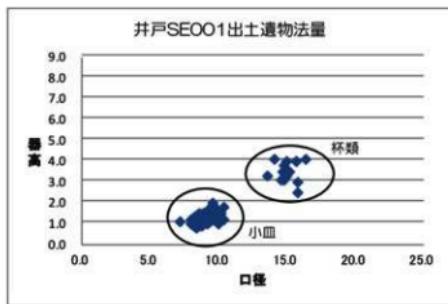
調査区の中ほどに道路状遺構としてSF001を確認している。この道路状遺構はほぼ東西方向に伸び、調査区を横断している。西側調査区外では、現在の市道に重複し現代にまで土地区画を引き継いでいるのが分かった。道路状遺構からは輸入染付椀、皿類の出土がみられることから15世紀から16世紀の時期を想定できる。

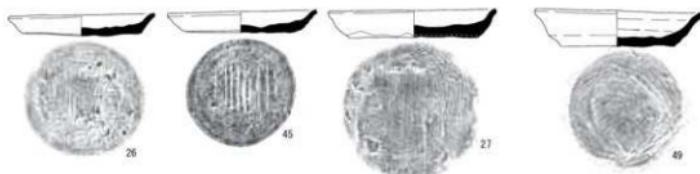
近・現代においては、明治24年に熊本駅が設置された後に周辺にはさまざまな鉄道施設群が作られていくこととなる。遺構配置図としてあらわした図は、機関車庫を始め転車台・給水塔等戦前までの鉄道遺構を始め戦後拡幅された引き込み線・台車点検・洗浄のためのピットを有した線などが追加されている。これらは、新幹線建設事業によりすべて失われている。

2 出土遺物について

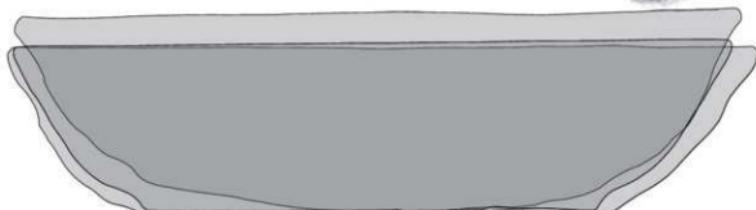
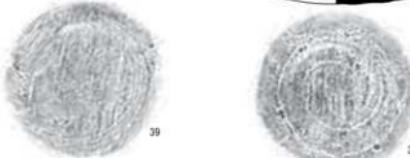
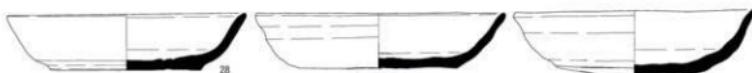
当調査区からは井戸、土坑、墓から多くの遺物が一括りの高い資料として出土している。左記に掲載している土師器皿、杯類の法量分布図などはその一括りの高さから分類できた証拠ともなろう。この時期の法量による分類はこれまでにも数多くなされているためここでは詳細に触れないが、今後二木本遺跡群出土の遺物を検討する際には必要な資料となることは明白である。

この法量分布図をもとに次ページではデータを作成した遺物の基本形を示している。12世紀代の土師皿・杯類であるが規格性は高くほぼ同形の皿が數十枚の単位で出土することは注目される。土器調整はヘラ切り後、板状圧痕を有するものが割合的には多いが、一部には糸切り後板目圧痕なども入っている。杯類底部について、底部整形の違いにより平底、丸底の違いがあるものも含まれる。全体数が少ないことから当初から丸底を意識した形であったかは分からぬ。のことから、この時期の土





井戸 SE001 出土遺物及び実物大模式図



井戸 SE002 出土遺物及び実物大模式図

器形状のについて、1/1で模式図を掲載しているので、大きさを実感して頂きたい。

その他に注目される遺物は墓からの出土遺物がある。墓 ST001 からは在地形の土師皿に研磨土師器、二次的に被熟した縄釉陶器水滴、須恵質陶器壺、鉄製劔鍾車など 10 世紀の一括資料がある。(Fig. 168) 墓 ST002、墓 ST005 出土遺物についても、同時期の遺物とみられることから、墓が作られる 10 世紀には一時的に集落としての機能から葬送の場へと土地利用の転換が行われていたと考えられる。

等遺跡からの出土遺物のなかで最も古い時期の遺物は、縄文晩期後半期の土器の一群がある。(Fig. 182) 調査の過程で縄文晩期の土器が出土することは認識していたが遺構を確認するまでには至らなかった。出土している遺物も小片であり当地において廃棄されたものと考えるよりは周辺からの流入の遺物であると考えられる。

のことから、二本木遺跡群のなかで当該調査区で示した調査結果は、特異なものはなくこれまでに報告されてきた遺跡のあり方と一致するものであった。

引用・参考文献

白井克也『筑紫出土の腰脚鏡』九州考古学第 79 号 2004

佐藤 信『古代の地方官衙と社会』日本史リブレット 8 山川出版

鶴田龍生『肥後ににおける回転台上師器の成立と展開』『中世土器の基礎研究Ⅹ』日本中世土器研究会 1994

美濃口雅朗「熊本県における中世前期の土師器について」『中世土器の基礎研究Ⅹ』日本中世土器研究会 1994

古代の土器研究会『古代の土器 I 都城の土器集成』1992

古代の土器研究会『古代の土器研究』平安時代の縁輪陶器・生産地の様相を中心に・第7回シンポジウム 2003年 11月 22日・23日

中世土器研究会編『觀説 中世の土器・陶磁器』真陽社

日本中世土器研究会『中世土器の基礎研究Ⅹ』1994

奈良文化財研究所『平城宮出土墨書き集成Ⅲ』史料第 59 冊

日本国有鉄道熊本鉄道管理局『線路は続くよどこまでも』熊本鉄道管理局記念誌 昭和 62 年 3 月 31 日

熊本市立熊本博物館『西海道と肥後国・出土品からみた古代のくまもと』平成 23 年度企画展 九州新幹線全線開業記念事業

熊本市教育委員会『二木本道路群第 3 次調査区』『熊本市埋蔵文化財調査年報第 1 号』1995

熊本市教育委員会『二木本道路群第 1 次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・平 13・14 年度』2003

熊本市教育委員会『二木本道路群第 2 次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集・平 13・14 年度』2003

熊本市教育委員会『I・J・第 18 次調査区発掘調査報告書』2005

熊本市教育委員会『二木本道路群第 8 次調査区』『熊本市埋蔵文化財調査年報第 8 号』2006

熊本市教育委員会『二木本道路群第 21 次調査区』『熊本市埋蔵文化財調査年報第 9 号』2007

熊本市教育委員会『二木本道路群 II』二木本道路群第 13 次調査区発掘調査報告書 2007

熊本市教育委員会『二木本道路群 III』二木本道路群第 26 次調査区発掘調査報告書 2007

熊本市教育委員会『二木本道路群 IV』二木本道路群第 27 次調査区発掘調査報告書 2007

熊本市教育委員会『二木本道路群 V』二木本道路群第 28 次調査区 (E~I・K・L・P 地点) 発掘調査報告書 2008

熊本市教育委員会『二木本道路群 XV』二木本道路群第 40 次調査区 (E・N 地点)、第 47 次調査区 (E・F・J 地点) 発掘調査報告書 2011

熊本県教育委員会『二木本道路群』熊本県文化財調査報告第 174 集 1999

熊本県教育委員会『筑國道路』熊本県文化財調査報告第 188 集 2000

熊本県教育委員会『古體能寺道跡・古體城下道路』熊本県文化財調査第 216 集 2003

熊本県教育委員会『上ノ郷道路』熊本県文化財調査報告第 239 号 2007

熊本県教育委員会『二木本道路群 VI』熊本県文化財調査第 243 号 2008

熊本県教育委員会『二木本道路群 III』二木本道路群春日地区第 8 次 熊本県文化財調査第 256 集 2010

熊本県教育委員会『花岡山・万日山道路群・新馬鹿道路・北島道路群・萬楽寺道路』熊本県文化財調査報告第 266 集 2010

古代の瓦 -二本木遺跡群(春日地区)出土瓦について-

944～946は軒先瓦。軒先瓦は、熊本市教育委員会『二本木遺跡群II』の分類に準じている。

944は軒丸瓦11類か。945は軒平瓦8A類で二重の隆起線で唐草門を表現した小型の軒丸瓦。本資料で下外区が段状をなすことが分かる。外区のうち内区との境界の段には隆起線が認められる。平瓦との接合は包み込み技法。946は初出の軒平瓦。内区文様は左から右へ流れる偏行唐草文を二重の隆起線で表現している。外区は内向きの陽陰鉛削文で平瓦との接合は包み込み技法。顎部の段が不安定である。947は小型の丸瓦か。厚みが薄く復元径も小さい。948は行基式丸瓦。側縁部は面取りと風化のため、破面・裁面は不明瞭。949は凸面に格子目タタキが施されている。950は凹面に布目の綴じ合わせがみられる。951は玉縁式。凸面は丁寧なナデが施されている。凹面の布目も目が細かい。953は粘土紐痕跡が明瞭。3cm程度の幅が認められる。凸面は丁寧なナデ。側縁の凸面側にわずかに破面が認められる。952も同様に粘土紐の痕跡が明瞭。幅は3.5～4.5cm。947も同様。959は凹面に綱目タタキが認められる。中世以降の可能性がある。957は玉縁部分。凹面には明赤褐色粘土の付着が認められる。植物織維の痕跡も認められ、使用時の葺材粘土の可能性がある。954は比較的厚い瓦。焼成温度のためか器面の亀裂が激しい。側縁の凸面側に破面が認められる。凹面の布目は非常に粗い。958は丸瓦の端部。端部に平行した面取りが施されている。956は玉縁部分。体部と玉縁部で綱目タタキの方向に差異が認められる。本資料では凹面側に破面が認められる。

960～962はSE056から出土した一括りの高い資料である。960は完形復元可能な玉縁式の丸瓦。凸面は綱目タタキ後丁寧にナデ調整を施している。凹面は糸切り痕と、粘土板の合わせ目が認められる。側縁には凸面側にわずかに破面が認められる。961も玉縁式。玉縁部との段差が丸みを帯びる。凹面の段差も緩やか。玉縁部の段差は、粘土を補足している。不明瞭だが、粘土紐の痕跡が認められる。962は平瓦。側縁が鈍角をなすこと、凸面の綱目タタキが側縁と平行していること、凹面の糸切り痕が本資料内で完結している可能性が高いこと、模骨痕が認められないことから、一枚作りで制作されたものと判断している。凹面には布の綴じ合わせが認められる。963は凹面に模骨の痕跡が認められる。明瞭ではないが粘土紐の痕跡も認められるため、粘土紐桶巻き作りで制作された瓦と判断できる。964は側縁から60度ほど傾いた方向に綱目タタキが認められる。965は凹面の糸切り痕が明瞭な平瓦。凸面に赤褐色の付着物が認められる。963・966は完形復元可能な平瓦。962と同様で一枚作りで制作された可能性が高い。967は平瓦と判断している。狭端が丸みを帯びている。凹面に粘土の接合線が認められるが、粘土紐の方向としては不自然である。968は平瓦か。端部に向かって急激に薄くなっている。2次焼成を受けている。969は平瓦の広端部。側縁も広端にも面取りが施されている。瓦の厚みが中央から側縁に向かって薄くなっている。凹面に不明瞭だが糸切り痕が認められる。模骨の痕跡もなく、一枚作りの可能性が高い。また、凹面に布目の痕跡が認められ、制作過程で凹型台が使用されたようである。970も中央と端部で厚みが異なる平瓦である。糸切り痕は不明瞭。971は平瓦狭端部。凸面は端縁に並行する綱目タタキ。凹面には糸切り痕が明瞭である。側縁端部はほぼ直角で、面取りが施されているようである。狭端面も面取りが施されている。972も平瓦狭端側か。狭端部が風化しており明瞭ではない。凹面に糸切り痕跡が認められることと、側縁に破面・裁面が認められることから、粘土紐桶巻き作りで制作された可能性が高い。模骨の痕跡は不明瞭である。976は復元円弧は小さいが、いびつな平瓦であろう。凹凸面に糸切り痕が明瞭である。側縁には面取りが施されている。973は凹面にナデが施されている。凸面には綱目タタキと格子目タタキが認められ、さらに布目痕が認められる。側縁は面取りが施され銳角をなす。面取り時の調整が凸面側の端まで及び、格子目タタキを切っていることから、凸面タタキ後に側縁を仕上げたものと考えられる。981は平瓦の小片。凹面に棒状のタタキ痕が認められる。979は平瓦の小片。凹面に模骨の痕跡が認められる。974は平瓦狭端側端部か。凹面の布目に狭端に並行したナデ消しが数条認められる。糸切り痕がわずかに認められる。975は平瓦狭端部。明瞭な糸切り痕が認められる。凹面に、何らかの工具の端部と思われる圧痕が認められる。977は平瓦。中央部と端部で厚さの差が認められる。凹凸面とともに糸切り痕が認められ、側縁が鈍角をなすことから、一枚作りの可能性がある瓦である。980は凹面に模骨の痕跡が明瞭な平瓦。982は熨斗瓦。3辺に明瞭な切断面がある。983も熨斗瓦か。3辺に明瞭な切断面があるが、端部に広狭の差がある。凹面には明瞭な模骨痕が認められる。984・985はいわゆる瓦玉。984は凹面に葉脈状の文様を施したタタキが認められる。復元円弧からは平瓦の可能性が高い。凹面に粘土板の閉じ合わせ目状の痕跡が認められる。

熊本市文化振興課 文化財保護主事 金田一精

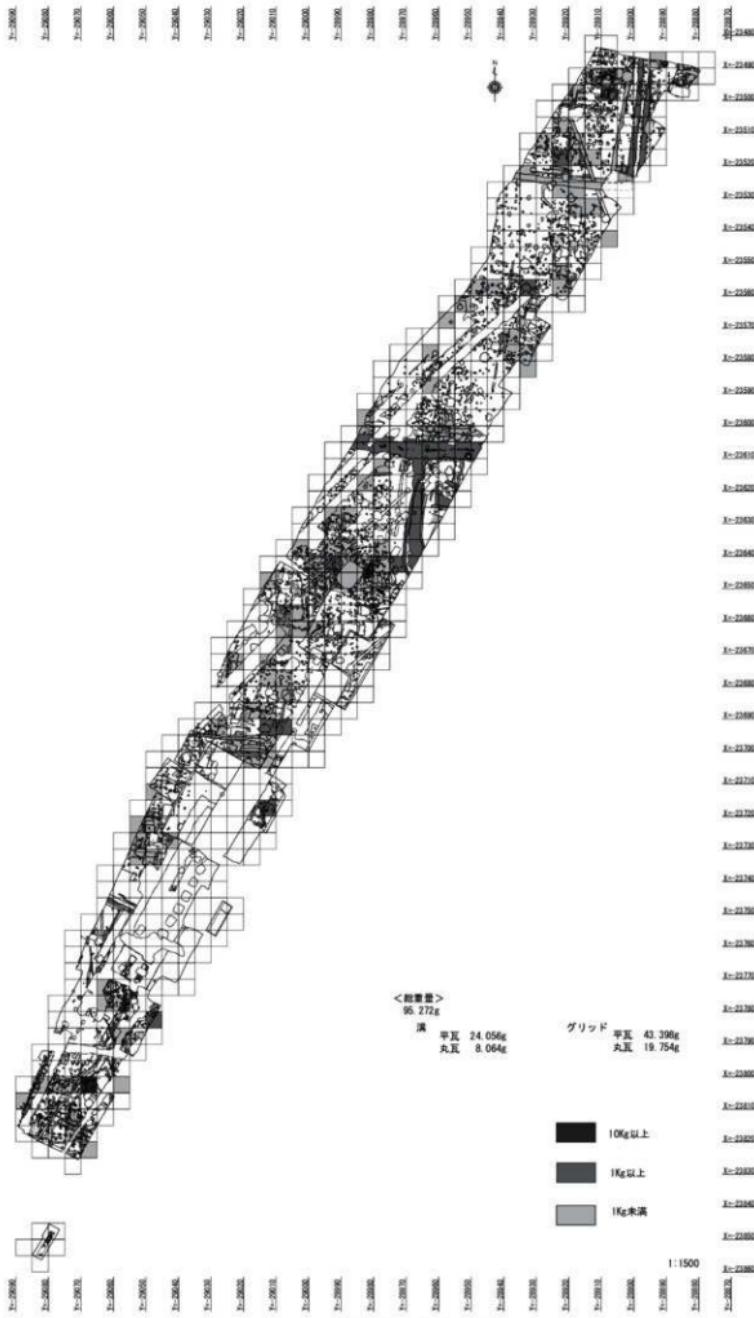


Fig.114 調査区出土（瓦）分布図

項目番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法面(cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大深度	器高	外面	内面	
1		41	SA001	土師器	杯	(11.6)	(8.1)	—	3.6	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	長石、角閃石、赤色酸化粒
2			SD001	土師器	杯	12.5	7.6	—	3.5	にふい橙 5YR7/4	にふい橙 5YR7/4	雲母、赤色酸化粒
3		34	SD001	土師器	杯	12.1	7.3	—	3.8	浅黃橙 7.5YR8/6	暗 7.5YR7/6	石英、雲母、赤色酸化粒
4			SD001	土師器	杯	12.6	8.1	—	3.7	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
5			SD001	土師器	杯	11.9	7.8	—	3.1	浅黃橙 7.5YR8/4	にふい橙 7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化粒
6		116	SD001	土師器	杯	—	—	(0.5)	—	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	雲母、赤色酸化粒
7		34	SD001	土師器	杯	(13.2)	(10.2)	—	4.2	暗 SYR7/6	暗 SYR7/6	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒
8			SD001	土師器	杯	(16.0)	(10.0)	—	3.9	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	砂粒、角閃石、赤色酸化粒
9			SD001	黒色土器	杯	(16.0)	7.8	—	7.0	黑 7.5YR2/1 灰黃 2.5YR2/2	黑 7.5YR2/1	長石、石英
10		34	SD001	土師器	三足土器	—	—	—	11.1	暗 SYR6/6	—	長石、石英、角閃石、雲母
11			SD001	須恵器	杯	(14.1)	(9.9)	—	4.1	暗 SYR6/6	暗 SYR6/6	長石、雲母
12			SD001	須恵器	杯	(15.1)	—	—	4.9	にふい黄 10YR6/4	灰白 10YR7/1	角閃石、砂粒
13		117	SD001	瓦葺土器	すり鉢	(34.4)	(15.6)	—	14.2	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	長石、黑色粒
14			SD001	瓦葺土器	すり鉢	(32.6)	(13.0)	—	14.3	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	長石、石英
15		35	SD004	土師器	小皿	(8.1)	(6.0)	—	1.6	にふい黄 7.5YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	雲母、砂粒、赤色酸化粒
16			SD005	土師器	杯	—	—	(0.8)	—	浅黃橙 7.5YR8/4	浅黃橙 7.5YR8/4	長石、雲母、赤色酸化粒
17			SE001	土師器	小皿	9.1	7.4	—	1.5	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/4	石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒
18			SE001	土師器	小皿	8.9	7.6	—	1.5	浅黃橙 10YR8/3	浅黃橙 10YR8/4	角閃石、赤色酸化粒
19			SE001	土師器	小皿	9.0	7.3	—	1.4	明黃橙 10YR7/6	明黃橙 10YR8/4	角閃石、雲母、砂粒
20			SE001	土師器	小皿	10.4	8.0	—	1.8	暗 7.5YR6/6	暗 7.5YR6/6	石英、雲母、砂粒 赤色酸化粒
21		36	SE001	土師器	杯	14.7	9.2	—	3.5	にふい黄橙 10YR7/2	にふい黄橙 10YR7/2	角閃石、白色粒、黑色粒
22			SE001	土師器	杯	14.8	10.8	—	3.5	浅黃橙 10YR8/4	浅黃橙 10YR8/4	長石、赤色酸化粒
23			SE001	土師器	杯	15.0	10.5	—	4.0	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 7.5YR7/3	角閃石、赤色酸化粒
24			SE001	土師器	高杯	—	—	(4.5)	—	にふい黄 7.5YR4/2	にふい黄 7.5YR4/2	砂粒、黑色粒
25			SE001	土師器	機	(15.5)	(6.6)	—	5.5	暗 SYR7/6	暗褐 7.5YR4/2	砂粒、黑色粒
26			SE001	土師器	杯	16.8	7.4	—	5.5	黑 N2/	黑 N2/	長石、雲母
27		118	SE002	土師器	杯	14.8	9.8	—	4.3	暗 7.5YR7/6	暗 7.5YR7/6	長石、石英、角閃石 赤色酸化粒
28			SE002	土師器	杯	15.0	9.4	—	4.3	浅黃橙 10YR8/4	暗 SYR6/8	角閃石、雲母、赤色酸化粒
29			SE002	土師器	杯	14.1	9.6	—	3.6	浅黃橙 10YR8/4	明黃橙 10YR7/6	石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒
30			SE002	土師器	杯	15.4	9.8	—	3.4	にふい黄 10YR7/4	にふい黄 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
31			SE002	土師器	杯	15.0	10.5	—	4.1	浅黃橙 7.5YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	角閃石、砂粒、赤色酸化粒
32			SE002	土師器	杯	15.0	9.1	—	3.5	暗 7.5YR7/6	浅黃橙 7.5YR8/6	長石、角閃石 赤色酸化粒
33			SE002	土師器	小皿	9.8	7.5	—	1.6	にふい橙 7.5Y7/4	にふい橙 7.5Y7/4	砂粒、赤色酸化粒
34			SE002	土師器	小皿	9.4	7.6	—	1.5	明黃橙 10YR7/6	暗 7.5YR7/6	長石、雲母、赤色酸化粒
35			SE002	土師器	小皿	9.4	7.2	—	2.1	白灰 10YR8/2	白灰 10YR8/2	長石、雲母
36		37	SE002	土師器	小皿	9.1	7.2	—	1.4	浅黃橙 10YR8/3	浅黃橙 10YR8/3	角閃石、雲母、砂粒 赤色酸化粒
37			SE002	土師器	小皿	8.8	6.9	—	1.8	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
38			SE002	土師器	小皿	8.8	7.3	—	1.5	浅黃橙 7.5YR8/6	浅黃橙 10YR8/4	長石、角閃石
39			SE002	土師器	小皿	9.6	6.8	—	1.4	にふい黄 10YR7/4	にふい黄 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
40			SE002	土師器	小皿	10.5	7.1	—	2.3	浅黃橙 10YR7/4	浅黃橙 10YR7/4	砂粒、白色粒、赤色酸化粒
41			SE002	土師器	小皿	10.3	7.9	—	2.0	にふい橙 7.5Y7/4	にふい橙 7.5Y7/4	砂粒、赤色酸化粒
42			SE002	土師器	小皿	9.1	6.6	—	1.8	にふい橙 7.5Y7/4	にふい橙 7.5Y7/4	角閃石、砂粒、赤色酸化粒
43			SE002	土師器	小皿	10.0	(6.4)	—	1.5	暗 7.5YR2/1	暗 7.5YR2/1	長石、雲母
44			SE002	黒色土器	小皿	(10.6)	(6.4)	—	1.5	黑 7.5YR2/1	黑 7.5YR2/1	長石
45			SE002	黒色土器	小皿	(10.0)	(6.4)	—	1.4	暗 7.5YR2/1	暗 7.5YR2/1	長石、赤色酸化粒
46			SE002	黒色土器	小皿	(10.4)	(8.0)	—	1.6	黑 N2/	黑 N2/	長石、赤色酸化粒
47			SE002	黒色土器	小皿	(9.0)	(6.9)	—	1.7	黑 7.5Y2/1	黑 N2/	長石、角閃石
48			SE002	黒色土器	小皿	(15.6)	7.0	—	5.6	明赤褐 (2.5Y5/8)	暗 7.5Y6/2	長石、角閃石、赤色粒
49		119	SE002	黒色土器	機	10.3	—	—	2.3	にふい橙 7.5YR7/4	明赤褐 7.5YR7/2	長石、角閃石、赤色酸化粒
50			SE002	黒色土器	托	10.3	—	—	2.3	にふい橙 7.5YR7/4	明赤褐 7.5YR7/2	長石、角閃石、赤色酸化粒
51			SE003	土師器	小皿	9.7	7.4	—	2.0	暗黃橙 2.5Y5/2	暗黃橙 2.5Y5/2	角閃石、雲母、砂粒
52			SE003	土師器	小皿	9.8	8.4	—	1.5	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 10YR7/4	雲母、赤色酸化粒
53			SE003	土師器	小皿	9.5	7.2	—	1.1	浅黃橙 10YR8/3	暗 SYR6/5	長石、雲母
54		38	SE003	土師器	小皿	9.5	7.1	—	1.2	にふい橙 7.5YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	石英、雲母
55			SE003	土師器	小皿	8.0	7.2	—	1.4	浅黃橙 10YR7/3	にふい橙 10YR7/4	長石、角閃石、雲母
56			SE003	土師器	小皿	9.0	7.2	—	1.3	暗 7.5YR7/6	にふい橙 10YR7/4	長石、赤色酸化粒
57			SE003	土師器	杯	(12.2)	7.2	—	3.1	赤褐 2.5YR4/8	反黃橙 10YR6/2	長石、赤色酸化粒
58			SE003	土師器	杯	14.6	10.6	—	3.4	にふい黃橙 10YR7/3	にふい黃橙 10YR7/3	微砂粒

Tab.5 出土遺物観察表一①

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内底面に油煙付着	1
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	粘土巻き上げ痕跡	2
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 油煙調査	3
横ナデ	横ナデ	手持ちラ切り	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 油煙調査 層状圧痕	4
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 油煙調査 層状圧痕	5
-	-	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書) 内底面赤彩	6
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書)	7
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	8
ヘラ磨き、横ナデ	ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ磨き	(黒色土器 b類) 高台が二重 内面へラ記号	9
ケズリ、ハケ目	-	-	-	三足土器(脚部)	10
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	赤焼け	11
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	12
ハケ目後ナデ	ハケ目後櫛櫛きすり目	ナデ	-		17
ナデ、指領圧痕	櫛櫛きすり目	ナデ	-	片口	18
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	内底面一部焼付着	22
-	-	-	-	(墨書) 内外面赤彩	23
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	24
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕 粘土巻き上げより剥離	25
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内底面から外側焼付着	26
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕 糸切りが難な為、粘土塊が厚く底座がわかりづらい	27
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	回転ヘラケズリ		28
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	糸切り	回転ヘラケズリ		29
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	ナデ	外器面焼付着	30
横ナデ、ナデ	横ナデ	-	ナデ	穿孔 外器面下部に指領圧痕	31
ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き	(高台付機) 黒色土器 b類	32
ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き	(高台付机) 黑色土器 b類	33
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	36
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	37
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外底面の同じ位置に二次的に火熱をうけている 板状圧痕	38
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	(灯明杯) 内外面保付着 少量の油煙付着	39
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		40
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	41
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	42
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	(灯明皿) 内外面油煙付着 板状圧痕	43
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕 内外面黑斑	44
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	45
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	46
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕 ヘラ切りによる粘土塊	47
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	糸切りの際、杯盤にも糸切りの痕跡	48
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	外底面一部から内面口縁部に保付着	49
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	50
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ	ナデ	(灯明皿) 油煙付着	51
ヘラ磨き	ヘラ磨き	ヘラ切り	ヘラ磨き	黒色土器 b類 内外面にヘラ記号	52
横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	ナデ後ヘラ磨き	ヘラ磨き	黒色土器 b類	53
横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	ヘラケズリ	ヘラ磨き	黒色土器 b類	54
ヘラ磨き	ヘラ磨き	ヘラ磨き	ヘラ磨き	黒色土器 b類	55
ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ磨き	(高台付机) 口縁部黒斑	56
横ナデ	横ナデ	横ナデ	-		57
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	外底面中央はヘラ切り調整棒の為、歪みあり 糸切り跡が底部の厚みが左右 2~3mm 違う	61
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	62
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内面全体、外器一部に赤彩を残す、朱入れの可能性あり 板状圧痕	63
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	64
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	外底面調整後に粘土を張り付けたような痕跡あり ヘラ切り後未調整の為底面が薄である	65
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	66
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 油煙調査 内外面赤彩	67
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	68

項目 番号	Fig. No.	PL. No.	透構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 側厚	器高	外面	内面	
69	120	38	SE003	土師器	椀	(13.4)	(7.6)	—	5.9	浅黄褐 7.SYR8/3	明赤褐 2.SYR5/6	長石・微砂粒
70			SE003	土師器	椀	15.8	5.7	—	5.8	にふい黄褐 10YR6/4	黒 2.SY2/1	雲母・微砂粒・赤色酸化粒
73			SE004	土師器	小皿	9.0	7.6	—	1.1	にふい黄褐 7.SYR7/4	明黄褐 10YR6/5	角閃石・雲母・赤色酸化粒
74			SE004	土師器	小皿	8.8	7.3	—	1.3	にふい黄褐 7.SYR7/4	石英・雲母	
75			SE004	土師器	小皿	8.9	7.3	—	1.4	にふい黄褐 7.SYR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石・雲母
76		39	SE004	土師器	小皿	10.3	7.9	—	1.9	にふい黄褐 7.SYR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石・雲母・赤色酸化粒
77			SE004	土師器	小皿	(9.2)	(6.8)	—	1.6	灰白 10YR7/1	にふい黄褐 10YR7/2	角閃石・雲母・細粒
78			SE004	土師器	杯	(13.0)	(9.9)	—	3.4	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	雲母
79			SE004	土師器	杯	15.8	8.8	—	3.7	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	雲母・赤色酸化粒
80			SE004	土師器	杯	14.8	10.0	—	3.8	にふい黄褐 10YR7/2	灰黄褐 10YR6/2	長石・雲母
81	121	46	SE004	土師器	杯	14.9	8.3	—	3.8	棕 SYR7/6	棕 SYR7/6	長石・角閃石・雲母・赤色酸化粒
82			SE004	土師器	杯	15.1	9.5	—	3.8	にふい黄褐 10YR7/2	灰黄褐 10YR6/2	雲母
83			SE004	土師器	氏	10.3	6.0	—	2.3	棕 SYR6/6	にふい黄褐 7.SYR7/4	雲母
84			SE005	土師器	杯	(12.8)	(8.0)	—	2.9	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	砂粒・赤色酸化粒
85			SE005	須恵器	蓋	(16.4)	—	—	(1.8)	黄灰 2.SY5/1	灰白 2.SY7/1	長石
88		40	SK001	土師器	小皿	10.0	7.4	—	1.8	にふい黄褐 7.SYR7/3	にふい黄褐 7.SYR7/4	角閃石・赤色酸化粒
89			SK001	土師器	小皿	9.6	7.6	—	1.4	にふい黄褐 7.SYR7/3	にふい黄褐 7.SYR7/4	角閃石・雲母・赤色酸化粒
90			SK001	土師器	小皿	10.0	8.5	—	1.6	浅黄褐 7.SYR8/3	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石・雲母・赤色酸化粒
91			SK001	土師器	杯	(15.2)	—	—	4.2	灰黄 2.SY8/3	灰黄褐 10YR6/2	長石・石英
92			SK002	土師器	椀	11.4	6.3	—	4.3	浅黄褐 7.SYR8/4	浅黄褐 10YR8/4	石英・雲母・赤色酸化粒
93		122	SK003	土師器	杯	(9.8)	6.2	—	2.9	にふい黄褐 7.SYR7/3	にふい黄褐 7.SYR6/3	角閃石・砂粒
94			SK003	土師器	杯	15.0	10.1	—	3.5	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石・雲母
95			SK005	土師器	杯	16.5	8.8	—	4.3	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	微砂粒・赤色酸化粒
96			SK005	土師器	杯	(16.8)	—	—	5.9	にふい黄褐 10YR6/3	灰黄 2.SY7/2	長石
97			SK005	須恵器	蓋	13.9	11.7	—	1.8	灰黄 2.SY5/6	灰 SYR7/4	微細粒
98	123	41	SK006	土師器	杯	(13.8)	9.8	—	4.0	明黄褐 10YR6/6	明黄褐 10YR6/6	長石・角閃石・雲母・赤色酸化粒
99			SK006	土師器	杯	(14.8)	—	—	4.5	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石
100			SK006	土師器	杯	(15.1)	(11.2)	—	3.5	にふい赤褐 2.SYR5/3	明赤褐 2.SYR5/8	長石・赤色酸化粒
101			SK006	須恵器	蓋	(19.8)	—	—	3.0	浅黄 2.SY7/3	浅黄 2.SY7/3	長石・石英
103			67-S-3	土師器	小皿	7.8	4.4	—	1.6	棕 SYR7/6	棕 SYR7/6	砂粒
104		123	B1-C-14	土師器	小皿	9.5	6.7	—	1.5	棕 7.SYR7/6	棕 7.SYR7/6	長石・角閃石・雲母・砂粒・赤色酸化粒
105			67-S-3	土師器	皿	11.2	6.7	—	3.1	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	角閃石
106			B1-B-18	土師器	杯	(9.5)	7.7	—	2.9	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3	長石・雲母
107			66-S-19	土師器	杯	13.3	10.5	—	4.1	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	長石・赤色酸化粒
108			B1-C-18	土師器	杯	—	—	—	0.6	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	雲母・赤色酸化粒
109		—	66-T-19	土師器	椀	(12.6)	—	—	4.5	棕 SYR7/6	棕 SYR7/6	長石・角閃石・雲母・赤色酸化粒
110	124	41	81-G-18	土師器	椀	14.7	8.4	—	6.1	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石・雲母
111			B1-C-17	須恵器	杯	15.0	9.4	—	5.9	灰白 2.SY8/1	灰白 2.SY8/1	長石・雲母・砂粒
112			81-G-18	須恵器	杯	10.0	6.7	—	4.3	灰白 2.SY7/1	灰白 2.SY7/1	長石
113			81-D-17	須恵器	杯	12.4	8.6	—	4.3	黄灰 2.SY6/1	黄灰 2.SY6/1	長石・雲母
114			81-G-18	須恵器	杯	12.7	7.9	—	4.1	灰黄 2.SY7/2	灰黄 2.SY6/2	長石・雲母
115			SA011	土師器	皿	(15.7)	(13.0)	—	1.3	にふい黄褐 7.SYR7/4	にふい黄褐 7.SYR7/4	長石
116			SA013	土師器	皿	(20.3)	(12.6)	—	2.8	にふい黄褐 7.SYR7/4	にふい黄褐 7.SYR7/4	長石・雲母・赤色酸化粒
117			SA013	須恵器	杯	(10.8)	(6.0)	—	3.8	灰 7.SY5/1	灰 10YR5/1	微細粒
118			SA013	須恵器	杯	(13.2)	(7.3)	—	5.6	黄灰 2.SY6/1	灰 SY5/1	長石・角閃石・微砂粒
119			SA019	須恵器	椀	—	9.7	—	(5.7)	灰 N5/	灰 SY5/1	微細な雲母・砂粒
120		124	SA019	須恵器	皿	(21.0)	—	—	(6.8)	灰 N6/	赤褐 10YR4/3	微細な砂粒
121			SB019	土師器	杯	(10.8)	—	—	5.5	にふい黄褐 7.SYR6/4	棕 SYR6/6	長石・雲母・赤色酸化粒
122			SB020	土師器	皿	(14.0)	(9.6)	—	1.2	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/3	長石・角閃石・雲母
123			SB020	土師器	皿	(24.1)	(14.8)	—	5.4	棕 SYR6/6	棕 SYR6/8	長石・石英・赤色酸化粒
124			SB020	土師器	杯	26.5	—	—	7.8	明赤褐 2.SYR5/6	にふい黄褐 7.SYR7/4	長石・石英・角閃石・雲母
125	42	SB021	土師器	皿	(12.0)	(6.2)	—	1.7	明赤褐 10YR7/3	明赤褐 10YR7/3	雲母・赤色酸化粒	
126		SB023	土師器	杯	13.6	6.9	—	3.1	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	長石・石英・赤色酸化粒	
127		SB023	土師器	椀	13.4	7.6	—	5.5	明赤褐 2.SYR5/8	明赤褐 2.SYR5/8	長石・石英・赤色酸化粒	
128		SB023	土師器	椀	(13.6)	(7.4)	—	6.2	棕 SYR6/6	棕 SYR6/6	長石・雲母・角閃石	
129		SB027	須恵器	杯	(12.3)	(7.8)	—	3.8	灰オリーブ SY5/2	灰オリーブ SY5/2	雲母・微砂粒	
130		SB027	土師器	杯	—	9.7	—	(4.4)	棕 2.SYR5/8	棕 2.SYR7/8	長石・赤色酸化粒	
132		—	SB030	須恵器	皿	(16.0)	—	—	(1.7)	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR6/1	長石・微細な砂粒

Tab.6 出土遺物観察表一②

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(高台付椀) 内外面赤彩	69
ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き	(高台付椀) 黒色土器 a類	70
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	外底面は成形後に粘土を張り付けたものか? 横状圧痕	73
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕により一部突起している	74
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	外底面のヘラ切り後の調整が複 板状圧痕	75
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	外底面赤彩 板状圧痕	76
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ		77
横ナデ	横ナデ、ヘラ磨き	ヘラ切り後ナデ	ヘラナデ	(灯明杯) 内外面油煙跡	78
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	板状圧痕	79
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕 杯底に糸切り痕	80
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕 外底面に調整後、再度粘土張り付けた痕跡	80
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	外底面に調整後再度粘土貼り付け	81
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕 ヘラ切りによる粘土塊	82
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明托)	83
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		84
ナデ、横ナデ	ナデ	-	-	内面重ね焼	85
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		88
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		89
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	90
横ナデ	ヘラ磨き	ヘラ磨き	ヘラ磨き	ヘラ磨きの痕跡はあるが摩耗がひどい為不明瞭	91
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(高台付椀) 内外面赤彩 磨き上げ度あり	92
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 油煙付着	93
横ナデ	横ナデ、ヘラ磨き	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内底面ヘラによる擦文	94
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き		95
ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	-	-		96
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(転用碗) 内面に使用痕あり 張みあり	97
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		98
横ナデ	横ナデ	-	ナデ	内外面赤彩	99
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	100
ナデ、回転ヘラケズリ	ナデ	-	-	内外面、口縁部に重ね焼き痕跡あり	101
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ	(灯明皿) 油煙付着	103
横ナデ	横ナデ	糸切り	ナデ	砂粒が多く含むため器面が粗い	104
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	105
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩	106
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		107
-	-	-	-	外底面墨書き 内面赤彩	108
横ナデ	横ナデ	-	-	外底面墨書き	109
横ナデ、ヘラ磨き 回転ヘラケズリ	横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き	(高台付椀) 内外面赤彩 内底面は内側の技法を用い残りはヘラ磨きの後に赤色を施している	110
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	柄部墨付着	111
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		112
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		113
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り工具ナデ	ナデ		114
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	115
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き		116
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	(高台付杯)	117
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	118
横ナデ	横ナデ、ナデ	-	ナデ	(高台付椀)	119
横ナデ、格子目タキ	横ナデ、同心円内で具廻 後横ナデ	-	-	口縁部内側面~外器面自然釉	120
横ナデ	ヘラケズリ	ナデ	ナデ	外底面墨付着	121
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	内外面赤彩 内面墨付着	122
横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラケズリ	回転ヘラ磨き	(高台付皿) 内外面赤彩	123
横ナデ、八ヶ目、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	八ヶ目	ヘラケズリ		124
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	125
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ、ナデ	外底面圧痕	126
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付椀) 内外面赤彩	127
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付椀)	128
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		129
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯) 内外面赤彩	131
横ナデ、横ナデ後ナデ ヘラ切り後ナデ	横ナデ、横ナデ後ナデ	-	-		132

測定番号	Fig. No.	PL. No.	透構番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大側径	高さ	外面	内面	
133	124	42	SB030	須恵器	壺	(42.4)	-	-	(16.7)	暗黄灰 2.5YS/2	明赤褐 2.5YR5/6	長石、石英、砂粒
134		-	SB031	須恵器	壺	-	8.4	-	4.7	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	微細な砂粒
135			SD018	須恵器	杯	13.0	8.6	-	4.0	浅黃褐色 10YR8/4	浅黃褐色 10YR8/4	雲母、赤色顔化粒
136			SD019	土師器	杯	(12.3)	7.9	-	2.9	にぶい緑 7.5YR7/4	にぶい緑 7.5YR7/4	角閃石、雲母、砂粒
137			SD019	土師器	杯	(13.2)	7.7	-	3.4	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	微細粒
138			SD019	土師器	皿	(13.8)	8.0	-	3.4	にぶい緑 7.5YR7/4	にぶい緑 7.5YR7/4	微細粒
139			SD019	須恵器	杯	(14.0)	(10.7)	-	4.1	灰白 N7/	灰白 N7/	白色粒
140			SD019	須恵器	高杯	(22.4)	-	-	(2.8)	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y4/1	長石、石英、砂粒
141			SD019	須恵器	壺	13.8	9.0	-	5.9	にぶい緑 7.5YR6/4	にぶい緑 7.5YR6/4	長石、石英、砂粒
142			SD020	土師器	杯	(13.7)	(9.0)	-	3.5	にぶい緑 7.5YR7/4	にぶい緑 7.5YR7/4	長石、石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
143		-	SD021	土師器	杯	(14.3)	(8.6)	-	3.1	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、石英、赤色顔化粒
144			SD021	土師器	杯	14.0	(8.3)	-	3.5	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石、角閃石、雲母、赤色顔化粒
145	125		SD021	須恵器	蓋	(14.2)	-	-	(2.1)	青灰 SB5/1	青灰 SB5/1	長石
146		44-88	SD021	須恵器	壺	(19.7)	(18.3)	-	2.9	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	微細粒
147		-	SD022	須恵器	杯	(15.0)	(8.8)	-	6.3	灰黄 2.5Y6/1	反黃褐 10YR5/2	長石
148			SD082	土師器	杯	(14.8)	(10.1)	-	3.9	明黃褐 10YR7/6	にぶい緑 10YR7/6	長石、雲母、赤色顔化粒
149		-	SD082	須恵器	杯	(13.3)	(8.3)	-	4.5	浅黃 2.5Y7/3	灰黄 2.5Y6/2	長石
150		-	SD083	土師器	杯	(8.2)	(6.0)	-	2.5	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	長石、角閃石、雲母
151		44	SD083	土師器	皿	(10.1)	(7.6)	-	1.9	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	石英、雲母、赤色顔化粒
152		-	SD083	土師器	皿	(16.4)	(13.7)	-	1.8	橙 7.5YR7/6	浅黃褐 7.5YR8/6	長石、雲母、赤色顔化粒
153		-	SD083	土師器	杯	(13.2)	(7.4)	-	3.0	浅黃褐 10YR8/4	浅黃褐 10YR8/4	長石、雲母、赤色顔化粒
154		SD083	須恵器	蓋	(12.0)	-	-	1.8	灰 NS/	灰 10Y5/1	長石、石英、雲母	
155		44	SD083	須恵器	壺	(15.3)	9.5	-	6.2	灰 NS/	オリーブ灰 2.5GY5/1	長石、角閃石
156		-	SD089	黒色土器	深鉢	(20.8)	-	-	(6.4)	明反黃 2.5YS/2	黑 N2/	長石、石英、雲母
157		-	SD089	土師器	蓋	(27.6)	-	(27.0)	(20.0)	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石、石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
158	126		SD023	土師器	小皿	9.1	6.0	-	2.2	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	赤色顔化粒
159		44	SD023	土師器	杯	(11.8)	(7.4)	-	3.5	にぶい緑 7.5YR7/4	にぶい緑 7.5YR7/4	長石、石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
160			SD023	土師器	杯	(13.3)	(9.4)	-	3.1	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、石英、雲母、赤色顔化粒
161			SD023	土師器	杯	(12.9)	8.3	-	3.3	橙 SYR6/5	橙 SYR6/5	赤色顔化粒、黒色粒
162		44-88	SD023	須恵器	壺	-	-	-	(2.2)	灰 NS/	灰 7.5Y5/1	長石、雲母、微細粒
163		-	SD024	土師器	杯	(14.8)	(10.4)	-	3.1	橙 2.5YR6/6	暗 2.5YR6/6	白色粒、黒色粒
165		-	SD026	土師器	杯	(14.2)	(9.4)	-	3.1	にぶい緑 7.5YR7/3	赤褐 10YR5/6	長石、雲母
166		-	SD026	土師器	杯	(14.7)	(10.2)	-	3.7	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、角閃石
167		-	SD026	土師器	杯	(14.6)	(10.0)	-	3.4	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	雲母、微細な砂粒
168		-	SD027	須恵器	蓋	(25.8)	-	-	(6.1)	灰 NS/	灰 NS/	長石、角閃石、微細な砂粒
169		84	SD028	土師器	壺	-	9.7	-	(5.4)	にぶい緑 7.5YR7/3	にぶい緑 7.5YR7/3	長石、石英、雲母、赤色顔化粒
170			SD025	土師器	杯	13.2	9.1	-	3.3	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	雲母、砂粒、赤色顔化粒
171			SD025	土師器	杯	13.5	9.1	-	3.2	にぶい緑 7.5YR6/4	橙 2.5YR6/6	雲母、赤色顔化粒
172			SD025	土師器	杯	13.1	8.4	-	3.2	橙 SYR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、雲母、赤色顔化粒
173			SD025	土師器	杯	13.2	8.9	-	2.7	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石、石英
174	127		SD025	須恵器	蓋	(17.2)	-	-	(2.1)	灰白 5Y7/1	灰 SY6/1	長石、石英
175			SD025	須恵器	蓋	(16.4)	-	-	(2.9)	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	白色粒、黒色粒
176			SD025	須恵器	杯	12.0	8.1	-	3.7	灰 SY5/1	灰 SY5/1	白色粒
177			SD025	須恵器	杯	12.2	4.4	-	(3.5)	灰 SY5/1	灰 SY6/1	長石、石英
178			SD025	須恵器	杯	12.1	7.0	-	2.9	灰 N6/	灰 N5/	微細な砂粒
179			SD025	須恵器	杯	(14.8)	9.8	-	4.3	灰 N6/	灰 N6/	角閃石、砂粒
180			SD025	須恵器	蓋	(10.2)	-	(10.0)	23.0	灰白 5Y5/1	灰白 5Y5/1	微細な砂粒
181		-	SD029	須恵器	杯	13.1	7.4	-	4.2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	微細な雲母
182		43	SD092	土師器	小皿	6.0	4.8	-	1.8	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	石英、砂粒、赤色顔化粒
183		84	SD093	土師器	杯	(11.2)	(7.4)	-	3.3	にぶい緑 7.5YR6/4	にぶい緑 7.5YR6/4	長石、石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
185		44	SD094	土師器	小皿	7.9	5.2	-	1.3	にぶい緑 SYR6/4	にぶい緑 SYR6/4	雲母、赤色顔化粒
189		-	SD095	土師器	小皿	7.4	5.3	-	1.9	橙 2.5YR6/6	にぶい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色顔化粒
190		-	SD095	土師器	杯	(10.9)	(6.4)	-	3.0	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	長石、雲母、赤色顔化粒
191		-	SD095	土師器	杯	-	(8.2)	-	(1.4)	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	長石、角閃石、赤色顔化粒
201		46	SD099	土師器	杯	12.4	6.6	-	3.3	明赤褐 SYR5/6	明赤褐 SYR5/6	角閃石、雲母、赤色顔化粒

Tab.7 出土遺物観察表-③

測定				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
横ナデ、横ナデ後ナデ 柄子目タクキ	横ナデ、横ナデ後ナデ 内心文相当真裏	-	-	頭部内面～外器面自然釉	133
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(高台付楕)	134
横ナデ	横ナデ	ヘラ磨き	横ナデ	(墨書き) 赤焼け土器	135
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	136
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内器面油煙	137
横ナデ、ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	(高台付楕) 外面赤彩	138
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付楕)	139
回転ヘラ削り、横ナデ	横ナデ	-	-	(杯部)	140
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	板状圧痕	141
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		142
横ナデ、回転磨き	横ナデ、回転磨き	回転ヘラケズリ	回転磨き		143
横ナデ、回転ヘラケズリ 回転ヘラ磨き	横ナデ後回転ヘラ磨き	ヘラ切り後ヘラケズリ	横ナデ後回転ヘラ磨き	(灯明杯) 内外面赤彩	144
横ナデ ヘラ切り後ナデ	横ナデ	-	-	口縁部外側～体部内面中位にかけて自然釉 焼き歪み 徵不確実	145
横ナデ	横ナデ	手持ちヘラケズリ	横ナデ、ナデ	円面楕 9脚 切部剥離	146
横ナデ	横ナデ	(自然釉のため不明)	ナデ	外器面自然釉	147
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	148
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	横ナデ	ナデ	(高台付楕)	149
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	150
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ		151
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	内外面赤彩	152
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	153
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	内面重ね焼き痕 つまみ欠損	154
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ 横ナデ	横ナデ	(高台付楕) 宇字底	155
ヘラ磨き	ヘラ磨き	-	-	黒色土器a類 鉄鉢模倣土器(仏具)	156
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ ハケ目	-	-		157
横ナデ	横ナデ、ナデ	ヘラ切り	ナデ	焼き歪み	158
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 内面油煙	159
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	外底面工具痕 内外面赤彩	160
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面赤彩	161
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	円面楕	162
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	164
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	165
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	166
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	167
横ナデ	横ナデ	-	-	口縁部外側へら記号	168
横ナデ	横ナデ	ヘラ削り後横ナデ	ナデ	(墨書き) (高台付楕) 内外面赤彩	169
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	170
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		171
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	172
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内底面ヘラ書き	173
回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	-	-	つまみ欠損	174
横ナデ、 回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	-	-		175
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		176
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	外底面ヘラ書き	177
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		178
横ナデ	横ナデ	ナデ?	横ナデ後ナデ	(高台付楕) 板状圧痕	179
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	調整確認不可	口縁部内面～外器面、内底面自然釉	180
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内器面剥付着	181
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		182
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書き) 内外面赤彩	183
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ	(灯明杯) 口縁内、外面油煙付着	185
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		189
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ		190
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書き) 内外面赤彩	191
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁部油煙	201

測定番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土	
						口径	底径	最大深度	器高	外面	内面		
202	47	128	SE007	土師器	杯	(13.0)	(9.1)	—	3.1	にふい黄 5YR6/4	にふい黄 5YR6/3	長石・赤色酸化粒	
203			SE007	土師器	杯	13.5	7.2	—	3.3	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石・石英・雲母 赤色酸化粒	
204			SE007	土師器	杯	(16.0)	(9.3)	—	3.8	橙 2.5Y6/6	にふい橙 7.5YR7/4	長石・石英	
205			SE007	土師器	杯	14.0	8.3	—	3.4	にふい黄橙 10YR5/3	にふい橙 7.5YR6/4	長石・雲母・赤色酸化粒	
206			SE007	土師器	小型鉢	(16.4)	—	—	15.7	明黄褐 10YR7/6	浅黃褐 10YR8/3	長石・石英	
208			SE007	須恵器	壺	16.2	—	—	2.0	灰黃褐 10YR6/2	にふい黄橙 10YR6/3	長石・砂粒	
209			SE007	須恵器	壺	16.8	—	—	2.2	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英	
210	47	128	SE007	須恵器	壺	—	—	—	(0.9)	灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/1	長石・砂粒	
211			SE007	須恵器	杯	(13.1)	(9.0)	—	3.8	黄灰 2.5Y4/1	褐灰 10YR4/1	長石・雲母	
212			SE007	須恵器	杯	12.7	8.1	—	4.1	灰 NS/	灰 NS/	長石・石英・黒色粒	
213			SE007	須恵器	杯	(12.4)	(9.0)	—	4.2	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	長石・石英	
214			SE007	須恵器	杯	(12.8)	7.2	—	5.0	灰 NS/	灰 7.5YS/1	白色粒	
215			SE007	須恵器	壺	(23.0)	—	—	(7.0)	灰オリーブ 7.5Y4/2	灰 N4/	長石・黒色粒	
216			SE007	須恵器	壺	(25.6)	—	—	(10.8)	灰 7.5YR4/1	灰黄 2.5Y4/1	長石・石英・赤色酸化粒	
217	46	129	SE008	土師器	杯	(13.7)	9.8	—	3.7	明黄褐 5YR5/6	にふい黄橙 10YR7/2	長石・雲母・赤色酸化粒	
219			SE008	土師器	杯	16.4	9.6	—	4.4	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石・雲母・赤色酸化粒	
220			SE008	土師器	杯	(18.5)	10.0	—	9.3	にふい黄 5YR6/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石・石英	
221			SE008	須恵器	杯	—	(9.0)	—	(1.5)	灰 N6/	灰 N6/	長石・石英・雲母	
222			SE009	土師器	壺	15.0	9.8	—	2.3	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石・雲母・赤色酸化粒	
223			SE009	土師器	杯	10.8	6.0	—	3.0	にふい黄 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	微細粒	
224			SE009	黑色土器	壺	(15.0)	—	—	(6.0)	にふい黄橙 10YR6/3	黑 N2/	長石・赤色酸化粒	
225	48	129	SE009	土師器	壺	12.8	6.9	—	3.4	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	雲母	
226			SE009	須恵器	杯	(16.0)	(9.0)	—	6.1	褐灰 10YR4/1	橙 7.5YR7/6	砂粒	
227			SE010	土師器	杯	(14.5)	(10.9)	—	3.7	にふい黄 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	石英・雲母・赤色酸化粒	
229			SE012	土師器	杯	16.0	8.6	—	4.1	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	長石・角閃石・雲母	
230			SE013	土師器	杯	13.4	9.8	—	2.8	にふい黄 7.5YR7/4	橙 SYR7/4	長石・黒色粒・赤色酸化粒	
231			SE013	土師器	杯	(14.3)	10.3	—	4.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石・石英・赤色酸化粒	
232			SE013	土師器	杯	14.7	10.4	—	4.5	浅黃褐 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	長石・石英・雲母	
233	48	130	SE013	土師器	杯	13.6	9.1	—	4.2	にふい黄 7.5YR7/4	橙 2.5YR6/8	微細粒	
234			SE013	土師器	壺	(28.9)	—	—	(15.4)	にふい黄橙 10YR6/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石・石英・黒色粒	
235			SE013	須恵器	杯	15.3	10.0	—	4.3	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	長石・石英・黒色粒	
236			SE017	土師器	杯	(14.0)	(7.6)	—	3.4	にふい黄 7.5YR5/3	にふい黄 5YR5/4	長石	
237			SE017	土師器	杯	(14.4)	(9.0)	—	3.2	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	黒色粒・赤色酸化粒	
238			SE017	土師器	杯	(13.5)	(7.4)	—	3.3	橙 SYR6/6	赤橙 10YR6/6	長石・雲母	
239			SE017	土師器	杯	13.5	7.4	—	3.1	橙 2.5YR6/6	にふい黄 7.5YR7/4	長石・雲母	
240	49	130	SE017	土師器	杯	(12.0)	(8.8)	—	3.6	にふい黄 7.5YR7/4	橙 SYR7/8	長石・雲母・赤色酸化粒	
241			SE017	土師器	杯	(11.8)	(8.0)	—	3.6	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	雲母・砂粒・赤色酸化粒	
242			SE017	土師器	杯	(14.8)	(9.0)	—	5.2	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄 10YR7/4	角閃石・雲母・微細粒	
243			SE017	土師器	壺	(15.1)	12.0	—	1.9	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/3	長石・石英・雲母	
244			SE017	土師器	壺	(27.0)	—	—	(9.5)	橙 7.5YR7/6	にふい黄橙 10YR7/4	長石・角閃石・雲母	
245			SE017	土師器	壺	(23.6)	—	(23.8)	(12.9)	にふい黄 7.5YR6/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
246			SE017	須恵器	杯	13.2	8.1	—	4.3	灰 7.5Y5/1	灰 NS/	雲母・微細粒	
247	49	130	SE017	須恵器	壺	(18.7)	(13.4)	—	3.0	灰 SYR6/1	灰 5Y5/1	微細粒	
248			SE018	土師器	小皿	(9.7)	(8.7)	—	1.3	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/4	雲母・赤色酸化粒	
249			SE018	土師器	杯	12.8	9.2	—	3.7	橙 7.5YR7/6	にふい黄橙 10YR7/4	長石・石英・雲母 赤色酸化粒	
250			SE018	土師器	杯	(13.8)	(8.0)	—	3.5	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石・石英・赤色酸化粒	
251			SE018	土師器	壺	(24.6)	—	(22.4)	(10.2)	にふい黄 10YR7/4	浅黃褐 7.5YR8/4	長石・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
252			SE018	土師器	壺	(11.8)	—	(23.0)	(19.4)	にふい黄 7.5YR7/4	明赤褐 2.5YR5/6	長石・赤色酸化粒	
253			SE018	土師器	壺	5.7	4.5	—	7.7	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石・石英・雲母	
254	49	131	SE018	須恵器	杯	14.4	10.8	—	4.1	暗灰 N7/	暗灰 N7/	角閃石・黒色粒	
255			SE018	須恵器	杯	(11.0)	(7.1)	—	3.6	にふい黄 7.5YR6/4	にふい黄 7.5YR5/3	長石・雲母	
256			SE018	土師器	杯	12.5	9.3	—	4.2	灰 NS/	灰 NS/	長石・黒色粒	
257			SE019	土師器	板	(11.9)	(6.7)	—	6.3	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR6/3	長石・角閃石・赤色酸化粒	
258			SE019	須恵器	板	残良	残端	(7.7)	(9.8)	—	(2.9)	灰 N6/	にふい赤褐 5YR5/3
259			SE020	土師器	杯	12.0	6.6	—	5.1	にふい黄 7.5YR7/4	橙 SYR7/6	長石・赤褐色粒	
260			SE020	土師器	杯	15.8	8.3	—	3.7	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	雲母・赤色酸化粒	

Tab.8 出土遺物観察表④

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩・保付箒	202
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	ナデ	ナデ	廻転後に火を受けたような焼が内外面に付着	203
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	外器面保付箒	204
回転ヘラケズリ					
横ナデ後ヘラ磨き	横ナデ後ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	横ナデ後ヘラ磨き	(灯明杯) 内外面保付箒 全体に赤彩	205
ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	柄部の内外面油煙、二次的に火熱を受けている	206
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-		208
横ナデ、ナデ	ナデ	-	-	赤焼け土器	209
ナデ	ナデ	-	-	(転用硯) 内面に使用による磨きあり	210
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 焼きムラ	211
回転ヘラケズリ		横ナデ			
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(高台付杯) 外器面自然釉	212
横ナデ	横ナデ	横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	213
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	214
横ナデ、描き目	同心円文	-	-	外器面自然釉	215
格子目叩き後平行叩き	同心円文	-	-		216
横ナデ	横ナデ	-	-	(高台付壺)	217
格子目タキ後ナデ					
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	218
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩・口縁端部の一部保付箒	219
横ナデ後ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 風呂を溶かす為に使用した土器 風呂付箒	220
横ナデ	-	横ナデ	横ナデ	(転用硯) (高台付杯) 貼付け高台 外底面朱墨付箒	221
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩 外底面一部赤彩なし	222
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明皿) 板状压痕 内外面油煙調査	223
横ナデ	ヘラ磨き	ナデ	ナデ	(高台付杯) 高台剥離 黒色土器a型	224
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩 斧形あり 外底面油煙付箒	225
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	(高台付杯) 貼付高台	226
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		227
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	229
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		230
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内器面黒斑	231
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付杯) 貼付高台 内外面赤彩(外底面のみ少量)	232
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	(高台付杯) 内外面赤彩	233
横ナデ、ナデ、ハケ目	ハラケズリ	-	-		234
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	235
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	236
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ切り	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	237
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	(灯明杯) 外面口縁部に油煙	238
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	(高台付杯) 内外面赤彩	239
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面に赤彩	240
横ナデ、ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内外面の一部に赤彩 内面に保付箒	241
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 内面に赤彩	242
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	外底面を脱き赤彩 口縁部に保付箒	243
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	外面上黒斑あり	244
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		245
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付杯)	246
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	(高台付壺) 焼き歪み	247
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面に赤彩	248
横ナデ	横ナデ	手持ちヘラケズリ	横ナデ	外面に保付箒 瓶部の一部を打ちついでいる	249
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	250
横ナデ、ハラケズリ	横ナデ、ハラケズリ	-	-		251
横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付壺) 高台部は剥離	252
横ナデ、ナデ、ケズリ	横ナデ	ケズリ、ナデ	ナデ	内外面に保付箒	253
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後工具ナデ	横ナデ	内外面に自然釉	254
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	横ナデ	(高台付杯)	255
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付杯) 焼き歪み	256
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付壺)	257
ケズリ	ケズリ、ナデ	ケズリ	ケズリ	(風字窓) 仕切りより右側に朱墨付箒	258
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		259
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	板状压痕 内外面赤彩 内器面に工具痕	260

項目 番号	Fig. No.	PL. No.	造構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	高さ （厚さ）	器高	外面	内面	
261	131	50	SE020	土師器	甕	(15.7)	-	(21.7)	(13.2)	明赤褐 2.5YR5/6	にふい黄褐 10YR7/4	長石、雲母
262			SE024	土師器	脚付鉢	14.4	7.8	-	7.7	橙 7.5YR6/6	にふい橙 7.5YR6/4	長石、石英、雲母 赤色顔化粒
263			SE025	須恵器	壺	(11.1)	-	-	3.3	にふい赤褐 2.5YR5/4	橙 5YR6/6	長石、石英、砂粒
264			SE025	須恵器	杯	(14.6)	8.5	-	4.3	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	長石、石英、砂粒
265			SE026	土師器	壺	(19.8)	-	(18.4)	(18.9)	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石、石英、雲母 赤色顔化粒
266	51		SE026	土師器	壺	25.4	-	(24.2)	(10.2)	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石、石英、雲母 赤色顔化粒
267			SE026	土師器	壺	(21.6)	-	-	(11.0)	赤褐 2.5YR4/6	にふい黄褐 10YR7/3	長石、石英
268			SE027	土師器	杯	(13.7)	9.4	-	2.8	明赤褐 5YR5/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英、角閃石、雲母
269			SE027	土師器	杯	(13.2)	-	-	(4.3)	褐 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石、石英、雲母 赤色顔化粒
270	132	51	SE027	須恵器	壺	-	(11.2)	(24.5)	(11.9)	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	長石、黒色粒
271			SE027	須恵器	壺	-	6.4	16.4	(14.0)	灰 N6/	灰 N6/	長石、石英、黑色粒
272			SE028	土師器	杯	-	(10.0)	-	1.1	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	角閃石、赤色顔化粒
273			SE028	土師器	壺	(23.8)	-	(20.2)	(8.9)	にふい黄褐 10YR6/3	にふい黄褐 10YR6/3	長石、石英、角閃石、雲母
274			SE028	土師器	壺	(27.4)	-	(25.5)	(9.9)	灰黄褐 10YR6/2	橙 5YR7/6	長石、石英、角閃石、雲母 赤色顔化粒
275	51		SE028	須恵器	壺	(15.7)	-	-	(2.3)	灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y6/1	長石、雲母
276			SE028	須恵器	杯	(13.3)	(8.0)	-	3.7	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石、雲母、赤色顔化粒
277			SE028	須恵器	杯	(16.5)	(9.8)	-	5.8	灰黄 2.5Y6/2	白灰 2.5Y7/1	長石、砂粒
278			SE028	須恵器	杯	-	(9.0)	-	(4.7)	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	長石、雲母、砂粒
279			SE028	須恵器	壺	-	(11.2)	-	(6.3)	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y5/1	長石、雲母、砂粒
280			SE028	須恵器	壺	-	12.0	-	(12.1)	褐灰 10YR6/1	黄灰 2.5Y4/1	長石、砂粒
281			SE028	須恵器	壺	(21.2)	-	-	(10.3)	黄灰 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y6/3	細砂粒、黒色粒
282	51		SE028	須恵器	壺	(21.0)	-	-	(6.3)	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	長石
283			SE028	須恵器	壺	-	-	-	(7.5)	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	長石、石英、雲母
284			SE028	須恵器	壺	(19.8)	-	-	(8.9)	黄灰 2.5Y5/1	にふい赤褐 2.5YR5/4	長石、石英
285			SE028	須恵器	壺	-	-	-	(9.5)	灰黄褐 10YR5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	長石、石英、黒色粒
286	133	51	SE028	須恵器	壺	(18.1)	-	-	(9.6)	褐灰 10YR5/1	黄灰 2.5Y6/1	長石、石英、黒色粒
287			SE028	須恵器	壺	(24.6)	-	-	(9.5)	黄灰 2.5Y4/1	暗灰 N3/	長石、石英
288			SE028	須恵器	壺	(45.9)	-	-	(13.3)	暗赤褐 10YR3/4	暗赤褐 2.5YR3/3	黒褐色粒
289			SE029	土師器	杯	13.6	8.4	-	3.1	橙 7.5YR7/6	にふい橙 7.5YR6/4	長石、雲母
290			SE029	土師器	杯	13.8	8.6	-	3.4	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	長石、石英、雲母 赤色顔化粒
291	52		SE029	土師器	杯	13.8	8.8	-	2.8	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/8	長石、雲母
292			SE029	土師器	杯	13.4	8.3	-	3.0	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、雲母
293			SE029	土師器	杯	(14.3)	8.8	-	3.2	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石、石英
294			SE029	土師器	杯	13.5	8.9	-	2.9	にふい褐 7.5YR7/4	にふい褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒、赤色顔化粒
295			SE029	土師器	杯	(14.8)	(9.9)	-	4.8	にふい壺 7.5YR7/4	にふい壺 7.5YR7/4	長石、雲母
296			SE029	土師器	杯	(15.5)	11.1	-	4.2	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石、角閃石、砂粒
297			SE029	土師器	杯	9.1	6.4	-	3.7	明赤褐 2.5YR5/8	暗赤褐 2.5YR5/8	雲母、渺砂粒
298	134	52	SE029	土師器	杯	(6.6)	6.2	-	5.9	灰黄褐 10YR6/2	にふい黄褐 10YR6/4	長石、石英、雲母
299			SE029	土師器	片口鉢	(24.8)	-	-	(11.3)	にふい壺 10YR5/4	にふい壺 10YR5/4	長石、石英、角閃石 赤色顔化粒
300			SE029	土師器	壺	-	-	-	(7.7)	にふい壺 7.5YR6/3	にふい壺 7.5YR6/3	長石、石英、赤色顔化粒
301			SE029	須恵器	壺	(18.3)	(15.6)	-	2.1	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR6/1	雲母、渺砂粒
302			SE029	須恵器	杯	13.1	7.7	-	4.7	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	長石、角閃石、雲母
303			SE029	須恵器	杯	(8.6)	-	-	4.6	にふい黄 2.5Y6/4	にふい黄 2.5Y6/4	雲母、渺砂粒
304			SE029	須恵器	杯	15.5	9.6	-	5.7	褐灰 10YR6/1	灰 5Y6/1	長石、渺砂粒
305	52		SE029	土師器	壺	(17.5)	-	-	4.1	にふい赤褐 5YR5/4	にふい赤褐 5YR5/4	長石、石英、角閃石
306			SE029	須恵器	壺	(22.4)	-	-	(4.3)	灰 5Y6/1	角閃石 5Y7/1	角閃石、渺砂粒
307			SE029	須恵器	壺	-	10.7	19.0	(11.9)	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y4/1	長石、白色粒
308			SE030	土師器	壺	(15.4)	(12.5)	-	1.5	にふい壺 7.5YR7/4	にふい壺 7.5YR7/4	角閃石、雲母
309			SE030	土師器	杯	14.0	8.0	-	4.0	にふい壺 7.5YR7/3	にふい壺 7.5YR7/3	長石、角閃石、雲母
310	135	53	SE030	土師器	杯	12.2	6.3	-	3.1	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石、雲母
311			SE030	土師器	杯	13.6	7.8	-	5.7	浅黄褐 7.5YR8/4	にふい壺 7.5YR7/4	長石、赤色顔化粒
312			SE030	土師器	杯	-	7.9	-	(2.4)	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	砂粒

Tab.9 出土遺物観察表-⑤

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	内外面赤彩 内外面に黒斑	261
ナデ	ヘラ磨き	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	口縁内部に煤付着	262
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	開口部つまみ 外表面に自然釉 内表面に工具痕	263
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	回転ヘラ切り、ナデ 横ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付杯) 内面指彌痕	264
横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		265
横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、沿頭圧痕 ヘラケズリ	-	-	口縁内部に黒斑あり	266
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	口縁内裏面から外表面赤彩	267
横ナデ	横ナデ	手持ちヘラケズリ	ナデ		268
横ナデ	横ナデ	-	-		269
横ナデ、工具ナデ	横ナデ、工具ナデ	横ナデ、工具ナデ	横ナデ、工具ナデ		270
横ナデ、平行印記	横ナデ、同心円文	横ナデ、平行印記	横ナデ、同心円文		271
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	ナデ	(墨書) 板状圧痕	273
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 ヘラケズリ	-	-		274
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 ヘラケズリ	-	-	内表面の黒褐色は破面もみられる為、煮炊きによるものと思われる	275
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ	-	-		276
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		277
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(高台付杯) 内外面煤付着	278
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	279
横ナデ 回転ヘラケズリ	ヘラケズリ	ナデ	ナデ	(高台付杯)	280
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ	ナデ	(高台付杯) 外表面に爪形状圧痕	281
横ナデ、格子目印記	横ナデ、同心円文	-	-		282
横ナデ、ハケ目	横ナデ、同心円文	-	-		283
格子目印記	格子目印記				
横ナデ	横ナデ	-	-		284
横ナデ、格子目印記	横ナデ、同心円文	-	-		285
横ナデ、格子目印記	横ナデ、同心円文	-	-		286
横ナデ、描き目	横ナデ、同心円文	-	-		287
横ナデ、ハケ目	横ナデ、同心円文	-	-	自然釉	288
横ナデ、格子目印記	横ナデ、同心円文	-	-	颈部外表面ハケによる波状文	289
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	(灯明杯) 内外赤油煙	290
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	ヘラ切り後	回転ヘラ磨き	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁部油煙 内外部ヘラ記号	291
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁内裏面に油煙	292
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	ヘラ切り後	回転ヘラ磨き	内外面赤彩	293
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	ヘラ切り後 回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き		294
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ後ナデ	口縁外表面一部煤付着	295
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		296
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面に磨き	297
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		298
ヘラ磨き、ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り、ヘラ磨き	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	299
ハケ目後ヘラ磨き	ケズリ後ヘラ磨き	-	-		300
横ナデ、ナデ、ケズリ	ナデ	-	-		301
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		302
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	303
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	304
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	305
回転ヘラケズリ、ナデ 回転ヘラ切り、横ナデ	横ナデ、ナデ	-	-	輪状つまみ 内外面赤彩、天井内部に煤付着	306
横ナデ	横ナデ	横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	つまみ剥離 内面に煤付着	307
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ	ナデ	ナデ		308
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	309
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩 外底面は再度粘土を張り付けた痕跡あり	310
横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	横ナデ、ヘラ磨き	内外面赤彩	311
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付杯) 内外面赤彩	312
横ナデ	-	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付杯) 高台を残し打ち欠いてある	313

測定番号	Fig. No.	PL. No.	透構番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大側径	器高	外面	内面	
314	135	-	SE030	黑色土器	杯	(15.2)	(7.6)	-	6.6	橙 7.SYR7/6	黑 N2/	長石、角閃石、雲母
315		-	SE030	土師器	鉢	(20.8)	-	-	(6.2)	にふい橙 7.SYR7/4	にふい橙 7.SYR7/4	角閃石、雲母、赤色鉱化粒
316		-	SE030	須恵器	壺瓶	(11.0)	-	-	(5.1)	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR6/1	雲母、砂粒
317		53	SE030	須恵器	壺	15.0	8.2	-	8.0	灰白 10YR7/1	灰 N5/	長石、角閃石、雲母
318		53	SE030	須恵器	壺	(18.2)	(12.5)	-	3.7	にふい橙 7.SYR5/3	にふい橙 7.SYR5/3	雲母、砂粒
319		53	SE030	須恵器	壺	(18.8)	-	(34.8)	(21.6)	褐灰 7.SYR5/1	橙 7.SYR6/6	長石、雲母、赤色鉱化粒
320		53	SE031	土師器	杯	(12.6)	(7.8)	-	3.8	橙 2.5YR6/6	にふい橙 7.SYR7/4	雲母、赤色鉱化粒
321		53	SE031	土師器	壺	-	(26.6)	-	(11.4)	浅黄橙 10YR8/4	にふい橙 7.SYR7/4	長石、石英、角閃石、雲母
323		53	SE032	土師器	壺	15.6	10.5	-	1.8	橙 2.5YR6/6	澄 2.5YR6/6	雲母、微砂粒
324		53	SE032	土師器	壺	16.0	12.0	-	2.7	橙 SYR7/6	澄 SYR7/6	長石、砂粒
325	136	54	SE032	土師器	小壺	10.4	8.1	-	2.5	浅黃橙 7.SYR8/6	橙 SYR7/6	長石、石英
326		54	SE032	土師器	杯	9.8	4.5	-	3.5	にふい橙 7.SYR7/4	にふい橙 7.SYR7/4	雲母、微砂粒
327		54	SE032	土師器	杯	12.8	8.3	-	3.0	浅黃橙 10YR8/4	浅黃橙 10YR8/3	雲母、微砂粒
328		54	SE032	土師器	杯	13.1	7.8	-	3.0	橙 SYR7/6	澄 SYR7/6	長石、雲母
329		54	SE032	土師器	杯	(13.8)	(8.8)	-	3.1	にふい黃橙 10YR7/4	にふい黃橙 10YR7/4	長石、雲母、微砂粒
330		54	SE032	土師器	杯	(14.2)	(8.2)	-	3.8	橙 SYR7/6	橙 SYR7/8	長石、雲母
331		54	SE032	土師器	杯	13.2	8.7	-	4.0	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石、雲母
332		54	SE032	土師器	杯	13.6	8.9	-	3.1	にふい橙 7.SYR7/4	にふい橙 7.SYR7/4	長石、雲母
333		54	SE032	土師器	杯	(13.4)	8.5	-	2.9	明褐色 SYR5/8	明赤褐 SYR5/6	長石
334		54	SE032	土師器	杯	12.8	8.2	-	2.5	橙 SYR7/6	澄 SYR6/6	長石、雲母
335	137	54	SE032	土師器	杯	(13.6)	(10.4)	-	2.8	橙 SYR6/6	にふい橙 SYR6/4	雲母、微砂粒
336		54	SE032	土師器	杯	12.8	8.6	-	3.9	橙 SYR6/8	澄 SYR6/8	長石、雲母
337		54	SE032	土師器	壺	12.6	7.6	-	3.3	にふい黃橙 10YR7/4	にふい黃橙 10YR7/4	長石、雲母、微砂粒
338		54	SE032	土師器	杯	(15.4)	(9.0)	-	3.7	橙 SYR6/6	澄 SYR6/6	長石、雲母
339		54	SE032	土師器	杯	(15.2)	(9.4)	-	3.3	橙 2.5YR6/6	にふい橙 7.SYR7/3	長石、微砂粒
340		54	SE032	土師器	杯	12.6	7.7	-	3.1	橙 SYR6/8	澄 SYR6/6	雲母、微砂粒
341		54	SE032	土師器	杯	(14.4)	(8.4)	-	3.0	にふい橙 SYR6/3	にふい橙 SYR6/4	長石、雲母、砂粒
342		54	SE032	土師器	杯	16.0	9.0	-	4.0	にふい橙 SYR6/3	にふい橙 SYR6/4	雲母、微砂粒
343		54	SE032	土師器	杯	12.5	8.0	-	3.0	橙 SYR7/6	澄 SYR6/8	長石、雲母
344		54	SE032	土師器	杯	12.8	7.7	-	3.2	にふい黃橙 10YR7/4	にふい黃橙 10YR7/3	長石
345	138	54	SE032	土師器	杯	12.0	7.8	-	3.0	橙 SYR6/6	澄 SYR6/6	雲母、微砂粒
346		54	SE032	土師器	杯	14.0	8.4	-	2.7	澄 2.5YR7/6	澄 2.5YR6/6	長石、砂粒
347		54	SE032	土師器	杯	14.4	8.3	-	2.9	にふい橙 7.SYR7/4	にふい橙 7.SYR7/3	雲母、微砂粒
348		54	SE032	土師器	杯	13.8	10.0	-	3.2	橙 SYR6/8	澄 SYR6/8	長石、砂粒
349		54	SE032	土師器	壺	(15.0)	-	-	2.9	浅黃橙 7.SYR8/3	浅黃橙 7.SYR8/4	雲母、微砂粒
350		54	SE032	土師器	蓋	15.7	-	-	3.5	にふい橙 7.SYR7/4	澄 7.SYR7/6	雲母、微砂粒
351		54	SE032	土師器	壺	17.4	-	-	3.4	橙 SYR6/6	澄 2.5YR6/6	雲母、微砂粒
352		54	SE032	土師器	杯	13.4	8.9	-	3.1	にふい橙 7.SYR7/3	にふい橙 7.SYR7/3	雲母、微砂粒
353		54	SE032	土師器	杯	(13.3)	9.0	-	3.3	にふい橙 7.SYR7/3	明褐灰 7.SYR7/2	長石、雲母
354		54	SE032	土師器	杯	(13.2)	(7.8)	-	2.9	明褐灰 7.SYR7/2	にふい橙 7.SYR7/3	雲母、微砂粒
355	137	54	SE032	土師器	杯	(13.8)	(9.2)	-	2.5	にふい橙 7.SYR7/3	にふい橙 7.SYR7/3	雲母、微砂粒
356		54	SE032	土師器	托	(18.0)	(12.2)	-	4.4	にふい橙 SYR7/4	にふい橙 SYR7/4	雲母、微砂粒
357		54	SE032	土師器	壺	16.0	7.3	-	6.5	にふい橙 7.SYR7/4	澄 SYR6/6	長石、雲母
358		54	SE032	土師器	壺	15.4	8.4	-	6.8	橙 2.5YR6/8	澄 2.5YR6/8	長石、微砂粒
359		54	SE032	土師器	壺	(18.4)	9.5	-	8.5	にふい橙 SYR7/4	にふい橙 7.SYR7/3	長石、微砂粒
360		54	SE032	土師器	鉢	(23.8)	(12.8)	-	11.7	にふい黃橙 10YR7/3	にふい黃橙 10YR7/3	長石
361		54	SE032	土師器	壺	(24.0)	-	-	(8.7)	にふい橙 7.SYR7/3	明褐灰 7.SYR7/2	長石、石英、雲母
362		54	SE032	土師器	壺	(15.6)	-	-	(4.7)	橙 SYR7/6	にふい橙 SYR7/4	石英、雲母、砂粒
363		54	SE032	須恵器	壺	15.8	-	-	2.9	灰 N6/	褐 10YR6/1	長石、砂粒
364		54	SE032	須恵器	壺	(20.0)	(16.0)	-	2.5	黃灰 2.5YS/1	黃灰 2.5YS/1	砂粒
365	138	53	SE032	須恵器	杯	(12.6)	(8.0)	-	2.9	黃灰 2.5Y6/1	黃灰 2.5Y6/1	石英、雲母、砂粒
366		53	SE032	須恵器	杯	(13.2)	(8.4)	-	3.0	灰 N6/	灰 N6/	雲母、微砂粒
367		53	SE032	須恵器	杯	(12.2)	(7.4)	-	3.9	灰 SY6/1	灰 SY6/1	長石、砂粒
368		53	SE033	土師器	小壺	9.9	7.7	-	1.2	にふい黃橙 10YR7/3	にふい黃橙 10YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色鉱化粒
369	138	53	SE033	土師器	小壺	9.8	8.1	-	1.8	にふい橙 10YR7/4	浅黃橙 10YR8/4	長石、角閃石、雲母、赤色鉱化粒
370		53	SE033	土師器	杯	(13.9)	(9.9)	-	3.4	浅黃橙 10YR8/3	浅黃橙 10YR8/3	雲母、微砂粒
371		53	SE033	黑色土器	壺	-	7.4	-	(2.6)	暗灰 N3/	暗灰 N3/	長石、雲母
372		53	SE033	須恵器	杯	(11.6)	7.4	-	3.8	灰 N6/	灰 N5/	微砂粒
373	139	-	SE034	土師器	小壺	9.2	7.3	-	1.9	橙 7.SYR7/6	橙 7.SYR7/6	石英、角閃石、雲母、赤色鉱化粒

Tab.10 出土遺物観察表⑥

測定				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
横ナデ、ヘラ焼き 回転ヘラケズリ	横ナデ、ヘラ焼き	横ナデ	横ナデ、ヘラ焼き	黒色土器 a類(高台付杯) 内器面は手持ちヘラ焼き	314
横ナデ、八ヶ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	内外面深付着	315
横ナデ、平行印き	横ナデ、同心円文	-	-		316
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	(高台付碗)	317
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、回転ヘラケズリ	(高台付皿) 内面側から外器面にかけて自然彫	318
横ナデ、格子目印き 八ヶ目	横ナデ、同心円文 平行印き	-	-		319
横ナデ、ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	ナデ	内外面赤彩	320
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	ナデ、八ヶ目	-	(台付盃)	321
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	底部に細粒付着	323
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	324
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	325
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	外底部に組織窓あり	326
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		328
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ		329
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	外底面の一部を除き内外面赤彩 外器面に疵痕あり	330
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ		331
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	(灯明杯) 口縁部に深付着 内外面赤彩	332
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩	333
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ		334
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	外底面の一部を除き内外面赤彩	335
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩 内面に疵痕あり	336
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩 外底部に組織窓あり	337
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	338
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底部を除いて全体赤彩	339
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	340
回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き		341
回転ヘラ焼き	横ナデ後回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き		342
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ、ナデ	外底面の一部を除き内外面赤彩	343
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	344
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	345
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	外底部を除いて全体赤彩	346
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ		347
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	外底面の一部を除き内外面赤彩	348
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	内外面赤彩	349
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	内外面赤彩 外面一部に運元斑あり	350
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	内外面赤彩 外面一部に運元斑あり	351
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面に墨書 内外面赤彩	352
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面に墨書 外底面の一部を除き内外面赤彩	353
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面に墨書 外底面の一部を除き内外面赤彩	354
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面に墨書 外底面の一部を除き内外面赤彩	355
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ	横ナデ	外表面に赤彩	356
横ナデ	横ナデ	機ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩	357
横ナデ	横ナデ	機ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩	358
横ナデ	横ナデ	機ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付碗) 外底面の一部を除き内外面赤彩	359
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	360
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		361
横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	口縁内部に工具痕 内外面深付着	362
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	黒斑あり	363
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ		364
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		365
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕	366
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ		367
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		368
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	369
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	370
ヘラ焼き 回転ヘラケズリ	ヘラ焼き	回転ヘラ切り、ナデ	ヘラ焼き	黒色土器 b類	371
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	外底面に工具痕	372
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	373

器物 番号	Fig. No.	PL. No.	造構 番号	種別	器種	法量 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 幅員	器高	外面	内面	
374	139	-	SE034	土師器	小皿	8.7	6.8	-	1.1	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	雲母、赤色顔化粒
375		-	SE034	土師器	小皿	9.2	7.1	-	1.1	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/4	雲母、砂粒
376		-	SE034	土師器	小皿	9.0	7.3	-	1.5	浅黄褐 10YR8/4	にふい褐 7.5YR6/4	長石、雲母、赤色顔化粒
380		-	SE035	土師器	杯	10.1	8.0	-	2.4	にふい黄橙 10YR7/4	にふい褐 7.5YR7/4	石英、雲母、赤色顔化粒
381		-	SE035	土師器	杯	10.2	7.7	-	2.7	褐 SYR7/6	明黄褐 10YR7/6	石英、雲母、赤色顔化粒
382	55	-	SE035	土師器	杯	10.6	6.9	-	2.8	褐 7.5YR7/6	褐 7.5YR7/6	角閃石、雲母、赤色顔化粒
383		-	SE035	土師器	杯	11.4	7.3	-	3.0	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色顔化粒
384		-	SE035	土師器	不明	-	(5.5)	-	(0.5)	褐 SYR7/6	褐 SYR7/6	長石、雲母、赤色顔化粒
385		-	SE035	土師器	杯	12.9	8.3	-	3.1	褐 7.5YR7/6	明赤褐 2.5YR5/6	角閃石、雲母、赤色顔化粒
386		55	SE035	土師器	杯	15.2	10.4	-	3.8	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	雲母、赤色顔化粒
387	140	-	SE035	黑色土器	杯	-	6.1	-	(3.1)	褐 SYR7/8	黑 N2/	長石、石英、赤色顔化粒
388		55	SE035	土師器	壺台	-	-	-	(7.6)	褐 2.5YR6/6	褐 2.5YR6/6	長石、角閃石、雲母、赤色顔化粒
389		-	SE035	須恵器	杯	(12.8)	(5.9)	-	3.4	灰 SY6/1	灰 SY5/1	長石、雲母
390		-	SE035	須恵器	蓋	(14.2)	-	-	(2.3)	灰白 SY7/1	灰 SY5/1	雲母、赤色顔化粒
391		-	SE035	須恵器	蓋	(14.6)	-	-	(2.9)	灰 SY6/1	灰 7.5Y6/1	長石
392	55	-	SE035	須恵器	鉢	(21.2)	-	-	(7.4)	灰 NS/	灰 NS/	白色砂粒
393		-	SE035	須恵器	盤	(23.7)	-	-	44.0 (34.8)	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y4/1	白色粒、黒色粒
396		-	SE036	土師器	小皿	9.8	7.2	-	2.4	にふい褐 7.5YR6/4	にふい褐 7.5YR6/4	角閃石、雲母、赤色顔化粒
397		-	SE036	土師器	杯	(13.4)	(8.2)	-	(3.3)	明赤褐 5YR5/6	褐 SYR6/8	長石、石英、赤色顔化粒
398		55	SE036	土師器	杯	13.6	7.2	-	3.3	褐 2.5YR6/6	褐 2.5YR6/6	雲母、赤色顔化粒
399	55	-	SE036	土師器	杯	(17.8)	(11.0)	-	3.4	褐 2.5YR7/8	赤 10R5/6	長石、石英、赤色顔化粒
400		-	SE036	須恵器	高杯	(21.4)	-	-	(3.2)	黃灰 2.5Y6/1	褐灰 10YR6/1	白色粒、黒色粒、赤色顔化粒
401		55	SE037	土師器	小皿	8.7	7.4	-	1.0	褐 7.5Y7/6	黃褐 10YR8/6	石英、角閃石、赤色顔化粒
402		-	SE037	土師器	小皿	8.3	6.5	-	1.1	褐 SYR7/6	褐 SYR7/6	長石、角閃石
403		-	SE037	土師器	皿	15.5	12.8	-	1.6	褐 2.5YR6/8	褐 2.5YR6/8	雲母、白色粒、赤色顔化粒
404	141	-	SE037	土師器	杯	(10.8)	(9.6)	-	3.5	褐 2.5YR6/8	褐 2.5YR6/8	長石、石英、赤色顔化粒
405		-	SE037	土師器	杯	(13.4)	(8.5)	-	2.7	褐 SYR6/6	褐 SYR6/6	長石
406		55	SE037	黑色土器	椀	(16.2)	(6.3)	-	5.5	灰 NS/	黃灰 2.5Y5/1	長石
408		-	SE038	須恵器	杯	(12.4)	(7.2)	-	3.9	灰 SY5/1	灰 SY5/1	長石
409		-	SE038	須恵器	杯	(13.0)	(7.9)	-	4.7	灰 N6/	灰 SY6/1	白色粒、黒色粒
410	56	56	SE038	須恵器	杯	(16.4)	9.8	-	6.2	灰白 N7/	灰白 N7/	砂粒
411		-	SE039	土師器	皿	(33.7)	-	-	(9.2)	褐 7.5YR6/6	浅黃褐 7.5YR8/6	長石、角閃石、褐色粒
412		56	SE039	須恵器	平瓶	-	-	17.4	(9.3)	灰白 NB/	灰 N4/	長石、角閃石
413		-	SE040	須恵器	蓋	(15.5)	-	-	(1.9)	灰 SY6/1	灰 SY5/1	白色粒
414		-	SE040	須恵器	蓋	(15.6)	-	-	2.1	灰 SY6/1	灰 SY5/1	白色粒、黒色粒
415	56	-	SE040	須恵器	杯	(12.3)	(7.8)	-	3.7	にふい褐 2.5Y6/3	黃灰 2.5Y6/2	白色粒
416		56	SE042	土師器	杯	13.8	8.9	-	3.4	褐 2.5YR6/6	褐 2.5YR6/8	長石、石英
417		-	SE042	土師器	杯	16.6	10.5	-	4.2	褐 SYR6/6	褐 2.5YR6/6	雲母、砂粒、赤色顔化粒
418		-	SE042	須恵器	蓋	(15.6)	-	-	(2.0)	灰白 SY7/1	灰 SY6/1	微細な砂粒
419		56	SE042	須恵器	杯	(13.7)	-	-	(3.3)	灰 NS/0	灰 NS/0	長石、黒色粒
420	57	-	SE043	土師器	鉢	(16.8)	-	-	6.6	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石、石英、角閃石、雲母
421		-	SE043	土師器	鉢	(22.8)	-	(20.8)	(16.9)	にふい褐 7.5YR6/4	褐 7.5YR6/6	長石、石英
422		57	SE043	土師器	盤	(15.3)	-	-	15.9	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	長石、石英、角閃石、雲母
423		-	SE043	土師器	皿	(20.4)	-	(22.0)	(26.9)	明赤褐 2.5YR5/8	にふい褐 7.5YR7/4	長石、石英、赤色顔化粒
424		-	SE044	土師器	杯	(12.7)	7.6	-	4.1	褐 SYR7/6	褐 SYR6/6	長石、石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
425	56	-	SE044	土師器	杯	(14.0)	(11.2)	-	4.4	にふい褐 7.5YR5/4	にふい褐 7.5YR5/4	角閃石、雲母、赤色顔化粒
426		-	SE044	土師器	杯	(15.2)	(12.0)	-	3.5	褐 SYR6/6	赤褐 2.5YR4/8	長石、石英
427		-	SE044	土師器	杯	(14.8)	10.4	-	4.0	褐 SYR7/6	褐 SYR7/6	雲母、砂粒、赤色顔化粒
429		-	SE045	土師器	杯	(14.6)	6.6	-	4.7	にふい褐 7.5YR7/4	褐 7.5YR7/6	石英、角閃石、雲母、赤色顔化粒
430	143	58	SE046	土師器	杯	12.1	7.7	-	3.6	褐 SYR6/8	褐 SYR6/6	長石、石英、赤色顔化粒

Tab.11 出土遺物觀察表-⑦

調査				備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	糸切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	374
横ナデ	横ナデ	糸切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	375
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	376
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙・煤付着	380
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙付着	381
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙付着 外底面に粘土塊付着	382
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙付着	383
-	-	ヘラ切り	横ナデ	内底面に紅色	384
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		385
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	386
横ナデ、回転ヘラケズリ	へら磨き	ヘラ切り	へら磨き	黒色土器 b 型	387
横ナデ	横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ、横ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 内面煤付着	388
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	板状圧痕	389
横ナデ	横ナデ	-	-		390
ヘラ切り後横ナデ	横ナデ、横ナデ後ナデ	-	-		391
ヘラ切り、ヘラケズリ	横ナデ	-	-	(転用器) 内器面研磨痕	391
横ナデ	横ナデ	-	-		392
横ナデ、ナデ	横ナデ、当と具痕	-	-	口縁部外器面自然釉	393
格子目タタキ後横ナキメ	同心円文当て具痕	-	-		393
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	(灯明皿) 口縁部に油煙 径不確実	396
横ナデ、磨き	磨き	ケズリ後ナデ	磨き		397
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩 外底面にハケメ状の工具痕	398
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		399
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ、横ナデ後ナデ	-	-	杯部 外面に自然釉 頬部欠損	400
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ、横ナデ後ナデ		401
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ、ナデ		402
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ後ナデ		403
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ		404
横ナデ、回転磨き ケズリ後回転磨き	横ナデ後回転磨き	ケズリ後回転磨き	横ナデ後回転磨き	(灯明杯) 内外器面に油煙	405
ヘラ磨き	ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き後ナデ	(高台付杯) 黒色土器 b 型	406
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		408
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り、横ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付杯)	409
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	410
横ナデ、平行タタキ 格子目タタキ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	口縁内底面に黒斑	411
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ		412
横ナデ ヘラケズリ後横ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		413
横ナデ ヘラケズリ後横ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		414
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	415
横ナデ、回転ヘラケズリ、 回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	ヘラ切り	ナデ、回転ヘラ磨き		416
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き		417
横ナデ、ナデ	横ナデ	-	-		418
回転ヘラケズリ後横ナデ	横ナデ、ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		419
横ナデ、工具ナデ、 グズリ	横ナデ、工具ナデ	ケズリ	工具ナデ	内外面赤彩	420
横ナデ、ハケメ後ナデ、 ハケメ	ケズリ後ナデ	ハケメ	ケズリ後ナデ		421
横ナデ、ハケメ、 工具ナデ	横ナデ、ケズリ	ハケメ	ケズリ	底部黒焼け	422
横ナデ、ハケメ、ハケメ 後ナデ	横ナデ、ケズリ	ハケメ後ナデ	ケズリ	口縁～頸部内外面赤彩 頸部中位～底部にかけて黒斑	423
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		424
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	焼き歪み	425
へら磨き (摩利の為不明瞭)	へら磨き (摩利の為不明瞭)	ケズリ後ナデ	へら磨き (摩利の為不明瞭)	口縁部外側から内底面にかけて赤彩	426
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	外底面に黒斑痕	427
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内器面に付着物	429
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		430

番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土	
						口径	底径	最大側厚	高さ	外面	内面		
431	143	58	SE046	土師器	杯	12.0	7.7	—	3.2	暗 SYR6/6	暗 SYR6/6	長石・石英・雲母	
432			SE046	土師器	碗	13.7	8.5	—	5.4	暗 2.5YR6/8	暗 2.5YR6/8	長石・石英・赤色酸化粒	
433			SE046	土師器	碗	13.2	7.0	—	5.9	暗 2.5YR6/8	暗 2.5YR6/8	角閃石・雲母・白色砂粒	
434			SE046	土師器	碗	14.4	8.4	—	7.3	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	赤色酸化粒	
435			SE046	土師器	碗	14.4	7.2	—	7.4	明赤褐 2.5YR5/8	明赤褐 2.5YR5/6	長石・石英	
436			SE046	黒色土器	碗	12.4	6.6	—	5.4	にぶい暗 7.5YR7/4	暗灰 N3/	石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
437			SE046	黒色土器	碗	(12.2)	6.1	—	4.8	暗 SYR7/6	黒 2.5Y2/1	角閃石・雲母	
438			SE046	土師器	盤	(20.6)	—	(20.2)	(12.7)	暗 SYR6/6	明赤褐 SYR5/6	長石・石英・赤色酸化粒	
439			SE046	土師器	盤	28.0	—	27.0	24.1	にぶい暗 7.5YR6/4	にぶい暗 SYR7/4	長石・石英	
440			SE046	須恵器	杯	13.0	7.1	—	4.0	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/2	雲母・微細な砂粒	
441	59	88	SE046	須恵器	杯	12.5	6.7	—	3.7	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	白色砂粒・黒色粒子	
442			SE046	須恵器	杯	(13.7)	(8.2)	—	4.3	灰 7.5Y6/1	灰 10Y6/1	長石・雲母	
443			SE046	須恵器	碗	(12.8)	6.8	—	6.3	灰 NS/	灰 NS/	微細な砂粒	
444			SE046	須恵器	碗	(12.1)	7.2	—	6.1	灰 NS/	灰 NS/	微細な砂粒	
445			SE046	須恵器	鉢	(16.0)	(8.0)	—	8.1	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y6/1	長石・石英・雲母	
446			SE047	土師器	皿	(16.3)	(15.8)	—	2.8	にぶい暗 7.5YR7/3	にぶい暗 7.5YR7/3	長石	
447			SE047	土師器	杯	(14.0)	9.2	—	4.2	にぶい暗 7.5YR6/4	にぶい暗 7.5YR6/4	雲母・砂粒・赤色酸化粒	
448			SE047	須恵器	杯	(13.0)	(10.2)	—	3.7	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	雲母・砂粒	
449			—	SE048	土師器	盤	(17.4)	—	—	(11.1)	暗 2.5YR6/6	暗 2.5YR6/6	長石・石英・雲母
450			SE048	須恵器	皿	(16.2)	—	—	(1.1)	灰 NS/	灰 NS/	長石・石英	
451	144	59	—	SE048	須恵器	杯	(18.0)	—	—	(5.1)	オリーブ黒 SY3/1	灰 SY5/1	長石・石英
452			SE049	土師器	杯	(10.0)	—	—	3.6	にぶい黄褐 10YR5/3	暗白 2.5Y7/1	長石・石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
453			SE049	土師器	杯	(15.0)	7.6	—	4.5	暗 2.5Y7/6	暗 2.5Y7/6	長石・赤色酸化粒	
454			SE049	土師器	杯	16.5	9.5	—	4.5	明赤褐 2.5YR5/8	明赤褐 2.5YR5/8	長石・角閃石・雲母	
455			SE049	土師器	杯	(17.5)	(15.5)	—	4.1	にぶい暗 7.5YR7/4	にぶい暗 7.5YR7/4	長石・石英・角閃石・雲母	
456			SE049	須恵器	杯	(15.0)	(11.1)	—	4.5	灰 SY5/1	灰黄 2.5Y6/2	長石・石英	
457			SE049	須恵器	皿	(21.6)	—	—	(6.0)	暗灰 N3/	灰 N4/	長石・石英・黒色粒	
458			—	SE050	黒色土器	杯	(11.6)	—	—	3.5	にぶい黄褐 10YR6/4	黑 N 2/	長石・角閃石
460			SE050	須恵器	皿	(43.6)	—	—	(11.9)	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	長石・白色粒・黒色粒	
461	60	60	SI003	須恵器	杯	(13.2)	8.6	—	3.9	浅黄褐 10YR8/4	暗 2.5Y7/6	微細粒	
462			SI006	土師器	盤	(14.2)	—	(14.0)	12.9	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	長石・石英	
463			SI006	須恵器	杯	(12.6)	(9.7)	—	4.1	灰 NS/	灰 10YR4/1	雲母	
464			SI004	土師器	杯	(11.5)	(8.1)	—	4.9	暗 2.5Y7/6	暗 2.5Y7/6	砂粒	
465			SI004	土師器	杯	(13.7)	(9.2)	—	4.0	浅黄褐 10YR8/3	にぶい黄褐 10YR7/3	長石・雲母	
466			SI004	土師器	杯	(16.1)	(13.0)	—	3.1	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 7.5YR7/4	白色粒・赤色酸化粒	
467			SI015	須恵器	杯	(13.7)	9.2	—	4.5	にぶい暗 7.5YR7/4	にぶい暗 7.5YR7/2	雲母	
468			SI007	土師器	杯	(13.0)	(8.9)	—	4.1	にぶい暗 7.5YR7/4	にぶい暗 7.5YR7/4	微細粒	
469			SI007	須恵器	皿	(15.1)	—	—	2.0	灰黄 2.5Y4/1	灰黄 2.5Y6/1	微細粒	
470			SI017	土師器	小皿	8.7	6.9	—	1.6	浅黄褐 7.5YR8/4	暗 2.5Y7/6	長石・雲母・赤色酸化粒	
471	61	60	SI017	土師器	小皿	9.5	7.6	—	1.6	浅黄褐 7.5YR8/3	浅黄褐 7.5YR8/3	角閃石・雲母・赤色酸化粒	
472			SI017	土師器	杯	15.9	10.7	—	4.1	淡黄 2.5Y8/3	灰黄 2.5Y7/2	角閃石・微細粒	
473			SI002	土師器	杯	(14.9)	(10.2)	—	(4.2)	にぶい暗 7.5YR7/3	にぶい暗 7.5YR7/3	長石・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
474			SI018	土師器	皿	(18.0)	8.8	—	14.5	にぶい暗 7.5YR7/4	にぶい暗 7.5YR7/4	長石・石英・角閃石 赤色酸化粒	
475			SI018	須恵器	杯	13.8	10.1	—	3.6	暗 2.5Y6/8	暗 2.5Y6/8	長石・石英・雲母	
476	60	59	SI018	須恵器	深鉢	(21.4)	(13.7)	—	23.4	灰 5Y5/1	黄褐 2.5Y5/4	長石・石英	
477			SI019	須恵器	皿	17.0	—	—	2.7	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	砂粒	
478			SI023	土師器	深鉢	(23.8)	(15.5)	—	18.3	にぶい暗 7.5YR7/3	にぶい暗 7.5YR7/4	長石・石英・角閃石 赤色酸化粒	
479			—	SI024	須恵器	皿	14.5	—	—	1.4	灰 N6/0	灰 N6/0	長石・石英・黒色粒
480			SI026	土師器	杯	13.4	8.2	—	3.5	にぶい黄褐 7.5YR7/4	にぶい黄褐 7.5YR7/4	長石・赤色酸化粒	
481	61	61	SI026	須恵器	皿	(17.0)	—	—	4.2	にぶい黄褐 7.5YR6/4	暗灰褐 2.5Y5/2	長石	
482			SI026	須恵器	杯	(16.4)	(8.9)	—	5.6	暗 7.5Y4/1	灰 7.5Y4/1	長石	
483			SI035	土師器	皿	(17.2)	—	—	(1.8)	暗 SYR6/6	暗 SYR6/6	長石・石英・赤色酸化粒	
484	61	61	SI035	土師器	杯	(13.2)	8.0	—	3.1	にぶい暗 7.5YR6/4	暗 2.5YR6/6	雲母・砂粒・赤色酸化粒	
485			SI035	土師器	杯	(13.6)	9.6	—	2.9	明赤褐 5YR5/6	赤褐 5YR4/6	長石・角閃石	

Tab.12 出土遺物観察表-⑧

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ、ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面に油煙	431
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩 板状圧痕	432
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩	433
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付碗)	434
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書) 内外面赤彩	435
横ナデ 回転へラケズリ	ヘラ磨き	ヘラ磨き (静止ヘラ切り)	ヘラ磨き	(高台付碗) 黒色土器 a 番、外底面放射状のハケ状工具痕	436
横ナデ	ヘラ磨き	ヘラ切り後ナデ	ヘラ磨き	(高台付碗) 黑色土器 a 番	437
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ後横ナデ、 ケズリ後ナデ	-	-	外底面爆付着	438
横ナデ、ハケメ ハケメ後ナデ	横ナデ、ケズリ、ケズリ 後ナデ	ハケメ後ナデ	ケズリ後ナデ	内外面爆付着 桶部中央に穿孔(外側からの打撃)	439
横ナデ 回転へラケズリ後ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	440
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	口縁部内外器皿油煙	441
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付碗)	442
横ナデ	横ナデ	工具痕 (静止ヘラ切り)	ナデ	(高台付碗) 外底面工具痕(時計回り)	443
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付碗)	444
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		445
横ナデ	ナデ	ヘラ切り後ケズリ	ナデ		446
鹿糸のため調整不明	鹿糸のため調整不明	鹿糸のため調整不明	鹿糸のため調整不明	鹿糸のため調整不明	447
横ナデ 横ナデ、回転へラケズリ後ナデ	横ナデ、 回転へラケズリ後ナデ	横ナデ 回転へラケズリ	ナデ	(高台付杯)	448
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ後ナデ	-	-		449
横ナデ 回転へラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	つまみ欠損	450
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付杯) 高台剥離	451
横ナデ	横ナデ	ヘラケズリ	横ナデ	底部に黒斑	452
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		453
横ナデ	横ナデ	ケズリ	ナデ	内外面赤彩、外底面黒斑	454
横ナデ	ヘラ磨き	ヘラケズリ	ヘラ磨き		455
横ナデ 回転へラケズリ	横ナデ 回転へラケズリ	横ナデ 回転へラケズリ	ナデ	(高台付杯)	456
横ナデ、タタキ	横ナデ、ナデ	-	-	口縁部外面自然釉	457
ヘラ磨き	ヘラ磨き	-	-	黒色土器 a 番	459
横ナデ 格子目タタキ後横ナデ	横ナデ、同心円文当て具 根、横ナデ	-	-		460
横ナデ	横ナデ	ナデ後ヘラ磨き	横ナデ	赤焼け土器	461
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	ハケ目、ナデ	ヘラケズリ		462
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(高台付杯) 外面自然釉 口縁部を打ち欠いた形跡あり	463
横ナデ	横ナデ後ナデ	ナデ	横ナデ後ナデ		464
横ナデ	横ナデ	回転へラケズリ後ナデ	ナデ	鹿糸後に窪が付着	465
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ		466
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	赤焼け土器	467
横ナデ	横ナデ、ヘラ磨き	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	468
横ナデ、手持ちへラ割り	横ナデ、ナデ	-	-		469
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		470
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	471
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	472
横ナデ後ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	口縁部爆付着	473
横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	ハケ目	ヘラケズリ	内底面黒斑 外表面赤彩	474
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		475
叩き後横ナデ	同心円文、横ナデ	叩き後ナデ	ナデ	(高台付深鉢) 把手付、桶部に三条の沈線を認る	476
横ナデ ヘラケズリ後ナデ	ナデ	-	-	焼き戻し	477
ヘラ磨き、横ナデ ナデ、前頭注痕	横ナデ、ヘラ磨き	ナデ	-	(把手付深鉢) 桶部に三条の沈線を認る 内底面黒斑 外表面赤彩	478
横ナデ、ナデ	ナデ	-	-		479
横ナデ、回転へラ磨き	横ナデ、回転へラ磨き	横ナデ、回転へラ磨き	横ナデ、回転へラ磨き	外底面ヘラ磨き	480
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ	-	-	荒尾底	481
横ナデ	横ナデ	横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	482
横ナデ、回転へラ磨き 回転へラケズリ	横ナデ、指頭圧痕	-	-	焼成は堅緻で施土は須恵器の施土であるが酸化焼成	483
横ナデ	横ナデ	回転へラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面油煙	484
横ナデ	横ナデ	回転へラ切り後ナデ	ナデ		485

類別 品名	Fig. No.	PL. No.	造構 番号	種別	器種	法量 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 側面	器高	外面	内面	
486		61	SI035	土師器	鉢	26.7	—	—	7.9	にふい黄 7.SYR6/4	にふい橙 7.SYR6/4	長石、角閃石、赤色酸化粒
487		—	SI035	土師器	盞	(31.4)	—	(26.2)	(9.0)	にふい黄 7.SYR5/3	にふい黄 10.YR6/4	長石、角閃石 雲母、赤色酸化粒
488	146	61	SI035	須恵器	蓋	(17.4)	—	—	1.7	灰 (N5/)	灰 (N5/)	砂粒
489		—	SI035	須恵器	盞	(19.0)	—	—	(7.7)	灰 (N5/)	暗灰 (N3/)	長石、石英
490		—	SI035	須恵器	盞	(21.0)	—	—	(7.8)	灰黄 2.SY6/2	灰 SY6/1	長石、黑色粒
491		—	SI036	土師器	盞	(18.2)	—	—	(2.6)	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石、石英、雲母
492		—	SI036	土師器	杯	(13.3)	8.0	—	2.8	橙 SYR6/6	にふい橙 7.SYR5/4	鈍砂粒
493		—	SI036	土師器	杯	(16.0)	(10.6)	—	4.1	にふい黄 7.SYR6/4	橙 SYR6/6	長石、赤色酸化粒
494		SI036	土師器	杯	14.0	6.4	—	4.8	にふい黄 7.SYR7/4	橙 SYR6/6	長石、雲母、赤色酸化粒	
495	63	SI036	土師器	杯	19.0	12.0	—	6.2	橙 2.SYR6/6	明赤褐 7.SYR5/8	長石、角閃石	
496		SI038	土師器	盞	(19.4)	(9.6)	—	11.0	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	長石、石英、赤色酸化粒	
497		SI038	須恵器	盞	15.4	8.6	—	4.1	灰黄 2.SY7/2	浅黄 2.SY7/3	赤色酸化粒	
498		SI038	須恵器	盞	(13.0)	—	(20.8)	(9.2)	暗褐 10.YR3/4	暗褐 10.YR3/4	長石、石英	
499	147	—	SI039	土師器	盞	(15.8)	—	(14.8)	(6.1)	浅黄 7.SYR8/6	にふい黄 10.YR7/4	長石、雲母
500		—	SI040	土師器	杯	(15.0)	(10.2)	—	3.8	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石、石英、赤色酸化粒
501		—	SI040	土師器	碗	—	7.5	—	(4.2)	明赤褐 5.SYR5/6	赤 10.RA/6	長石、石英
502		—	SI040	土師器	盞	(27.8)	—	—	(6.4)	橙 SYR7/6	橙 SYR6/6	角閃石、雲母、赤色酸化粒
503		SI042	土師器	盞	16.4	14.4	—	2.3	にふい黄 7.SYR6/4	明赤褐 2.SYR5/6	雲母、赤色酸化粒	
504		SI042	土師器	杯	14.0	10.2	—	3.3	橙 2.SYR6/6	にふい黄 10.YR6/3	雲母、赤色酸化粒	
505	65	SI042	土師器	杯	(13.7)	(10.6)	—	3.5	にふい黄 SYR7/4	橙 SYR6/6	雲母、赤色酸化粒	
506		SI042	土師器	盞	(26.8)	—	—	(8.2)	にふい黄 7.SYR7/4	にふい黄 7.SYR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒	
507		SI042	須恵器	盞	(12.1)	—	—	2.3	灰 SY4/1	灰 SY4/1	雲母、砂粒	
509		SI044	土師器	蓋	(16.8)	—	—	(2.1)	にふい黄 10.YR7/3	にふい黄 10.YR7/3	鈍砂粒、雲母	
510		SI044	土師器	盞	(14.8)	—	—	(1.9)	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	長石、赤色酸化粒	
511		SI044	土師器	盞	15.7	13.4	—	1.5	にふい黄 7.SYR7/4	にふい黄 7.SYR7/4	長石、石英、雲母	
512		SI044	土師器	杯	13.5	9.1	—	3.8	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	長石、石英、雲母	
513	62	SI044	土師器	杯	13.6	7.9	—	3.0	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	長石、石英、雲母	
514		SI044	土師器	杯	(16.6)	9.3	—	4.2	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	長石、雲母、赤色酸化粒	
515		SI044	土師器	盞	(23.3)	13.4	—	5.1	明赤褐 5.SYR5/6	明赤褐 5.SYR5/6	長石、雲母、赤色酸化粒	
516		SI044	土師器	盞	(25.0)	—	—	10.8	にふい黄 7.SYR7/3	にふい黄 7.SYR7/3	長石、石英、雲母	
517		—	SI044	土師器	盞	(31.2)	—	—	(11.7)	にふい黄 10.YR5/3	にふい黄 10.YR6/3	長石、石英
518		—	SI044	須恵器	杯	(12.3)	7.4	—	3.6	灰 NS/	灰 NS/	角閃石
519		—	SI044	須恵器	杯	(9.0)	(4.8)	—	3.9	灰 NS/	灰 NS/	石英
520	62	SI044	須恵器	杯	(11.2)	8.5	—	4.2	灰白 10.YR8/1	灰 SY6/1	長石、雲母	
521		SI044	須恵器	盞	(26.0)	(21.6)	—	3.6	灰 NS/	暗綠灰 7.SGY4/1	角閃石	
522		—	SI044	須恵器	盞	(14.6)	—	(20.6)	(10.3)	灰黄 2.SY7/2	灰黄 2.SY7/2	砂粒
524		SI045	須恵器	杯	(15.9)	—	—	5.6	灰黄 2.SY6/2	灰黄 2.SY6/2	長石、石英	
525		—	SI045	須恵器	高杯	—	(9.5)	—	(5.4)	明赤褐 2.SYR3/4	暗赤褐 5.YR3/4	白色粒
526		—	SI046	土師器	杯	14.4	10.1	—	4.4	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	雲母、砂粒、赤色酸化粒
527		—	SI046	須恵器	杯	(14.9)	(12.1)	—	3.9	灰黄 2.SY7/2	浅黄 2.SY7/3	雲母、白色砂粒
528	88	SI047	須恵器	杯	(13.6)	(10.2)	—	3.8	灰 7.SY4/1	灰 7.SY4/1	長石、石英	
529	63	SI048	土師器	盞	(15.2)	—	—	3.4	明赤褐 2.SYR5/8	明赤褐 2.SYR5/8	長石、石英、赤色酸化粒	
530		—	SI048	土師器	杯	(15.2)	(10.2)	—	2.9	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	石英、雲母、赤色酸化粒
531		—	SI048	土師器	杯	(12.8)	(4.8)	—	(3.6)	橙 SYR6/6	橙 2.SYR6/6	長石、雲母、赤色酸化粒
532	63	SI048	土師器	杯	(13.2)	(9.6)	—	3.8	明赤褐 5.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/8	長石、石英	
533		—	SI048	須恵器	盞	(12.7)	—	—	(1.7)	暗灰 7.SYR5/1	橙 2.SYR6/8	角閃石、雲母
534		—	SI048	須恵器	盞	(14.1)	—	—	2.3	灰白 2.SY8/1	灰白 2.SY8/2	砂粒
535	63	SI048	須恵器	盞	12.5	—	—	2.0	灰 SY5/1	黃灰 2.SY6/1	砂粒	
536		SI048	須恵器	盞	17.2	—	—	3.4	灰白 7.SY7/1	灰白 7.SY7/1	砂粒	
537		—	SI048	須恵器	盞	(23.4)	—	—	(2.1)	灰 NS/	暗灰 10.YRS/1	長石、砂粒
538		SI048	須恵器	盞	14.9	12.5	—	2.0	灰 SY5/1	灰 SY5/1	長石、石英	
539	63	SI048	須恵器	杯	13.8	10.5	—	4.2	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石、雲母、赤色酸化粒	
540		SI048	須恵器	杯	(17.1)	(13.5)	—	6.2	にふい黄 SYR5/3	橙 7.SYR6/6	砂粒	
541		—	SI048	須恵器	杯	(14.0)	(7.6)	—	4.4	灰 N6/	灰 SY6/1	角閃石、鈍砂粒
542		—	SI048	須恵器	杯	(14.1)	(9.5)	—	4.3	暗灰黄 2.SY4/2	暗灰黄 2.SY5/2	鈍砂粒
543		—	SI048	須恵器	杯	(14.7)	(9.0)	—	5.9	灰白 10.YR8/1	角閃石、雲母、砂粒	角閃石、雲母、砂粒
544		—	SI048	須恵器	短脚盞	(11.6)	—	—	(5.5)	灰 N6/	灰白 N7/	白色砂粒
545		—	SI048	須恵器	短脚盞	(13.0)	—	—	9.3	灰 N4/	灰 N6/	砂粒

Tab.13 出土遺物観察表-⑨

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ、ナデ	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	ナデ		486
ナデ、ハケ目	ナデ、ヘラケズリ	-	-		487
横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		488
横ナデ、格子目叩き	横ナデ、同心円文	-	-		489
横ナデ、描き目	横ナデ、同心円文	-	-		490
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	つまみ部剥離	491
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラケズリ	横ナデ、回転ヘラ磨き (灯明杯) 内底面油煙		492
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き (内外面赤彩)		493
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ (高台付杯) 外外面油煙		494
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラケズリ、ナデ	ナデ		496
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	焼き歪み	497
横ナデ、平行叩き	横ナデ、同心円文	-	-		498
ナデ、ハケ目	ナデ、ハラ目 ヘラケズリ	-	-	外底焼付着	499
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		500
横ナデ	ヘラ磨き	横ナデ、ナデ	ヘラ磨き (高台付杯) 内外面赤彩		501
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	外底面焼付着	502
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		503
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 (摩耗のため不明瞭) 内底面油煙	504
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ?	外底面赤彩 後不確実	505
横ナデ、ヘラケズリ ハケ目	横ナデ	-	-		506
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	口縁部内外面自然釉	507
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ	-	-	内外面赤彩 内外底面油煙	509
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	-	-	内外面赤彩	510
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	511
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	内外面赤彩	512
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後	横ナデ	回転ヘラ磨き	513
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き		
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	内外面赤彩	514
横ナデ、ヘラケズリ ヘラ磨き	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ (高台付杯) 内外面赤彩		515
横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	外底焼付着	516
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	外底焼付着	517
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	焼き歪み	518
横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	自然釉	519
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	520
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		521
横ナデ、格子目叩き	横ナデ	-	-		522
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ヘラ切り	横ナデ (高台付杯)		524
横ナデ	-	横ナデ、ナデ	ナデ (脚部) 外器面、内底面自然釉 赤焼け		525
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	焼成不良	526
横ナデ	横ナデ	横ナデ、回転ヘラ切り	ナデ (高台付杯)		527
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ヘラ切り	横ナデ (高台付杯)		528
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	内外面赤彩	529
横ナデ、回転ヘラ磨き	横ナデ、回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	内底面黒斑	530
回転ヘラ磨き	回転ヘラ磨き	-	-		531
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ		532
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	天井部自然釉	533
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	(転用視) 軸状つまみ	534
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	寶珠つまみ 外器面自然釉	535
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	つまみ 口縁部のみ色調が異なる	536
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	内外面自然釉	537
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		538
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	内底面へフタ記号 板状注意	539
横ナデ	横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ (高台付杯)		540
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ (高台付杯)		541
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ (高台付杯)		542
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ (高台付杯)		543
横ナデ	横ナデ	-	-	脚部外面自然釉	544
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	脚部外面自然釉	545

測定 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最高 部高	器高	外面	内面	
548	150	-	SI049	土師器	鉢	-	-	-	(6.8)	浅黄褐 7.SYR8/4	黒褐 2.SY3/1	長石、角閃石、雲母
549		-	SI049	土師器	甕	-	-	(30.5)	(29.3)	赤褐 SYR4/6	にぶい黄褐 7.SYR6/4	長石、石英、角閃石、雲母
550		-	SI049	須恵器	杯	(9.9)	(7.2)	-	4.2	黄灰 2.SY4/1	黄灰 2.SY4/1	白色粒、黑色粒
551		-	SI051	土師器	皿	(15.2)	(13.7)	-	1.6	橙 SYR6/5	橙 2.SYR6/5	雲母
552		-	SI051	土師器	杯	(14.3)	(10.0)	-	3.1	にぶい黄褐 7.SYR7/4	にぶい黄褐 7.SYR7/4	雲母、赤色酸化物
553		65	SI051	土師器	杯	13.3	9.1	-	3.2	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	長石、石英、角閃石 雲母、赤色酸化物
554		-	SI051	土師器	甕	(29.2)	-	-	(11.5)	にぶい黄褐 7.SYR7/3	浅黄褐 7.SYR8/3	長石、石英
555		-	SI051	須恵器	杯	(13.0)	(7.1)	-	4.0	灰白 SY7/1	灰白 SY7/1	角閃石、小石
556		65	SI052	須恵器	皿	14.4	-	-	2.8	灰 NS/	黄灰 2.SY5/1	微粒物
557		65-88	SI052	須恵器	杯	(13.8)	(11.9)	-	2.5	灰白 SY7/1	灰 SY6/1	微粒物
558	151	-	SI053	須恵器	皿	(15.4)	-	-	(1.5)	灰 SY5/1	黄灰 2.SY5/1	長石、黒色粒
559		65	SI054	土師器	杯	(14.4)	(10.5)	-	3.8	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	長石、雲母
560		-	SI056	土師器	杯	12.2	8.3	-	3.3	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	雲母、砂粒、赤色酸化物
561		-	SI056	土師器	杯	12.0	7.2	-	3.5	にぶい黄褐 10YR7/3	にぶい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母
562		-	SI056	土師器	杯	13.1	8.1	-	3.6	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	角閃石、雲母、小石
563		64	SI056	土師器	杯	(16.2)	(9.0)	-	4.1	にぶい橙 SYR6/4	橙 SYR6/6	長石、石英、角閃石 赤色酸化物
564		-	SI056	土師器	瓶	(13.2)	7.1	-	6.6	橙 7.SYR7/6	橙 SYR6/6	長石、石英、赤色酸化物
565		-	SI056	土師器	甕	(28.0)	-	(27.5)	(11.9)	にぶい黄褐 10YR7/3	灰褐 7.SYR4/2	長石、石英、角閃石 雲母、赤色酸化物
566		-	SI056	須恵器	皿	14.6	-	-	1.3	灰白 10Y7/1	灰白 7.SY7/2	角閃石、砂粒
567		-	SI056	須恵器	皿	13.0	7.9	-	2.6	灰白 N7/	灰 7.SY6/1	長石
568	152	-	SI061	土師器	杯	(13.8)	(8.4)	-	2.9	橙 2.SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、雲母
569		64	SI062	土師器	杯	13.7	6.8	-	3.3	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	角閃石、砂粒 赤色酸化物
570		-	SI062	土師器	杯	(13.2)	(6.5)	-	3.6	橙 SYR7/8	橙 SYR7/6	雲母、赤色酸化物
571		-	SI062	土師器	杯	(11.2)	(7.4)	-	3.9	橙 SYR7/8	橙 SYR6/6	石英、雲母、微粒物
572		64	SI062	土師器	杯	(10.6)	(6.6)	-	4.5	橙 SYR6/5	橙 SYR6/6	長石、角閃石
573		64-88	SI062	須恵器	皿	15.1	-	-	(1.6)	灰 SY6/1	灰 SY6/1	長石、石英、黒色粒
574		64	SI062	須恵器	皿	(19.0)	(11.0)	-	4.4	にぶい橙 SYR6/4	にぶい赤褐 SYR5/3	黒色粒、灰色粒
575		-	SI063	土師器	杯	(13.6)	(7.3)	-	3.3	橙 SYR6/6	明赤褐 SYR5/6	長石、石英、角閃石、雲母
576		65	SI063	土師器	杯	(14.4)	11.3	-	3.2	橙 SYR7/8	橙 SYR7/8	角閃石、雲母、赤色酸化物
577		-	SI063	土師器	鉢	(20.6)	(10.2)	-	10.5	にぶい黄 SYR6/4	にぶい黄 7.SYR6/4	雲母、赤色酸化物
578	153	66	SI064	土師器	皿	(19.0)	(17.0)	-	3.4	にぶい黄 10YR6/3	暗褐 10YR3/3	石英、角閃石、赤色酸化物
579		-	SI064	土師器	甕	14.5	(8.6)	-	8.2	橙 SYR7/6	橙 7.SYR7/6	長石、赤色酸化物
580		-	SI064	土師器	鉢	(34.4)	-	-	(12.5)	橙 SYR6/6	にぶい黄 7.SYR5/3	長石、角閃石、赤色酸化物
581		66	SI064	須恵器	周杯	-	(8.4)	-	(3.5)	灰 SY4/1	オリーブ黒 SY3/1	白色粒、黒色粒
582		-	SI065	土師器	甕	(22.0)	-	18.4	17.5	にぶい黄 7.SYR7/4	にぶい黄 7.SYR7/4	長石、石英、角閃石、雲母
583		-	SI065	土師器	皿	-	-	-	17.2	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄 7.SYR6/4	長石、石英、角閃石、雲母 赤色酸化物
584		-	SI066	土師器	杯	(14.3)	8.6	-	3.9	明赤褐 SYR5/6	橙 2.SYR6/8	長石、石英
585		-	SI066	土師器	鉢	(28.6)	-	-	(8.0)	褐灰 10YR4/1	灰黃褐 10YR5/2	長石、小石粒、赤色酸化物
586		-	SI066	土師器	皿	(20.8)	-	-	(18.9)	浅黄褐 7.SYR8/4	にぶい黄 7.SYR7/4	石英、雲母、赤色酸化物
587		-	SI067	土師器	甕	(17.2)	-	-	(8.4)	橙 SYR6/6	にぶい黄褐 5YR5/4	雲母、小石、赤色酸化物
588	154	-	SI067	土師器	皿	(22.4)	-	-	(8.2)	にぶい黄褐 7.SYR7/4	にぶい黄褐 7.SYR7/4	長石、石英、赤色酸化物
589		-	SI067	須恵器	杯	13.2	-	-	4.6	灰 7.SY5/1	灰 7.SY6/1	雲母、微細な砂粒
590		-	SI067	須恵器	皿	-	(12.2)	-	(6.3)	オリーブ黒 7.SY3/1	灰色 7.SY4/1	長石、1~2mmの砂粒
591		-	SI068	土師器	杯	(14.2)	(11.2)	-	3.5	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、石英、雲母 赤色酸化物
592		-	SI068	土師器	甕	(21.5)	-	-	(9.2)	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 7.SYR5/3	長石、石英、角閃石 赤色酸化物
593		-	SI069	土師器	皿	(28.4)	-	(31.2)	(25.5)	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	長石、石英、角閃石
594		-	SI069	土師器	皿	(28.0)	-	-	(11.2)	浅黄褐 7.SYR8/3	橙 7.SYR7/6	石英、角閃石、雲母 砂粒、赤色酸化物
595		-	SI069	須恵器	杯	(14.2)	(8.2)	-	4.0	にぶい黄褐 10YR7/4	灰黄 2.SY6/2	砂粒
596	155	66	SI070	土師器	小皿	10.2	5.7	-	1.3	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母、砂粒
597		-	SI070	土師器	小皿	10.4	8.0	-	1.3	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化物
598		-	SI070	土師器	杯	13.4	(8.8)	-	3.7	橙 7.SYR6/6	橙 7.SYR6/6	雲母、赤色酸化物
599		-	SI071	須恵器	皿	14.4	-	-	3.3	黄褐 7.SYR7/8	にぶい黄 7.SYR6/4	黒褐色粒、砂粒
600		154	-	SI075	須恵器	杯	(13.5)	7.7	-	5.0	灰 N4/	灰 N7/
601	154	-	SI076	土師器	甕	(25.7)	-	-	(10.1)	橙 7.SYR7/6	橙 7.SYR7/6	長石、石英、角閃石

Tab.14 出土遺物観察表-⑩

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
ヘラ書き、ハケ目	ヘラ書き	-	-	(片口跡)	548
横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	外器面赤彩	549
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 内外面に自然釉、焼き歪み	550
横ナデ	横ナデ、ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	内外面赤彩 2ヶ所穿孔	551
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	外底面ヘラ記号	552
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り 工具ナデ	横ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 内底部は剥離 口縁部焼付着	553
横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	(把手付鏡) 外面保付着	554
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		555
横ナデ	ナデ	-	-	口縁部重ね焼きの痕跡あり 自然釉 宇城産	556
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(転用鏡)	557
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	つまみ欠損 口縁部に自然釉	558
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	559
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	外底面工具痕 口縁部に油煙付着 内外面赤彩 (摩耗のため正確な範囲不明)	560
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	内外面赤彩	561
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り ヘラケズリ	横ナデ		562
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ書き	横ナデ	回転ヘラミカキ	563
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ書き	横ナデ	回転ヘラミカキ	
ナデ、ヘラケズリ ハケ目	ナデ、ヘラケズリ	-	-	(高台付碗)	564
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	外器面指頭痕	565
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	板状圧痕	566
横ナデ	ナデ後回転ヘラ書き	ヘラ切り、回転ヘラ書き	回転ヘラ書き	(灯明杯) 口縁部油煙 内外底部保付着	567
横ナデ後回転ヘラ書き 回転ヘラケズリ	横ナデ後回転ヘラ書き	回転ヘラ書き	回転ヘラ書き		568
横ナデ後回転ヘラ書き	横ナデ後回転ヘラ書き	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後回転ヘラ書き	(灯明杯) 口縁部油煙 (灯明杯)	569
横ナデ後回転ヘラ書き	横ナデ後回転ヘラ書き	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後回転ヘラ書き		570
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		571
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(転用鏡) 内面に研磨痕 墨付着 つまみ欠損	572
ヘラ切り、横ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		573
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ書き	横ナデ、ナデ	(高台付鏡)	574
回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ		575
横ナデ、回転ヘラ書き 回転ヘラケズリ	横ナデ、回転ヘラ書き	回転ヘラ書き	横ナデ後回転ヘラ書き	(灯明杯) 口縁部油煙	576
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁部油煙	577
回転ヘラ削り	ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面焼付着 被熱している 摩耗のため調整不明瞭	578
ヘラ書き	ヘラ書き	ヘラケズリ後ヘラ書き	ヘラ書き		579
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	(高台付碗)	580
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		581
横ナデ	-	ナデ	ナデ	(腹部) 外器面、外底面に自然釉 黏土無目が3層	582
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	ハケ目	ヘラケズリ		583
ヘラケズリ、工具ナデ ハケ目後ナデ	ヘラケズリ	-	-	内外面保付着	584
横ナデ	横ナデ	ヘラ書き	横ナデ		585
横ナデ、ナデ、工具ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		586
横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ、ケズリ後ナデ	-	-	外器面黒斑 錫部外面に焼付着	587
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		588
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 内底面にヘラ書き 内外面に自然釉	589
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ		590
横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ	横ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙 摩耗のため調整不明瞭	591
横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		592
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	黒斑あり	593
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ヘラケズリ	-	-		594
横ナデ	回転ヘラケズリ	横ナデ	横ナデ		595
回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後横ナデ	横ナデ後ナデ		596
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 口縁部に油煙	597
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	外底面にヘラ切り離し時の粘土焼付着	598
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	輪状つまみ 焼成不良	599
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	600
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ケズリ	-	-		601

類別 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 側厚	高さ	外面	内面	
602		-	SI082	土師器	瓶	(14.6)	8.8	-	5.8	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石・赤色顔化粒
603		-	SI083	土師器	杯	(13.9)	8.7	-	3.0	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石・雲母・角閃石
604		-	SI083	須恵器	杯	(14.2)	(9.4)	-	4.3	褐灰 10YR6/1	にぶい黄褐 5YR5/4	長石・石英・角閃石・雲母 黒色粒
605		-	SI083	須恵器	杯	-	(8.0)	-	(1.3)	灰 N5/	灰 N5/	白色粒
606	10・88	SI083	須恵器	杯	-	(13.2)	8.0	-	3.4	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石・石英・角閃石・雲母
607		-	SI088	土師器	瓶	(25.6)	-	-	(7.6)	橙 7.5YR6/6	にぶい黄褐 10YR6/3	長石・石英・角閃石・雲母
608		-	SI088	土師器	瓶	(29.0)	-	-	(7.5)	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい黄褐 10YR7/4	長石・石英・角閃石・雲母 赤色顔化粒
609	154	-	SI088	土師器	蓋	(15.4)	-	-	2.3	灰 5Y5/1	にぶい黄褐 10YR7/4	長石・石英
610		-	SI089	土師器	蓋	(16.5)	-	-	3.6	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石・石英・雲母 赤色顔化粒
611		SI089	土師器	小皿	10.1	7.7	-	2.4	にぶい黄褐 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	長石・石英・角閃石・雲母 赤色顔化粒	
612		SI089	土師器	杯	(12.8)	8.5	-	3.0	橙 2.5YR6/8	橙 SYR6/6	長石・雲母・赤色顔化粒	
613	67	SI089	土師器	杯	(12.6)	-	8.8	2.6	明赤褐 2.5YR5/8	橙 2.5YR6/8	長石・石英	
614	SI089	土師器	杯	(13.7)	8.9	-	3.1	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	長石・赤色顔化粒		
615	SI089	土師器	杯	(13.4)	-	-	4.6	にぶい黄褐 10YR6/3	橙 7.5YR4/5	長石・石英・雲母		
616	SI089	黑色土器	杯	(16.6)	(6.8)	-	(4.0)	暗 7.5YR6/6	黑 N2/	長石・石英		
617	-	SI090	須恵器	皿	(17.4)	14.4	-	2.3	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	長石・石英	
619		SI091	土師器	杯	(14.0)	(8.6)	-	3.0	淡赤褐 2.5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	長石・雲母	
620		SI091	土師器	盤	18.0	-	16.6	15.0	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR6/3	長石・石英・角閃石	
621		SI091	土師器	蓋	(26.6)	-	-	(9.5)	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	石英・角閃石・赤色顔化粒	
622	66	SI100	黑色土器	瓶	14.9	7.25	-	6.1	黑 N2/	黑 N2/	白色砂粒・雲母	
623	155	-	SI100	土師器	瓶	(28.6)	-	-	(9.9)	明褐 7.5YR5/8	褐 7.5YR4/4	長石・石英・雲母
624	68	SI101	土師器	瓶	(15.2)	-	(14.8)	15.3	にぶい黄褐 5YR5/4	にぶい橙 7.5YR5/3	石英・角閃石・雲母・砂粒 赤色顔化粒	
625	SI103	土師器	杯	(13.5)	(9.0)	-	3.1	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石・雲母・赤色顔化粒		
626	67	SI103	土師器	盤	(20.6)	-	(19.2)	(17.0)	橙 SYR6/6	橙 7.5YR7/6	石英・角閃石・雲母・砂粒 赤色顔化粒	
627	SI103	土師器	蓋	(22.6)	-	-	(9.9)	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	長石・石英		
628	68	SI104	土師器	盤	18.6	-	16.7	15.0	橙 7.5YR6/6	浅黄褐 7.5YR8/4	長石・角閃石・雲母 赤色顔化粒	
629	-	SI105	土師器	蓋	(25.2)	-	-	(13.0)	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	長石・石英・角閃石	
630	-	SI105	土師器	盤	(19.8)	-	(26.0)	(25.8)	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR7/4	石英・角閃石・砂粒 赤色顔化粒	
631	-	SI105	土師器	蓋	(21.8)	-	(20.4)	(22.9)	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	石英・角閃石・雲母・砂粒 赤色顔化粒	
632	68	SI111	土師器	小皿	11.1	6.1	-	2.2	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	長石・石英	
633	68	SI111	土師器	杯	(13.3)	7.9	-	4.1	橙 7.5YR6/6	橙 SYR7/B	長石・石英・角閃石 赤色顔化粒	
634	SI111	土師器	杯	14.2	(8.3)	-	5.9	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4	長石・石英・角閃石・雲母		
635	SI111	土師器	蓋	(23.2)	-	26.5	(31.6)	にぶい黄褐 10YR7/3	にぶい黄褐 10YR7/4	長石・角閃石・雲母・砂粒		
636	-	SI114	土師器	盤	(21.1)	-	-	(8.7)	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい黄褐 10YR6/3	長石・石英・角閃石・雲母	
637	-	SI116	土師器	杯	(13.2)	9.5	-	2.8	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石・角閃石・白色粒	
638	-	SI116	土師器	杯	13.0	8.6	-	3.3	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	長石・雲母・赤色顔化粒	
639	-	SK020	土師器	蓋	19.6	-	-	2.4	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	白色砂粒・雲母 赤色顔化粒	
640	-	SK020	土師器	杯	-	(10.5)	-	(1.1)	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	長石・雲母・赤色顔化粒	
641	69	SK020	土師器	杯	(13.5)	9.0	-	3.1	橙 2.5YR6/8	にぶい橙 7.5YR5/4	長石・石英	
642	69-85	SK020	土師器	杯	13.4	8.4	-	3.5	にぶい黄褐 10YR7/3	にぶい黄褐 10YR7/3	長石・雲母・赤色顔化粒	
643	69	SK020	土師器	杯	(13.6)	8.3	-	3.3	淡黄 2.5Y7/3	淡黄 2.5Y7/3	長石・雲母	
644	SK020	土師器	杯	13.8	9.0	-	3.1	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石・石英		
645	157	-	SK020	土師器	蓋	(29.6)	-	-	(12.6)	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR5/3	長石・石英・角閃石・雲母
646	-	SK020	土師器	瓶	(33.1)	-	-	(11.3)	にぶい黄褐 10YR7/4	橙 2.5YR6/6	長石・角閃石・白色粒	
647	69	SK020	土師器	蓋	-	-	-	(13.2)	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石・石英・黑色粒 赤色顔化粒	
648	SK020	須恵器	蓋	15.5	-	-	3.4	灰 5Y6/1	灰 N5/	白色砂粒・黑色粒子		
649	-	SK020	須恵器	杯	(12.8)	(7.2)	-	4.0	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	長石・石英・雲母	
650	69	SK020	須恵器	杯	12.0	7.0	-	4.2	灰黄褐 10YR5/1	灰黄褐 7.5YR5/2	長石・石英	
651	SK020	須恵器	杯	(12.2)	7.0	-	4.4	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	長石・石英		

Tab.15 出土遺物観察表一⑪

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ 回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	(高台付碗)	602
横ナデ、回転ヘラケズリ 後横ナデ	横ナデ 横ナデ後ヘラ巻き	ヘラ切り後横ナデ	横ナデ後ヘラ巻き	(灯明杯) 内外面油煙	603
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ		604
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	605
横ナデ	—	ヘラ切り	ナデ	(高台付杯) 外底部に朱墨付着	606
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	607
横ナデ、ハケメ ケズリ後ナデ	横ナデ、ハケメ ケズリ後ナデ	—	—	鉛～銅部内面に煤付着	608
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ	—	—	外面に煤付着	609
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	—	—	輪状つまみ	610
横ナデ	横ナデ、ナデ	—	—	擬宝珠つまみ	611
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明皿) 内外面に油煙	612
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面油煙、赤彩	613
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		614
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	615
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	外底部にヘラ巻き	616
横ナデ	ヘラ巻き(不明瞭)	摩耗の為調整不明	ヘラ巻き(不明瞭)	黒色土器 a類	617
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		618
横ナデ	横ナデ、横ナデ後ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	619
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ	ハケメ	ケズリ	内外面煤付着	620
横ナデ、ハケメ ハケメ後横ナデ	横ナデ、ケズリ	—	—		621
ヘラ巻き	ヘラ巻き	横ナデ	ヘラ巻き	(高台付碗) 黒色土器 b類	622
横ナデ、ハケメ ハケメ後ナデ	横ナデ ハケメ後ナデ	—	—	内外面煤付着	623
横ナデ、ナデ	横ナデ ヘラケズリ後ナデ	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	内器面部指跡痕、工具痕	624
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		625
横ナデ、ハケメ後ナデ	横ナデ、ハラケズリ ヘラケズリ後ナデ	—	—	部分的に煤付着 2次焼成	626
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ	—	—	外器面部工具痕	627
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ	ハケメ	ケズリ	内外面煤付着	628
横ナデ、ハケメ ハケメ後横ナデ	横ナデ、ケズリ	—	—	外器面部煤付着	629
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ヘラケズリ	—	—	外器面部赤彩	630
横ナデ、ナデ	横ナデ ヘラケズリ	—	—	黒斑	631
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	(灯明皿) 板状圧痕 内外面油煙	632
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		633
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	634
横ナデ、横ナデ後ハケメ ハケメ	横ナデ、ヘラケズリ	—	—	口縁やや焼き歪み	635
横ナデ、ハケメ	横ナデ、ヘラケズリ	—	—	口縁部内外面煤付着	636
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	637
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	638
横ナデ、 横ナデ後回転ヘラ巻き	横ナデ後回転ヘラ巻き	—	—	口縁部焼き歪み つまみ欠損	639
横ナデ	—	ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) 内外面赤彩	640
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	黒斑	641
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) 内外面赤彩	642
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	(墨書) 外器面部煤付着	643
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		644
横ナデ、ハケメ ハケメ後横ナデ	横ナデ、ケズリ後ナデ	—	—	内外面煤付着	645
横ナデ、ナデ、ハケメ	ハケメ、ケズリ	—	—		646
ナデ	ナデ、ヘラケズリ	—	—	内外面指跡痕 花口の調部に煤付着	647
横ナデ、 ヘラ切り後横ナデ	横ナデ、ナデ	—	—		648
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	口縁部歪み	649
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ後ナデ	外底部に圧痕	650
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		651

類別 番号	Fig. No.	PL. No.	透構 番号	種別	器種	法量 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 幅員	器高	外面	内面	
652	157	69	SK020	須恵器	總	12.8	7.5	—	6.3	灰 N6/	灰 N6/	長石・雲母
653	—	SK020	須恵器	縦	(23.1)	—	—	(14.7)	灰 SY5/1	灰 NS/	長石・石英・黒色粒	
654	—	SK020	須恵器	縦	(22.0)	—	—	(15.2)	灰白 SY5/1	灰白 SY5/1	雲母・微細な砂粒	
655	158	69	SK020	須恵器	縦	—	(13.8)	—	(25.7)	灰 N4/	灰 N4/	長石・石英
656		10 68・69	SK020	須恵器	縦	(13.8)	(18.4)	(34.8)	32.6	灰 7.5Y4/1	灰 7.5Y4/1	微細な砂粒
657	69	SK020	須恵器	縦	18.4	—	(40.0)	(32.8)	灰 NS/	灰赤 2.5YR4/2	白色粒・黒色粒	
658	68	SK021	土師器	杯	13.6	9.4	—	2.9	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 7.5YR8/4	石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
659	SK021	須恵器	縦	(24.4)	(18.1)	—	—	7.6	褐灰 10YR6/1	灰 NS/	長石・石英・雲母・砂粒	
660	SK022	土師器	縦	(15.9)	(9.5)	—	5.8	にふい黄褐 10YR7/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石・雲母		
661	SK023	須恵器	杯	(13.6)	(9.1)	—	4.1	褐 7.5YR6/6	褐 7.5YR6/8	長石		
662	SK024	須恵器	杯	(13.8)	(8.5)	—	3.8	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	細粒砂		
663	159	SK025	土師器	杯	11.7	7.1	—	3.4	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石・雲母	
664		SK025	須恵器	縦	—	—	(26.0)	(27.7)	褐灰 10YR5/1	褐灰 10YR6/1	長石・石英	
665	SK026	土師器	杯	(13.9)	(10.2)	—	—	2.8	にふい橙 7.5YR6/4	にふい橙 7.5YR6/4	雲母・赤色酸化粒	
666	SK026	土師器	縦	16.5	13.7	—	1.7	にふい橙 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	長石・雲母		
667	—	SK026	須恵器	縦	(11.9)	—	—	(2.1)	灰白 10YR7/4	灰 SY4/1	長石・雲母	
668	—	SK026	須恵器	杯	—	(7.8)	—	(1.7)	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	長石・角閃石・雲母	
669	70	SK026	須恵器	縦	(18.0)	(10.0)	—	4.3	灰 SY5/1	灰 SY5/1	雲母	
670	—	SK027	須恵器	縦	(33.0)	—	—	(7.4)	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	雲母・白色粒・黑色粒	
671	SK028	土師器	縦	(17.5)	—	—	(2.7)	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	黒色粒・赤色酸化粒		
672	SK028	土師器	縦	15.4	13.5	—	1.3	橙 SYR 6/6	橙 SYR 6/6	長石・雲母・赤色酸化粒		
673	SK028	土師器	縦	(16.0)	(13.4)	—	1.1	にふい橙 2.5YR6/4	にふい橙 2.5YR6/4	長石・赤色酸化粒		
674	SK028	土師器	縦	(15.5)	(11.8)	—	1.4	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石・赤色酸化粒		
675	SK028	土師器	杯	(13.3)	8.5	—	3.2	にふい橙 7.5YR7/3	橙 2.5YR6/8	石英・赤色酸化粒		
676	SK028	土師器	杯	13.8	9.5	—	2.9	にふい橙 SYR6/4	にふい橙 SYR6/4	長石・雲母・赤色酸化粒		
677	SK028	土師器	杯	16.8	9.0	—	4.6	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	長石・石英・雲母 赤色酸化粒		
678	—	SK029	土師器	縦	(15.8)	(13.8)	—	1.5	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	雲母・赤色酸化粒	
679	—	SK029	須恵器	縦	(17.8)	—	—	(3.4)	にふい黄褐 10YR7/4	灰 SY6/1	長石	
680	SK030	土師器	杯	13.1	8.5	—	3.1	棕 2.5YR6/8	棕 2.5YR6/8	長石・角閃石・雲母		
681	SK030	土師器	縦	14.0	—	—	(6.7)	橙 SYR6/8	橙 7.5YR7/6	長石・石英・雲母		
682	—	SK030	土師器	縦	(28.4)	—	—	(7.3)	橙 7.5YR7/6	褐灰 7.5YR5/1	長石・石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
683	—	SK030	土師器	縦	(19.2)	—	(17.4)	(7.8)	にふい褐 7.5YR5/3	橙 SYR 6/6	長石・石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
684	71	SK030	須恵器	縦	16.6	—	—	1.8	灰 NS/	灰 SY6/1	微細な雲母	
685	—	SK031	土師器	縦	(19.2)	—	(17.4)	(7.5)	にふい褐 SYR 7/4	にふい褐 2.5YR6/4	長石・石英・角閃石・雲母	
686	—	SK031	須恵器	深鉢	(18.9)	—	—	(10.2)	黄灰 2.5YR7/1	赤灰 2.5YR7/1	雲母	
687	SK032	土師器	小縦	11.2	8.4	—	1.9	にふい褐 7.5YR7/3	にふい褐 7.5YR7/3	角閃石・雲母・赤色酸化粒		
688	SK032	土師器	杯	11.9	7.9	—	3.2	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 10YR8/3	角閃石・雲母		
689	SK032	土師器	縦	13.2	6.8	—	2.5	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石・雲母・赤色酸化粒		
690	SK032	土師器	縦	13.4	8.0	—	2.7	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石・角閃石・雲母		
691	SK032	土師器	托	13.0	6.5	—	3.6	にふい褐 7.5YR7/3	にふい褐 7.5YR7/3	長石・角閃石・雲母		
692	SK032	土師器	托	12.9	7.1	—	3.8	にふい黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/3	雲母		
693	—	SK032	土師器	杯	(12.6)	(8.6)	—	3.0	橙 SYR 6/6	橙 SYR 6/6	長石・石英・雲母 赤色酸化粒	
694	—	SK032	土師器	杯	—	(7.2)	—	(1.8)	橙 SYR 6/6	橙 SYR 6/6	長石・雲母・赤色酸化粒	
695	72	SK032	土師器	縦	15.5	9.7	—	3.1	橙 SYR 6/6	橙 SYR 6/6	長石・雲母・赤色酸化粒	
696	SK032	土師器	縦	13.5	8.0	—	6.2	にふい褐 7.5YR7/4	にふい褐 7.5YR7/4	長石・雲母		
697	—	SK032	黑色土師器	縦	(14.2)	—	—	(5.0)	橙 7.5YR7/6	黑 N2/	長石・雲母・赤色酸化粒	
698	—	SK032	土師器	縦	(12.3)	—	—	8.0	棕 7.5YR7/6	棕 SYR 6/6	長石・石英・角閃石・雲母 赤色酸化粒	
699	72	SK032	土師器	縦	(27.8)	—	(25.4)	(15.4)	明褐 7.5YR5/6	赤褐 5YR4/8	長石・石英・赤色酸化粒	
700	SK032	土師器	縦	26.0	—	27.8	(15.0)	棕 SYR 6/6	棕 SYR 6/6	長石・角閃石・雲母		
701	—	SK032	須恵器	縦	(12.0)	(7.8)	—	3.7	灰 N6/	灰白 10YR7/1	微細粒	
702	—	SK032	須恵器	縦	(17.6)	(12.1)	—	5.2	灰白 10YR7/1	灰褐 7.5YR6/2	微細粒	
703	—	SK032	須恵器	縦	—	8.5	13.6	(12.6)	灰 NS/	灰 SY4/1	長石	
704	162	71	SK033	須恵器	縦	12.4	—	—	2.6	灰 SY6/1	灰 SY6/1	白色砂粒・黑色粒

Tab.16 出土遺物観察表-12

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付塊)	652
横ナデ、平行タタキ タタキ後横ナデ	横ナデ、ナデ 同心円文当て具痕	-	-		653
横ナデ	横ナデ、同心円文当て具痕	-	-		654
格子目タタキ後力キメ	横ナデ、後横ナデ	-	-		
横ナデ、タタキ後横ナデ、 ケズリ後横ナデ	横ナデ	ナデ	剥離不可		655
横ナデ、平行タタキ後 ナデ（一部カキメ）	当て具痕、横ナデ、 ナデ	横ナデ	ナデ		656
横ナデ、格子目タタキ後 横ナデ（一部カキメ）	横ナデ、同心円文当て具 痕、平行當て具痕	-	-	該部内裏面に工具痕	657
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁の内外面に油煙	658
横ナデ後へら磨き	横ナデ後へら磨き	へら磨き	横ナデ	外底部に爪形状圧痕	659
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	660
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	赤焼け土器	661
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	662
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ		663
八ヶ目 平行叩き後横ナデ	ナデ 同心円文 横ナデ	-	-	把手付	664
横ナデ	横ナデ、へら磨き	へら切り後ナデ	ナデ		665
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内裏面赤彩	666
横ナデ、へらけズリ	ナデ	-	-	つまみ割れ 自然物	667
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	外底部へら記号	668
横ナデ、回転へらけズリ	横ナデ	横ナデ、ナデ	ナデ	(高台付盤)	669
横ナデ、格子目叩き	横ナデ、平行叩き	-	-		670
横ナデ、回転へらけズリ	横ナデ、ナデ	-	-	内外面赤彩	671
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	672
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	673
横ナデ、へらけズリ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	674
横ナデ、回転へら磨き	横ナデ、回転へら磨き	へら切り / 回転へら磨き	回転へら磨き	(灯明杯) 内外面赤彩 口縁外部油煙	675
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面油煙	676
横ナデ、回転へら磨き	横ナデ、回転へら磨き	横ナデ、回転へら磨き	横ナデ、回転へら磨き		677
横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	回転へら切り、ナデ	内外面赤彩	678
横ナデ、へらけズリ	横ナデ、へらけズリ	横ナデ、へらけズリ	横ナデ、ナデ	つまみ割れ	679
横ナデ、回転へらけズリ	横ナデ	回転へら切り、ナデ	横ナデ	内外面赤彩 外底部に回転へら切り時の粘土塊付着	680
横ナデ	横ナデ	回転へら切り、横ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付塊)	681
横ナデ、八ヶ目 指頭圧痕	横ナデ、へらけズリ	-	-		682
横ナデ、工具ナデ 剥き目状も八ヶ目	横ナデ、へらけズリ	-	-		683
横ナデ 印転へらけズリ、ナデ	ナデ	-	-	外表面に工具痕	684
横ナデ、八ヶ目、ナデ	横ナデ、へらけズリ	-	-		685
横ナデ、回転へらけズリ	横ナデ	-	-		686
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ		687
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	688
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	底部粘土塊	689
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	690
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	内外面赤彩	691
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 高台に付着	692
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩 板状圧痕	693
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ	(墨書)	694
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内外面油煙付着	695
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 外底部を除き赤彩	696
横ナデ	横ナデ、へら磨き	-	-	(墨書) 黒色土器 a 箱 九州系石器	697
横ナデ 八ヶ目	横ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ		698
横ナデ、八ヶ目	横ナデ、へらけズリ	-	-		699
横ナデ、八ヶ目 指頭圧痕	横ナデ、へらけズリ 指頭圧痕	-	-	内外面油煙付着	700
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	字城窯	701
横ナデ	横ナデ	回転へらけズリ	横ナデ	高台付杯 荒尾窯	702
横ナデ	横ナデ	へらけズリ	ナデ		703
横ナデ、回転へらけズリ	横ナデ後ナデ	-	-	重ね焼きの痕跡	704

測量 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 側厚	高さ	外面	内面	
705		71	SK034	土師器	杯	13.5	9.9	—	3.6	橙 7.SYR7/6	にふい縁 7.SYR7/4	長石・黒色粒
706		74	SK035	須恵器	杯	(11.4)	(8.0)	—	3.5	暗灰 N3/	灰 N4/	長石・石英
707		71	SK036	土師器	深鉢	(23.5)	12.2	—	13.5	明赤褐 2.SYR5/6	橙 SYR6/6	長石・石英・赤色顔化粒
709		—	SK038	土師器	皿	—	(15.0)	—	(0.5)	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/8	雲母・赤色酸化粒
710		—	SK038	土師器	杯	(13.0)	(8.5)	—	2.8	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	黒色粒・赤色酸化粒
711			SK039	土師器	杯	12.7	6.9	—	4.1	橙 SYR7/8	橙 2.SYR7/8	長石・赤色酸化粒
712	162		SK039	土師器	杯	12.6	7.0	—	3.8	明赤褐 2.SYR5/6	橙 SYR6/6	白色砂粒・雲母
713			SK039	土師器	杯	12.5	7.9	—	3.3	橙 2.SYR7/8	橙 2.SYR7/8	長石・角閃石・赤色酸化粒
714			SK039	土師器	杯	12.0	6.5	—	3.7	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/8	長石・石英
715			SK039	土師器	杯	12.2	7.0	—	3.3	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石・雲母
716	73		SK039	土師器	杯	12.5	7.2	—	3.5	にふい縁 7.SYR7/3	にふい縁 7.SYR7/3	長石・角閃石・赤色酸化粒
717			SK039	土師器	皿	12.5	8.8	—	2.5	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	長石
718			SK039	土師器	杯	12.4	7.1	—	3.6	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	長石・石英
719			SK039	土師器	托	13.8	8.6	—	4.2	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	長石・石英・雲母
720			SK039	土師器	杯	12.2	8.4	—	5.1	橙 2.SYR7/8	橙 2.SYR7/8	赤色酸化粒
721			SK039	須恵器	杯	12.9	(7.8)	—	4.5	灰 N5/	灰 SY5/1	長石・石英
722		74	SK040	土師器	皿	27.5	—	(25.2)	(23.0)	浅黄褐 7.SYR8/3	浅黄褐 7.SYR8/3	角閃石・赤色粒
723			SK041	土師器	杯	(14.2)	(8.8)	—	4.0	橙 SYR7/6	橙 2.SYR7/6	石英・砂粒・赤色酸化粒
724		—	SK041	土師器	皿	(18.2)	—	—	(7.2)	橙 7.SYR6/6	橙 7.SYR7/6	角閃石・雲母・砂粒
725		74	SK041	須恵器	杯	(13.8)	(9.7)	—	4.2	青灰 5B6/1	黃灰 2.SY6/1	白色砂粒
726		—	SK042	土師器	皿	(25.0)	—	—	(6.2)	橙 7.SYR6/4	橙 7.SYR6/6	長石・石英・角閃石・雲母
727	163	—	SK042	土師器	皿	(25.0)	—	—	(6.8)	橙 7.SYR7/6	橙 7.SYR7/6	石英・角閃石・砂粒
728	74	SK042	須恵器	杯	13.0	9.7	—	4.4	橙 7.SYR7/6	にふい縁 7.SYR6/4	角閃石・雲母・赤色酸化粒	
729		SK042	須恵器	杯	(13.6)	(9.2)	—	4.6	灰白 N7/	にふい縁 7.SYR6/4	長石・黒色粒	
730		SK043	須恵器	皿	(15.7)	—	—	3.9	灰 SY5/1	灰 SY6/1	長石・石英	
731		SK043	須恵器	皿	(17.6)	(12.0)	—	2.3	灰 SY5/1	灰 SY5/1	長石・石英・角閃石	
732	77	SK044	須恵器	皿	(19.0)	—	—	3.7	にふい縁 2.SYR6/4	黃褐 10YR8/6	黒色粒	
733		SK044	須恵器	杯	17.8	10.9	—	5.7	灰 N4/	灰 SY5/1	長石・石英	
736		SK047	土師器	皿	13.2	7.6	—	2.5	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	角閃石・雲母・赤色酸化粒	
737		SK047	土師器	杯	11.7	6.8	—	3.1	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	長石・角閃石・雲母	
738		SK047	土師器	杯	11.9	7.5	—	3.3	にふい縁 7.SYR6/4	にふい縁 7.SYR6/4	長石・石英・角閃石・雲母	
739		SK047	土師器	杯	12.3	7.4	—	3.4	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/6	雲母・赤色酸化粒	
740		SK047	土師器	杯	12.6	7.9	—	3.9	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	長石・石英・雲母	
741		SK047	土師器	托	(13.3)	8.0	—	2.8	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	雲母・赤色酸化粒	
742	75	SK047	土師器	托	(14.4)	8.4	—	3.8	橙 7.SYR7/6	橙 SYR6/6	雲母・赤色酸化粒	
743		SK047	土師器	椀	(14.2)	8.4	—	6.4	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	長石・石英・角閃石・赤色酸化粒	
744		SK047	土師器	椀	13.1	8.0	—	6.0	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	雲母・赤色酸化粒	
745		SK047	土師器	椀	13.6	7.0	—	5.9	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	雲母・赤色酸化粒	
746		SK047	黒色土器	碗	12.9	6.7	—	5.3	にふい縁 10YR7/3	黒 N2/	雲母・砂粒・赤色酸化粒	
747		SK047	黒色土器	椀	(12.6)	6.6	—	4.9	橙 7.SYR7/6	黒 2.SY2/1	長石・石英・雲母	
748		—	SK047	土師器	皿	(25.8)	—	—	(8.9)	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	石英・角閃石・雲母
749		75	SK047	須恵器	皿	(19.6)	—	—	3.5	灰 10Y5/1	灰 SY5/1	雲母・赤色酸化粒
750	10-75	SK047	須恵器	杯	12.4	7.4	—	3.1	褐灰 10YR5/1	白灰 10YR7/1	雲石・微砂粒	
751		SK047	須恵器	杯	12.1	7.3	—	3.2	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	雲母・赤色酸化粒	
752	75	SK047	須恵器	杯	12.2	6.9	—	4.0	灰 N6/	角閃石・雲母	角閃石・雲母	
753		SK048	土師器	小皿	(10.1)	7.8	—	2.3	にふい縁 7.SYR6/4	にふい縁 7.SYR6/4	長石・雲母	
754		SK048	土師器	杯	10.6	7.5	—	2.7	にふい縁 7.SYR7/4	にふい縁 7.SYR7/4	白色粒・雲母・赤色酸化粒	
755		—	SK048	土師器	杯	—	(8.1)	—	(2.1)	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	雲母・赤色酸化粒
756		—	SK049	土師器	杯	(12.4)	8.7	—	3.3	明赤褐 2.SYR5/8	明赤褐 2.SYR5/8	長石・石英・赤色酸化粒
757		—	SK049	土師器	杯	(12.6)	(7.0)	—	3.5	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石・雲母
758	165	76	SK050	土師器	杯	(13.4)	8.4	—	3.2	橙 SYR6/6	橙 2.SYR6/6	角閃石・雲母・赤色酸化粒
759		SK050	土師器	杯	(12.8)	7.9	—	2.9	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	雲母・赤色酸化粒	
760		SK050	土師器	杯	13.7	9.7	—	3.6	橙 SYR6/6	橙 2.SYR6/6	雲母	
761		SK050	土師器	杯	(12.4)	7.6	—	3.2	にふい縁 10YR7/3	明赤褐 2.SYR5/6	角閃石・雲母	
762		SK050	土師器	杯	(13.8)	9.2	—	3.1	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/6	雲母・赤色酸化粒	

Tab.17 出土遺物観察表-⑬

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		705
横ナデ	横ナデ	横ナデ、へラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 外表面に自然釉	706
横ナデ、ケズリ	横ナデ、ナデ	ナデ	ナデ		707
-	-	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(墨書き)	709
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(墨書き)	710
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕 内外面赤彩	711
横ナデ	横ナデ、回転へラ磨き	へラ切り後ナデ	ナデ、回転へラ磨き	(灯明杯) 内表面に油煙、外底面に黒斑	712
横ナデ	横ナデ	へラ切り	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙	713
横ナデ	横ナデ、ナデ	へラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙、赤彩、板状圧痕	714
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙	715
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙、赤彩	716
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ	へラ切り	横ナデ、ナデ	板状圧痕 内外面赤彩	717
横ナデ	へラ磨き(摩耗)	へラ切り後ナデ	へラ磨き(摩耗)	板状圧痕	718
横ナデ	磨き	横ナデ、へラ切り後ナデ	磨き	外面赤彩	719
横ナデ	横ナデ	横ナデ、へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯) 板状圧痕 内外面赤彩	720
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ		721
横ナデ、ハケ目	横ナデ、へラケズリ	-	-	外表面付着	722
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	板状圧痕	723
横ナデ、ハケメ	横ナデ、へラケズリ	-	-		724
横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	(高台付杯) 口縁部、高台付脚部に重ね焼きの痕跡	725
横ナデ へラケズリ後ナデ	横ナデ、へラケズリ	-	-	口縁部保護着	726
横ナデ、ハケメ	横ナデ、へラケズリ	-	-	外表面保護着 内表面工具痕	727
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	内外表面保護着	728
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付杯) 外表面に自然釉	729
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	擬宝珠つまみ	730
横ナデ、ケズリ	横ナデ	回転へラケズリ	ナデ		731
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	輪状つまみ	732
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(高台付杯)	733
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	(灯明杯) 内外表面に油煙	736
横ナデ へラケズリ後横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	内外表面赤彩	737
横ナデ	横ナデ	へラ切り後横ナデ	横ナデ		738
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	外面赤彩	739
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	板状圧痕 内外面赤彩	740
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	板状圧痕 内外面赤彩	741
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ、ナデ	横ナデ、工具痕	ナデ	内表面赤彩、外表面にへラ状工具痕	742
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ、ナデ	(高台付杯) 外表面に黒斑、内外面赤彩、内底部に顔料	743
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	内外表面に荒い赤彩	744
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付杯) 内外面赤彩	745
横ナデ	へラ磨き	横ナデ	へラ磨き	(高台付杯) 黑色土器 a類	746
横ナデ	へラ磨き(摩耗)	横ナデ、ナデ	へラ磨き(摩耗)	(高台付杯) 黑色土器 a類	747
横ナデ、ハケ目	横ナデ、へラケズリ	-	-		748
横ナデ、へラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	輪状つまみ、外表面に自然釉	749
横ナデ	横ナデ	へラ切り	横ナデ	内表面青銅色付着物あり	750
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ		751
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	板状圧痕	752
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(灯明皿) 内外面油煙	753
横ナデ	横ナデ	へラ切り	横ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙渦巻	754
横ナデ、回転へラ磨き	回転へラ磨き	へラ切り、へラ磨き	ナデ、回転へラ磨き	(墨書き)	755
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 内外表面赤彩、内外表面に油煙	756
横ナデ	横ナデ	へラ切り	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外表面油煙	757
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ、ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外表面赤彩	758
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ	へラ切り	ナデ	(灯明杯) 内外表面赤彩、口縁部に油煙付着 外表面に放射状の組織痕	759
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ	焼き込み 内外表面赤彩	760
横ナデ	横ナデ	へラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外表面赤彩	761
横ナデ、回転へラケズリ	横ナデ後回転へラ磨き	へラ切り後ナデ	横ナデ後回転へラ磨き	内外表面赤彩	762

植物 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 側厚	器高	外面	内面	
763	76	SK050	土師器	杯	(12.7)	5.8	—	3.4	橙 7.SYR7/6	橙 7.SYR7/6	石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
764	74	SK051	土師器	杯	13.4	9.0	—	3.9	橙 SYR6/6	橙 2.SYR6/8	長石、石英、雲母 赤色酸化粒	
765	—	SK052	土師器	盤	(21.0)	—	(22.0)	(13.2)	浅黃橙 7.SYR8/6	浅黃橙 10YR8/3	長石、石英、角閃石	
766	165	SK053	土師器	皿	(17.2)	—	—	2.8	明赤褐 2.SYR5/6	明赤褐 2.SYR5/6	雲母、白色粒	
767		SK053	土師器	杯	(15.4)	(9.4)	—	3.4	にぶい橙 7.SYR7/3	にぶい橙 7.SYR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
768		SK053	土師器	杯	13.2	8.5	—	3.1	にぶい橙 7.SYR6/3	にぶい橙 7.SYR6/4	長石、雲母 赤色酸化粒	
769		SK053	土師器	杯	13.0	7.9	—	3.6	橙 2.SYR6/6	にぶい橙 7.SYR6/4	雲母、微細な砂粒 赤色酸化粒	
770		SK053	土師器	皿	(10.1)	(7.6)	—	2.3	にぶい橙 7.SYR6/4	にぶい橙 7.SYR6/4	長石、石英、赤色酸化粒	
771		SK054	土師器	皿	(15.6)	(13.0)	—	1.8	橙 2.SYR6/6	にぶい橙 7.SYR7/3	角閃石、雲母、白色粒	
772		SK054	土師器	杯	(16.2)	(9.1)	—	3.9	赤褐 SYR4/6	赤褐 SYR4/6	長石、石英	
773		SK054	土師器	盤	(27.4)	—	(25.0)	(13.0)	橙 7.SYR6/6	橙 7.SYR6/6	長石、石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
774		SK054	須恵器	杯	(12.8)	(7.9)	—	6.3	灰白 2.SY7/1	灰黃 2.SY7/2	長石	
775		SK055	須恵器	瓶	(14.1)	(9.2)	—	5.8	灰 SY6/1	灰 SY6/1	雲母、白色粒	
776	77	SK055	須恵器	瓶	(13.6)	(8.8)	—	8.1	灰 SY4/1	灰 SY5/1	長石	
777		SK056	土師器	杯	13.2	10.5	—	3.5	灰 SY4/1	黃灰 2.SY5/1	長石、石英	
778		SK056	土師器	杯	14.0	10.4	—	3.4	橙 7.SYR6/7	にぶい黃橙 10YR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
779		SK056	土師器	杯	13.8	9.5	—	3.2	橙 2.SYR6/6	橙 SYR7/6	長石、雲母、赤色酸化粒	
780		SK056	土師器	杯	13.2	9.3	—	3.1	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	白色砂粒、雲母 赤色酸化粒	
781		SK056	土師器	杯	13.4	7.7	—	3.6	にぶい橙 7.SYR7/4	にぶい橙 7.SYR7/4	長石、石英、雲母 赤色酸化粒	
782		SK056	須恵器	杯	15.6	(9.2)	—	5.9	灰 SY5/1	灰白 SY7/1	長石、石英	
783		SK057	土師器	杯	15.6	10.4	—	4.4	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	白色砂粒、雲母 赤色酸化粒	
784		SK058	土師器	杯	13.4	8.3	—	3.4	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/6	長石、石英	
785		SK058	土師器	杯	15.4	11.1	—	3.8	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	長石、石英、角閃石	
786	78	SK058	須恵器	皿	17.1	—	—	3.3	灰 SY6/1	灰 SY6/1	長石、石英	
787		SK058	須恵器	鉢	(23.1)	(12.4)	—	15.7	灰 SY4/1	灰 SY4/1	長石、石英	
788		SK059	土師器	小皿	7.1	5.6	—	1.6	にぶい黃 10YR7/4	にぶい黃 7.SYR7/4	雲母、赤色酸化粒	
789		SK059	土師器	小皿	6.9	5.3	—	1.7	橙 SYR7/6	橙 SYR7/6	角閃石、赤色酸化粒	
790		SK059	土師器	杯	12.8	7.8	—	3.5	にぶい黃 10YR7/4	にぶい黃 10YR7/3	砂粒	
791		SK059	土師器	杯	12.4	7.7	—	3.1	にぶい黃 10YR7/3	にぶい黃 10YR7/3	雲母、赤色酸化粒	
792		SK060	土師器	杯	12.2	7.7	—	3.1	浅黃橙 7.SYR8/4	浅黃橙 7.SYR8/4	長石、石英、赤色酸化粒	
793		ST001	土師器	皿	11.0	7.5	—	2.4	にぶい黃 SYR6/4	にぶい黃 SYR6/4	長石、角閃石、雲母	
794		ST001	土師器	瓶	14.0	8.0	—	5.5	にぶい黃 10YR7/3	にぶい黃 7.SYR7/4	長石、角閃石、雲母	
795		ST001	須恵器	皿	—	9.4	11.2	(10.2)	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR4/1	長石	
796	168	ST002	土師器	瓶	15.0	8.1	—	6.2	浅黃 2.SY7/3	にぶい黃 10YR7/3	石英、雲母	
797		ST005	土師器	杯	12.2	7.5	—	3.8	にぶい黃 10YR7/4	にぶい黃 10YR7/4	長石、石英、角閃石	
798		ST005	土師器	杯	12.2	7.5	—	3.8	にぶい黃 10YR7/4	にぶい黃 10YR7/4	長石、石英、角閃石	
799		ST005	土師器	皿	15.2	8.5	—	6.7	黑 NI.5/	黑 NI.5/	長石、石英、角閃石	
800		SX003	土師器	杯	12.8	9.0	—	3.7	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、雲母	
801		SX003	土師器	杯	13.3	8.4	—	3.6	橙 2.SYR6/8	橙 2.SYR6/8	角閃石、雲母、赤色酸化粒	
802		SX003	土師器	杯	13.4	8.5	—	3.2	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR5/6	長石、石英	
803		SX003	土師器	杯	13.6	9.0	—	3.0	浅黃橙 7.SYR8/3	浅黃橙 7.SYR8/3	長石、石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
804		SX003	土師器	杯	(17.4)	(10.0)	—	8.2	橙 SYR6/6	橙 SYR6/6	長石、雲母	
805		SX003	土師器	瓶	15.3	9.1	—	6.5	橙 2.SYR6/6	橙 2.SYR6/8	石英、角閃石、雲母	
806	82	SX003	須恵器	瓶	(12.5)	(7.4)	—	4.7	灰 SY4/1	灰 SY4/1	雲母	
807		SX004	土師器	杯	13.5	9.0	—	3.5	にぶい黃 7.SYR7/4	にぶい黃 7.SYR7/4	長石、角閃石、雲母	
808		SX004	土師器	杯	12.3	8.0	—	2.7	浅黃橙 10YR8/3	橙 7.SYR7/6	長石、角閃石、雲母	
809		SX004	土師器	瓶	11.6	8.5	8.5	5.1	にぶい黃 10YR7/2	にぶい黃 10YR7/2	長石、石英、雲母、摩暈	
810		SX004	土師器	瓶	14.2	(8.2)	—	6.5	にぶい黃 SYR7/4	橙 SYR7/6	雲母、赤色酸化粒	
811		SX004	土師器	皿	(17.6)	(9.0)	—	8.0	にぶい黃 7.SYR6/3	にぶい黃 7.SYR6/3	長石、角閃石、赤色酸化粒	
812		SX004	土師器	皿	15.8	13.0	—	1.3	にぶい黃 10YR7/3	にぶい黃 10YR7/3	長石、雲母	
813		SX004	土師器	皿	(16.0)	12.5	—	2.2	明赤褐 2.SY5/6	暗赤褐 2.SY5/6	赤色酸化粒	
814		SX004	土師器	瓶	(30.1)	—	—	(8.7)	橙 SYR7/6	にぶい黃 SYR7/4	長石、角閃石、赤色酸化粒	
815		SX004	土師器	皿	(17.5)	—	(15.2)	(9.5)	にぶい黃 10YR6/4	にぶい黃 10YR6/4	長石、石英、赤色酸化粒	
816		SX004	土師器	皿	12.6	7.9	—	3.8	にぶい黃 7.SYR7/4	にぶい黃 7.SYR7/4	長石、石英、角閃石、雲母	
817	170	SX004	土師器	杯	12.2	7.4	—	3.1	にぶい黃 10YR7/3	にぶい黃 10YR7/3	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
818		SX004	土師器	杯	13.0	8.0	—	2.7	にぶい黃 10YR7/4	にぶい黃 10YR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
819		SX004	土師器	杯	—	—	—	—	—	—	—	

Tab.18 出土遺物観察表-⑩

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り、工具痕	ナデ	内外面赤彩、外底面に粘土巻き上げ痕	763
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ		764
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ケズリ	-	-		765
横ナデ、回転ヘラケズリ 回転ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	-	-	つまみ、内外面赤彩	766
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		767
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り工具痕	ナデ	外底面に放射状の工具痕、板状圧痕	768
横ナデ	横ナデ、ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明杯) 烧き歪み	769
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(灯明皿) 内外面油煙	770
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(灯明皿)	771
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		772
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ケズリ	-	-		773
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯)	774
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付碗)	775
横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	(高台付碗)	776
ヘラ巻き	ヘラ巻き	ケズリ	ヘラ巻き	(灯明杯) 内外面油煙	777
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ		778
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩	779
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ		780
ヘラケズリ後巻き	ヘラ巻き(摩耗)	ヘラ切り後ナデ	ヘラ巻き(摩耗)	内外面赤彩、内底面にヘラ記号	781
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	(高台付杯)	782
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後横ナデ	横ナデ	外底面に板状圧痕	783
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ		784
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	(灯明杯) 内外面赤彩	785
横ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		786
横ナデ、ケズリ後ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ		787
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ、ナデ		788
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ、ナデ		789
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ、ナデ	焼き歪み	790
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ、ナデ		791
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ、ナデ		792
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	焼き歪み	793
横ナデ	横ナデ	ナデ、横ナデ	ナデ	外面の一部に深付窓	794
横ナデ	横ナデ	糸切り	回転ヘラケズリ	柄部から外底面にかけて深付窓	795
回転ヘラケズリ ヘラ巻き	ヘラ巻き	横ナデ	ヘラ巻き	(研磨土器) (唐物)	796
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ		797
横ナデ、回転ヘラ巻き	横ナデ、回転ヘラ巻き	横ナデ、回転ヘラ巻き	横ナデ、回転ヘラ巻き	(高台付碗)	799
横ナデ後ヘラ巻き ケズリ	ヘラ巻き(摩耗)	横ナデ、ヘラ切り	ヘラ巻き(摩耗)	(高台付碗) 黒色土器 a類	800
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ		801
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	板状圧痕、内外面赤彩	802
回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	外底面に放射状の工具痕	803
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	804
横ナデ、回転ヘラ巻き	横ナデ、回転ヘラ巻き	横ナデ、ナデ	横ナデ、回転ヘラ巻き	(高台付碗)	805
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、横ナデ	横ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩	806
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	ナデ	(高台付碗)	807
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	808
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	(灯明杯) 内外面口縁部に油煙	809
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	外底面に粘土	810
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩	811
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	(高台付碗) 内外面赤彩 廉耗	812
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩、口縁部に深付窓	813
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ	焼き歪み	814
横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	ハケ目、ナデ	ヘラケズリ	内口縁部、外底面に深付窓	815
横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	-	-	外面に深付窓	816
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	817
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	818
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	819

調査番号	Fig. No.	PL. No.	透構番号	種別	器種	法面 (cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大側径	器高	外面	内面	
820	170	81	SX004	土師器	杯	(14.0)	(9.4)	—	2.8	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒
821			SX004	土師器	杯	(12.4)	(6.6)	—	2.8	明褐灰 7.5YR7/2	明褐灰 7.5YR7/2	長石、石英、雲母
822		81・85	SX004	須恵器	縹	14.4	8.5	—	5.4	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	雲母、砂粒
823			SX004	土師器	杯	(13.8)	(10.0)	—	2.9	にふい縁 7.5YR7/3	にふい縁 7.5YR7/3	長石、角閃石、赤色酸化粒
824		—	SX004	土師器	杯	(14.0)	(8.0)	—	2.3	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	雲母、赤色酸化粒
825		—	SX004	須恵器	杯	12.1	7.1	—	4.2	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	角閃石、雲母
826		—	SX004	須恵器	杯	13.0	8.1	—	3.5	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	雲母
827		—	SX004	須恵器	杯	12.7	7.5	—	3.6	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1	雲母
828		—	SX004	須恵器	縹	(18.5)	9.0	—	9.3	灰 5Y6/1	灰 N5/	角閃石
829		—	SX004	須恵器	蓋	15.9	—	—	3.8	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	雲母
830		—	SX004	須恵器	蓋	15.5	—	—	3.0	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母
831	171	—	SX004	須恵器	蓋	12.0	—	—	1.8	灰 10Y4/1	灰 N4/	長石、雲母
832		—	SX004	須恵器	蓋	(14.8)	—	—	1.9	灰 N4/	灰 N5/	長石
833		—	SX004	須恵器	蓋	(17.9)	—	—	1.9	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	白色粒、黒色粒
835		83	SF001	土師器	杯	(11.3)	6.4	—	3.1	橙 2.5YR7/6	橙 2.5YR7/6	角閃石、赤色酸化粒
836		—	SF001	黒色土器	縹	(19.2)	—	—	(6.7)	灰黃 2.5Y6/2	黑 N2/	長石、雲母
837		83	SF001	須恵質	埴燒	—	—	—	(5.5)	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	白色粒
861		—	調査区	土師器	蓋	(19.2)	—	—	(1.9)	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、雲母 赤色酸化粒
862		—	81-M-12	土師器	杯	(12.5)	7.0	—	3.9	にふい縁 10YR7/3	にふい縁 10YR7/3	赤色酸化物
863		—	81-T-11	土師器	杯	(13.0)	8.9	—	3.0	にふい縁 7.5YR6/4	にふい縁 5YR5/4	長石、赤色酸化粒
864		—	96-K-9	土師器	杯	(13.2)	(7.4)	—	3.4	橙 2.5YR6/8	明赤褐 2.5YR5/8	長石、石英
865		—	調査区	土師器	杯	(13.8)	(7.9)	—	3.1	明赤褐 2.5YR5/8	明赤褐 2.5YR5/8	長石、石英、赤色酸化粒
866		—	67-R-2	土師器	杯	(14.5)	7.7	—	3.5	にふい縁 10YR6/6	にふい縁 7.5YR7/4	長石、赤色酸化粒
867		83	95-K-19	土師器	縹	(14.5)	7.8	—	6.1	にふい縁 7.5YR7/3	にふい縁 10YR7/3	長石、雲母、赤色酸化粒
868		—	67-S-2 黒色土器	杯	(11.0) (10.0)	—	—	3.8	赤褐色 7.5YR4/2	黑褐 2.5Y3/1	長石、雲母	
869		96-D-9	黒色土器	杯	(13.6)	6.7	—	4.3	橙 7.5YR6/6	黑 N2/	長石、石英	
870		83	調査区	土師器	蓋	(28.0) (18.2)	—	5.1	にふい縁 10YR7/3	にふい縁 10YR7/3	長石、雲母	
871		—	調査区	土師器	三足盤	(12.2)	—	—	(3.8)	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、赤色酸化粒
872		84	95-S-19	土師器	三足土器	(17.0) (9.9)	—	—	(6.7)	にふい縁 10YR7/4	にふい縁 10YR7/4	長石、雲母
873		83	81-Q-8	土師器	不明	—	—	—	(3.2)	にふい縁 10YR6/3	—	長石、石英、雲母、角閃石 赤色酸化粒
874		—	95-M-19	土師器	蓋	(29.8)	—	(27.0) (21.3)	浅黄褐 10YR8/4	灰黄褐 10YR6/2	長石、石英、角閃石、雲母	
875	172	86	調査区	土師器	蓋	(15.6) (13.0)	—	1.1	にふい縁 10YR7/4	にふい縁 10YR7/4	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
876		—	調査区	土師器	杯	(11.3) (7.6)	—	2.9	明赤褐 2.5YR5/6	にふい縁 10YR6/3	雲母	
877		—	66-S-18	土師器	杯	12.7	8.5	—	3.0	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	長石、雲母、赤色酸化粒
878		85	96-J-4	土師器	杯	(12.8) (8.4)	—	2.6	にふい縁 10YR7/3	にふい縁 10YR7/3	長石、石英、雲母	
879		—	96-J-4	土師器	杯	(12.2)	8.6	—	3.2	橙 7.5YR7/6	にふい縁 10YR7/3	角閃石、赤色酸化粒
880		—	95-M-20	土師器	杯	(13.8) (6.6)	—	2.8	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒	
881		—	調査区	土師器	杯	(15.3) (9.3)	—	3.7	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、石英、赤色酸化粒	
882		86	調査区	土師器	杯	— (8.0)	—	2.2	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
883		—	96-I-4	土師器	杯	— (8.0)	—	(2.7)	にふい縁 7.5YR7/3	にふい縁 7.5YR7/3	長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	
884		—	81-G-18	土師器	杯	13.0	9.1	—	3.0	にふい縁 7.5YR6/4	にふい縁 7.5YR6/4	長石、角閃石、雲母
885		86	81-G-18	土師器	杯	13.2	8.9	—	3.0	にふい縁 7.5YR7/3	にふい縁 7.5YR7/3	長石、雲母、赤色酸化粒
886		—	調査区	土師器	杯	— (10.4)	—	1.0	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
887		87	81-O-13	土師器	杯	—	7.0	—	2.2	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、石英、赤色酸化粒
888		—	81-F-15	土師器	杯	— (7.0)	—	1.8	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
889		—	調査区	土師器	杯	— (8.4)	—	1.0	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	長石、赤色酸化粒	
890		—	調査区	土師器	杯	— (7.0)	—	(0.7)	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	雲母	
891		—	調査区	土師器	不明	—	—	(2.7)	にふい縁 10YR7/4	にふい縁 10YR7/4	長石、石英、角閃石、雲母	
892		—	調査区	土師器	杯	— (8.0)	—	1.6	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	長石、石英、角閃石、雲母	
893		87	調査区	土師器	杯	—	—	(0.9)	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石、石英、赤色酸化粒	
894		—	110-G-10	土師器	杯	— 8.1	— (1.2)	—	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	長石、雲母、赤色酸化粒	
895		—	調査区	土師器	杯	—	—	(1.3)	にふい縁 10YR5/4	にふい縁 10YR5/4	長石、石英、赤色酸化粒	
896	176	—	81-K-14	須恵器	縹	14.5	—	—	3.6	オーリー縹 2.5Y4/3	暗灰縹 2.5Y4/2	雲母、砂粒
897		88	81-I-16	須恵器	蓋	(14.2)	—	—	1.1	灰 N5/	灰 N5/	長石、雲母
898		—	81-L-13	須恵器	杯	13.1	9.0	—	4.0	灰 N7/	灰 N7/	長石
899		—	96-I-2	須恵器	模紙	(13.0)	—	—	(14.5)	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1	黒切粒

Tab.19 出土遺物観察表-13

測定				備考	遺物番号
外表面	内表面	外底面	内底面		
横ナデ、工具ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	820
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	821
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) (高台付焼) 板状圧痕	822
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	823
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	ナデ	(墨書) 内外面赤彩	824
横ナデ 回転ヘラケズリ	横ナデ	回転ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	焼きムラあり 内底面に桙跡	825
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	ナデ	内外基面に工具痕 板状圧痕	826
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	粘土のぶくらみ 板状圧痕	827
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ、ナデ	(墨書) (高台付焼)	828
横ナデ	横ナデ	-	-	重ね焼き痕あり	829
横ナデ、ヘラ切り後ナデ	横ナデ	-	-	内外面赤彩	830
横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	-	-		831
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-		832
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	重ね焼き痕あり	833
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	余切り	横ナデ		835
ヘラ焼き	ヘラ焼き	-	-	黒色土器 a類	836
ナデ	ナデ	-	-	外表面に付着物あり	837
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	-	-	穿孔2ヶ所	861
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り、工具痕	ナデ		862
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	863
横ナデ、回転ヘラケズリ	回転ヘラ焼き	ヘラ切り後ナデ	回転ヘラ焼き		864
回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	内外面赤彩	865
横ナデ、ヘラ焼き 回転ヘラケズリ	回転ヘラ焼き	ヘラ焼き	回転ヘラ焼き	内外面赤彩	866
ヘラ焼き	ヘラ焼き	横ナデ	ヘラ焼き	内外面の口縁部赤彩	867
ヘラ焼き	ヘラ焼き	ヘラ焼き	ヘラ焼き	黒色土器 a類	868
横ナデ	ヘラ焼き	ナデ	ヘラ焼き	黒色土器 a類	869
横ナデ、ハケ目	横ナデ	回転ヘラ切り、工具ナデ	ナデ	(高台付焼) 内外面赤彩 内面に焼	870
横ナデ 指ナデ	横ナデ	ヘラ切り 指ナデ	-	板状圧痕	871
横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り、ナデ	横ナデ、ナデ	脚部の残存高(7.4cm)	872
ナデ	-	-	-	幅3.2cm、厚0.9cm、粉粒、擦状圧痕	873
横ナデ、ハケ目	横ナデ、ハケ目 ヘラケズリ	-	-	外基面深付着	874
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) 線刻 内外面赤彩	875
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(墨書)	876
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	(墨書)		877
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) 内外面赤彩	878
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書)	879
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩 板状圧痕	880
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	(墨書)	881
横ナデ後ヘラ焼き	横ナデ後ヘラ焼き	回転ヘラケズリ	横ナデ後ヘラ焼き	(墨書) 内外面赤彩	882
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	(墨書)	883
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(墨書) 内外面赤彩	884
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) 外底面に墨書 内外面赤彩	885
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書) 外底面に墨書 内外面赤彩	886
-	-	横ナデ	横ナデ後ナデ	(墨書) (高台付焼) 外底面に墨書 内外面赤彩	887
-	-	横ナデ	横ナデ	(墨書) 外底面に墨書	888
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	(墨書) 外底面に墨書	889
-	-	ヘラ切り	横ナデ	(墨書) 墨書き土器	890
ハケ目	ヘラケズリ	-	-	(墨書) 墨書き土器	891
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(墨書) (報告書第235集37区に疑似遺物あり) 赤彩	892
-	-	ナデ	ナデ	(墨書)	893
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	(墨書)	894
-	-	ナデ	ナデ	(墨書)	895
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	-	-	焼き重み 自然釉付着	896
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ後ナデ	-	-	(転用焼) 内表面に使用痕あり	897
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ		898
横ナデ 平行叩き 八ケ目	横ナデ、同心円文	-	-		899

Tab.20 出土遺物（緑釉）観察表

番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法層 (cm)			色調	施釉	調整		備考	
						口径	底径	器高			口徑	底径		
130	124	12	SB026	奈良三彩	小型火壺	—	—	(3.5)	薄いクリーム色 C177 山吹色 C51 くすんだクリーム色 C147	陶土	外底面	内底面	施釉	—
163	126	—	SD023	二彩	缶	6.6	4.1	(2.1)	暗褐色の混色 C182 暗褐色 C183	がましか色 C106	施釉	施釉	—	—
192	127	93	SD095	緑釉陶器	皿	—	(4.4)	1.4	オリーブ色 C179	がましか色 C106	施釉	—	—	—
377	139	—	SE034	緑釉陶器	皿	—	(6.8)	(1.1)	黄金色 C148	くすんだクリーム色 C147	施釉	施釉	—	—
796	168	12	ST001	緑釉陶器	壺	3.0	5.0	5.6	不明	白 C162	へら切り	横ナデ	—	最大直径 : 7.1cm 全体に火熱をうけて色調が不明
834	170	12	SD004	緑釉陶器	皿	(14.0)	(6.5)	2.2	新芽色 C137	施釉	施釉	—	—	—
836	171	93	SF001	緑釉陶器	不規	—	(0.9)	0.9	オリーブ色 C179	灰白 C144	施釉	施釉	—	内外底面とも一部釉剥離

Tab.21 出土遺物（陶磁器）観察表—①

番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法層 (cm)			色調	施釉	調整		分類	時期	備考	
						口径	底径	器高			釉	施土	外底面	内底面		
13	—	93	SD001	青磁	楕	(15.8)	—	(5.3)	明黄色 C183	灰白 C144	—	—	A南文系 文	14c~ 16c	外表面にヘラ割りで露文 草花文	
14	—	116	SD001	青磁	楕	—	5.5	(3.6)	大亞の緑 C172	緑の灰色 C211	削り出し 高台	施釉	—	—	見込みに印文(草花) 背面部は施釉	
15	—	35	SD001	青磁	楕	(15.4)	5.8	7.3	白茶 C107	ベージュ C109	削り出し 高台	施釉	—	—	見込みに印文	
16	—	95	SD001	白磁	皿	(13.4)	(6.3)	3.0	暗灰色 C143	黒灰 C282	削り出し 高台	施釉	Ⅲ-2期	12c後半 ~13c	見込みに既の目状に釉剥離取り ケズり出し高台(高台付盤)	
19	117	35	SD001	陶器	罐	(35.2)	—	(51.8)	赤褐色 2.5YR4/6	赤褐色 2.5YR4/6	—	—	—	13c~未 14c初頭	前の小鉢 猶大鉢径 (62.6cm)	
20	—	35	SD002	青磁	楕	(14.0)	—	7.3	明黄色 C183	灰白 C144	削り出し 高台	施釉	—	—	内側面に草花文 外側面に露文 見込みに自唇 外底面一部に釉剥離	
21	—	95	SD003	白磁	皿	10.3	5.5	2.9	緑の灰色 C211	薄白茶 C103	削り出し 高台	施釉	施釉	—	—	口縁部を釉剥離取り
34	—	118	SE001	白磁	楕	12.5	—	(3.8)	灰白 C144	雪窓 C282	—	—	Ⅱ期	11c後半 ~12c	底部下半まで釉剥離あり	
35	—	—	SE001	白磁	楕	(15.6)	—	2.1	枯芽色 C157	灰白 C144	—	—	IV類	12c後半	玉縁はやや小ぶり	
58	119	—	SE002	白磁	皿	(11.8)	—	(2.9)	灰白 C144	垂葉の白 C164	—	—	Ⅲ-2	—	施釉は底部下半まで	
71	—	120	SE003	白磁	楕	—	—	(3.3)	灰白 C144	垂白の白 C162	—	—	IV類	15c	玉縁はやや大ぶり	
72	—	94	SE003	白磁	楕	11.8	—	(4.0)	薄白茶 C103	眞白の白 C163	—	—	V-2期	11c後半 ~12c前半	—	
86	—	121	SE006	白磁	皿	(10.9)	(4.6)	3.1	灰白 C144	垂葉の白 C164	削り出し 高台	—	II-1	11c後半 ~12c	高台付盤まで釉剥離取り 玉縁はやや小ぶり	
87	—	—	SE006	白磁	楕	(14.9)	—	(4.8)	灰白 C144	灰白 C144	—	—	IV-2期	12c後半	玉縁は底部中間まで施釉	
184	—	—	SD093	白磁	鉢	(19.6)	—	(4.6)	暗灰色 C211	垂葉の白 C164	—	—	—	—	口縁部に草花	
193	—	—	SD095	白磁	四耳尊	10.0	—	(5.1)	暗灰色 C143	—	—	—	—	—	口縁部から頸部まで	
194	—	—	SD095	白磁	楕	—	(7.0)	(3.9)	月白色 C209	垂葉の白 C164	削り出し 高台	施釉	V-1a	11c後半 ~12c	内底面に釉剥離 高台付盤まで釉剥離取り	
195	—	95	SD095	染付	楕	—	—	(2.2)	月白色 C209	眞白の白 C163	—	—	—	15c~ 16c	景德鎮系染付	
196	—	127	SD095	染付	楕	—	(5.1)	(3.0)	月白色 C209	眞白の白 C163	—	—	III類	15c~ 16c	景德鎮系染付 底部は強厚	
197	—	94	SD096	青磁	楕	—	6.5	(3.1)	瓦の茎茶 C293	灰白 C144	眞跡	施釉	II-2期	8c末~ 10c	越州系青磁	
198	—	46	SD097	青磁	楕	(15.2)	—	(4.4)	新芽色 C137	薄棕色 C101	—	—	I-3	—	越州系青磁	
199	—	—	SD098	白磁	楕	—	—	(3.5)	海老の殻の 灰茶色 C214	薄棕色 C101	—	—	IV類	12c後半	内腹面に別個体の露窓あり やや大ぶりの玉縁	
200	—	94	SD098	白磁	楕	(14.2)	—	(2.6)	月白色 C209	眞白の白 C163	—	—	IV類	12c後半	やや大ぶりの玉縁	
378	—	139	SE034	白磁	楕	(14.2)	—	(4.4)	海老の殻の 灰茶色 C214	眞白の白 C163	—	—	II-2期	11c後半 ~12c	N-134と類似	
379	—	—	SE034	白磁	楕	(13.8)	—	(5.5)	薄棕色 C103 葉茶 C127	藍白 C281 白茶 C144	—	—	II-2期	11c後半 ~12c	口縁部は強く外反	
839	—	—	SF001	青磁	楕	(14.2)	—	(2.2)	海老の殻の 灰茶色 C214	鼠色 C292	—	—	—	—	口縁部外反	
840	—	—	SF001	青磁	楕	—	—	(4.3)	海老の殻の 灰茶色 C214	鼠色 C292	—	—	—	—	口縁部外反	
841	—	—	SF001	青磁	楕	—	—	(2.3)	灰緑 C176	鼠色 C292	—	—	B組連井 文 (鉄文)	14c~ 15c	外表面に蓮井文	
842	—	82	SF001	青磁	楕	—	—	(3.2)	冬の緑 C190	藍白 C281	—	—	B組連井 文 (鉄文)	14c~ 15c	外表面に蓮井文	
843	—	—	SF001	白磁	皿	—	—	1.5	灰窓 C282	眞白の白 C162	—	—	—	—	底部強厚なし	
844	—	—	SF001	白磁	皿	(8.2)	(5.4)	1.2	月白色 C209	眞白の白 C144	施釉	施釉	—	—	口縁部口沿	
845	—	—	SF001	白磁	楕	—	—	(2.7)	垂葉の白 C164	眞白の白 C162	—	—	—	—	口縁部は玉縁状口縁	
846	—	—	SF001	白磁	楕	—	(5.2)	(1.5)	垂葉の白 C164	眞白の白 C162	削り出し 高台	施釉	—	15c	内底面に文様あり	
847	—	—	SF001	染付	楕	(9.6)	—	(2.3)	月白色 C209	垂葉の白 C164	—	—	—	—	景德鎮系染付	
848	—	—	SF001	染付	楕	(11.4)	—	(3.2)	薄い灰緑 C201	眞白の白 C162	—	—	—	—	景德鎮系染付	

Tab.22 出土遺物（陶器）観察表②

遺物番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	容積	法面 (cm)		色調		調査		分類	時期	備考	
						口径	底径	器高	釉	胎土	外表面	内底面			
849			SF001	染付	楕	(12.8)	—	(2.2)	月白色 C209	垂鉛暈の白	C164	—	—	ⅢⅠ類	15c 後半 ~ 16c 黒漆鏡系染付
850			SF001	染付	圓	—	—	2.6	月白色 C209	垂鉛暈の白	C164	—	—	ⅢⅠ類	15c 後半 ~ 16c 黒漆鏡系染付 甕付は鉛の垂け取り
851			SF001	染付	圓	(11.4)	(5.6)	2.3	月白色 C209	鉛の白	C162	—	—	ⅢⅡ類	15c 後半 ~ 16c 黒漆鏡系染付
852	171	82	SF001	染付	楕	—	—	(2.3)	月白色 C209	鉛の白	C163	—	—	—	— 黒漆鏡系染付
853			SF001	染付	楕	—	—	(3.0)	月白色 C209	垂鉛暈の白	C164	—	—	—	15c 後半 ~ 16c 黒漆鏡系染付
854			SF001	染付	楕	—	—	(3.3)	鉛灰色 C211	灰白 C144	—	—	—	— 黒漆鏡系染付 口縁がやや内凹	
855			SF001	染付	圓	—	—	(0.8)	月白色 C209	垂鉛暈の白	C164	—	—	—	15c 後半 ~ 16c 黒漆鏡系染付 口縁端部丸抜け
856			調査区 青磁		楕 (17.8)	—	(3.4)	深い灰緑 C194	薄青白 C103	—	—	—	—	—	—
857			調査区 青磁		楕	—	—	(1.9)	すずかけの色 C216	薄青白 C103	施施	施施	—	—	—
858	172	94	調査区 青磁		楕	—	(10.0)	(3.1)	白茶 C135	白茶 C107	厘り出し	施施	I - 2	10c 後半 ~ 11c	見込みに目跡あり
859		95	調査区 白磁		圓	(10.2)	4.7	2.9	鉛灰色 C143	鉛の灰茶 C211	厘り出し	施施	—	Ⅲ - 1	見込みに目跡書き
860			調査区 染付		楕	—	(5.6)	(1.5)	鉛の灰白 C282	並垂鉛の白 C164	施施	施施	Ⅲ類	15c ~ 16c 体部は陰頭心文様 (楕) 深い白 C261	—

Tab.23 出土遺物（製塙土器）観察表

遺物番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	容積	法面 (cm)		色調		調査		分類	時期	備考	
						口径	底径	器高	外表面	内底面	胎土	外表面	内底面	外表面	内底面
207	128		SE007	土師器	製塙土器 (8.3)	—	8.4	にぶい黄白	にぶい黄白	長石、石英 露母、黑色粒	ナデ	頭頂圧痕	—	—	—
272	132		SE027	土師器	製塙土器	—	(5.4)	灰褐色	灰褐色	長石、石英 露母、黑色粒	ナデ	ナデ	—	—	—
394	140		SE035	土師器	製塙土器	—	—	(3.5)	灰褐色	にぶい黄白	長石、角閃石 露母	ナデ	ナデ	—	—
428	142		SE044	土師器	製塙土器 (8.0)	—	(7.0)	にぶい黄白	にぶい黄白	長石、石英 露母	ナデ	ナデ	工頭痕	—	—
458	144		SE049	土師器	製塙土器	—	—	(6.0)	にぶい黄白	にぶい黄白	長石、石英 角閃石 赤色顔化粉	ナデ	ナデ	頭頂圧痕	—
523	148	91	SI044	土師器	製塙土器	—	—	(3.9)	にぶい黄白 10YR5/3 2.5YR6/5	白	角閃石、露母 赤色顔化粉	ナデ	ナデ	頭頂圧痕	—
546	149		SI048	土師器	製塙土器	—	—	(3.6)	浅黄	浅黄	長石、赤色顔化粉	ナデ	ナデ	—	—
547			SI048	土師器	製塙土器	—	—	(3.3)	標 SYR7/6	標 SYR7/6	赤色顔化粉	ナデ	有目痕	—	—
708	162		SK037	土師器	製塙土器	—	—	(5.5)	灰黄	灰黄	長石、角閃石 露母	ナデ	ナデ	—	—
900			調査区 土師器		標 SYR7/6	8.6	—	8.5	2.5Y7/3 SYR6/5	白	角閃石、露母 赤色顔化粉	ナデ	ナデ	頭頂圧痕	—
901	177		調査区 土師器		標 SYR7/6	—	—	(4.3)	標 SYR6/6 SYR6/6	標 SYR6/6	長石、赤色顔化粉	ナデ	ナデ	ヘラ作り	—
902			調査区 土師器		標 SYR7/6	—	—	4.6	にぶい黄	にぶい黄	長石、赤色顔化粉 砂粒	ナデ	ナデ	工具痕	—

Tab.24 出土遺物（鉄製品）観察表

遺物番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	容積	法面				調査				分類	時期	備考	
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	外表面	内底面	外表面	内底面				
797	168	12-90	ST001	鍛錬車	2.3	(孔径) 4.5	0.2	12.3	—	—	—	—	—	—	—	
905	13	90	SK142	鋤	8.3	—	1.7	(高さ) 3.9	—	—	31.7	社貝貝 B群 1類 (弦受付部 4.1cm) (施設部 4.2cm) 先端に木片付着	—	—	—	
906			SK020	鋤	11.0	—	—	27.3	—	—	—	—	—	—	—	—
907			SI026	鍛錬車	—	(孔径) 4.0	0.2	11.7	—	—	—	—	—	—	—	—
908	178	90	SI044	鍛錬車	5.4	(孔径) 4.1	0.4	24	—	—	—	—	—	—	—	—
909			調査区 不明		9.3	—	1.0	—	—	—	29.7	木片付着	—	—	—	—
910			SD002	鋤	6.8	—	3.1	0.4	—	—	6.5	—	—	—	—	—
911			SE002	馬具	6.4	—	1.8	0.9	—	—	19.9	—	—	—	—	—
912			SE013	刀子	9.1	—	2.4	0.4	—	—	15.9	—	—	—	—	—

Tab.25 出土遺物（銅製品）観察表

遺物番号	Pl. No.	遺構番号	器種	法面				調査				備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	外表面	内底面	外表面	内底面	
986		南3層	鍛錬金具	3.0	2.2	0.6	2.3	—	—	—	—	—
987			鍛錬金具	3.1	1.3	0.5	5.3	—	—	—	—	—
988	13	SD102	不明	4.3	0.3	0.3	2.1	—	—	—	—	—
989	-	SB030	鍛錬金具	3.0	1.6	0.2	3.4	—	—	—	—	—
990	91	SI056	鍛金具	0.9	1.0	(隠) 0.3	0.4	—	—	—	—	—
991		SI056	鍛金具	0.9	0.8	(隠) 0.2	0.3	—	—	—	—	—
992		ST002	不明	5.1	1.3	0.1	1.0	—	—	—	—	—

Tab.26 出土遺物（鷲の羽口）観察表

番号	Fig. No.	PL No.	構造 番号	種別	器種	法量 (cm)		色調	胎土	調整		備考
						口径	器高			外曲	内曲	
59	119	87	SE002	土製品	鷲の羽口	—	(4.7)	灰 5Y5/1 7.5YR6/4	に赤い物 10YR7/2 7.5YR6/4	長石、石英 角閃石	ヘラクゼリ	ナデ
60			SE002	土製品	鷲の羽口	—	(4.2)	に赤い黄 10YR7/2 7.5YR6/4	に赤い物 10YR7/2 7.5YR6/4	長石、石英	ヘラクゼリ	ナデ
903	177		95-J-5	土製品	鷲の羽口	—	(9.2)	に赤い物 7.5YR6/3	に赤い物 7.5YR6/4	長石	工具ナデ	ナデ
										外径 (6.8) cm 孔径 (3.4) cm 装着角度 10°		

Tab.27 出土遺物（土製品）観察表

番号	Fig. No.	PL No.	構造 番号	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	調整	備考
						最大径	最大高	最高点				
186			SD094	圓錐 (軋用)	円錐状製品	3.0	3.6	0.9	—	栗皮色 C133 錫色 C75	—	機ナデ、擦り目 施釉
187	127	44	SD094	圓錐 (軋用)	円錐状製品	3.8	4.2	0.8	—	栗白 N7 に赤い黄 10YR6/3	—	格子目タ牛 当て具輪、機ナデ 同心円文、自然輪
188			SD094	圓錐 (軋用)	円錐状製品	3.9	4.2	0.9	—	薄白茶 C103	—	施釉
395	140	55	SE035	土製品	土鉢	4.9	3.5	1.4	—	橙 SYR7/6	長石、石英、角閃石 雲母、赤色鉻化粒	ナデ、面削痕 工具痕、ケズリ
904	177	13-87	調査区	土製品	土鉢	6.2	(2.0)	—	(4.4)	に赤い物 7.5YR7/4	均等	ナデ
921			調査区	土製品	土鉢	9.7	4.2	—	(5.7)	に赤い物 7.5YR6/4	長石、石英 角閃石、雲母	ナデ 木葉紋系
923	181	92	調査区	土師器	土人形	4.4	2.5	1.9	—	に赤い物 10YR7/3	雲母、赤色鉻化粒	ナデ 雪
			調査区	土師器	土人形	5.9	3.0	3.0	—	に赤い物 7.5YR7/4	雲母、白色粘	ナデ 頭部

Tab.28 出土遺物（繩文土器）観察表

番号	Fig. No.	PL No.	構造 番号	種別	器種	法量 (cm)		色調	胎土	調整	備考	
						全長	幅	厚さ	重量 (g)	外器面	内器面	
924			SK114	縄文土器	浅鉢	—	(3.3)	皮質 2.5Y6/2	に赤い黄 2.5Y6/3	長石、角閃石 雲母	窓き 窓き	口縁部に沈線あり
925			SK047	縄文土器	鉢	—	(2.2)	黑褐 10YR3/2	に赤い黄褐 10YR5/3	長石、石英、角閃石 雲母	窓き、横ナデ	口縁部外器面に沈線あり
926			調査区	縄文土器	浅鉢	—	(4.5)	に赤い黄褐 10YR6/3	に赤い黄褐 10YR5/3	長石、赤色鉻化粒 雲母	窓き 窓き	外器面に沈線あり
927			調査区	縄文土器	深鉢	—	(2.6)	黒 2.5Y1/2	黒 2.5Y1/2	長石、石英 雲母	窓き 窓き	窓孔 2箇所あり
928			SI108	縄文土器	浅鉢	—	(6.3)	に赤い黄褐 10YR5/4	に赤い黄褐 10YR6/3	長石、石英、角閃石 雲母	窓き 窓き	窓き後ナデ
929			SI106	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	暗灰 黃 2.5Y5/2	暗灰 黃 2.5Y5/2	角閃石、赤色鉻化粒	ナデ 条原	
930	182	96	調査区	縄文土器	鉢	—	(5.1)	に赤い褐 7.5YR5/4	に赤い褐 7.5YR5/4	長石、角閃石 雲母	ナデ 窓き	外器面に凹線文あり
931			81-C-17	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	褐	に赤い褐 7.5YR4/3	長石、石英、角閃石 雲母	ナデ、窓き	外器面に沈線あり
932			SI100	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	黒褐 10YR3/1	に赤い黄褐 10YR5/4	長石、角閃石 雲母	条原 ナデ	
933			SK047	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	に赤い褐 10YR6/3	に赤い褐 10YR7/4	長石、石英、角閃石 雲母、ナデ	ナデ	口縁部内器面に沈線あり
934			96-J-2	縄文土器	深鉢	(18)	(5.5)	に赤い褐 5YR5/4	に赤い褐 10YR5/3	石英、角閃石 雲母	ナデ、施文 ナデ	
935			SX004	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	灰褐 10YR5/2	に赤い褐 10YR5/2	長石、石英 雲母	ナデ、横ナデ	
936			SI063	縄文土器	鉢	—	(2.5)	に赤い黄褐 10YR6/4	暗灰 黃 2.5Y5/2	長石、石英 雲母	ナデ	

Tab.29 出土遺物（石製品）観察表

番号	Fig. No.	PL No.	構造番号	種別	器種	法量				色調	石材	備考
						全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
102	122	—	SK004	鉢	不明	5.9	5.2	2.6	15.4	灰黄 2.5Y7/2	粗灰岩	
228	129	—	SE011	滑石製品	分離	4.9	3.4	2.4	62	褐褐 SYR6/1	滑石	ケズリ調整
322	135	—	SE031	滑石製品	石鉢	5.7	8.0	3.3	221	黄灰 2.5Y6/1 黒 2.5Y2/1	滑石	ケズリ調整
407	141	—	SE037	滑石製品	不明	8.2	3.7	1.4	65	灰 SY4/1	滑石	
508	147	—	SI042	滑石製品	滑石	4.2	4.2	1.9	10	灰白 2.5Y8/1	滑石	
734	13-77	SK045	滑石製品	不明	4.7	—	2.1	61.5	灰褐 SYR6/2	滑石	人面形彫りごみあり	
735	163	—	SK046	滑石製品	石鉢	(9.1)	(5.7)	(2.0)	105	灰 SY6/1	滑石	臺状工具による器面調整
913			調査区	滑石製品	石鉢	16.8	8.3	1.8	820	褐褐 7.5YR4/1 灰白 SY7/2	滑石	
914	179		SE054	滑石製品	石鉢	(17.8)	4.3	—	146	黒色 N2/ 黑色 N4/	滑石	
915			調査区	滑石製品	石鉢	3.2	4.4	1.5	34	灰褐 SYR6/2	滑石	
916			調査区	滑石製品	紡錘形	2.7	3.2	1.7	20	灰白 10YR7/1	滑石	
917			調査区	石製品	紡錘形	4.3	4.3	1.9	520	に赤い黄色 SYR5/4	砂岩	側面に加工痕あり
918	180		SE013	石製品	紡錘形	5	5	1.7	72	に赤い物 SYR5/4	砂岩	
919			SK048	石製品	磁石	11	11.5	8.4	1483	に赤い物 SYR6/3	砂岩	
920			SK051	石製品	磁石	12.5	8.8	10.1	1279	淡黄 2.5Y7/3	砂岩	
937			調査区	石製品	打削石斧	(14)	7.2	2.5	378.4	—	史山岩	刃部残存
938			調査区	石製品	打削石斧	(7.5)	6.2	2.3	150	—	史山岩	
939			SD023	石製品	鉤	11.4	5.8	4.1	317	暗灰 黑 2.5Y5/2	史山岩	
940			SK004	石製品	石皿	8.4	7.7	2.1	166	黄灰 2.5Y5/1	史山岩	完形
941			—	調査区	石製品	石皿	8	(9.8)	2.5 284	暗灰 黑 2.5Y5/2	史山岩	
942			SK176	石製品	不明	8.8	2.9	0.7	26.6	灰 10YR5/1	片岩	
943			SI091	黒曜石	石皿	2.3	1.8	0.4	1.2	黒 N2/	黒曜石	

Tab.30 出土遺物(瓦)観察表

遺物 番号	Fig. No.	PL. No.	直横 面号	種類	法面			色調		胎土	備 考
					幅長 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	外面	内面		
944	97	SD 083	軒丸瓦	(4.9)	1.5	25	灰白色 SY8/1	灰白 7.5Y8/1	砂粒・黑色粒	軒丸 11 箱	包み込み技法 二重裏窓文の上に超虚文 普遍は天保地水の文様。二本木では初めて 8~9C 前半
945					4.0	3.7	118	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	白色砂粒 黑色砂粒	
946					13.7	4.7	734	灰黄褐色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10Y6/3	長石・砂粒	
947					8.9	1.6	95	灰白 10YR7/1	梅灰 10YR6/1	長石・石英	
948	183	SD002	丸瓦	(11.2)	1.6	220	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1	長石・石英 赤色顔化粒	行基丸瓦	行基丸瓦
949					4.3	2.0	45	灰 N5/	灰 N4/	長石	
950					10.3	1.7	200	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/3	長石	
951					16.9	2.7	547	灰黄 2.5Y7/2	梅 5Y6/6	角閃石 赤色顔化粒	
952	184	SK006	丸瓦	(10.5)	1.5	252	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	長石・石英 赤色顔化粒	凹面拓本	凹面拓本
953					19.7	1.9	586	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄 2.5YR6/2	砂粒	
954					14.2	3.3	695	灰オリーブ SY5/2	灰オリーブ SY5/2	長石・石英	
955					7.7	1.4	116	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	白色砂粒	
956	185	SE004	丸瓦	(12.0)	2.5	541	灰 N5/	灰 N4/	白色砂粒・小石	縹目印き	縹目印き
957					10.8	1.5	402	灰黄 2.5Y6/2	青灰 10YR6/1	長石・赤色顔化粒	
958					8.2	1.8	412	梅 SY8/8	にぶい黄褐色 10YR7/4	長石・石英	
959					10.1	2.2	231	灰黄 2.5Y5/1	灰 5Y5/1	砂粒 赤色顔化粒	
960	98	SE050	丸瓦	36.1	1.9	1700	明暁 7.5YR5/6	明暁 7.5YR5/6	砂粒	凸面継目印き	凸面継目印き
961					36.2	3.3	1310	オリーブ灰 2.5GYS/1	緑灰色 10G5/1	長石・赤色顔化粒	
962					30.2	3.2	2787	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	砂粒・小石	
963					11.5	2.3	533	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1	桶巻き粘土作り 凹面・鋸面	
964	186	SE007	平瓦	(9.4)	2.0	204	黒褐 2.5Y4/1	暗灰 2.5Y5/2	長石・輝石	桶巻き粘土作り 凹面・鋸面	桶巻き粘土作り 凹面・鋸面
965					8.3	1.8	173	明暁灰 7.5YR7/2	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	長石・石英	
966	187	SE050	平瓦	(35.6)	2.5	2451	灰 7.5Y5/1	灰 5Y6/1	砂粒	凹面糸切り 凸面・斜面有り付着 一枚作り平瓦(桶巻きできない可能性大) 叩き目が同方向	凹面糸切り 凸面・斜面有り付着 一枚作り平瓦(桶巻きできない可能性大) 叩き目が同方向
967					10.9	2.1	198	黒褐 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	長石・輝石	
968					10.7	2.9	306	灰黄褐色 10YR5/2	暗灰 10YR5/1	長石	
969					19.0	2.2	1054	灰 N4/	灰 N5/	砂粒・小石	
970	188	96-1-2	平瓦	(26.5)	2.3	1112	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	砂粒	一枚作りの可能性 凹面に糸切りの痕跡有り	一枚作りの可能性 凹面に糸切りの痕跡有り
971					12.6	3.1	825	灰黄 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/1	砂粒	
972	189	SE050	平瓦	(15.9)	2.6	721	灰 N5/	灰 N4/	角閃石		
973					15.2	2.2	849	灰 N5/	灰 N5/	長石・石英 赤色顔化粒	
974	190	SE046	平瓦	(16.6)	2.3	797	灰 N4/	灰 7.5Y5/1	石英・角閃石 雲母	一枚作り 凸形台と凹形台の上で作った可能性あり 凸面に格子目印き、縹目印き	一枚作り 凸形台と凹形台の上で作った可能性あり 凸面に格子目印き、縹目印き
975					23.1	2.4	1101	青灰 10BG5/1	青灰 10BG5/1	小石	
976					23.0	1.8	673	灰 N4/	灰 N4/	砂粒・小石	
977					19.8	2.4	661	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	角閃石・砂粒	
978	191	SE003	平瓦	(13.8)	2.2	462	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	長石 赤色顔化粒	凸面に葉脈状压痕有り	凸面に葉脈状压痕有り
979					14.2	9.4	277	灰 N4/	灰 N4/	砂粒	
980					11.1	2.0	225	にぶい黄褐色 2.5Y7/3	にぶい黄褐色 2.5Y7/3	赤色顔化粒	
981					6.9	2.0	140	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	角閃石・砂粒	
982	192	SD001	脛丸瓦	(13.0)	2.3	381	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	長石・石英	左上に糸切り痕あり 古代 凸面側から実測	左上に糸切り痕あり 古代 凸面側から実測
983					18.2	2.3	594	灰黄 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	砂粒	
984					7.7	2.4	169	灰 5Y5/1	灰 5Y6/4	角閃石・赤色顔化粒	
985					8.9	2.7	178	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	赤色顔化粒	

直物 番号	PL. No.	真横 番号	種別	岩種	法面 (cm)			色調		胎土
					口径	底径	残存高	外面	内面	
1000	1001	SE001	土師器	杯	12.0	7.9	2.9	にふい黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/3	角閃石、雲母
		SE001	土師器	杯	12.6	7.6	3.1	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母
1002	1003	SE001	土師器	杯	12.7	7.7	3.1	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3	雲母
		SE002	土師器	杯	12.1	7.6	3.3	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1004	1005	SE002	土師器	蓋	18.2	-	3.3	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、雲母、赤色酸化鉄
		SE005	土師器	碗	(10.8)	(6.0)	4.9	砂 2.5YR6/6	砂 2.5YR6/6	雲母、磁鐵粒
1006	1007	SE001	土師器	小皿	9.9	7.2	1.7	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	小皿	8.8	7.5	1.3	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/4	角閃石、砂粒
1008	1009	SE001	土師器	小皿	9.6	8.0	1.4	にふい黄褐 5YR6/3	にふい黄褐 7.5YR7/3	角閃石、砂粒
		SE001	土師器	小皿	9.0	7.1	1.5	砂 5YR7/6	砂 2.5YR6/6	角閃石、砂粒、赤色酸化鉄
1010	1011	SE001	土師器	小皿	9.0	7.6	1.3	にふい黄褐 7.5YR7/3	にふい黄褐 7.5YR7/3	角閃石、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	小皿	9.3	7.6	1.5	にふい黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、赤色酸化鉄
1012	1013	SE001	土師器	小皿	8.9	6.7	1.2	にふい黄褐 7.5YR6/3	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	小皿	9.0	7.2	1.5	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR6/4	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1014	1015	SE001	土師器	小皿	9.2	7.5	1.4	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	小皿	9.6	8.0	1.5	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石、砂粒、赤色酸化鉄
1016	1017	SE001	土師器	小皿	9.3	7.4	1.7	砂 7.5YR7/6	浅黄褐 7.5YR8/4	角閃石、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	小皿	8.9	7.0	1.5	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	角閃石、砂粒、赤色酸化鉄
1018	1019	SE001	土師器	小皿	10.1	7.6	1.3	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/3	角閃石、砂粒、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	杯	15.7	9.6	4.0	浅黄褐 10YR8/3	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1020	1021	SE001	土師器	杯	14.1	9.6	4.1	にふい黄褐 7.5YR7/4	砂 7.5YR6/6	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE001	土師器	杯	14.8	9.3	3.8	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 7.5YR6/4	角閃石、赤色酸化鉄
1022	1023	SE002	土師器	小皿	9.4	7.4	1.2	砂 7.5YR6/6	にふい黄褐 10YR6/4	石英、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.2	7.0	1.1	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、雲母、砂粒、赤色酸化鉄
1024	1025	SE002	土師器	小皿	9.9	8.2	1.3	砂 7.5YR7/6	浅黄褐 10YR8/4	雲母、砂粒、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9	7.2	1.5	砂 7.5YR7/6	浅黄褐 10YR8/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1026	1027	SE002	土師器	小皿	9.3	7.3	1.4	砂 7.5YR7/6	砂 5YR6/6	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.5	7.6	1.5	浅黄褐 7.5YR6/6	浅黄褐 7.5YR6/6	角閃石、赤色酸化鉄
1028	1029	SE002	土師器	小皿	9.2	7.6	1.4	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/4	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.2	7.0	1.4	にふい黄褐 10YR7/4	砂 5YR6/6	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1030	1031	SE002	土師器	小皿	9.5	7.6	1.3	砂 5YR7/6	砂 5YR7/6	雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.8	8.0	1.5	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1032	1033	SE002	土師器	小皿	9.3	6.9	1.2	淡黄 2.5YR5/3	淡黄 2.5YR5/3	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.6	7.6	1.4	浅黄褐 7.5YR6/8	浅黄褐 10YR8/4	石英、角閃石、赤色酸化鉄
1034	1035	SE002	土師器	小皿	8.7	7.5	1.3	暗黃褐 10YR 7/6	淡黃褐 10YR8/3	長石、角閃石、雲母
		SE002	土師器	小皿	9.1	7.3	1.5	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	角閃石、赤色酸化鉄
1036	1037	SE002	土師器	小皿	9.1	7.4	1.3	淡黃褐 10YR8/3	淡黃 2.5YR 9/3	長石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	8.7	7.3	1.1	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	長石、角閃石、赤色酸化鉄
1038	1039	SE002	土師器	小皿	9.4	7.3	1.5	砂 7.5YR7/6	明黄褐 10YR 7/6	角閃石、砂粒、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.6	7.0	1.7	黃褐 7.5YR7/8	砂 5YR6/6	長石、雲母、赤色酸化鉄
1040	1041	SE002	土師器	小皿	8.9	6.8	1.5	砂 7.5YR7/6	明黄褐 10YR 7/6	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.4	7.3	1.4	浅黄褐 10YR8/3	灰白 10YR8/2	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1042	1043	SE002	土師器	小皿	9.5	7.6	1.3	浅黄褐 10YR8/4	砂 7.5YR7/6	雲母、砂粒、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.1	6.7	1.9	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1044	1045	SE002	土師器	小皿	9.5	7.8	1.6	砂 7.5YR7/6	明黄褐 10YR 7/6	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.4	7.3	1.6	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1046	1047	SE002	土師器	小皿	9.5	7.4	1.5	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/6	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	9.7	7.5	1.4	にふい黄褐 10YR7/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石、赤色酸化鉄
1048	1049	SE002	土師器	小皿	9.6	7.3	1.5	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	小皿	8.8	6.8	1.6	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1050	1051	SE002	土師器	小皿	10.2	8.0	2.0	にふい黄褐 10YR6/4	にふい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母
		SE002	土師器	小皿	9.1	7.7	1.2	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR5/4	角閃石、赤色酸化鉄
1052	1053	SE002	土師器	小皿	9.2	7.3	1.6	にふい黄褐 7.5YR 7/3	にふい黄褐 10YR 7/4	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	杯	14.6	9.8	4.1	浅黄褐 10YR8/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1054	1055	SE002	土師器	杯	14.7	9.6	4.4	砂 7.5YR7/6	砂 7.5YR7/6	長石、石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	杯	14.9	10.1	4.2	浅黄褐 10YR8/3	砂 7.5YR7/6	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1056	1057	SE002	土師器	杯	12.7	7.9	3.5	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	杯	15.8	9.2	4.0	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1058	1059	SE002	土師器	杯	14.8	10.0	4.7	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、雲母、砂粒、赤色酸化鉄
		SE002	土師器	杯	15.3	10.6	3.8	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	雲母、砂粒、赤色酸化鉄
1060	1061	SE002	土師器	杯	14.6	9.9	3.7	砂 7.5YR7/6	浅黄褐 7.5YR8/3	角閃石、砂粒
		SE002	土師器	杯	15.4	9.9	4.2	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	石英、角閃石、雲母、砂粒
1062	1063	SE002	土師器	杯	15.3	9.3	4.4	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	石英、角閃石、雲母、砂粒
		SE002	土師器	杯	14.8	9.6	3.8	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	石英、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1064	1065	SE002	土師器	杯	14.8	9.6	4.5	砂 7.5YR 7/6	浅黄褐 7.5YR8/4	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE003	土師器	小皿	8.5	7.2	1.4	浅黄褐 10YR8/4	にふい黄褐 10YR7/3	砂粒、赤色酸化鉄
1066	1067	SE003	土師器	小皿	8.9	7.3	1.3	砂 5YR7/6	砂 5YR7/8	雲母、砂粒、赤色酸化鉄
		SE003	土師器	小皿	9.3	7.1	1.2	砂 7.5YR6/6	砂 7.5YR7/6	砂粒、赤色酸化鉄
1068	1069	SE003	土師器	小皿	9.4	7.6	1.4	にふい黄褐 10YR 7/3	にふい黄褐 10YR 7/3	砂粒、赤色酸化鉄
		SE003	土師器	小皿	8.7	7.1	1.2	にふい黄褐 10YR 7/3	にふい黄褐 10YR 7/6	砂粒、赤色酸化鉄
1070	1071	SE003	土師器	小皿	9.0	7.0	1.1	砂 7.5YR7/6	砂 7.5YR7/6	石英、砂粒、赤色酸化鉄
		SE003	土師器	小皿	8.7	7.4	1.5	砂 7.5YR7/6	浅黄褐 10YR8/4	角閃石、雲母、赤色酸化鉄
1072	1073	SE003	土師器	小皿	9.5	7.4	1.5	明黄褐 10YR 7/6	明黄褐 10YR 7/6	長石、角閃石、雲母、赤色酸化鉄
		SE003	土師器	小皿	9.5	7.7	1.9	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化鉄

Tab.31 出土遺物観察表（写真のみ）一①

調査				備考	資料番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1000
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外底面を除く全面に赤彩	1001
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	(打削跡) (修理が少、口縁部に付着) 内外面赤彩	1002
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状底	1003
横ナデ	横ナデ	—	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 宝珠つまみ	1004
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内面一部焼付着 板状底	1005
横ナデ	横ナデ	糸さり	横ナデ後へら状工具による焼付着	(打削痕)	1006
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1007
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1008
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1009
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ	板状底	1010
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1011
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1012
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内面口縁部から内底面にかけてスス付着 板状底	1013
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1014
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	粘土巻上げ痕 (一部剥離)	1015
横ナデ	横ナデ	へら想	ナデ	焼き歪み	1016
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ		1017
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	粘土巻上げ底	1018
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ		1019
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後	板状底	1020
横ナデ	横ナデ	へら切り	へら状工具による横ナデ		1021
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1022
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1023
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内面一部スス付着 外底面一部スス付着 板状底	1024
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1025
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	二次的火熱をうけている 板状底	1026
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1027
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ、ナデ	(打削痕) 板状底	1028
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ、ナデ	板状底	1029
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1030
横ナデ	横ナデ	へら切り	回転ナデ後指調整	内外面ほぼ全体にスス付着 板状底	1031
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内面ほぼ全体スス付着 板状底	1032
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1033
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1034
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ、ナデ	外側一部に焼きむら	1035
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内外面ほぼ全体にスス付着 板状底	1036
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ、ナデ	板状底	1037
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ、ナデ	板状底	1038
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1039
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内外面一部にスス付着 板状底	1040
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	広範囲に二次的火熱をうけている	1041
横ナデ	横ナデ	へら切りナデ	ナデ	板状底	1042
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内面スス付着 板状底	1043
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1044
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1045
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ	板状底	1047
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内面から外側の口縁の一部にスス付着	1048
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内外面スス付着	1049
ハラミカキ	ハラミカキ	ハラミカキ	ハラミカキ	板状底	1050
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	板状底	1051
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状底	1052
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1053
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1054
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1055
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1056
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面全体にスス付着	1057
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	板状底	1058
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ	板状底	1059
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	ナデ	板状底	1060
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1061
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1062
横ナデ	横ナデ	へら切り後ナデ	横ナデ後ナデ		1063
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状底	1064
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1065
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1066
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1067
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	外側器～外底面にスス付着 板状底	1068
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1069
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	板状底	1070
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1071
横ナデ	横ナデ	へら切り	横ナデ後ナデ	板状底	1072
横ナデ	横ナデ	へら切り	ナデ	内・外面上にスス付着 板状底	1073

遺物	PL. No.	遺構	種別	器種	法面 (cm)			色調	附註
					口径	底径	残存高		
1074	38	SE003	土師器	小皿	8.4	6.5	1.4	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1075		SE003	土師器	小皿	8.7	7.1	1.1	黄褐 7.5YR8/8	黄褐 7.5YR8/8
1076		SE003	土師器	小皿	8.4	6.8	1.5	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3
1077		SE003	土師器	小皿	9.1	6.9	1.3	灰白 10YR7/2	浅黄褐 10YR8/3
1078		SE003	土師器	小皿	9.1	7.2	1.5	浅黄褐 10YR8/3	にふい黄褐 10YR7/4
1079		SE003	土師器	小皿	9.7	7.7	1.5	浅黄褐 7.5YR8/4	7.5YR7/6
1080		SE003	土師器	小皿	9.6	8.4	1.3	灰白 10YR8/2	浅黄褐 10YR8/3
1081		SE003	土師器	小皿	8.9	7.2	1.3	稍 5YR7/6	にふい黄褐 10YR6/4
1082		SE003	土師器	小皿	9.7	7.8	1.3	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1083		SE003	土師器	杯	15.8	11.3	2.9	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3
1084	39	SE003	土師器	杯	14.8	10.5	3.2	にふい黄褐 10YR7/3	浅黄褐 10YR8/3
1085		SE004	土師器	小皿	9.8	8.2	1.4	にふい黄褐 10YR7/2	にふい黄褐 10YR6/4
1086		SE004	土師器	小皿	9.3	7.5	1.3	にふい黄褐 10YR7/2	にふい黄褐 10YR7/4
1087		SE004	土師器	小皿	9.0	7.2	1.4	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3
1088		SE004	土師器	小皿	8.9	6.9	1.4	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/4
1089		SE004	土師器	小皿	9.4	7.4	1.2	明褐灰 7.5YR7/2	にふい黄褐 7.5YR6/3
1090		SE004	土師器	小皿	11.0	8.6	1.8	にふい黄褐 10YR5/4	明褐灰 10YR6/6
1091		SE004	土師器	小皿	8.5	6.9	1.2	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 10YR8/3
1092		SE004	土師器	小皿	9.0	7.4	1.3	稍 7.5YR7/6	浅黄褐 10YR8/3
1093		SE004	土師器	小皿	9.8	6.8	1.8	稍 7.5YR7/6	7.5YR7/6
1094	40	SE004	土師器	小皿	9.4	6.2	1.8	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1095		SE004	土師器	小皿	9.5	6.4	2.0	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1096		SE004	土師器	小皿	9.7	7.0	1.5	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/2
1097		SE004	土師器	小皿	9.8	7.8	1.2	にふい黄褐 10YR7/2	にふい黄褐 10YR6/3
1098		SE004	土師器	杯	13.1	8.1	3.3	浅黄褐 10YR8/4	にふい黄褐 7.5YR7/4
1100		SD001	土師器	杯	13.0	7.9	3.7	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/5
1101		SD025	土師器	杯	12.8	8.5	2.9	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/4
1102		SD025	土師器	杯	13.8	9.0	3.1	浅黄褐 10YR8/3	にふい黄 7.5YR6/4
1103		SD025	土師器	杯	13.3	8.0	3.2	稍 7.5YR7/6	にふい黄褐 10YR7/4
1104		SD025	土師器	杯	13.1	9.9	3.0	にふい黄 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR8/4
1105	41	SD025	土師器	杯	13.1	8.2	3.2	稍 7.5YR7/6	7.5YR7/6
1106		SE007	土師器	杯	13.0	8.7	3.1	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1107		SE007	土師器	杯	17.6	10.4	5.0	にふい黄 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR8/4
1108		SE007	土師器	杯	12.9	8.2	4.8	灰白 2.5YR7/1	灰白 2.5YR6/1
1109		SE007	土師器	杯	12.4	6.8	4.6	灰 N5/	灰 N5/
1110		SE007	土師器	蓋	16.4	-	2.2	灰白 10YR7/1	灰白 10YR6/1
1111		SE007	土師器	蓋	14.8	-	1.9	灰白 10YR8/1	灰白 10YR7/1
1112		SE007	土師器	長颈甌	- 14.1 にふい黄褐 10YR4/3			にふい黄褐 10YR4/3	砂粒
1113		SE013	土師器	杯	13.7	9.6	4.1	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/4
1114		SE017	土師器	杯	13.4	8.6	3.2	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/4
1115	42	SE017	土師器	杯	12.9	7.7	4.2	灰白 2.5YR7/1	角閃石、雲母
1116		SE018	土師器	杯	13.5	9.0	3.5	明褐灰 5YR6/4	稍 5YR6/6
1117		SE018	土師器	杯	13.6	8.1	3.9	稍 7.5YR7/6	にふい黄褐 10YR7/3
1118		SE028	土師器	瓶	14.2	9.0	6.1	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3
1119		SE028	土師器	瓶	(13.8) (9.6)	3.2	稍 7.5YR7/6	稍 7.5YR7/6	石英、砂粒
1120		SE029	土師器	杯	13.5	10.4	3.9	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1121		SE029	陶器	杯	9.0	6.0	3.9	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4
1122		SE030	土師器	杯	13.3	7.9	3.9	にふい黄褐 10YR7/3	浅黄褐 10YR8/4
1123		SE030	土師器	杯	11.2	7.5	2.9	にふい黄褐 5YR6/4	稍 5YR6/8
1124		SE033	土師器	小皿	9.1	7.2	1.6	稍 5YR6/8	长石、角闪石、云母、赤色陶化粒
1125	43	SE032	土師器	杯	13.0	8.3	3.1	にふい黄 7.5YR6/4	にふい黄 7.5YR6/3
1126		SE032	土師器	杯	12.2	8.0	2.9	稍 5YR6/5	にふい黄 7.5YR6/4
1127		SE032	土師器	杯	12.9	8.7	3.0	にふい黄 7.5YR7/3	云母、微砂粒
1128		SE032	土師器	杯	12.9	9.0	3.3	明褐灰 5YR6/4	长石、云母、微砂粒
1129		SE032	土師器	杯	(13.0) (8.0)	2.9	2.9	赤褐 10YR6/6	明褐 2.5YR5/6
1130		SE032	土師器	杯	(12.8) (7.8)	3.2	2.9	稍 5YR6/5	长石、云母、微砂粒
1131		SE032	土師器	杯	(14.0)	8.7	2.8	稍 5YR6/6	长石、云母、微砂粒
1132		SE032	土師器	杯	(12.4)	7.9	2.9	稍 5YR6/6	长石、云母、微砂粒
1133		SE032	土師器	杯	13.3	7.9	2.8	稍 5YR6/8	长石
1134		SE032	土師器	杯	13.0	8.5	3.0	稍 5YR6/8	长石、云母
1135	44	SE032	土師器	杯	12.6	8.0	3.2	稍 5YR6/8	稍 5YR6/8
1136		SE032	土師器	杯	13.0	8.1	3.1	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4
1137		SE032	土師器	杯	12.4	9.1	3.1	にふい黄 7.5YR6/4	にふい黄褐 10YR6/4
1138		SE032	土師器	杯	13.0	8.3	2.9	稍 7.5YR6/6	长石、云母
1139		SE032	土師器	杯	13.4	7.9	3.4	にふい黄 7.5YR7/4	にふい黄 7.5YR7/4
1140		SE032	土師器	杯	(12.8) (8.0)	3.0	2.9	稍 7.5YR7/6	稍 7.5YR7/6
1141		SE032	土師器	杯	12.8	8.6	3.2	稍 5YR6/6	云母、微砂粒
1142		SE032	土師器	杯	12.4	8.8	2.9	稍 7.5YR7/6	云母、微砂粒
1143		SE032	土師器	杯	12.8	8.9	2.8	稍 7.5YR7/6	云母、微砂粒
1144		SE032	土師器	杯	12.4	8.5	2.7	稍 7.5YR7/6	长石、云母、微砂粒
1145	45	SE032	土師器	杯	13.6	8.0	2.8	にふい黄 7.5YR6/4	にふい黄 7.5YR7/3
1146		SE032	土師器	杯	12.5	6.7	3.2	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3
1147		SE032	土師器	杯	12.4	7.5	3.2	明褐灰 7.5YR7/2	云母、微砂粒

Tab.32 出土遺物観察表（写真のみ）②

調整				備考	調査 番号
外器皿	内器皿	外底面	内底面		
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面の一部にスズ付着	1074
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1075
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ヘラ切り後は未調理で粘土の塊	1076
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	1077
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1078
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1079
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1080
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	板状圧痕	1081
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	1082
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ後ナデ	板状工具によ るナデ	1083
横ナデ	横ナデ	糸切り	横ナデ後ナデ	板状工具によ るナデ	1084
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	1085
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	【打明】 内面口縁部沿線 板状圧痕	1086
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	外器皿に込みあり	1087
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	1088
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	玉みあり 板状圧痕	1089
横ナデ	横ナデ後ヘラミカギ	ヘラ切り後ヘラミカギ	ナデ後ヘラミカギ	ナデ後ヘラミカギ	1090
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内、外面にスズ付着 板状圧痕	1091
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	□縫部から外底面にかけて黒斑	1092
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1093
横ナデ	横ナデ	糸引き	ナデ	側面に糸切り痕跡	1094
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1095
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	1096
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1097
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1098
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内器皿一面に底面にかけて黒斑	1099
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	1100
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	外面の口縁部に赤彩	1101
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	1102
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内面一部スズ付着 内外面赤彩 板状圧痕	1103
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ	内外面赤彩 内外面擦擦	1104
横ナデ後回転ヘラミカギ	横ナデ後回転ヘラミカギ	ナデ後回転ヘラミカギ	横ナデ後回転ヘラミカギ	内外面赤彩	1105
横ナデ後回転ヘラミカギ 回転ヘラミカギ	横ナデ	ナデ後回転ヘラミカギ	ナデ後回転ヘラミカギ	内外面赤彩	1106
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1107
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1108
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	粘土巻上げによる剥離痕	1109
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ、ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1110
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ	-	-	外面口縁部に重ね焼き痕	1111
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ	-	-	高台付脚	1112
横ナデ、 回転ヘラミカギ	横ナデ	同心円文	横円状盤具底	高台付脚	1112
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	單底 内外面一部スズ付着	1113
横ナデ	横ナデ	回転によるヘラミカギ	ナデ	内外面赤彩	1114
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	(高台付脚)	1115
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	1116
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1118
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	赤焼け	1119
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩	1120
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後回転によるヘラ ミカギ	内外面赤彩	1121
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後回転	内外面赤彩	1122
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1123
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	板状圧痕	1124
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩(内底面跡)	1125
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1126
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	1127
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1128
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1129
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1130
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1131
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	内外面赤彩	1132
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1133
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1134
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1135
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 内外面底面一部の黒斑	1136
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩(内底面跡)	1137
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	燒き歪み	1138
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1139
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩(内底面を跡く)	1140
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1141
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1142
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1143
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1144
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩(内底面赤く)	1145
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	燒き歪み 内外面赤彩(内底面跡く) 組織痕	1146
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1147

项目 组别	PL No.	试样 编号	种别	品种	去量 (g)			界面	色润	胎土
					口沿	底足	外存膏			
1148	SE032	土质器	杯	(13.0)	7.7	2.9	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/4	長石、砂粒	
1149	SE032	土质器	杯	(13.4)	8.1	2.9	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	長石、雲母、砂粒	
1150	SE032	土质器	杯	13.6	8.4	3.1	にふい黄褐 7.5YR6/3	にふい黄褐 7.5YR6/4	雲母、砂粒	
1151	SE032	土质器	杯	13.4	9.0	3.1	黃 7.5YR7/8	綠 7.5YR6/6	雲母、砂粒	
1152	SE032	土质器	杯	(13.2)	(9.4)	3.2	綠 5YR6/6	綠 5YR6/6	雲母、砂粒	
1153	SE032	土质器	杯	(13.4)	(9.0)	2.8	橙 7.5YR6/6	にふい黄褐 10YR 6/3	長石、砂粒	
1154	SE032	土质器	杯	12.8	8.1	2.9	黃褐 10YR8/8	黃褐 10YR8/8	砂粒	
1155	SE032	土质器	杯	(12.8)	(8.4)	2.9	浅黄褐 7.5YR8/3	浅黄褐 7.5YR8/4	長石、雲母、砂粒	
1156	SE032	土质器	杯	(12.8)	(8.4)	3	にふい黄褐 7.5YR6/4	にふい黄褐 7.5YR6/4	長石、雲母、砂粒	
1157	SE032	土质器	杯	(13.4)	(8.6)	3.1	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、砂粒	
1158	SE032	土质器	杯	12.6	7.7	3.6	にふい黄褐 5YR5/4	橙 7.5YR6/5	長石、雲母、砂粒	
1159	SE032	土质器	杯	(14.4)	(9.2)	3.1	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	雲母、砂粒	
1160	SE032	土质器	杯	(13.2)	(9.0)	3.1	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/3	雲母、砂粒	
1161	SE032	土质器	杯	(14.0)	(8.4)	2.4	にふい黄褐 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR8/3	雲母、砂粒	
1162	SE032	土质器	杯	(12.8)	(8.3)	2.8	にふい黄褐 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR7/4	長石、雲母、砂粒	
1163	SE032	土质器	杯	(13.0)	(8.8)	3.2	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、雲母、砂粒	
1164	SE032	土质器	杯	(12.8)	(8.1)	2.9	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、砂粒	
1165	SE032	土质器	杯	(13.5)	(8.4)	2.9	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石、雲母	
1166	SE032	土质器	杯	(12.4)	(7.8)	2.9	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3	雲母、砂粒	
1167	SE032	土质器	杯	(12.4)	(7.7)	2.9	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1168	SE032	土质器	杯	(12.3)	(6.4)	3.3	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、砂粒	
1169	SE032	土质器	杯	(13.6)	(9.3)	3.3	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、砂粒	
1170	SE032	土质器	杯	(12.0)	(7.8)	3	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1171	SE032	土质器	杯	12.8	8.7	3.4	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	雲母、砂粒	
1172	SE032	土质器	杯	(12.6)	7.4	3.1	橙 2.5YR6/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒、砂粒	
1173	SE032	土质器	杯	12.2	8.2	3.1	橙 2.5YR6/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒、砂粒	
1174	SE032	土质器	杯	(13.2)	(9.0)	2.6	にふい黄褐 7.5YR7/3	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1175	SE032	土质器	杯	(13.1)	(9.2)	2.6	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1176	SE032	土质器	杯	(13.0)	(9.0)	2.9	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1177	SE032	土质器	杯	(13.2)	(9.2)	2	にふい黄褐 7.5YR6/4	にふい黄褐 7.5YR6/4	長石、砂粒	
1178	SE032	土质器	杯	(14.0)	(7.8)	2.9	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、砂粒	
1179	SE032	土质器	杯	(12.4)	(8.8)	2.2	明黄褐 2.5YR5/5	明黄褐 2.5YR5/5	長石	
1180	SE032	土质器	蓋	16.1	-	3.1	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	雲母、砂粒	
1181	SE032	土质器	蓋	(14.6)	-	3.5	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	雲母、砂粒	
1182	SE032	土质器	蓋	(15.4)	-	2.9	桔 2.5YR6/8	桔 2.5YR6/8	雲母、砂粒	
1183	SE032	土质器	蓋	(16.6)	(11.6)	1.5	桔 SYR7/6	桔 SYR7/6	長石、雲母、砂粒	
1184	SE032	土质器	蓋	(15.8)	(12.8)	2.6	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	長石、雲母	
1185	SE032	土质器	蓋	17.0	13.3	2.9	桔 SYR6/8	桔 SYR6/8	長石、雲母、砂粒	
1186	SE032	土质器	蓋	(17.1)	(11.3)	1.6	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	雲母、砂粒	
1187	SE032	土质器	蓋	(16.0)	(11.8)	2	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	雲母、砂粒	
1188	SE032	土质器	蓋	(16.2)	(12.0)	2.3	桔 SYR6/6	桔 SYR6/6	雲母、砂粒	
1189	SE032	土质器	蓋	(18.4)	(13.8)	2.5	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	長石	
1190	SE032	土质器	蓋	(24.6)	-	1.9	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、雲母、砂粒	
1191	SE032	土质器	柄	(15.6)	(8.1)	6.6	桔 2.5YR6/8	桔 2.5YR6/8	長石、雲母	
1192	SE032	深惠器	蓋	(14.8)	-	2.4	薄 10YR6/1	薄 10YR6/1	長石、砂粒	
1193	SE032	深惠器	杯	-	(10.4)	1.7	青灰 SBG5/1	青灰 SBG5/1	長石、砂粒	
1194	SE032	深惠器	杯	-	(7.0)	3.1	暗青灰 10BG3/1	青灰 BG5/1	砂粒	
1195	SE032	深惠器	杯	(12.2)	(8.0)	3.5	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	長石、砂粒	
1196	SE032	深惠器	杯	(12.2)	(8.0)	3.5	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	雲母、砂粒	
1197	SE032	深惠器	高杯	-	12.0	10.5	にふい黄褐 10YR7/2	にふい黄褐 10YR7/2	長石、砂粒、砂粒	
1198	SE032	土质器	小皿	10	7.5	2.2	桔 SYR7/6	桔 SYR7/6	長石、石英、雲母、砂粒、赤色陶化粒	
1199	SE035	土质器	小皿	11.5	7.9	2.7	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、石英、雲母、砂粒、赤色陶化粒	
1200	SE035	土质器	小皿	10.7	6.8	2.6	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	雲母、砂粒、赤色陶化粒	
1201	SE035	土质器	小皿	9.9	7.6	2.4	にふい黄褐 7.5YR7/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	石英、雲母、赤色陶化粒	
1202	SE035	土质器	小皿	10.4	7.2	2.6	桔 SYR7/6	浅黄褐 7.5YR8/4	長石、雲母、赤色陶化粒	
1203	SE035	土质器	杯	13.2	8.1	3.7	黃褐 10YR6/6	浅黄褐 10YR8/4	長石、雲母、砂粒	
1204	SE035	土质器	杯	13.2	8.1	3.4	桔 2.5YR6/6	桔 2.5YR6/6	長石、石英、赤色陶化粒	
1205	SE035	土质器	杯	12.9	8.3	3.5	桔 SYR7/6	桔 SYR7/6	長石、砂粒、赤色陶化粒	
1206	SE046	土质器	杯	12.3	7.2	3.3	黃褐 10YR8/5	黃褐 10YR8/5	長石、雲母、砂粒	
1207	SE046	土质器	杯	12.6	8.1	3.3	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石、石英、雲母	
1208	SE046	土质器	杯	12.2	6.9	3.6	桔 SYR6/6	桔 SYR6/6	長石、角閃石、砂粒	
1209	SE046	土质器	杯	12.2	6.9	3.8	にふい黄褐 10YR7/3	にふい黄褐 10YR7/3	角閃石、鈍斜方、赤色陶化粒	
1210	SE046	土质器	杯	12.6	7.4	3.2	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色陶化粒	
1211	SE046	土质器	杯	11.7	7.3	3.3	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/4	長石、雲母	
1212	SE046	土质器	杯	12.7	7.7	3.5	にふい黄褐 10YR6/4	にふい黄褐 10YR6/4	長石、雲母、赤色陶化粒	
1213	SE046	土质器	杯	12.2	7.4	3.7	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/4	長石、砂粒、赤色陶化粒	
1214	SE046	深惠器	杯	12.8	7.3	3.5	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	雲母、砂粒	
1215	SE046	土质器	杯	12.7	6.7	3.7	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	長石、砂粒、雲母	
1216	SE046	土质器	杯	12.7	7	5.4	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/3	長石、雲母、赤色陶化粒	
1217	SE046	土质器	杯	13.2	7.1	6.6	明黄褐 10YR 7/6	明黄褐 10YR 7/6	雲母、砂粒	
1218	SE046	土质器	杯	12.4	7.1	5.9	にふい黄褐 7.5YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	雲母、砂粒	
1219	SE046	土质器	杯	15.3	8.1	7.2	にふい黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	長石、角閃石、雲母、砂粒	
1220	SE046	土质器	碗	13.8	6.7	5.2	にふい黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	長石、角閃石、赤色陶化粒	
1221	SI044	土质器	杯	(13)	8.6	3.5	にふい黄褐 10YR7/4	にふい黄褐 10YR7/4	雲母、砂粒	
1222	SI056	土质器	杯	14.1	9.2	4	浅黄褐 10YR8/4	にふい黄褐 7.5YR7/4	長石、雲母、赤色陶化粒	
1223	SI056	土质器	杯	(13.4)	7.1	3.6	灰白 10YR8/2	にふい黄褐 10YR7/3	雲母、赤色陶化粒	
1224	SI007	土质器	蓋	18.0	-	3.3	浅黄褐 10YR8/3	にふい黄褐 10YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色陶化粒	

Tab.33 出土遺物觀察表(写真のみ) -③

部類				備考	次回 順番
外器皿	内器皿	外底面	内底面	組成部 内外面赤彩	1148
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1149
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡) 組織痕 板状圧痕	1150
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ		1151
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1152
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1153
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1154
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1155
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1156
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1157
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1158
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1159
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1160
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1161
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1162
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1163
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1164
横ナデ	横ナデ	横ナデ後ナデ	横ナデ	内外面市彩 (底面跡)	1165
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (底面跡)	1166
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (底面跡)	1167
横ナデ	横ナデ	回転へラクズリ、ナデ	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (底面跡)	1168
横ナデ	横ナデ	50転へラクズリ後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (底面跡)	1169
横ナデ	横ナデ	-	横ナデ	組成痕	1170
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面市彩	1171
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1172
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1173
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1174
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1175
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	組成痕 (ワラ)	1176
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	組成痕	1177
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩 (外底面跡)	1178
回転へラクズリ	回転へラクズリ	回転へラクズリ	回転へラクズリ	-	1179
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面市彩	1180
横ナデ、横ナデへラクズリ	横ナデ	-	-	内外面市彩 外面の一部退元場	1181
横ナデ、横ナデへラクズリ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面市彩 (つまみ部分へラ記号)	1182
横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	焼き歪み	1183
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	焼き歪み (内外面赤彩 (外底面跡))	1184
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	焼き歪み (内外面赤彩)	1185
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 (外表面中央部隠ぐ)	1186
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 (内外面赤彩)	1187
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 (内外面赤彩)	1188
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 (高台付脚)	1189
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 (高台付脚)	1190
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 (高台付脚)	1191
横ナデ、回転へラクズリ	横ナデ後ナデ	-	-	-	1192
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	(高台付脚) 内外面赤彩	1193
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	(高台付脚) 組織痕	1194
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	組織痕	1195
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 (脚部) (尻尾尾)	1196
横ナデ	横ナデ	-	-	(脚部) (尻尾尾)	1197
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	(灯明面) 口側部、内外面に油煙付着	1198
横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ	(灯明面) 口側内外に油煙付着	1199
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	(灯明面) 口側部内面に油煙付着	1200
横ナデ、回転へラクズリ	横ナデ	へり切り	横ナデ	(灯明面) 口側部外内面に油煙付着	1201
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	(灯明面) 口側部内面に油煙付着	1202
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩 歪部を打ちかいでいる	1203
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	底部歪み (かいてい)	1204
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩	1205
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1206
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩	1207
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩	1208
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩 (外底面を隠す) 板状圧痕	1209
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩 (外底面を隠す)	1210
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩 (外底面を隠す) 板状圧痕	1211
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	横ナデ後ナデ	板状圧痕	1212
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面市彩	1213
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面市彩	1214
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面市彩	1215
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1216
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1218
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1219
へラ洞型による横ナデ	横ナデ	へり切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩	1220
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ	内外面赤彩	1221
横ナデ	横ナデ	へり切り	横ナデ後ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1222
横ナデ、ナデ	横ナデ	-	-	内外面市彩	1223
横ナデ、ナデ	横ナデ	-	-	内外面市彩	1224

项目	PL 号	品名	种类	器种	法量 (cm)			色调		胎土
					口径	底径	弦径	外底	内底	
1225	71	SK030	土讲师	杯	12.8	9.2	3.2	哑 SYR6/6	哑 SYR6/6	雷母, 磨砂粒
1226		SK030	土讲师	杯	13.5	8.8	3.1	浅黄褐 10YR8/3	在浅黄褐 10YR7/3	雷母
1227		SK032	土讲师	杯	11.6	8.5	2.6	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	雷母, 磨砂粒
1228		SK032	土讲师	杯	12.6	6.8	2.9	在浅黄褐 10YR7/3	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1229		SK032	土讲师	杯	(12.6)	8.0	3.1	浅黄褐 10YR8/3	灰白 10YR8/2	角閃石, 赤色陶化粒
1230		SK032	土讲师	杯	11.6	7.4	3.2	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	角閃石
1231		SK032	土讲师	杯	11.9	7.3	3.4	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 10YR8/3	雷母, 磨砂粒
1232		SK032	土讲师	杯	13.0	6.5	3.7	哑 SYR6/6	哑 SYR6/6	石英, 角閃石, 雷母, 磨砂粒
1233		SK032	土讲师	杯	(11.7)	7.1	3.3	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 7.5YR8/4	雷母, 赤色陶化粒
1234		SK032	土讲师	杯	11.8	7.3	3.3	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石, 雷母
1235		SK032	土讲师	杯	12.4	7.6	3.3	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 10YR8/4	角閃石, 雷母, 赤色陶化粒
1236		SK032	土讲师	杯	12.2	7.1	5.6	浅黄褐 10YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	雷母, 砂粒, 赤色陶化粒
1237		SK032	土讲师	杯	13.6	7.4	6.5	哑 SYR6/6	哑 SYR6/6	雷母, 赤色陶化粒
1238		SK032	土讲师	杯	(12.6)	8.0	2.3	在浅黄褐 7.5YR8/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1239		SK032	土讲师	皿	(11.9)	7.4	2.5	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	磨砂粒, 赤色陶化粒
1240		SK032	土讲师	皿	12.3	7.3	2.5	浅黄褐 7.5YR8/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	長石, 角閃石, 雷母
1241		SK032	土讲师	皿	11.5	6.7	2.1	哑 SYR7/6	哑 SYR7/6	石英, 雷母, 赤色陶化粒
1242		SK032	土讲师	皿	12.2	7.9	2.4	在浅黄褐 10YR7/4	浅黄褐 10YR8/4	石英, 雷母
1243		SK032	土讲师	皿	13.0	7.9	2.4	浅黄褐 10YR8/3	在浅黄褐 7.5YR7/4	石英, 角閃石, 雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1244		SK032	土讲师	托	12.1	7.4	3.5	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	角閃石, 雷母
1245		SK032	土讲师	托	12.0	7.6	3.6	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 7.5YR8/4	角閃石, 赤色陶化粒
1246		SK032	土讲师	托	13.7	7.9	4.4	浅黄褐 7.5YR8/4	浅黄褐 10YR8/3	雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1247		SK032	土讲师	托	12.5	6.8	3.8	在浅黄褐 10YR7/2	在浅黄褐 10YR7/2	角閃石, 雷母
1248		SK032	土讲师	血	15.6	13.1	2.0	浅黄褐 10YR8/3	浅黄褐 10YR8/3	雷母, 磨砂粒
1249		SK039	土讲师	杯	12.3	7.0	3.1	明黃褐 10YR 7/6	明黃褐 10YR 7/6	雷母, 磨砂粒
1250		SK039	土讲师	杯	12.6	7.2	3.5	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	角閃石, 雷母
1251		SK039	土讲师	杯	12.5	6.6	3.2	在浅黄褐 10YR7/4	浅黃褐 10YR8/4	雷母, 赤色陶化粒
1252		SK039	土讲师	杯	12.3	7.4	3.2	在浅黄褐 7.5YR7/3	在浅黄褐 7.5YR7/3	雷母, 赤色陶化粒
1253		SK039	土讲师	杯	12.8	7.0	3.5	在浅黄褐 7.5YR7/4	浅黃褐 10YR8/3	雷母, 磨砂粒
1254		SK039	土讲师	杯	12.5	6.8	3.6	在浅黄褐 10YR7/3	浅黃褐 10YR8/3	長石, 雷母
1255		SK039	土讲师	杯	12.5	7.3	3.6	浅黃褐 10YR8/4	浅黃褐 10YR8/4	雷母, 砂粒, 赤色陶化粒
1256		SK039	土讲师	杯	(12.8)	(7.4)	3.8	浅黃褐 10YR8/4	浅黃褐 10YR8/4	長石, 雷母, 赤色陶化粒
1257		SK039	土讲师	杯	(12.5)	6.6	3.9	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	雷母, 砂粒, 赤色陶化粒
1258		SK039	土讲师	杯	11.9	7.3	3.4	在浅黄褐 10YR7/4	浅黃褐 10YR8/3	長石, 角閃石, 雷母, 磨砂粒
1259		SK039	土讲师	杯	12.8	8.3	3.6	浅黃褐 10YR8/4	在浅黄褐 10YR7/4	雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1260		SK039	土讲师	杯	12.4	7.4	3.4	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	石英, 磨砂粒
1261		SK039	土讲师	杯	12.7	7.1	3.6	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	長石, 雷母, 磨砂粒
1262		SK039	土讲师	杯	12.6	7.0	3.4	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 雷母, 赤色陶化粒
1263		SK039	土讲师	杯	12.1	6.6	3.2	浅黃褐 7.5YR8/6	黃褐 10YR8/6	雷母, 磨砂粒
1264		SK039	土讲师	杯	13.6	7.1	3.6	浅黃褐 10YR8/3	在浅黄褐 10YR7/4	長石, 雷母, 赤色陶化粒
1265		SK039	土讲师	杯	12.4	7.2	3.4	在浅黄褐 7.5YR5/3	在浅黄褐 7.5YR5/4	雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1266		SK059	土讲师	小皿	7.1	5.5	1.7	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 磨砂粒
1267		SK059	土讲师	小皿	7.0	5.4	1.6	哑 SYR7/6	哑 SYR7/6	磨砂粒, 赤色陶化粒
1268		SK004	土讲师	杯	13.4	9.6	3.5	在浅黄褐 10YR7/3	在浅黄褐 7.5YR7/3	石英, 雷母, 砂粒
1269		SK004	土讲师	杯	13.8	9.6	3.0	哑 SYR6/6	哑 SYR6/6	角閃石, 雷母
1270		SK004	土讲师	杯	12.3	7.8	3.3	粗 7.5YR7/6	粗 7.5YR7/6	雷母, 磨砂粒
1271		SK004	土讲师	杯	14.9	9.0	3.7	在浅黄褐 10YR7/3	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 雷母, 砂粒
1272		SK004	土讲师	杯	(13.2)	(9.3)	3.4	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	角閃石, 磨砂粒
1273		SK004	土讲师	杯	13.8	8.7	3.2	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	雷母, 磨砂粒
1274		SK004	土讲师	杯	13.1	9.6	3.4	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	長石, 角閃石, 雷母, 磨砂粒
1275		SK004	土讲师	杯	(15.3)	(9.4)	3.6	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	石英, 角閃石, 雷母
1276		SK004	土讲师	杯	11.9	7.5	3.1	粗 7.5YR6/6	在浅黄褐 10YR7/4	雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1277		SK004	土讲师	杯	13.5	8.8	2.9	在浅黄褐 7.5YR7/4	浅黃褐 10YR8/3	石英, 雷母, 磨砂粒
1278		SK004	土讲师	杯	14.1	10.2	2.6	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	雷母, 磨砂粒
1279		SK004	土讲师	杯	12.8	8.4	3.5	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	角閃石, 雷母
1280		SK004	土讲师	杯	11.9	8.0	3.0	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/3	雷母, 砂粒, 赤色陶化粒
1281		SK004	土讲师	杯	12.3	7.9	3.5	浅黃褐 10YR8/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	雷母, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1282		SK004	土讲师	杯	12.4	7.5	3.5	浅黃褐 10YR8/4	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 雷母, 砂粒
1283		SK004	土讲师	杯	13.3	8.5	3.3	在浅黄褐 10YR7/3	浅黃褐 10YR8/3	雷母, 磨砂粒
1284		SK004	土讲师	杯	13.0	8.7	3.2	浅黃褐 7.5YR8/4	浅黃褐 7.5YR8/4	雷母, 磨砂粒
1285		SK004	土讲师	杯	12.2	7.9	2.6	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 雷母, 砂粒
1286		SK004	土讲师	杯	12.6	8.4	3.3	粗 7.5YR7/6	浅黃褐 7.5YR8/4	長石, 雷母
1287		SK004	土讲师	杯	14.8	9.5	3.9	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 雷母, 砂粒
1288		SK004	土讲师	杯	12.8	7.6	3.1	在浅黄褐 7.5YR7/4	浅黃褐 10YR8/4	角閃石, 磨砂粒, 赤色陶化粒
1289		SK004	土讲师	杯	12.3	8.4	3.2	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	角閃石, 角閃石, 雷母
1290		SK004	土讲师	杯	14.9	9.5	4.0	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	石英, 雷母
1291		SK004	土讲师	杯	13.1	8.9	3.0	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/3	石英, 雷母
1292		SK004	土讲师	杯	13.7	8.4	3.0	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 雷母
1293		SK004	土讲师	杯	(12.2)	8.1	2.9	浅黃褐 10YR8/4	浅黃褐 10YR8/3	長石, 角閃石, 雷母
1294		SK004	土讲师	杯	13.9	10.2	3.5	在浅黄褐 10YR7/3	在浅黄褐 10YR7/3	角閃石, 雷母, 磨砂粒
1295		SK004	土讲师	杯	12.6	7.6	3.2	粗 7.5YR7/6	在浅黄褐 7.5YR7/4	角閃石, 雷母
1296		SK004	土讲师	杯	13.5	9.4	2.7	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	角閃石, 雷母
1297		SK004	土讲师	杯	16.4	8.6	4.0	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 7.5YR7/4	石英, 雷母, 赤色陶化粒
1298		SK004	土讲师	杯	12.5	7.6	3.2	粗 7.5YR6/6	粗 7.5YR6/6	角閃石, 雷母, 赤色陶化粒
1299		SK004	土讲师	杯	12.2	7.6	3.4	浅黃褐 10YR8/3	浅黃褐 10YR8/3	長石, 角閃石, 雷母
1300		SK004	土讲师	盖	16.6	2.2	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 雷母	
1301		SK004	土讲师	皿	16.8	13.2	2.2	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	角閃石, 雷母
1302		SK004	土讲师	皿	16.4	14.6	1.6	在浅黄褐 7.5YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	磨砂粒, 赤色陶化粒
1303		SK004	土讲师	皿	16.8	12.6	3.4	在浅黄褐 10YR7/4	在浅黄褐 10YR7/4	雷母, 磨砂粒

Tab.34 出土遺物観察表（写真のみ）一④

外器面	内器面	調整	外底面	内底面		備考	調査 西号
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ		内外面赤彩	1225
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（内底面跡く）	1226	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1227	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	板状圧痕	1228	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1229	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1230	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1231	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1232	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1233	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（工具痕）	1234	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1235	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1236	
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（高台付）	1237	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1238	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	板状圧痕	1239	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1240	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1241	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 外面一部赤彩	1242	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1243	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1244	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1245	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1246	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1247	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	口縁の内外面にスリ付着 板状圧痕	1248	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（外底面跡く）	1249	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩（内底面跡く）	1250	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 内面にスリ付着	1251	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1252	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1253	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 油付着	1254	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 油付着	1255	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1256	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1257	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1258	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1259	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	（灯明）内外面に油付着 内外面赤彩 板状圧痕	1260	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	（灯明）内外面に油付着 内外面赤彩 板状圧痕	1261	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	（灯明）口縁部に油付着	1262	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	（灯明）内外面に油付着 痘部を打ちかいでいる	1263	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1264	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1265	
横ナデ	横ナデ	タバ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1266	
横ナデ	横ナデ	タバ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1267	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1268	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	板状圧痕	1269	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1270	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	外底面を残す内外面に赤彩	1271	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面に赤彩	1272	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面に赤彩	1273	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面に赤彩	1274	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1275	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	放射状の工具痕	1276	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	放射状の工具痕	1277	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1278	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面に赤彩 板状圧痕	1279	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1280	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1281	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1282	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1283	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1284	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	板状圧痕	1285	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	放射状の工具痕	1286	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	放射状の工具痕	1287	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1288	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1289	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1290	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1291	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	板状圧痕	1292	
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1293	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1294	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1295	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1296	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	内外面赤彩	1297	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩 板状圧痕	1298	
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1299	
横ナデ	印形ヘラケズリ	-	-	-	-	-	1300
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1301	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ	横ナデ	内外面赤彩	1302	
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	ナデ	内外面赤彩の痕跡	1303	

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量(cm)			色調		胎土
					口径	底径	保存高	外面	内面	
1304		SX004	土師器	瓶	13.8	8.2	5.9	にふい縁 7.5YR6/4	にふい縁 7.5YR6/4	長石、砂粒
1305		SX004	須恵器	蓋	15.6	—	1.7	灰 7.5Y4/1	灰 7.5Y5/1	雲母
1306		SX004	須恵器	杯	13.0	8.6	4.7	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	鐵錫粒
1307		SX004	須恵器	杯	(13.0)	7.6	4.4	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	雲母、砂印粒
1308	81	SX004	須恵器	杯	13.5	9.3	3.9	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	角閃石、雲母
1309		SX004	須恵器	杯	(13.0)	9.4	4.2	褐灰 10YR5/1	褐灰 10YR5/1	雲母、砂粒
1310		SX004	須恵器	杯	13.7	7.5	4.1	皮白 5Y7/1	皮白 5Y7/1	長石、石英、雲母
1311		SX004	須恵器	杯	(13.2)	(7.8)	3.2	黃灰 2.5Y4/1	黃灰 2.5Y4/1	長石、砂粒
1312		SX004	土師器	杯	12.3	8.3	3.1	褐 7.5YR7/6	褐 7.5YR7/6	長石、角閃石、雲母
1313		SX004	須恵器	瓶	(13.4)	7.0	4.9	黃灰 2.5Y5/1	黃灰 2.5Y5/1	長石、石英、雲母
1314	73	SX039	土師器	杯	13.2	7.4	4.8	にふい縁 10YR7/4	にふい縁 10YR7/4	石英、雲母、砂粒
1315	82	SX003	土師器	杯	13.4	8.3	3.4	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	雲母
1316		SX003	土師器	杯	13.5	8.6	3.0	にふい縁 7.5YR7/4	にふい縁 7.5YR7/4	角閃石、雲母、砂粒、赤色顔化粒

Tab.36 出土遺物観察表（写真のみ）－⑥

遺物番号	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量			色調		胎土	備考
					最大長 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	外面	内面		
1317		S0012	平瓦	8.9	2.2	144	にふい縁 10YR7/3	長石、雲母	褐色き作り		
1318	100	S0012	平瓦	6.5	1.6	77	浅黃棕 10YR8/3	長石、石英、赤色顔化粒	褐色き作り		
1319		S0012	平瓦	6.4	1.8	90	灰黄 2.5E6/2	長石	褐色き作り		

遺物番号	Fig. No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量(cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大 厚さ (cm)	器高	外面	内面	
1		88	調査区	須恵器	底部破	—	—	—	(5.2)	灰 N6/	灰 N6/	白色粒、黒色粒
2	193	—	調査区	須恵器	蓋	(15.6)	—	—	2.3	灰 N5/	灰 SY4/1	白色粒
3	—	調査区	土師器	杯	(13.6)	(9.8)	—	3.4	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/6	長石、赤色顔化粒	

Tab.35 出土遺物観察表（写真のみ）一⑤

調整					備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面			
横ナデ、回転ヘラケズリ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	内外面赤彩		1304
横ナデ	横ナデ	—	—			1305
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ			1306
横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ、ナデ	外底面に重ね焼き		1307
横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ	内底、外底面に重ね焼き		1308
横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	(高台付杯)		1309
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ			1310
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ			1311
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	横ナデ、ナデ			1312
横ナデ	横ナデ	不規	横ナデ	焼き歪み		1313
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り後ナデ	ナデ	(高台付杯) 内外面赤彩		1314
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	ナデ	内外面赤彩		1315
横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	横ナデ、ナデ	内外面赤彩 内底面にスス付着		1316

Tab.37 第14次出土遺物観察表

調査					備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面			
崩り、ナデ、剥み	—	—	—	剥離線(脚部)		1
回転ヘラ削り、横ナデ	ナデ	—	—			2
横ナデ	横ナデ	回転ヘラ切り	横ナデ	外底部にヘラ記号		3

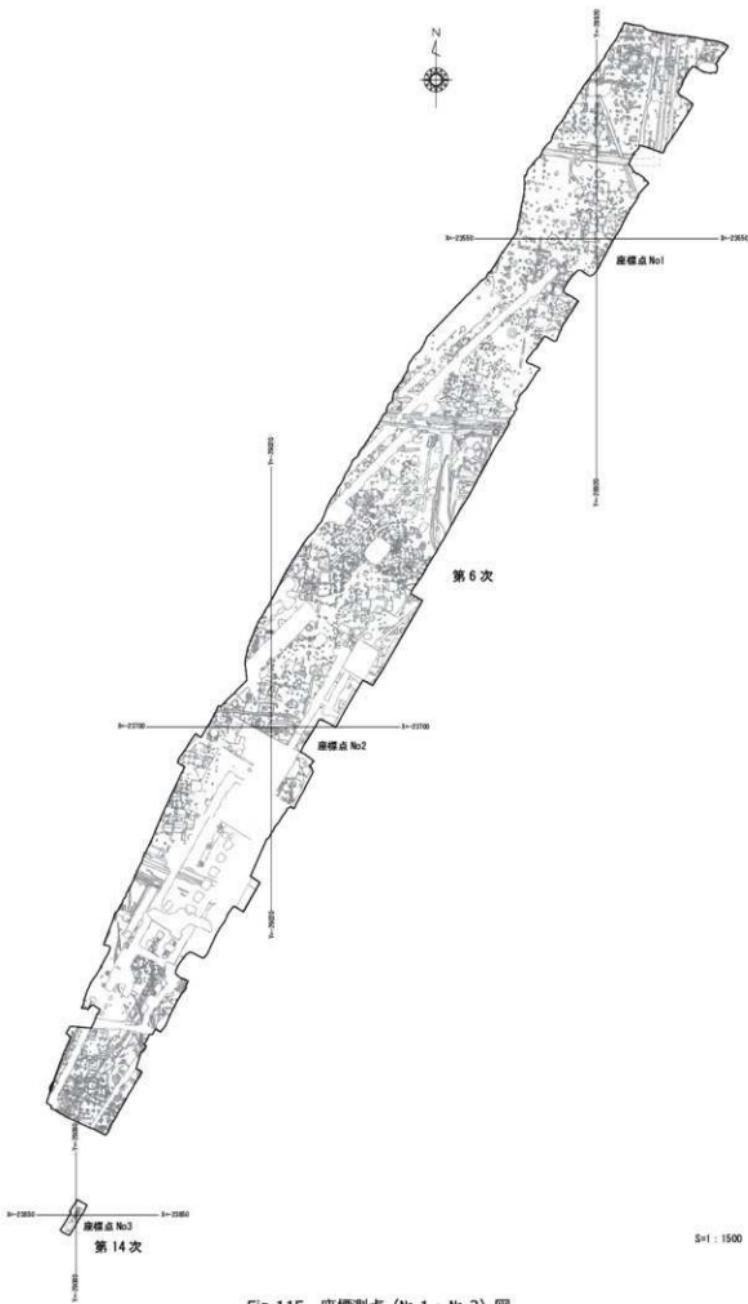


Fig.115 座標測点 (No. 1 ~No. 3) 図

報告書抄録

ふりがな	ほんぎいせきぐん（かすがく）
書名	二本木遺跡群（春日地区）5
副書名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（2分冊）
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第 271 集
編著者名	長谷部善一
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609 熊本県熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号 Tel. 096-333-2706
発行年月日	2012 年 3 月 23 日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室 〒 861-4215 熊本県城南町沈目 1677 Tel. 0964-28-4933

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第6次	熊本市春日3丁目 1015番地	43 熊本県 201 熊本市	265	No.1 360503.954	No.1 1365802.392	2005/11/07 ～ 2006/12/26	12,700 m ²	九州新幹線 建設工事
				No.2 360503.954	No.2 1365802.392			
第14次	熊本市春日3丁目	43 熊本県 201 熊本市	265	No.3 360503.954	No.3 1365802.392	2010/07/20 ～ 2010/08/02	20 m ²	#

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土物	特記事項
第6次	集落 官衙	古代・中世 近世	堅穴建物、堅立柱建 物、戸井、溝、基 礎、柱穴群	須恵器、土師器、陶器、磁器 瓦、石製品、青銅器、鐵製品	調査区北側の古代から中世にかけて形 成された方形区画を持つ居館跡。区内 部に多数の堅立柱建物群を検出。ま た、古代の建物群を区画する境内から 二彩瓦、奈良三彩香炉軒飾などが注目 される。
第14次	集落	古代	柱穴群	須恵器、土師器	

要約	二本木遺跡群（春日地区）は、熊本県中央を西流する白川・井手川・坪井川によって形成された緩扁状地上に立地する遺跡である。九州新幹線建設工事「新熊本駅」建設工事に伴い、平成 18 年・19 年度に熊本県教育委員会で発掘調査を実施した。（第 6 次調査） また、平成 22 年には新幹線開業後の一歩非常用電源設備改築工事に伴い第 6 次調査区隣接地の発掘調査を実施した。（第 14 次調査）
	主な検出遺構は第 6 次調査において 8 世紀中から後半にかけての堅穴建物群、8 世紀後半から 9 世紀にかけての堅立柱建物群、10 世紀後半の土坑墓、14 世紀後半以降の方形区画内に配される堅立柱建物群がある。 本調査区で検出した 8 世紀後半から 9 世紀前半にかけての堅立柱建物群は、現在の新熊本駅東側に位置する熊本県教委による第 13 次調査で検出されている大規模な遺構群とは違い、小規模な規格の堅立柱建物群が主となる。 14 世紀後半に位置づける方形区画遺構群は一辺の区画溝が 35 m を超え調査区外に延びていることからこの規模をもとに遺構の性格を考えると中世の居館となる可能性が高い。

本書の仕様

- 判型 A4 判
- 頁数 234 頁
- 和版 13 級 MS明朝体基本
adobe In DesignCS5.5 (for Windows)
- 印刷 オフセット印刷
- 製版 本誌のモノクロ及びカラー写真はすべてスクリーン線数 200 線で製版
- 用紙 表紙 上質紙 菊判 125 kg
巻頭カラー 特アート金葉 菊判 93.5 kg
本文（本文編）上質紙 A 判 44.5 kg [図版編] ニューベンマット A 判 70.5 kg
- 製本 糸かがり綴じ
- 表紙加工 PP (ポリプロピレン) 貼り

2012年3月23日 印刷

2012年3月23日 発行

熊本県文化財調査報告第271集

二本木遺跡群（春日地区）5

第6次・第14次調査

本文編

著作権所有 熊本市水前寺6丁目18番1号

発行者 熊本県教育委員会

印刷者 熊本市出水5丁目11番31号

株式会社 協和印刷

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 271 集を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用
してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図
書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用
方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：二本木遺跡群（春日地区）

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日